

UX300e

取扱説明書

イラスト目次

イラストから検索

安全・安心のために	お客様に 必ずお読みいただきたいこと (主な項目:チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)	1
EV システム	充電に関する情報など (主な項目: EV システム、充電のしかた)	2
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 (主な項目:メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)	3
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 (主な項目:キー、ドア、シート、パワーウインドウ)	4
運転	運転に必要な操作やアドバイス (主な項目:EV システム始動のしかた、運転支援装置)	5
室内装備・機能	室内装備の使い方など (主な項目:エアコン・収納装備の使い方)	6
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 (主な項目:内装・外装の手入れ、電球の交換)	7
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 (主な項目:補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)	8
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 (主な項目:各フルード量、タイヤ空気圧)	9
	症状から検索	
さくいん	音 から検索	
evin	アルファベットで検索	
1	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと 6	マイルームモードを使う 116
本書の見方10	正常に充電できないときは119
検索のしかた 11	2-3. DC 外部給電システムについて
イラスト目次12	DC 外部給電システムについて 133
	DC 外部給電のしかた134
1 安全・安心のために	正常に DC 外部給電できないときは
	140
1-1. 安全にお使いいただくために	3 走行に関する情報表示
運転する前に 24	と
安全なドライブのために 25	
シートベルト 27	3-1. 計器の見方
SRS エアバッグ30	警告灯/表示灯144
1-2. お子さまの安全	計器類147
お子さまを乗せるときは	マルチインフォメーションディスプレ
チャイルドシート38	イ 150 ヘッドアップディスプレイ 154
1-3. 盗難防止装置	ヘットアップディスプレイ 154
イモビライザーシステム	4 運転する前に
オートアラーム53	建料する別に
3 175 2	
2 EVシステム	4-1. +-
	‡— 160
2.1 5/2:7=/50/7	デジタルキー164
2-1. EV システムについて	4-2. ドアの開閉、ロックのしかた
EV システムの特徴	ドア 167
EV システムの注意	バックドア 171
電気目割単連転のアトハイス 65 走行可能距離について	スマートエントリー&スタートシステ
	لــــــــــــــــــــــــــــــــــــ
2-2. 充電について	4-3. シートの調整
充電に関する装備について 68	フロントシート 189
普通充電ケーブルについて	リヤシート 190
普通充電コネクターの施錠・解錠 76	ヘッドレスト 191
接続可能な外部電源について 79	4-4. ハンドル位置・ミラー
充電方法について	ハンドル 193
充電に関するアドバイス	インナーミラー 194
充電の前に知っておいていただきたい こと86	ドアミラー 195
普通充電のしかた89	4-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
● 通元電のしかに● 急速充電・V2H 充電 / V2H 給電の	パワーウインドウ1 97
思述元竜・V2H 元竜/ V2H 紀竜の しかた97	ムーンルーフ <mark>200</mark>
タイマー充電機能を使う(普通充電)	
102	

3

6

9

外装の手入れ382

	クリアランスソナー 300
5 運転	RCTA(リヤクロストラフィックア
	ラート)308
に 1)実むにももって	PKSB(パーキングサポートブレー
5-1. 運転にあたって	+) 312
運転にあたつて2	ハーキングリホートノレーキ(静止
荷物を積むときの注意2	127
5-2. 運転のしかた	パーキングサポートブレーキ(後方接
パワー(イグニッション)スイッラ	近車両)3 19
2	
シフトポジション2	216
方向指示レバー2	
パーキングブレーキ2	22 5-5. 運転のアドバイス
ブレーキホールド2	224 寒冷時の運転327
ASC(アクティブサウンドコント	
ロール)2	226 6 室内装備・機能
5-3. ランプのつけ方・ワイパーの例	ELI
方	6-1. レクサスクライメイトコンシェル
ランプスイッチ2	0-1. レジッスシブイスイドコブジェル 127 ジュ
AHS(アダプティブハイビームシ)	<i>7</i> 4
テム)2	230332
AHB (オートマチックハイビーム)	
2	± ↓ ± ¬¬`. 222
フォグランプスイッチ2	.30
ワイパー & ウォッシャー(フロン	ト) リモートエアコンシステム341
2	カーノシートベンエレーカー 3/13
ワイパー & ウォッシャー (リヤ) 2	241
5-4. 運転支援装置について	6-3. 室内灯のつけ方
Lexus Safety System + 2	243 室内灯一覧346
PCS(プリクラッシュセーフティ)	6-4. 収納装備
2	248 収納装備一覧349
LTA(レーントレーシングアシスト	うゲージルーム内装備352
2	0-5. その心の至内若個のほい方
RSA (ロードサインアシスト) 2	
レーダークルーズコントロール(含	全車 アクセサリーコンセント(AC100V・
速追従機能付き)2	1500W) 367
先行車発進告知機能2	非常時紀電ン人テム3/3
ドライバー異常時対応システム.2	283
ITS Connect2	88 7 お手入れのしかた
BSM (ブラインドスポットモニタ	—)
2	
PKSA(パーキングサポートアラー	- 7-1. お手入れのしかた

h) 299

内装の手入れ 385	
7-2. 簡単な点検・部品交換	9 車両情報
ボンネット 388	_
ガレージジャッキ390	9-1. 仕様一覧
ウォッシャー液の補充	メンテナンスデータ 460
タイヤについて 391	9-2. カスタマイズ機能
タイヤの交換 399	ユーザーカスタマイズ機能463
タイヤ空気圧について	
エアコンフィルターの交換 404	9-3. 初期設定
電子キーの電池交換406	初期設定が必要な項目475
ヒューズの点検・交換	+ / 1 . /
電球(バルブ)の交換	さくいん
8 万一の場合には	こんなときは(症状別さくいん) 478 車から音が鳴ったときは(音さくい ん)480
8-1. まず初めに	アルファベット順さくいん 483
故障したときは	カルファヘット順さくいん483 五十音順さくいん
非常点滅灯 (ハザードランプ) 415	五十日順さくいん464
発炎筒	
車両を緊急停止するには 416	
水没・冠水したときは	
8-2. 緊急時の対処法	
けん引について	
警告灯がついたときは	
警告メッセージが表示されたときは 	
パンクしたときは	
EV システムが始動できないときは	
445	
キーをなくしたときは	
充電リッドが開かないときは 447	
電子キーが正常に働かないときは	
448	
補機バッテリーがあがったときは	
451	
オーバーヒートしたときは 455	
スタックしたときは 456	

1

2

ξ.

知っておいていただきたい こと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備 の説明が記載されている場合があり ます。また、車の仕様変更により、 内容がお車と一致しない場合があり ますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備(販売店オプション)の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様など の違いにより、お客様の車の装備と 一致しない場合があります。

不正改造について

- レクサスが国土交通省に届け出を した部品以外のものを装着する と、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを 装着するなど、車の性能や機能に 適さない部品を装着すると、故障 の原因となったり、事故を起こ し、重大な傷害を受けるおそれが あり危険です。

また、このような改造は Lexus Safety System + のような先進安 全装備にも影響を与え、正しく作 動しない危険や作動すべきでない 場面での作動をする恐れがあり危 険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないで

ください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤ・ディスクホイール・ホイール 取り付けナットの交換 異なった種類や指定以外のものを使用 すると、走行に悪影響をおよぼしたり、 不正改造になることがあります。
- ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし 電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、 故障や車両火災など事故につながるお それがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.8 も参照してください。

● フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに 着色フィルム(含む透明フィルム)などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

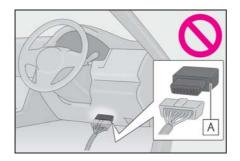
電子機器や無線機を取り付けると、 装着された部品を通じてサイバー攻 撃のリスクを高め、思わぬ事故や個 人情報の流出などにつながるおそれ があります。

レクサス純正品以外を取り付けたこ とに起因する問題に関してレクサス は保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電 装品取り付けについて

故障診断コネクターA などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、 補機バッテリーがあがったりするな ど、思わぬトラブルを招くおそれが あります。



|車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコン ピューターが装備されており、各機 能の作動時や操作状況により、主に 次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数/電気モーター回 転数
- アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- · 車速
- ・ 運転支援システムの作動状況
- ・ カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。 どのカメラが画像を記録しているかは、 レクサス販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの

音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

レクサスはコンピューターに記録された データを車両の故障診断・研究開発・品 質の向上を目的に取得・利用することが あります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得 したデータを第三者へ開示または提供す ることはありません。

- ・ お車の使用者の同意(リース車は借主 の同意)がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ レクサスが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や 車両が特定されないように加工した データを研究機関などに提供する場合
- 記録した画像情報はレクサス販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、 記録データとその使用について、 G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー(EDR)が装備されています。 EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態(SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など)が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両 の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- · 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意:EDR は衝突が発生したときに データを記録します。通常走行時に はデータは記録されません。また、 個人情報(例:氏名・性別・年齢・ 衝突場所) は記録されません。ただ し、事故調査の際に法執行機関など の第三者が、通常の手続きとして収 集した個人を特定できる種類のデー タと EDR データを組み合わせて使 用することがあります。EDR で記録 されたデータを読み出すには、特別 な装置を車両または EDR へ接続す る必要があります。レクサスにくわ え、法執行機関などの特別な装置を 所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出す ことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意(リース車は借主 の同意)がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合

- レクサスが訴訟で使用する場合 ただし、レクサスは
- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを 調査目的で第三者に開示することがあ ります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、 次のようなシステムに影響をおよぼ す可能性があります。

- Lexus Safety System +
- ◆ ABS (アンチロックブレーキシステム)
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け 方法については、必ずレクサス販売 店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報(周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件)をレクサス販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁 シールド構造になっています。従来 の車や電気製品と比べて、電磁波が 多いということはありません。

アマチュア無線の一部(遠距離通信) において、受信時に雑音が混入する 場合がありますので、あらかじめご 了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別 冊「メンテナンスノート」に記載し ていますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お 客様の責任において実施してくださ い。(法律で義務付けられています)

QR コードについて

QR コードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

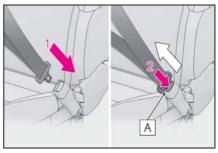
本書の見方

本書で使用している、記号につい て説明します。

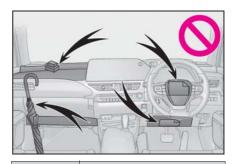
本文の記号について

記号	意味
	警告:
A	お守りいただかないと、 お客様自身と周囲の人々 が死亡、または重大な傷 害につながるおそれがあ ることを説明していま す。
	注意:
\triangle	お守りいただかないと、 車や装備品の故障や破損 につながるおそれがある ことを説明しています。
123	操作・作業の手順を示し ています。番号の順に 従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておいてお くと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
•	押す、まわすなど、してい ただきたい操作を示してい ます。
	フタが開くなど、操作後の 作動を示しています。

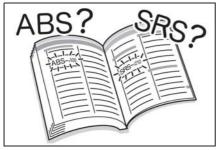


記号	意味	
>>	説明の対象となるもの・場所を示しています。	
0	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。	

検索のしかた

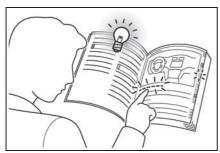
■ 名称から探す

- ●五十音順さくいん: →P.484
- ●アルファベット順さくいん:→P.483



■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次:→P.12



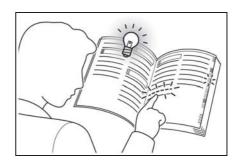
■ 症状や音から探す

- こんなときは(症状別さくいん):→P.478
- 車から音が鳴ったときは(音さくいん): →P.480



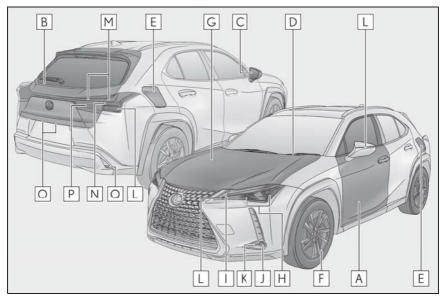
■ タイトルから探す

●目次: →P.2



イラスト目次

■外観



ランプの形状は、グレードなどで異なります。

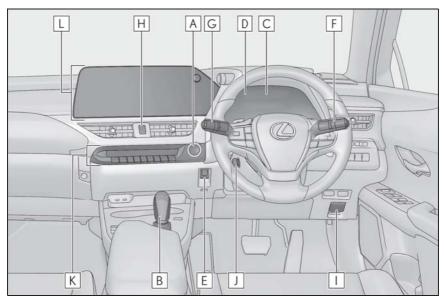
Α	ドア	. P.167
	施錠/解錠	. P.167
	ドアガラスの開閉	. P.197
	メカニカルキーでの施錠/解錠	. P.448
	警告メッセージ	. P.431
В	バックドア	. P.171
	施錠/解錠	. P.173
	開け方/閉め方	. P.173
	パワーバックドア*	. P.174
	警告メッセージ	. P.431
C	ドアミラー	. P.195
	鏡面の角度調整	. P.195
	ミラーの格納	. P.196
	墨りを取み(ミラーヒーター)	P 334

D	ワイパー	2.238
	冬季の注意F	P.327
	凍結防止(ウインドシールドデアイサー)★F	2.334
	洗車時の注意F	P.383
E	充電ポート	P.68
	充電方法	P.82
	DC 外部給電システム F	P.133
F	タイヤF	P.391
	サイズ・空気圧F	P.462
	冬用タイヤ・タイヤチェーンF	P.327
	点検・ローテーション・タイヤ空気圧警報システムF	P.391
	パンク時の対処 F	P.435
G	ボンネットF	P.388
	開け方F	P.388
	オーバーヒート時の対処F	P.455
	警告メッセージF	P.431
走行に	に関わる外装の電球 (バルブ)	
(交換	要領:P.411, ワット数:P.462)	
Н	ヘッドランプ	2.227
1	車幅灯・デイタイムランニングランプF	2.227
J	フロントフォグランプ	2.236
K	コーナリングランプF	2.229
L	方向指示灯F	2.221
M	尾灯F	2.227
N	制動灯	
	緊急ブレーキシグナルF	P.322
0	番号灯F	2.227

14 イラスト目次

P リヤフォグランプ [★] P.	236
Q 後退灯	
シフトポジションを R にするP.	216
★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。	

■インストルメントパネル



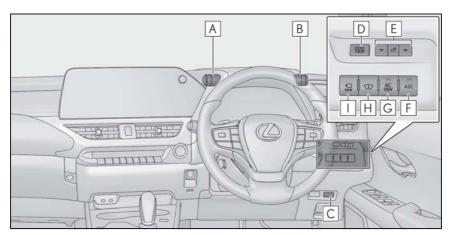
Α	パワースイッチ	P.212
	EV システムの始動・モード切りかえ	P.212
	EV システムの緊急停止	P.416
	EV システムが始動できないときの対処	P.445
	警告メッセージ	P.431
В	シフトレバー	P.216
	シフトポジションの切りかえ	P.216
	けん引時の注意	P.419
С	メーター	P.147
	見方・明るさの調整 P.	147, 149
	警告灯/表示灯	P.144
	警告灯点灯時の対処	P.424
D	マルチインフォメーションディスプレイ	P.150
	表示内容	P.150
	整生メッセージまご時の対処	D /21

E	パーキングブレーキスイッチ	P.222
	かける・解除する	P.222
	冬季の注意	P.328
	警告ブザー・警告メッセージP.	424, 431
F	方向指示レバー	
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・デイタイムランニングラ	
	AHS (アダプティブハイビームシステム) ★	
	AHB (オートマチックハイビーム) ★	
	フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★	
G	ワイパー&ウォッシャースイッチ(フロント)	
	ワイパー&ウォッシャースイッチ(リヤ) 使い方	
		,
	ウォッシャー液の補充	
	ヘッドランプクリーナー*	
	警告メッセージ	Р.431
Н	非常点滅灯スイッチ	P.415
1	ボンネット解除レバー	P.388
J	ハンドル位置調整スイッチ	P.193
	調整方法	P.193
K	オートエアコン	P.333
	操作方法	P.333
	リヤウインドウガラスの曇り取り(リヤウインドウデフォッガー	·) P.334
L	オーディオ [※]	
	音楽を聴く [※]	

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

[※] 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

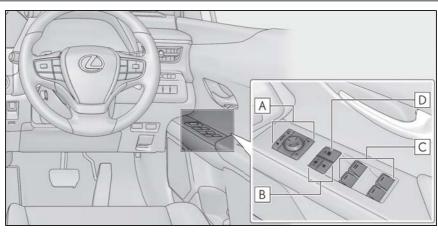
■スイッチ類



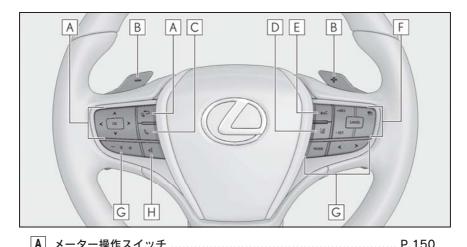
A	ドライブモードセレクトスイッチ	P.320
В	VSC(ビークルスタビリティコントロール)OFF スイッチ	P.322
С	パワーバックドアスイッチ★	P.174
D	ODO TRIP スイッチ	P.149
E	インストルメントパネル照度調整スイッチ	P.149
F	ASC スイッチ	P.226
G	AC100V スイッチ P.36	7, 373
Н	ヘッドアップディスプレイスイッチ [★]	P.154
	カメラスイッチ ^{★ ※}	

^{★:}グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

[※] 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



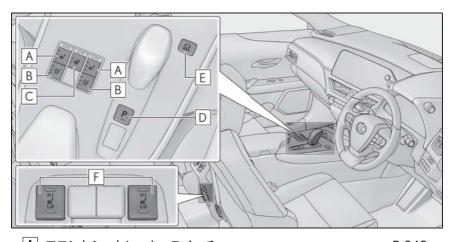
Α	ドアミラースイッチ	P.195
В	ドアロックスイッチ	P.170
C	パワーウインドウスイッチ	P.197
D	ウインドウロックスイッチ	P.199



71)
В	パドルシフトスイッチ P.220
C	≣話スイッチ [※]
D	TA(レーントレーシングアシスト)スイッチ

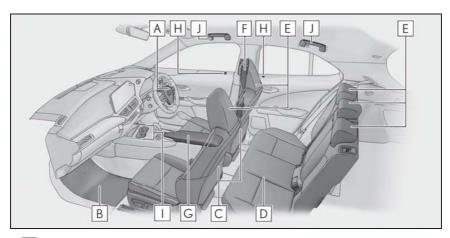
E	車間距離切りかえスイッチ	P.274
F	クルーズコントロールスイッチ	
	レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き)	P.270
G	オーディオスイッチ [※]	
Н	トークスイッチ [※]	

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



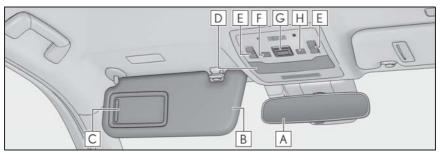
A フロントシートヒータースイッチ	P.343
B シートベンチレータースイッチ	P.344
C ステアリングヒータースイッチ	P.343
D P ポジションスイッチ	P.216
E ブレーキホールドスイッチ	P.224
F リヤシートヒータースイッチ	P.343

■室内



Α	SRS エアバッグ	P.30
В	フロアマット	P.24
С	フロントシート	P.189
D	リヤシート	P.190
E	ヘッドレスト	P.191
F	シートベルト	P.27
G	コンソールボックス	P.350
Н	ドアロックボタン	P.170
Ι	カップホルダー	P.351
J	アシストグリップ	P.366

■天井



A インナーミラー	P.194
B サンバイザー *1	P.357
C バニティミラー	P.357
D インテリアランプ ^{※2} パーソナルランプ	P.347 P.348
E ムーンルーフスイッチ★	P.200
F 侵入センサー OFF スイッチ	P.55
G ヘルプネットスイッチパネル *3	
H インテリアランプドア連動スイッチ	

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**1やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを うしろ向きに取り付けないでください。

重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.40)



^{**2}図はフロントですが、リヤにも装着されています。

^{**3}別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために

~必ずお読みください~

1-1.	安全にお使いいただくために
	運転する前に 24
	安全なドライブのために25
	シートベルト 27
	SRS エアバッグ 30
1-2.	お子さまの安全
	お子さまを乗せるときは 37
	チャイルドシート 38
1-3.	盗難防止装置
	イモビライザーシステム 52

オートアラーム......53

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

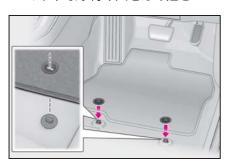
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を 参照してください。

異常が見つかった場合は、レクサス販売 店で必ず点検整備を受けてください。

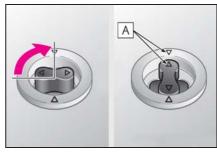
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック(クリップ)にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック(クリップ)上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



※ △ マーク ▲ を必ず合わせてください。

固定フック(クリップ)の形状はイラストと異なる場合があります。

▲ 警告

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、フロアマット がずれて運転中に各ペダルと干渉し、 思わぬスピードが出たり車を停止しに くくなるなど、事故の原因になり、重 大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡 につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

- ●レクサス純正品であっても、他車種 および異なる年式のフロアマットは 使用しない
- ●運転席専用のフロアマットを使用する
- ■固定フック(クリップ)を使って、 常にしっかりと固定する
- ●他のフロアマット類と重ねて使用しない
- ●フロアマットを前後逆さまにしたり、 裏返して使用しない

▲ 警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック (クリップ)で正しい位置にしっかり と固定されていることを定期的に確 認し、特に洗車後は必ず確認を行う

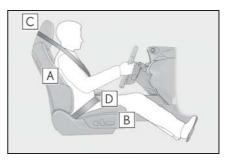


●EV システム停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前に シートやミラーなどを適切に調整 してください。

正しい運転姿勢をとるには



- A まっすぐ座り、運転操作時に体が 背もたれから離れないよう、背も たれの角度を調整する (→P.189)
- ペダルがしつかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする(→P.189)
- C ヘッドレストの中央が耳のいちば ん上のあたりになるようにする (→P.191)
- D シートベルトを正しく着用する (→P.28)

▲ 警告

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、重大な傷害に およぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。

▲ 警告

- 走行中は運転席の調整をしないでく ださい。 運転を誤るなるれがもります。
 - 運転を誤るおそれがあります。
- ●背もたれと背のあいだにクッション などを入れないでください。 正しい運転姿勢がとれないばかりか、 衝突したとき、シートベルトやヘッ ドレストなどの効果が十分に発揮さ れないおそれがあります。
- ●フロントシートの下にものを置かないでください。 ものが挟まるとシートが固定されず、 思わぬ事故や調整機構の故障の原因 になります。
- ●公道を走行するときは、法定速度や 制限速度を遵守してください。
- ●他の車や歩行者など、周囲の状況に 常に注意を払い、安全運転を心がけ てください。
- ●飲酒運転は絶対にしないでください。 お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こす おそれがあります。また、眠気をも よおす薬を飲んだときも運転を控え てください。
- ●運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。 周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- ●長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用する には

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。 (→P.28)

シートベルトを正しく着用できない 小さなお子さまを乗せるときは、適 切なチャイルドシートをご用意くだ さい。 $(\rightarrow P.38)$

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく 調整してください。(→P.194, 195)

シートベルト

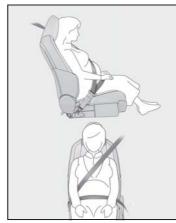
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

▲ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避ける ため、次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、重大な傷害に およぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。

- ■シートベルトの着用について
- ●全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する お子さまでも一組のベルトを複数の 人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシート ベルトを着用させる
- ●背もたれは必要以上に倒さず、上体 を起こし、シートに深く座る
- ●肩部ベルトを腕の下に通して着用し ない
- ●腰部ベルトはできるだけ低い位置に 密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.28) 通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正し く着用してください。

- ■お子さまを乗せるとき
- →P.48
- ■シートベルトの損傷・故障について
- ●ベルトやプレート、バックルなどは、 シートやドアに挟むなどして損傷し ないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

▲ 警告

- ●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。 うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- ●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、 シート・シートベルトを交換してください。
- ●プリテンショナー付きシートベルト の取り付けや取りはずし・分解・廃 棄などは、レクサス販売店以外でし ないでください。

不適切に扱うと、正常に作動しなく なるおそれがあります。

正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る



■ ねじれがないようにする

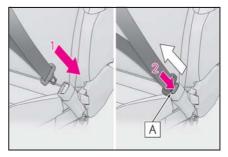
□知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルト を着用するのに十分な、大人の体格を 持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.38)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。 (→P.27)

着け方・はずし方



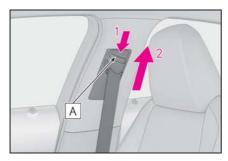
- 1 ベルトを固定するには、"カチッ"と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタンA を押す

__ 知識

■シートベルトロックの解除方法

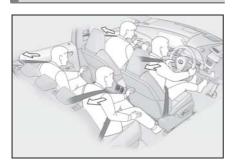
急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆつくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトの高さ調節 (フロント席)



- **1** 解除ボタン**A** を押しながら、ア ジャスターを下げる
- 2 アジャスターを上げる "カチッ" と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー (フロント席・リヤ外側席)



前方・側方から強い衝撃を受けたと き、シートベルトを引き込むことで 適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、う しろからの衝撃、横転のときは通常は作 動しません。

□知識

■シートベルトプリテンショナーについ て

シートベルトプリテンショナーは、一度 しか作動しません。玉突き衝突などで連 続して衝撃を受けた場合でも、一度作動 したあとは、その後の衝突では作動しま せん。

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両 との衝突の可能性が高いと判断されたと き、シートベルトプリテンショナーの作 動準備を整えます。

▲ 警告

■プリテンショナー付きシートベルト について

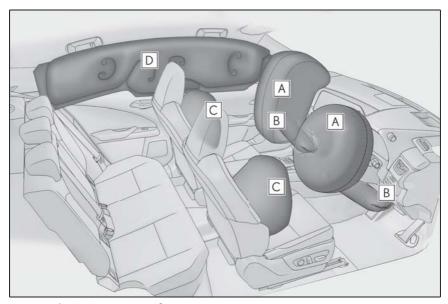
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



- ▶ フロント SRS エアバッグ
- A 運転席 SRS エアバッグ/助手席 SRS エアバッグ (運転者と助手席乗員の 頭や胸などへの衝撃を緩和)
- B SRS ニーエアバッグ(運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助)
- ▶ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ
- **C** SRS フロントサイドエアバッグ(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- **D** SRS カーテンシールドエアバッグ(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

□知識

■SRS エアバッグが作動すると

- ●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・ やけど・打撲などを受けることがあります。
- ●作動音と共に白いガスが発生します。
- ●フロント席・フロントピラー・リヤピ ラー・ルーフサイドレールの一部分な どだけでなくエアバッグ構成部品(ハ ンドルのハブ・エアバッグカバー・イ ンフレーター)も数分間熱くなること があります。エアバッグそのものも熱 くなります。
- ●フロントウインドウガラスが破損する ことがあります。
- ●EV システムを停止します。(→P.64)
- すべてのドアが解錠されます。(→P.168)
- 自動的にブレーキと制動灯を制御します。(→P.322)
- 室内灯が自動で点灯します。 (→P.347)
- 非常点滅灯が自動で点滅します。(→P.415)
- ●G-Link の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。

詳しくは別冊「マルチメディア取扱説 明書」を参照してください。

- · SRS エアバッグが作動した
- ・シートベルトプリテンショナーが作動 した
- ・後方から強い衝撃を受けた
- SRS エアバッグが作動するとき(フロント SRS エアバッグ)
- ●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強

さが設定値(移動も変形もしない固定された壁に、車速約20~30km/hで正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値)以上の場合に作動します。ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

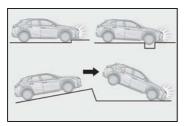
- 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- ・もぐり込むような衝突の場合(例えば、 車両前部がもぐり込む、下に入り込む、 トラックの下敷きになるなど)
- ●衝突条件によってはシートベルトプリ テンショナーのみ作動する場合があり ます。
- SRS エアバッグが作動するとき (SRS サイド&カーテンシールドエア バッグ)
- SRS サイド&カーテンシールドエア バッグは、衝撃の強さが設定値(約 1.5t の車両が、約20~30km/hの速 度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃 の強さに相当する値)以上の場合に作 動します。
- ●特に衝撃が大きい場合は、左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動す る場合があります。
- ●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエア バッグが作動する場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

- ■縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- ●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

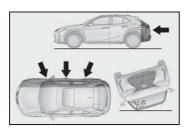
ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■ SRS エアバッグが作動しないとき(フロント SRS エアバッグ)

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロントSRS エアバッグが作動することがあります。

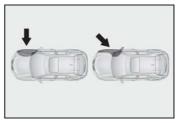
- ●側面からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイド&カーテンシールドエア バッグ)

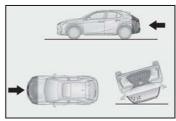
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、 SRS サイド&カーテンシールドエアバッ グが作動しない場合があります。

- ■客室部分以外の側面への衝撃
- ●斜めからの衝撃



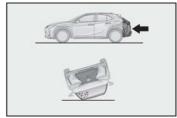
SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- ●前方からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

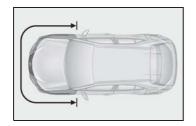
- ●後方からの衝突
- ●横転



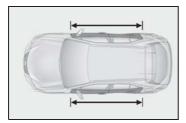
■レクサス販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要 になります。できるだけ早くレクサス販 売店へご連絡ください。

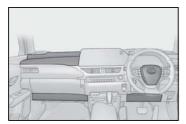
●いずれかの SRS エアバッグがふくらん だとき ● フロント SRS エアバッグはふくらまな かったが、事故で車両の前部を衝突し たとき、または破損・変形などがある とき



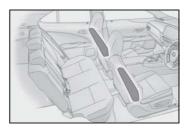
● SRS サイド&カーテンシールドエア バッグはふくらまなかったが、事故で ドアおよびその周辺部分を衝突したと き、または破損・変形・穴あきなどが あるとき



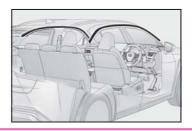
ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



● SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の指傷を受けたとき



●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



▲ 警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、重大な傷害に およぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。

- ●運転者と乗員すべてがシートベルト を正しく着用してください。 SRS エアバッグはシートベルトを補 助するためのものです。
- ●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRSエアバッグから離し、まつすぐに座ってください。

警告

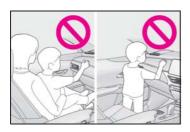
● お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。

お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。 (\rightarrow P.38)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



お子さまを助手席 SRS エアバッグの 前に立たせたり、ひざの上に抱いた りしない



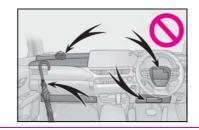
●運転者および助手席乗員は、ひざの 上に何も持たない ● ドアやフロントピラー・センターピ ラー・リヤピラー・ルーフサイド レールへ寄りかからない



助手席では、ドアに向かってひざを ついたり、窓から顔や手を出したり しない



●ダッシュボード・ハンドルのパッド 部分・インストルメントパネル下部 などには何も取り付けたり、置いた りしない



ドア・フロントウインドウガラス・ ドアガラス・フロントピラーおよび リヤピラー、ルーフサイドレール・ アシストグリップなどには何も取り 付けない

(速度制限ラベルを除く →P.439)



- コートフックにハンガーなどの硬い ものをかけないでください。
 SRS カーテンシールドエアバッグが 作動したときに投げ出されて重大な 傷害におよぶか、最悪の場合死亡に つながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所 にビニールカバーが付いている場合 は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の 周辺およびフロントドアの周辺は、 強くたたくなど過度の力を加えない でください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、 構成部品が熱くなっているため、ふ れないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、 もし呼吸が苦しく感じたら、ドアや ドアガラスを開けて空気を入れるか、 安全を確認して車外に出てください。 皮膚の炎症を防ぐため、残留物はで きるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されている パッド部およびフロントピラーガー ニッシュ部に傷が付いていたり、ひ び割れがあるときは、そのまま使用 せずレクサス販売店で交換してくだ さい。

■改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の 改造・廃棄をしないでください。 SRS エアバッグが正常に作動しなく なったり、誤ってふくらむなどして、 重大な傷害におよぶか、最悪の場合死 亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り 付け・分解・修理
- ●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなどの周辺の修理・取りはずし・改造
- ●フロントドアパネルの穴あけなどの 改造
- ●フロントフェンダー・フロントバン パー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード (ブルバー・カンガ ルーバーなど)・除雪装置・ウィンチ などの取り付け
- ●サスペンションの改造



●CD プレーヤー・無線機などの電化製 品の取り付け

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.38)
- 更転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→P.170)・ウインドウロックスイッチ(→P.199)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

▲ 警告

■お子さまを乗せるときは

●お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、P.38を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
 - 取り付け方法は、商品に付属の 取扱説明書に必ず従ってくださ い。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。

レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。 レクサス販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと: P.38

チャイルドシートを使用するときは: P.39

シート位置別チャイルドシートの適合性について: P.42

チャイルドシートの取り付け方法: P.46

シートベルトで固定する: P.47

- ISOFIX ロアアンカレッジで固定 する: P.49
- ・トップテザーアンカレッジを使用 する: P.50

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシート ベルトが着用できるようになるま ではチャイルドシートを使用して ください。
- ◆ お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。

▲ 警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、重大な傷害に およぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しつかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

- ●レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。 事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急 ブレーキをかけたときや衝突したとき などに飛ばされるなどして、重大な傷 害におよぶか、最悪の場合死亡につな がるおそれがあります。

- ●事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、 再使用しないでください。
- ●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください(→P.42)。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。 ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用すると きは

■ 助手席にチャイルドシートを取り 付けるとき

お子さまの安全のために、チャイル ドシートはリヤシートに取り付けて ください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置 まで上げる
- クッション前端をいちばん下に下げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、 ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。





A 警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、重大な傷害に およぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。

◆やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容 のラベルが貼られています。併せて 参照してください。





●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRSエアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、 チャイルドシートが正しく取り付け られない場合は、助手席側のリヤ席 に取り付けてください。



●助手席シートとチャイルドシートが 干渉しないように、助手席シートを 調整してください。

シート位置別チャイルドシート の適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの 適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性(→P.43)は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、 「推奨チャイルドシートと適合性一覧 表」を確認してください。(→P.45) 次に記載されている、「シート位置別 チャイルドシートの適合性を確認す る前に」も併せて確認してください。

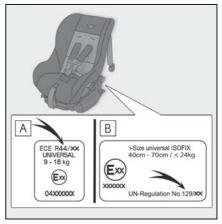
- シート位置別チャイルドシートの 適合性を確認する前に
- **1** チャイルドシートの規格を確認する

UN (ECE) R44^{※1} または、UN

(ECE) R129^{※1} に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、 次の認可マークが表示されていま す。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

- **A** UN (ECE) R44 認可マーク^{※2} 対象となるお子さまの体重の範囲 が記載されています。
- **B** UN (ECE) R129 認可マーク ※2

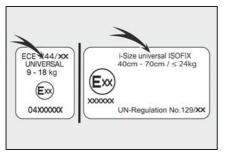
対象となるお子さまの身長の範囲 および使用可能な体重が記載され ています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを 確認する

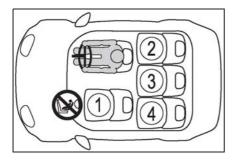
チャイルドシートのカテゴリーが 次のどのカテゴリーに該当するの か、チャイルドシートの認可マー クを確認ください。

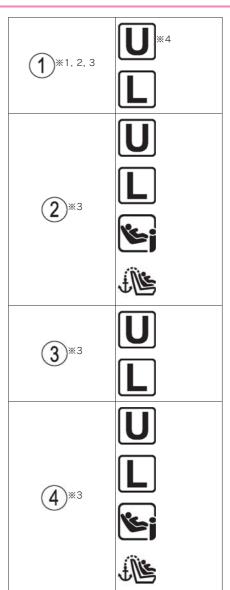
また、ご不明な場合はチャイルド シートに付属の取扱説明書を確認 頂くか、または販売業者へ確認してください。

- ユニバーサル「universal (汎用)」
- セミユニバーサル「semiuniversal (準汎用)」
- ・ リストリクティッド「restricted (限定)」
- ・ ビークルスペシフィック 「vehicle specific (特定車両)」



- **¹UN (ECE) R44、UN (ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法 規です。
- **²表示されているマークは、商品により 異なります。
- シート位置別チャイルドシートの 適合性







車両のシートベルトで固定する タイプのユニバーサル (汎用) カテゴリーのチャイルドシート に適しています。



推奨チャイルドシートと適合性 一覧表 $(\rightarrow P.45)$ に記載された チャイルドシートに適しています。



i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適し ています。



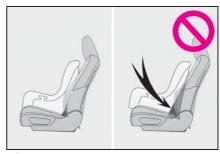
トップテザーアンカレッジが装 備されています。



やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、 チャイルドシートをうしろ向き に取り付けないでください。

- **1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。
- **²背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付け るときに、背もたれとチャイルドシー トの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



**3へッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。 取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

**⁴チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	1	2	3	4
ユニバーサル(汎用)ベルト 式が搭載可能な着座位置(有 /無)	有前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置(有/無)	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルド シートの治具(L1/L2)	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイ ルドシートの治具(R1/R2X/ R2/R3)	×	R1, R2	×	R1, R2

着座位置				
シート位置の番号	1	2	3	4
搭載可能な前向きチャイルド シートの治具 (F2X/F2/F3)	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの 治具 (B2/B3)	×	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。 「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない(または必要な情報が表の中にない)場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
В3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

			着座位置			
質量グループ	推奨チャイルドシート	1	2	3	4	
0、0+	レクサス純正 NEO G-Child baby	×	0	0	0	
(13kg まで)	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	0	×	0	

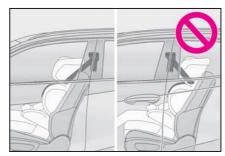
		着座位置			
質量グループ	推奨チャイルドシート	1	2	3	4
 (9 ~ 18kg)	レクサス純正 NEO G-Child baby	○ 前向 き のみ	0	0	0
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	0	×	0
\	レクサス純正ジュニアシート	0	0	0	0

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできることを確認になったときに、チャイルドシートの関係の席に密着することを確認に、チャイルドシートをできたなのでは、チャイルドのが、カートが手でである。とされば、カートがあります。ときない。またはとと、カートがあります。というでは、東ルドルを発揮できない。または、カートがあります。というでは、大なの場合はいたが、最悪の場合があります。

- リヤシートにチャイルドシートを 取り付けるときは、お子様やチャ イルドシートがフロントシートと 干渉しないようにフロントシート を調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが

背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるま で背もたれを調整してださい。

● シートベルトのショルダーアン カーがチャイルドシートベルトガ イドより前にある場合は、シート を前方に動かします。



● ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。



チャイルドシートをシートベル トで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明 書に従ってチャイルドシートを取り 付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない(または必要な情報が表の中にない)場合は、チャイルドシートメーカーが

提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。 (→P.42, 43)

1 助手席:

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。(→P.39)

2 ヘッドレストとチャイルドシート が干渉してチャイルドシートが正 しく取り付けられない場合は、 ヘッドレストを取りはずしてくだ さい。取りはずしができない場合 は、ヘッドレストをいちばん上ま で上げてください。(→P.191)

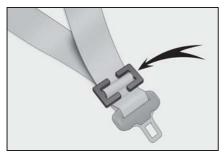
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに"カチッ"と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に 従い、シートベルトをチャイルドシート にしつかりと固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルト の固定装置が備わっていない場合 は、ロッキングクリップ(別売) を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。(ロッキングクリップ品番:73119-22010)



5 取り付け後はチャイルドシートを 前後左右にゆすり、しつかりと固 定されていることを確認してください。(→P.48)

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの 反発により、チャイルドシートが跳ね上 がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

▲ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、重大な傷害に およぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。

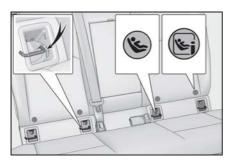
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - 誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、 ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックル がしっかり固定されて、ベルトがね じれていないか確認してください。
- ●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しつかり固定されているか確認してください。
- ●チャイルドシートを固定したあとは、 シートを調整しないでください。

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。 ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- ●必ずチャイルドシートに付属の取扱 説明書をよくお読みの上、確実に取 り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについ て

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。 (ロアアンカレッジが装備されている ことを示すマークがシートに付いています)



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定 する

チャイルドシートに付属の取扱説明 書に従ってチャイルドシートを取り 付けてください。

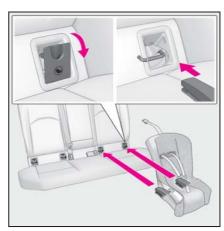
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない(または必要な情報が表の中にない)場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参

照するか、販売業者へお問い合わせ の上、適合性を確認してください。 (→P.42, 43)

- 1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.191)
- 2 チャイルドシートをシートに取り 付ける

チャイルドシートのコネクタ(取り付け 金具)をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



3 取り付けたチャイルドシートを前 後左右にゆすり、固定されている ことを確認する(→P.48)

■チャイルドシートを取り付けるとき

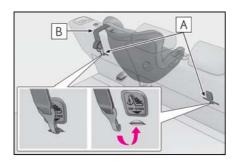
次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、重大な傷害に およぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。

- ●チャイルドシートを固定したあとは、 シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用する ときは、周辺に障害物がないか、 シートベルトが挟まっていないかな どを確認してください。
- ●必ずチャイルドシートに付属の取扱 説明書をよくお読みの上、確実に取 り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使 用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。 テザーベルトを固定するときに使います。

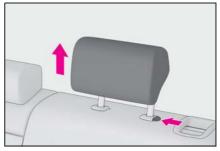


- **A** トップテザーアンカレッジ
- Bテザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアン カレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明 書に従ってチャイルドシートを取り 付けてください。

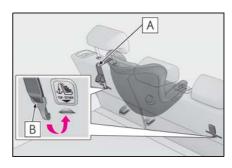
1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.191)



2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックが しっかり固定されていることを確認しま す。(→P.48)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A テザーベルト

B フック

▲ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、重大な傷害に およぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。

- ●テザーベルトがしつかり固定されて、 ベルトがねじれていないか確認して ください。
- ●テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください
- ●チャイルドシートを固定したあとは、 シートを調整しないでください。
- ●必ずチャイルドシートに付属の取扱 説明書をよくお読みの上、確実に取 り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、 ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、 ヘッドレストを下げないでください。

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、 あらかじめ登録されたキー以外で は EV システムを始動できません。 車両から離れる場合は、車内に キーを残さないでください。

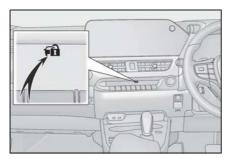
このシステムは車両盗難の防止に 寄与する機能であり、すべての車 両盗難に対する完全なセキュリ ティを保証するものではありませ ん。 ●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー(信号発信機内蔵キー)と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしない でください。システムが正常に作動し ないおそれがあります。

システムを作動させるには



パワースイッチを OFF にすると、 システムの作動を知らせるためにセ キュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンス は不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知 した場合に音と光で警報する機能 です。

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- ●施錠されたドアが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動くもの を検知したとき(侵入者がガラ スを割るなどして車内に乗り込 んだとき)

G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合メール、スマートフォンアプリへお知らせすることができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

オートアラームを設定/解除/ 停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、およ び盗難を防ぐため、次のことを必ず 確認してください。

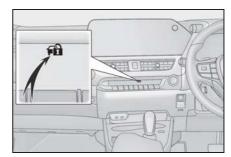
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ*が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか
- **★**:グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。

■ オートアラームを設定するには

ドア・ボンネットを閉め、スマート エントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除/停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する
- パワースイッチを ACC または ON にするか、EV システムを始動す る(数秒後に解除・停止します)

□知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンス は不要です。

■G-Link(ご契約のお客様のみ)

うっかり通知機能によって、施錠のし 忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガ ラスの閉め忘れ、ムーンルーフ★の閉め 忘れなどを、メールやスマートフォン アプリへお知らせすることができます。 うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどをスマートフォンアプリで確認できます。

詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説 明書」を参照してください。

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動 することがあります。オートアラームの 設定を解除・作動を停止する操作を行っ てください。

●メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



●車内に残った人が、ドアやボンネット を開けたり、ロックレバーで解錠した とき



施錠後、補機バッテリーをはずしたとき (→P.453)



■オートアラーム作動によるドアロック 機能

次のような場合、自動的にドアが施錠されることがあります。

- ●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- ■オートアラーム作動中に車内に残った 人がドアを解錠したとき
- ●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

⚠ 注意

■オートアラームを正常に作動させる ために

システムの改造や取りはずしをしない でください。システムが正常に作動し ないおそれがあります。

侵入センサー

■ 侵入センサーの検知について

侵入センサーは、超音波を使って車 内への侵入者や室内の動きを検知す るセンサーです。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを設定するには

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→P.53)

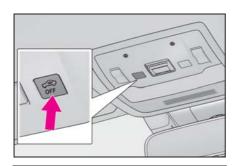
■ 侵入センサーを停止するには

車内で動くものに反応するため、 ペットや動くものを車内に残すとき は、必ず侵入センサーを停止してか らオートアラームを設定してくださ い。

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 侵入センサー OFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーを OFF / ON にするたび に、メーター内のマルチインフォメー ションディスプレイにメッセージが表示 されます。



__ 知識

■侵入センサーの作動・停止について

- ●侵入センサーの作動を停止しても、 オートアラームは作動します。
- ●侵入センサーを停止したあとにパワースイッチを押すか、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。
- ●再度オートアラームをセットすると、 侵入センサーは作動可能状態(システム ON の状態)に自動復帰します。
- リモートエアコンシステムの作動中は、 侵入センサーが自動的に停止します。

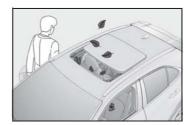
■侵入センサーについて

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

●車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



- ●ドアガラスやムーンルーフ*などが開いている場合、次のものを検知することがあります。
- ・室内に入った落ち葉・虫・風など
- ・他車の侵入センサーなどが発する超音 波
- ・室外の歩行者の動き



- ★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
- ●マスコットやアクセサリーをぶら下げ た状態で取り付けたり、コートフック に衣類をかけているときなど、動きや すいものが車内にあるとき



●立体駐車場のような振動や騒音の激し い場所に駐車したとき



●雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき



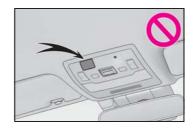
- ●高圧洗車機や自動洗車機などを使うと き
- ●ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

注意

- ■侵入センサーを正しく作動させるために
- ◆センサーの穴に向かって、直接消臭 スプレーなどを噴射しないでくださ い。



●センサーの穴はふさがないようにしてください。



- ■運転席と助手席のシートのあいだに、 レクサス純正品以外のアクセサリー を装着したりものを放置したりする と、検知性能が低下することがあり ます。
- 電子キーが車両の近くにある場合、 侵入センサーの作動を停止すること があります。

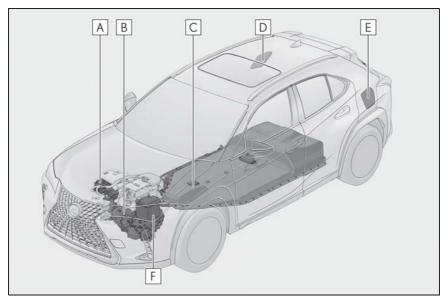
EV システム

2-1.	EV システムについて
	EV システムの特徴58
	EV システムの注意 61
	電気自動車運転のアドバイス 65
	走行可能距離について66
2-2.	充電について
	充電に関する装備について 68
	普通充電ケーブルについて
	普通充電コネクターの施錠・解錠
	接続可能な外部電源について 79
	充電方法について82
	充電に関するアドバイス 85
	充電の前に知っておいていただきた いこと86
	普通充電のしかた89
	急速充電・V2H 充電/ V2H 給電の しかた97
	タイマー充電機能を使う(普通充 電) 102
	マイルームモードを使う 116
	正常に充電できないときは 119
2-3.	DC 外部給電システムについて
	DC 外部給電システムについて 133
	DC 外部給電のしかた 134
	正常に DC 外部給電できないときは
	140

EV システムの特徴

電気自動車は、従来の車両とは大きく異なります。駆動用電池に充電された電気で電気モーターを駆動させることで、走行します。電気自動車は電気を使用して走行するため、CO2(二酸化炭素)や、NOx(窒素酸化物)などを排出せず、環境に優しい自動車です。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- A 車載充電器
- B 電気モーター (駆動モーター)
- C 駆動用電池

電気モーターに電気を供給します。

- D 普通充電ポート
- E 急速充電ポート
- || 補機バッテリー

SRS エアバッグ、ヘッドライト、ワイパーなどのさまざまなシステムに電力を供給します。

■ 減速時・制動時(回生ブレーキ)

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

この回生ブレーキ機能を活用して駆動用電池に電気を蓄えることで、走行できる距離をのばすことができます。

充電について

- 充電に関する装備について (→P.68)
- 普通充電ケーブルについて (→P.71)
- 接続可能な外部電源について (→P.79)
- ◆ 充電の前に知っておいていただき たいこと (→P.86)
- 充電方法について (→P.89、97)
- 正常に充電できないときは (→P.119)

□知識

■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトポジションがDまたはBで走行中 に、アクセルペダルから足を離したと き
- シフトポジションがDまたはBで走行中 に、ブレーキペダルを踏んだとき

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーは、EVシステムが作動しているとき、または駆動用電池の充電中に、駆動用電池から充電されます。車両を長時間使用しないと、補機バッテリーの電力が自然放電のために低下する場合

があります。この場合は、正しい手順に 従って、対処してください。(→P.451)

■車を長期間使用しないとき

- ●車を長期間使用しない場合は、駆動用電池が極端に充電不足になるのを防ぐため、1ヶ月に一度は駆動用電池を充電してください。
- ●車両に普通充電ケーブルを接続したまま長期間放置すると、システムチェックなどの制御が働くことにより、補機バッテリーの電力消費量が増加します。普通充電ケーブルを接続しておく必要がないときは、車両から取りはずしておいてください。

■駆動用電池の充電について

- ●駆動用電池が低下すると、駆動用電池 充電警告灯が点灯または点滅し、マル チインフォメーションディスプレイに メッセージが表示されます。
- ●必要に応じて駆動用電池を充電してください。駆動用電池が電欠になると、 走行ができなくなります。駆動用電池の 残量が少なくなっているときは、できるだけ早く充電してください。

■電気自動車特有の音と振動について

電気自動車は READY インジケーターが 点灯し、走行可能な状態でも、通常の車 のようにエンジン音や振動がないことが あるため、走行可能な状態であることに 気が付かない場合があります。安全のた め、駐車時は確実にパーキングブレーキ をかけて、シフトポジションを P にして ください。

EV システム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- ●運転席のドアが開いたときに車両の前 方から聞こえるブレーキシステムの操 作音
- ●モータールームからのモーター音

- EV システム始動時および停止時に車両 モータールームから聞こえるリレーの 音
- ●次のような場合は、"コトン"、"カチッ" などのリレー作動音が駆動用電 池から聞こえます。
- ・EV システムが始動または停止したとき
- ・充電が開始または終了するとき
- ・急速充電後・V2H 充電/ V2H 給電後、 駆動用電池を使用した後、初めて車両 を運転するとき
- ブレーキペダルを踏んだときや、アク セルペダルをゆるめたときに聞こえる 作動音
- ラジエーターや駆動用電池から聞こえる冷却ファンの作動音
- ●空調システム(空調コンプレッサー、 送風機モーターなど)の作動音
- ■メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずレクサス販売店にご相談ください。

特に廃車する場合は、レクサス販売店を 通じて駆動用電池の回収を行っています ので、ご協力ください。

車両接近通報装置

走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で通報音を鳴らします。車速が約25km/hをこえると消音します。

___ 知識

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- ●周囲の騒音が大きい場合
- ●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあ

るので、車両前方と比較して、車両後方 は聞こえにくくなることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに "車両接近通報装置故障 販売店で 点検してください" が表示されたとき

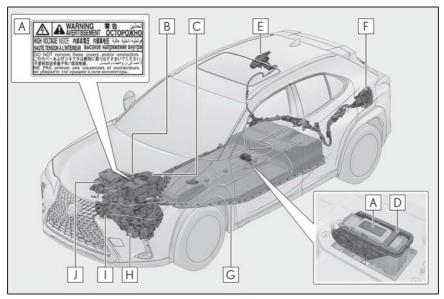
車両接近通報装置に異常があるおそれが あります。レクサス販売店に連絡してく ださい。

2

EV システムの注意

EV システムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高電圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位(公称 355.2V)や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- A ラベル
- B 高電圧ケーブル (オレンジ色)
- **C** パワーコントロールユニット /DC-DC コンバータ
- **D** サービスプラグ
- E 普通充電インレット
- | | | 急速充電インレット
- G 駆動用電池
- 電気モーター (駆動モーター)

Ⅲ エアコンコンプレッサー

」 車載充電器

□ 知識

■電磁波について

- ●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や電気製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- ●アマチュア無線の一部(遠距離通信) において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池(リチウムイオン電池)に ついて

駆動用電池には寿命があります。駆動用電池の容量(蓄電能力)は、ほかの充電式電池と同様に時間の経過や使用状況にともない低下します。低下の程度は運転のしかた、充電のしかたなど、お車の使用状況や環境(外気温等)により大きく異なります。

これらはリチウムイオン電池本来の特性であり、不具合ではありません。なお、電池の容量が低下すると走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

容量低下を抑えるためには、P.88 の " 駆動用電池の容量低下について" に記載 されていることを心がけてください。

■極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が 著しく低くなっている場合(およそ-30 ℃以下)、EV システムが始動できなくな ることがあります。

その場合は気温の上昇を待つなど、駆動 用電池の温度が上がってから再度始動操 作をしてください。

■適合宣言

この車両は、ECE100 (バッテリー電気 車両安全) に基づいた水素排出量に適合 しています。

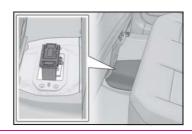
A 警告

■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用して います。

次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、 最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●高電圧部位・高電圧の配線(オレン ジ色)およびそのコネクターの取り はずし・分解などは絶対に行わない でください。
- ●走行後は EV システムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に 従い、常に高電圧・高温部位に注意 してください。
- ●サービスプラグが床下の駆動用電池 に設置してあります。サービスプラ グは絶対にさわらないでください。 サービスプラグは、レクサス販売店 での車両の修理時などに、駆動用電 池の高電圧を遮断するためのもので す。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●続発事故防止のため、安全な場所に 停車して、パーキングブレーキをか け、シフトポジションを P にして、 EV システムを停止する
- ●高電圧部位・高電圧の配線(オレン ジ色)などには、絶対にさわらない
- ●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対にさわらない
- ●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない 駆動用電池の電解液(炭酸エステルを主とする有機電解液)が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- ●駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない 万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。
- ●火気や高温のものを絶対に近付けない電解液に引火するおそれがあり危険です。
- ●万一、車両火災が発生したときは、 ABC 消火器を使用して消火する 水をかける場合は、消火栓などから 大量にかけてください。

- 前輪が接地した状態でけん引しない 電気モーターから発電され、破損の 状態によっては、火災のおそれがあり危険です。(→P.419)
- ●車の下の路面などを確認し、液体のもれ(エアコンの水以外)が見つかった場合、駆動用電池が損傷している可能性があります。できるだけ早く車両を離れてください。この場合は、レクサス販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■駆動用電池について

- ●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、レクサス販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・不法投棄または放置され、環境汚染 となるばかりか、第三者が高電圧部 位にふれてしまい、感電事故が発生 する
- ・装備された車両以外で駆動用電池を 使用(改造などを含む)し、感電事 故、発熱・発煙・発火・爆発事故、 電解液漏出事故などが発生する 特に、転売・譲渡などを行うと、相 手にこれらの危険性が認識されず、 事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、レクサス販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

- ●電気自動車は走行時にエンジン音がないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- ●車両床下に強い衝撃を受けたときは、 すぐに安全な場所に停車し下まわり を点検してください。

床下に駆動用電池の液もれや損傷が 見られる場合、絶対に車両にふれず、 すみやかにレクサス販売店にご連絡 ください。

■改造について

車高を下げると、床下にある駆動用電 池が衝撃を受けやすくなり、電池を損 傷し、発火や車両火災などが発生し、 重大な傷害におよぶか、最悪の場合死 亡につながるおそれがあります。車高 を下げる改造は絶対に行わないでくだ さい。

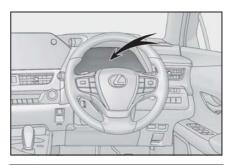
緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、 EV システムを停止して高電圧を遮断 します。 この場合、EV システムを再始動させることができなくなるためレクサス販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

EV システムの異常やお知らせしたい 事項が発生すると自動で表示されま す。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示された画面の指示に従ってください。(→P.126, 431)



□知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機 バッテリーとの接続が断たれたとき

EV システムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしても READY イン ジケーターが点灯しない場合はレクサス 販売店にご連絡ください。

■駆動用電池が電欠になったとき

駆動用電池が電欠で EV システムが始動できないときは、駆動用電池充電警告灯が消灯するまで、十分に充電(普通充電または急速充電・V2H 充電)してから再始動してください。

2

電気自動車運転のアドバイス

シフトポジションの操作

- 信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましょう。
- 駐車するときは、シフトポジションを P にしましょう。
- シフトポジションを N にしても、 電費向上の効果はありません。 N では、駆動用電池は充電されない ため、エアコンなどを使用してい ると駆動用電池の残量が低下しま す。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号 待ちは電費を悪化させます。お出か け前に交通情報を確認するなどして、 なるべく渋滞を回避するようにしま しょう。また渋滞の際は、ブレーキ ペダルをゆるめて微前進し、アクセ ルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分な電気消費を抑えることができます。

EV システムインジケーターの 利用

メーター内の EV システムインジ ケーターの表示をエコエリアの範囲 に保つことで、より環境に配慮した 走行が可能です。(→P.148. 158)

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しま しょう。また、料金所手前では早め にアクセルをもどし、ゆるやかなブ レーキ操作を行いましょう。減速時 に発生する電気エネルギーをより多 く回収することができます。

エアコンの ON / OFF

● 必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分な電力消 費を抑えることができます。

夏季:外気温が高いときは、内気循環 モードに設定しましょう。エアコンへの 負荷が減り、電費向上につながります。

冬季:過剰または不要な暖房は避けま しょう。ヒーターを使いすぎないことも 電費向上に効果的です。

● レクサスクライメイトコンシェル ジュを使用すると、空調が自動的 に快適な状態に制御され、余分な電力消費を抑えることがができます。(\rightarrow P.332)

- 普通充電ケーブルが車両に接続されている状態でリモートエアコンシステム (→P.341)を使用すると、主に外部電源の電力を使用して車内を空調できるため、出発直後の駆動用電池の電力消費を抑制できます。
- タイマー設定時、充電モードを "出発" に設定し、エアコン連動を ON にしておくことで、"出発" に設定した時間に併せて、あらかじめ車内を空調しておくことができ、出発直後のエアコンの負荷を低減することができます。 (→P.103)

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、電費悪化につながります。また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では電力消費量が大きくなります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、電費が 悪化します。不要な荷物は、積んだ ままにせずに降ろしましょう。

走行可能距離について

マルチインフォメーションディス プレイに表示される走行可能距離 は、現在どのくらい走行が可能か の目安を示しており、表示の距離 を実際に走行できない場合があり ます。

表示値について

マルチインフォメーションディスプレイには、駆動用電池の残量や状態から十分な走行性能が出せる値を推進して表示しています。(→P.151)低温時には、駆動用電池残量が残っていても、走行距離がなくなる場合があります。早めに充電してください。

走行できる距離を伸ばすための ヒント

走行できる距離は、運転のしかた・ 道路状況・天候や気温・電装品の使 用状況・乗員数などに大きく左右さ れます。

次のことに気を付けて運転していた だくと、より走行できる距離を伸ば すことが可能です。

- 車間距離を十分にとり、不要な加減速をしない
- むだな加減速をくり返さない
- 走行中は、一定の速度で走行する ことを心がける
- エアコンを適切に使用し、過剰ま たは不要な冷房・暖房は避ける
- 指定されたサイズのタイヤを使用

し、タイヤの空気圧を適正に維持する

◆ 不要な荷物を積まないように心が ける

充電が完了したときの表示につ いて

車両の充電が正しく完了したかどう かは、次のことで確認できます。

- 普通充電ポートの充電インジケー ターが消灯する
- パワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイに "充電結果のお知らせ 充電完了しました" と表示される (→P.86)

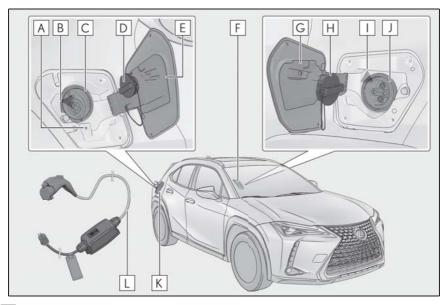
接続する電源やタイマー充電機能の 使用に関わらず、上記のことが確認 できれば正しく充電されています。

充電に関するメッセージについて:→P.126

充電に関する装備について

この車両には外部電源と車両とを接続するための普通充電ケーブルなどが 装備されています。

充電装備と名称



- A 普通充電インジケーター (→P.70)
- B 普通充電インレット照明
- C 普通充電インレット
- D 普通充電インレットキャップ
- **E** 普通充電リッド (→P.69)
- ▶ 急速充電ポート
- **G** 急速充電リッド (→P.69)
- H 急速充電インレットキャップ
- 急速充電インレット照明
- ▶ 急速充電インレット

K 普通充電ポート

L 普通充電ケーブル★ (→P.71)

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

充電リッドの開閉

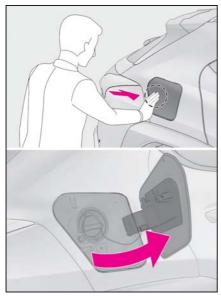
普通充電リッドと急速充電リッドの 開閉操作は同様です。

■ 充電リッドの開け方

ドアを解錠することで、充電リッド を解錠する。(→P.167)

充電リッドの車両後端(図に示す位置)を押し、充電リッドを開ける。

押して手を離すと、充電リッドが少し開きます。その後、手で全開にします。



■ 充電リッドの閉め方

充電リッドを閉め、充電リッドの車 両後端(図に示す位置)を押す

ドアを施錠すると、充電リッドも施錠されます。



□ 知識

■充電リッドの施錠について

- ●次のような場合には、充電リッドが施 錠されます。
- ・ ワイヤレスリモコンでドアを施錠する
- スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠する
- メカニカルキーでドアを施錠する
- ●解錠操作後ドアおよび充電リッドを開けなかったときは、ドアが自動的に施錠されることにより、充電リッドも施錠されます。
- ●ドアが施錠されている状態で、充電 リッドを閉めた場合は、充電リッドが 施錠されません。その場合は、ドアを 再度施錠することで、充電リッドを施 錠することができます。
- ●普通充電コネクターが施錠されると、

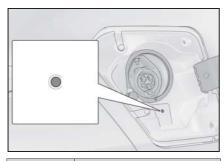
急速充電リッドも施錠されます。

■充電リッドが開かないとき

→P.447

普通充電インジケーター

点灯・点滅パターンの変化により、 次のように充電に関する状況をお知らせします。



点灯・点滅 パターン	車両の状況	
	・普通充電中 ・普通充電が可能な状況の とき	
点灯	 ・駆動用電池ヒーター (→P.83)の作動中 ・駆動用電池冷却 	
	(→P.83)の作動中	
点滅(通常)※		

点灯・点滅 パターン	車両の状況		
速い点滅※	電源または車両の異常など により普通充電ができない 状況 (→P.121) のとき		
消灯	・ 普通充電コネクターが普 通充電インレットに挿し 込まれていないとき		
	タイマー充電 (→P.102)の待機中・普通充電が終了したとき		

※一定時間点滅したあと、消灯します。

□知識

■普通充電ポートの充電インジケーター について

普通充電中・リモートエアコンシステム の使用中にシステム異常などが発生した 場合は、一定時間速い点滅をしたあとで 消灯します。

その場合、パワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示されたメッセージの内容に従って、それぞれ対処してください。

普通充電ケーブル★について

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

普通充電ケーブルの機能や正しい 取り扱い方法などについて説明し ています。

▲ 警告

■普通充電ケーブル・コントロールユニットを取り扱うとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の 原因となり、重大な傷害におよぶか、 最悪の場合死亡につながるおそれがあ ります。

- ●普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットの分解・修理・改造をしない普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常が認められた場合は、ただちに使用を中止してレクサス販売店にご連絡ください。
- ●普通充電ケーブルや電源プラグ・普 通充電コネクター・コントロールユ ニットに強い衝撃を与えたり落とし たりしない
- ●普通充電ケーブルを無理に折り曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、引きずるなどの負担をかけない
- ●普通充電ケーブルを鋭利なもので傷付けたりしない
- ■電源プラグの端子を折り曲げたり異物を付けたりしない
- ●普通充電コネクター・電源プラグを 水に浸けない
- ●普通充電ケーブルを熱器具等の高温 物に近付けない

- ●普通充電ケーブル・電源プラグコードに負荷をかけない(コントロール ユニット・普通充電コネクターに普 通充電ケーブルを巻き付けるなど)
- ●コンセント・電源プラグに負荷がか かる状態で使用したり、放置したり しない(コントロールユニットが接 地せず、宙吊りになっているなど)

▲ 注意

■普通充電ケーブルの取り扱いに関する注意

次のことをお守りください。お守りいただかないと、普通充電ケーブルや普通充電インレットの故障につながるおそれがあります。

- ●普通充電コネクターは、斜めになったり傾いたりしないよう、普通充電インレットにまっすぐ挿し込む
- ●普通充電コネクターを挿し込んだあ とは、普通充電コネクターに無理な 力をかけたり、こじったりしない。 また、体や荷物などをぶつけないよ うに注意する
- ●普通充電ケーブルを踏んだり、つまずいたりしないように注意する
- ●普通充電コネクターを取りはずす前に、普通充電コネクターが解錠されていることを確認する(→P.76)
- ●普通充電ケーブルを取りはずしたあとは、すみやかに所定の位置に片付ける
- 普通充電コネクターを取りはずした あとは、普通充電インレットキャッ プを確実に取り付ける
- ■普通充電ケーブルや関連部品などを 取り扱うとき

→P.89



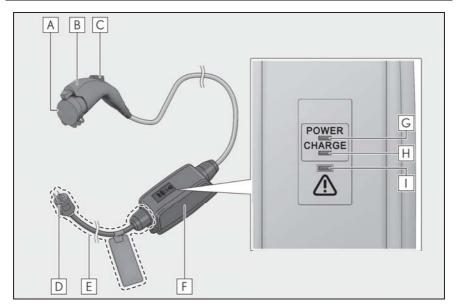
■寒冷時の注意

寒冷時は、普通充電ケーブル・電源プラグコードが通常より固くなることがあるため、固くなった状態で無理な力をかけないでください。普通充電ケーブル・電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

■電源プラグコードについての注意

電源プラグコードは充電以外の用途で 使用しないでください。電源プラグ コードの損傷につながるおそれがあり ます。

各部の名称



- | A|| 普通充電コネクターキャップ
- B 普通充電コネクター
- Cロック解除ボタン
- D 電源プラグ

- E 電源プラグコード
- **F** コントロールユニット
- **G** 電源インジケーター (→P.73)
- **H** 充電インジケーター (→P.73)

安全機能について

普通充電ケーブルに取り付けられているコントロールユニットは、次のような安全機能を備えています。

■ 漏電検知機能

充電中に漏電を検知すると、自動的 に電気を遮断し、漏電による感電や 火災などを未然に防ぎます。

漏電検知機能により電気が遮断された場合は、エラーインジケーターが点滅します。(電気が遮断された場合の対処方法については、P.74を参照してください)

■ 自動チェック機能

漏電検知機能の作動に問題がないか、 充電開始前に自動でシステムチェッ クが実施されます。

システムチェックの結果、漏電検知機能 の異常が検出されると、エラーインジ ケーターの点滅でお知らせします。 (→P.74)

■ 温度検知機能

電源プラグに温度検知機能が搭載されており、充電中、コンセント側のゆるみなどにより電源プラグ部が発熱した場合に、充電電流を制御することで発熱を抑制します。

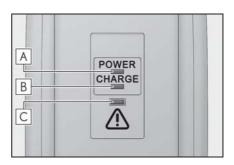
■ 車両との通電の条件

電源プラグがコンセントに挿して あっても、普通充電コネクターが車 両に接続されていないと、普通充電 コネクターに通電されない構造に なっています。

コントロールユニット上のイン ジケーターについて

■ 各インジケーターの働き

3 つのインジケーターで、それぞれ 次の状態を示します。



A 電源インジケーター

コントロールユニットに通電しているときに点灯します。

B 充電インジケーター

充電中に点灯します。

C エラーインジケーター

漏電が発生したとき、またはコントロールユニットに異常が発生したとき点滅します。

■ 充電時に異常が発生したとき

コントロールユニット上のインジケーターの点灯・点滅状態の組み合わせに より、異常の内容をお知らせします。

エラーインジケーターが点灯・点滅したときは、いったん電源プラグをコンセントから 抜き、再度コンセントに挿し込んで、エラーインジケーターが消灯するか確認してください。

エラーインジケーターが消灯していれば、そのまま充電が可能です。

消灯しない場合は、次の表に従って対処してください。

状況	電源インジ ケーター	エラーインジ ケーター	原因·対処
充電システム エラー	消灯	消灯または点 灯	漏電を検知して充電を中断しているか、 普通充電ケーブルが故障しています。
	点灯	点滅	→ レクサス販売店にご相談ください。
電源プラグ温度検知異常	点滅	点滅	電源プラグの温度検知部品が故障しています。 → レクサス販売店にご相談ください。
電源プラグ温度上昇検知	点滅	消灯	コンセントと電源プラグとの接触不良などにより、電源プラグの温度上昇を検知しました。 → 電源プラグがコンセントに確実に挿し込まれているか確認してください。
普通充電ケーブル寿命予告	点灯	点滅	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限に近付いています。 → レクサス販売店にご相談ください。
普通充電ケーブル寿命	点灯	点灯	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限をこえています。 → レクサス販売店にご相談ください。

普通充電ケーブルの点検・お手 入れ

安全にお使いいただくために、日常的に次の事項を点検してください。

▲ 警告

■日常点検について

定期的に次のことを確認してください。 点検をしないで使い続けると、思わぬ 事故の原因となり、重大な傷害におよ ぶか、最悪の場合死亡につながるおそ れがあります。

- ●普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットに破損などがないこと
- コンセントに破損がないこと
- ●コンセントの挿し込みがゆるくなっ ていないこと
- ●充電中に電源プラグが極端に熱くならないこと
- ●電源プラグの刃が変形していないこと
- ●電源プラグにほこり等の汚れがないこと

電源プラグはコンセントから抜いて点 検してください。また、点検の結果、 普通充電ケーブルに異常が見つかった 場合は、ただちに使用を中止して、 レクサス販売店にご相談ください。

■普通充電ケーブルのお手入れについ て

汚れたときは固くしぼった布で汚れを ふき取ったあと、乾いた布でから拭き してください。

なお、水洗いは絶対に行わないでください。普通充電ケーブルを水洗いすると、充電時に火災や感電事故が発生し、 最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■長期間普通充電ケーブルを使用しな いとき

電源プラグをコンセントから抜いておいてください。電源プラグやコンセントにほこりがたまり、過熱や発火の原因となります。

また、普通充電ケーブルは水気がない 場所で保管してください。

普通充電コネクターの施 錠・解錠

普通充電中の充電コネクターの取りはずしや、第三者による充電ケーブルの持ち去りなどのいたずらなどを回避することができます。

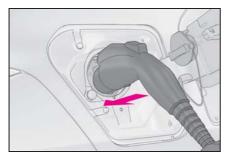
普通充電リッドを解錠するには

→P.69

普通充電コネクターを施錠・解 錠するには

■ 施錠するときは

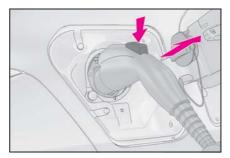
普通充電インレットに普通充電コネクターを挿し込むと、自動的に施錠されます。



■ 解錠するときは

車両のドアが解錠されると、普通充電コネクターが解錠されます。 →P.167

ロック解除ボタンを押して、レバー が上がることを確認してから普通充電コネクターを手前に引いてください。



■ 普通充電コネクターの施錠・解錠 方法を変更するには

マルチインフォメーションディスプレイの 画面で、普通充電コネクターの施錠・解錠方法を次のように変更することができます。

設定操作のしかたについては、 P.463 を参照してください。

車両に普通充電ケーブルが接続されていると、普通充電コネクターの施 錠・解錠の設定を変更できません。

設定	作動内容
オートロック(初期設定)	普通充電コネク ターを接続すると 自動で施錠される
オートロック&ア ンロック	普通充電コネクターを接続すると自動で施錠され、 充電終了後は自動的に解錠される※1,2
OFF	普通充電コネク ターのロックシス テムを使用しない

**1オートロック後に停電などで電源が遮断されると、普通充電コネクターが解錠されます。

**2オートロック(初期設定)と同様の操作で普通充電コネクターを解錠するこ

ともできます。

□知識

■普通充電コネクターの施錠機能について

- ●普通充電コネクターの抜き差しをくり返すと、普通充電コネクターのロックシステムがシステムを保護するために、一時的に作動しないことがあります。この場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。
- 普通充電コネクターの施錠機能は、普通充電ケーブルの盗難防止を保証するものではありません。また、すべてのいたずら行為に効果を発揮するものではありません。
- ●普通充電コネクターを解錠する際に、 ドアが解錠されている状態で、普通充 電コネクターが施錠されている場合は、 次の操作で解錠できます。
- ワイヤレスリモコンを使用する:解錠ボタンを押してドアを解錠する。(→P.167)
- スマートエントリー&スタートシステムを使用する:一度ドアを施錠してから再度解錠していただく必要があります。(→P.167)

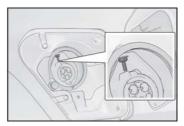
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約30秒以内に普通充電コネクターを取りはずさなかったときは、普通充電コネクターが再度、施錠されます。

■普通充電インレットに普通充電コネクターを挿し込めないとき

コネクターロックピンが下がっていないか確認してください。

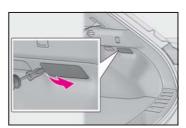
コネクターロックピンが下がっている場合は、ドアを解錠してコネクターロックを解錠し、コネクターロックピンが上がっている状態にしてください。



■普通充電コネクターを解錠できないと き

通常の操作で普通充電コネクターを解錠 できないときは、コネクターロック緊急 解除レバーを操作して、普通充電コネク ターを解錠することができます。

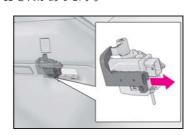
1 図に示すカバーを取りはずす



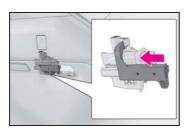
2 コネクターロック緊急解除レバーを矢 印の方向に動かす※

普通充電コネクターが解錠され、普通充電コネクターの取りはずしが可能になります。

※ 必ず矢印の方向に操作してください。 操作し始めた際に "カチッ" という 音がしても、緊急レバーが動かなくな るまで動かしてください。また、矢印 の向き以外に力をかけると、コネク ターロック緊急解除レバーが損傷する おそれがあります。



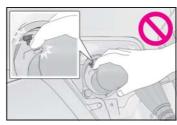
3 緊急解除レバー操作後は、"カチッ"という音がするまでリンクを元の位置に押し戻して下さい。



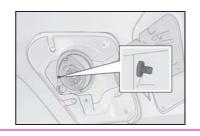
この方法は、緊急時の一時的な対処です。 異常が解消しない場合は、すみやかに レクサス販売店で点検を受けてください。 通常の操作で普通充電コネクターを解錠 できるときは、緊急解除レバーを操作し ないでください。

▲ 警告

- ■普通充電インレットに普通充電コネクターを接続するとき
- ●コネクターロック部に手を入れない でください。コネクターロックピン に挟まれ、けがをするおそれがあり 危険です。



● 充電リッドロック部にふれないよう にご注意ください。コネクターロッ ク作動時、充電リッドロックピンも 作動するため、手にあたり、けがを するおそれがあり危険です。



▲ 注意

■普通充電コネクターを施錠するとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、コネクターロックシステムの故障の原因となります。

●普通充電コネクターがこの車両に適合していることを確認する 異なるタイプの普通充電コネクターや、挿入部が破損・変形した普通充電コネクターなどは、施錠できない可能性があります。

●普通充電コネクターを施錠したあとは、普通充電コネクターに無理な力をかけない

普通充電コネクターを取りはずすと きは、必ずコネクターロックを解除 してください。

接続可能な外部電源について

この車両を充電するための外部電源は、ここで説明する要件を備えている必要があります。

充電作業を行う前に、あらかじめ 次の事項をご確認ください。

▲ 警告

■電気事故についての警告

車両の充電を行うときは、必ず本書に 記載されている注意事項をお守りくだ さい。

必要要件を満たしていない電源を使用したり、記載されている禁止事項を守らずに充電を行ったりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

□知識

■契約電力について

自宅の電源で充電する際は、契約電力※ をご確認ください。

充電するには、100V 換算での契約容量が必要となります(例えば 200V 電源で16A の場合、100V 換算で 32A となります)。必要な電力に応じた契約電力でないと、充電時にブレーカーが作動する場合があります。

※ 電力会社との電気契約の変更が必要に なる場合があります。電気契約に関す るご相談については、ご契約中の電力 会社にお問い合わせください。

■充電環境について

●必要な電力に対応した専用の普通充電器(スタンド)、または車両に搭載されている普通充電ケーブルを使用して、

充電を行ってください。

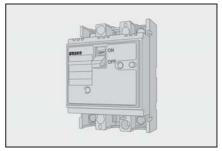
- ・200V 電源で30A に対応した充電器 (スタンド)を使用した場合、約6kW で充電されます。
- ・200V 電源で 16A に対応した普通充電器 (スタンド) または普通充電ケーブルを使用した場合、約 3kW で充電されます。
- ●自宅で普通充電器 (スタンド) を使用 して充電するには、普通充電器 (スタ ンド) の設置が必要です。普通充電器 (スタンド) の設置については、販売業 者にお問い合わせください。

電源について

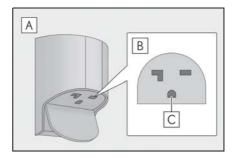
- 充電用コンセントには、必ず専用 回路を設置してください。
- 200V 電源で 16A (100V 換算で 32A) の電流が流れてもブレー カーが作動しない(電流が遮断されない) コンセントに接続してく ださい。※
- ※ 電力会社との電気契約の変更が必要となる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。
- ◆ 分岐回路内に専用の漏電遮断器が 設置されていることを確認してく ださい。

もし設置されていない場合は、必ず設置 した上で車両の充電を行ってくださ い。※

※ 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などに お問い合わせください。



● BEV 専用コンセントに接続してく ださい。



A BEV 専用コンセントの例

推奨コンセント型式:

パナソニック製 WK4322

B コンセント極配置 **

2 極 接地極(アース)付コンセント 20A 250V

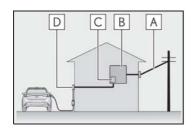
C 接地極 (アース)

※ 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

知識

■自宅の電源(コンセント)と普通充電 ケーブルを使用して充電するとき

より安全に充電を行うために、次のような充電設備を設置することをおすすめします。※



- A 電線
- B分電盤
- **C** 分岐専用回路内高速高感度形漏電遮断器

万一、漏電が発生したときに住宅全体が 停電する可能性を低減します。また、漏 電発生時における人体への影響を最小限 に抑えることができます。

D BEV 専用コンセント (→P.80)

BEV 専用コンセントは日々の使用に対する耐久性が確保されており、充電中に電源プラグがコンセントから脱落するのを防ぎます。

※ 手元スイッチを使うと、スイッチ操作でコンセントへの電気が遮断できるため、電源プラグの抜き挿しをより安全に行うことができます。

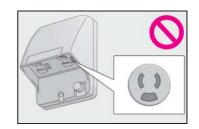
▲ 警告

■電源についての警告

充電時に使用する外部電源については、 必ず次のことをお守りください。 お守りいただかないと、思わぬ事故の 原因となり、最悪の場合死亡につなが るおそれがあります。

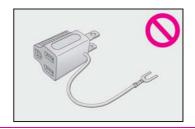
●安全のため、必ず接地極 (アース) 付きのコンセントに接続してください。

- ●必ずブレーカーおよび漏電遮断器が 設置されたコンセントを使用してく ださい。
 - ブレーカーがないと、ショートなど 異常時の過電流に対して安全を確保 できません。
- 抜止形のコンセントは耐久性が十分 ではない場合があるため、充電用コ ンセントとしては常用しないでくだ さい。



●コンセントと電源プラグは、必ず直接接続してください。

コンセントとのあいだに分岐アダプターを接続したり、変換アダプター などを接続したりしないでください。



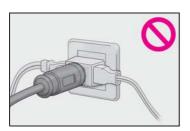
▲ 警告

●必ず車両に搭載されている普通充電 ケーブルで届く範囲のコンセントに 接続し、延長コードは使用しないで ください。

延長コードを使用すると、異常発熱 や漏電検知機能(→P.73)が働かな くなるなどの原因になります。



● 分岐用コンセントには接続しないで ください。



● 普通充電コネクターと普通充電イン レットは、必ず直接接続してください。

普通充電コネクターと普通充電イン レットとのあいだに、変換アダプ ターや延長コードなどを接続しない でください。

充電方法について

この車は、次の方法で駆動用電池 を充電することができます。

充電方法の種類

■ 普通充電 (→P.89)

AC コンセントと車両に付属している普通充電ケーブル、または普通充電器 (スタンド) などで行う充電方法です。

充電開始時刻(または出発時刻)・曜日を設定しておくことで、ご希望の日時にタイマー充電を行うことも可能です。 (→P.102)

■ 急速充電 (→P.97)

CHAdeMO(チャデモ)[※] 規格に準拠した急速充電器(スタンド)を使用して行う充電方法です。普通充電にくらべて短時間で駆動用電池を充電できます。

** CHAdeMO はチャデモ協議会が提案する商標名です。

■ V2H (→P.97)

車両と V2H 機器双方向に電源供給することを、「V2H(ヴィーツーエッチ)」といいます。

車両に急速充電コネクターを急速充電インレットに差し込むことで、双方向に電力を供給します。

V2H 機器から車両へ充電を行うことを「V2H 充電」、V2H 機器を経由して車両から自宅へ電源供給することを「V2H 給電」といいます。

このシステムを使用するには、V2H機器 ** が必要です。(車両には付属

していません)

V2H の詳細については、各 V2H 機器の取り扱い説明書などをご確認いただくか、V2H 機器の製造元へお問い合わせください。

※ 車両から自宅へ電力を供給するために、 車両から取り出した DC (直流)電力 を AC (交流)電力に変換する機器。

一般社団法人電動車両用電源供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2H DC 版に準拠したもの。

充電に連携する機能について

この車両には、充電に連携する各種 の機能が搭載されています。

■ マイルームモード (→P.116)

車両に普通充電ケーブルを接続した 状態のとき、外部電源からの電力 ** で、車両のエアコンやオーディオな どの電装品を使用できます。

※ 状況により、駆動用電池の電力が消費 される場合があります。

■ 駆動用電池ヒーター

外気温が低い場合、車両に充電ケーブルが接続されていると、駆動用電 池が一定以上の温度になるように、 自動で昇温します。

- 車両から充電ケーブルをはずす、 または充電ケーブルを接続したま ま、およそ3日が経過すると、シ ステムが自動で停止します。
- タイマー充電時(→P.102)は、 タイマー設定内容に応じて作動します。

■ 駆動用電池の温度調整システム

車両に充電ケーブルを接続したまま、およそ3日が経過すると、駆動用電池ヒーターが自動で停止し、システムが作動します。外気温が極めて低いとき、自動で駆動用電池を保護します。

- 車両に充電ケーブルを接続したまま、31 日が経過すると、システムが自動で停止します。
- システムが作動すると、タイマー 設定が無効になり、充電が開始されます。

■ 駆動用電池冷却

駆動用電池の温度が高いとき、車両 に普通充電ケーブルが接続されてい ると、充電前に駆動用電池を冷却し、 保護します。

高速道路で高い速度で連続運転するときや急速充電中・V2H 充電中などの場合には、作動することがあります。

□知識

■駆動用電池ヒーターについて

- ●充電中以外でも作動する場合があります
- ●駆動用電池ヒーターの作動中は、充電 インジケーターが点灯します。
- 充電中に駆動用電池ヒーターが作動すると、通常よりも充電時間が長くなる場合があります。
- ●駆動用電池ヒーターが作動すると、駆動用電池の残量が低下するため、駆動用電池の残量を補うために再度充電を行うことがあります。

■駆動用電池冷却について

●普通充電のみ:マルチインフォメー

- ションディスプレイで "駆動用電池冷却" の設定変更が可能。
- ■駆動用電池冷却の待機中、または作動中のときは、普通充電インジケーターが点灯します。
- ●駆動用電池冷却は、最大で約30分作動します。ただし、充電モード(→P.102)を "出発" に設定したときは、現在時刻から充電完了までの所要時間に十分な余裕がない場合、駆動用電池冷却の作動時間が短くなります。
- ■駆動用電池の残量が少ないときは、駆動用電池が高温であっても、駆動用電池冷却が作動しない場合があります。
- ●駆動用電池冷却の作動中に次の操作を 行うと、駆動用電池の冷却作動が停止 します。
- ボンネットを開けたとき
- ・パワースイッチを OFF 以外にしたとき
- シフトポジションを P 以外にしたとき
- リモートエアコンシステム (→P.341)を作動させたとき
- · "今すぐ充電" (→P.108, 115) を 実施したとき
- ・駆動用電池の残量が一定未満になったとき
- ■駆動用電池冷却は、駆動用電池と外部 電源からの電力を利用します。
- ・ 駆動用電池冷却の作動中は、駆動用電 池残量が一定の幅で増減し、通常普通 充電時のように駆動用電池残量が増加 しません。
- ・駆動用電池冷却の作動中も、普通充電器 (スタンド) からは充電中と認識されます。

よって、充電時間に応じて課金される 普通充電器 (スタンド) では、駆動用 電池冷却の作動中にも課金が発生しま す。

■駆動用電池冷却の設定を変更するには

- 1 メーター操作スイッチの < または▶ を押して を選択する
- 2 メーター操作スイッチの ▲ または▼ を押して "車両設定" を選択し、"OK" を押す
- 3 メーター操作スイッチの ▲ または▼ を押して "充電設定" を選択し、"OK" を押す
- 4 メーター操作スイッチの ▲ または▼ を押して " 電池冷却 " を選択し、 "OK" を押す
- **5** "On" または "Off" を押して "OK" を押す

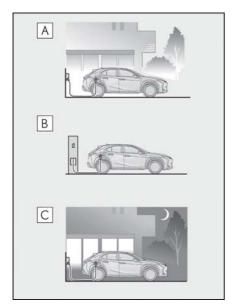
"Off" を選択すると、走行状況に応じて 駆動用電池の出力を制限される場合があ ります。

充電に関するアドバイス

この車両の充電機能を活用する方 法や、充電に関する情報の確認方 法などを説明しています。

上手に充電するには

出発前・ドライブ中など、電気自動 車の状況に応じて充電機能を使い分 けると便利です。



A お出かけの前に

電気自動車を使用するために、お出かけ の前には普通充電で駆動用電池を充電し ましょう。(→P.89)

タイマー充電機能 (→P.102) を使えば、ご希望の出発時刻に合わせて自動で充電が完了するように設定することができます。また、お出かけの時刻に合わせて、自動でエアコンを作動させ、あらかじめ車内を快適な状態にしておくことも可能です。

B ドライブの途中で

ドライブ中に駆動用電池の残量が少なくなったら、最寄りの充電設備で駆動用電池を充電しましょう。

C 帰宅したら

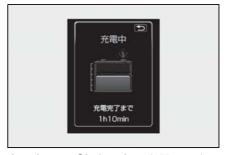
次回のドライブのために、駆動用電池を 充電しておきましょう。

充電スケジュールを登録しておけば、深夜・早朝などのご希望の時間に駆動用電池を充電できます。なお、タイマー充電は、毎日、またはご希望の曜日の同じ時刻に、自動で充電されるように設定することも可能です。(→P.102)

充電に関する情報を確認するに は

車両のマルチインフォメーション ディスプレイで、充電に関する各種 の情報を確認できます。

■ 充電中は



充電中にいずれかのドアを開けると、 現在の充電状態と充電完了までに必 要な時間の目安 ** が表示されます。

充電電流が小さくなり、充電時間が 長くなると、充電完了するまでの時間が表示されない場合があります。

※ V2H 充電中は、充電完了までに必要な時間の目安は表示されません。

■ 充電が終わったあとは

充電終了後、パワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、充電結果 についてのメッセージが表示されます。また、充電停止となる操作をしたときや、充電できない状況が発生した場合などには、メッセージが表示されます。

表示されたメッセージの指示に従って、 それぞれ必要な操作を行ってください。 (→P.126)

充電の前に知っておいてい ただきたいこと

車両に充電ケーブルを接続して充電を行う前に、必ず次の事項をご確認ください。

□知識

■充電電流について

普通充電の最大電流は30Aです。ただし、普通充電器(スタンド)の最大電流によっては、充電電流は30Aよりも小さくなることがあります。

■安全機能について

- ●車両に充電ケーブルが接続されている ときは、パワースイッチを操作しても EV システムを始動することはできません。
- READY インジケーターが点灯している ときに充電ケーブルを接続すると、EV システムは自動的に停止し、走行でき なくなります。
- ●車両に充電ケーブルが接続されている ときは、シフトポジションをP以外に 切りかえることはできません。

▲ 警告

■充電するときの警告

ペースメーカー(植込み型心臓ペースメーカー/植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ)装着のお客様は、充電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。

● 充電時は、普通充電器 (スタンド)、 急速充電器 (スタンド)・V2H 機器、 充電ケーブルに近付かないでください。充電により、ペースメーカーの 動作に影響を与えるおそれがあります。

- 充電中は車内にとどまらないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ●ものを取るときなどに、ラゲージ ルームなど含めた車内に入り込まな いでください。充電により、ペース メーカーの動作に影響を与えるおそ れがあります。
- ■車両に充電ケーブルが接続されているとき

シフトポジションを操作しないでください。

万一、充電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションが P からほかのシフトポジションに切り替わることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

充電に関する留意事項

この車は一般家庭用のACコンセントに接続して駆動用電池を充電できますが、一般的な電気製品と次の点が大きく異なるため、取り扱いを誤ると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 普通充電時は、長時間にわたって 大電流が流れる
- お客様の充電環境によっては、屋 外で充電作業を行う

充電作業は、本書で説明している内容をよくお読みいただいた上で、正 しい手順に沿って行ってください。

● お子さまなど、不慣れな方だけで 充電作業を行わないでください。また、普通充電ケーブルは幼児の 手の届かない場所で保管してくだ さい。

- 充電器(スタンド)・V2H 機器で 充電する場合は、機器の使用手順 に従って作業を行ってください。
- 公共の普通充電器 (スタンド) で 充電する場合は、タイマー充電の 設定状態を確認してください。
- 充電スケジュールが登録されているときは一時的に OFF にするか、"今すぐ充電"を ON にしてください。
 (→P.108, 115)
- ・ 充電スケジュールが ON になっている と、普通充電ケーブルを接続しても充 電が開始されません。また、充電が開 始しなくても、普通充電ケーブルを接 続したことで課金される場合がありま す。

普通充電・急速充電・V2H 充電/ V2H 給電前の重要確認事項

必ず次の点をご確認ください。

- パーキングブレーキが確実にか かっていること (→P.222)
- ヘッドランプ、非常点滅灯・室内 灯などのランプ類が消灯している こと

ランプ類が点灯していると、それらの機器に電力が消費され、充電時間が長くなります。また、V2H 給電の時間が短くなります。

パワースイッチがOFF になっていること (→P.212)

普通充電ケーブルの点検

充電の前に、普通充電ケーブル各部の状態に異常がないかご確認ください。(→P.74)

□知識

■普通充電・急速充電・V2H 充電について

普通充電と急速充電・V2H 充電を同時に 行うことはできません。2 つある充電イ ンレットの両方に充電ケーブルを接続し ても、いずれか一方のみで充電されます。

■駆動用電池の容量低下について

駆動用電池は使用していくうちに、徐々に電池容量が低下していきます。低下する割合は車の使い方、使用環境により異なります。電池容量の低下を抑えるために、次のことを心がけてください。

- ■満充電状態での高温炎天下での駐車は 極力避ける
- ●走行中にひんぱんな急加速、急減速を しない
- 最高車速付近での走行を控える
- 充電は走行開始前に満充電になるよう、 タイマー充電(→P.102)を活用する
- ひんぱんな急速充電・V2H 充電は避ける

なお、電池の容量が低下すると走行できる る距離が減少しますが、車両性能などが 著しく低下するものではありません。

■ 充電後に駆動用電池の残量が低下する とき

次の場合、システムの保護のために、充電完了後の駆動用電池の残量が通常よりも少なくなる (満充電後の走行可能距離が短くなる) ** ことがあります。

- ●気温が低い、または高い環境で充電したとき
- ●高負荷走行の直後、かつ炎天下で充電 したとき

上記に該当しないのに、充電完了後の駆動用電池残量が大幅に低下したときは、 レクサス販売店で点検を受けてください。 ※ この場合、駆動用電池の残量表示が満 充電になっていても、通常よりも早く 残量が低下します。

■駆動用電池への充電量が減少するとき

エアコンの使用、または駆動用電池ヒーターの作動等により駆動用電池への充電電力が小さくなった場合、駆動用電池への充電量もしくは駆動用電池残量が減少することがあります。

■充電時間が長くなるとき

次のような場合は、充電時間が通常より長くなることがあります。

- ●低温または高温の環境下にあるとき
- ●車両の電力消費量が大きいとき(ヘッドランプが点灯しているときなど)
- ●マイルームモードを使用しているとき
- ●充電中に停電したとき
- ●電源が切れたとき
- 外部電源の供給電圧が低下したとき
- ●車両を長期間放置したことなどにより、 補機バッテリーの充電量が低下したと き
- 車両の充電電流設定で充電電流上限を 変更したとき (→P.92)
- ■駆動用電池ヒーターが作動したとき
- 充電前に駆動用電池冷却 (→P.83) が 作動したとき
- ●接続先のコンセントなどに問題があるとき
- ■高負荷走行の直後などで駆動用電池の 温度が高いとき
- ●普通充電器 (スタンド)・急速充電器 (スタンド)・V2H 機器で供給電力を調整しているとき
- ●ひんぱんに急速充電・V2H 充電をくり 返したとき

■普通充電電力について

この車両は最大約 6kW の普通充電が可能です。

ただし、使用する普通充電器 (スタンド)、または普通充電ケーブルによっては、充電電力が制限される場合があります。

普通充電のしかた

ここでは、車両に付属の普通充電 ケーブルを使用して普通充電する 手順を説明しています。

充電設備を利用する際は、普通充電器 (スタンド) の取り扱い方法をご確認ください。

充電スケジュールが登録されているときは、"今すぐ充電" ϵ ON にしてから充電を実施してください。(\rightarrow P.108.115)

▲ 注意

■普通充電ケーブルや関連部品などを 取り扱うとき

普通充電ケーブルや充電関連部品など の損傷を防ぐため、取り扱いの際は次 のことをお守りください。

- 充電を中断・終了するときは、電源 プラグを抜く前に普通充電コネク ターを抜く
- ●普通充電ケーブルを抜くときは、普通充電コネクターが解錠されていることを確認する
- ●普通充電コネクターの保護キャップ・普通充電インレットキャップを 無理に引っ張らない
- 充電中に普通充電コネクターを揺するなど振動を与えない 充電を停止することがあります。
- ●普通充電インレットに普通充電コネクター以外のものを挿し込まない
- ●電源プラグをコンセントに抜き挿し するときは、必ず電源プラグ本体を 持って操作する
- ●普通充電インレットキャップを鋭利 なもので傷付けたりしない

⚠ 注意

- ●ケーブルが引っかかったり、絡んだ 状態から無理に引っ張らない 絡んだ場合は、ほどいてから使用し てください。
- ●普通充電インレットの改造や分解、 修理などは絶対にしないでください。 思わぬ故障や事故の原因になって、 重大な障害を受けるおそれがあり危 険です。修理については、レクサス 販売店にご相談ください。

充電前の重要確認事項

→P.86

充電するときは

- 1 普通充電ケーブルを用意する
- 2 普通充電ケーブルの電源プラグを 外部電源のコンセントに挿し込む

必ず電源プラグ本体を持つて、確実に奥 まで挿し込んでください。

手元スイッチがある場合は、スイッチを ON にしてください。

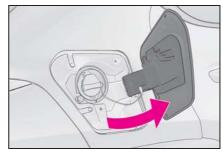
コントロールユニット上の電源インジ ケーターが点灯していることを確認して ください。(点灯していないときは、 P.119 を参照してください)

コンセントや電源プラグへの負荷を軽減 するために、電源プラグを挿していると きは、ひもなどを使って、コントロール ユニットをフック等に引っかけて使用し てください。

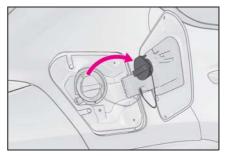
3 車両のドアを解錠して、普通充電 リッドを開ける(→P.167)

普诵充電リッド(車両の右側)を開ける と、普通充電インレット照明が点灯しま

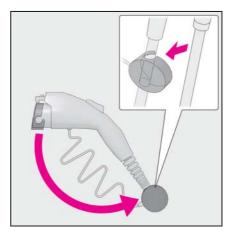
す。



4 普通充電インレットキャップをは ずし、充電リッド裏側のホルダー に固定する



5 普通充電コネクターの保護キャッ プをはずし、ケーブルにかけて固 定する

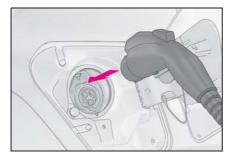


6 普通充電コネクターを普通充電イ ンレットに挿し込む

普通充電コネクターの下側にあるガイド の位置を合わせて、まっすぐにいっぱい まで挿し込みます。

"カチッ" という音がして、普通充電 コネクターが確実にロックされたことを 確認してください。

普通充電コネクターを挿し込むと、自動的に施錠されます。(→P.76)



7 普通充電ポートの充電インジケーターが点灯していることを確認する

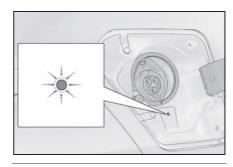
普通充電インジケーターが点灯していないときは、充電が開始されていません。 (→P.70)

普通充電インジケーターが通常の速さで 点滅しているときは、充電スケジュール が登録されています。(→P.102)

充電時にコントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅したときは、P.74の記載を確認し、対処してください。

充電が完了すると、充電インジケーター が消灯します。

充電完了前に何らかの理由により充電が 停止したときも、充電インジケーターが 消灯します。その場合は、P.119 の記載 をご確認ください。



□ 知識

■普通充電中は

- ●車両の状態により、充電が開始される までの時間が異なる場合がありますが、 異常ではありません。
- ■コントロールユニットの表面が温かく なることがありますが、異常ではあり ません。
- ●電波の状況によっては、ラジオに雑音が入ることがあります。
- ●普通充電中、ドアを開けると、マルチ インフォメーションディスプレイの画 面で、現在の充電状態や、充電完了ま での時間の目安を確認することができ ます。(→P.85)
- 充電中・充電完了後は、車載充電器が 搭載されているモータールーム周辺が 温かくなることがあります。
- ■普通充電ケーブルの接続後に普通充電 ポートの充電インジケーターが点滅し たとき

充電スケジュール (→P.102) が登録されている状態になっており、充電を開始することができません。タイマー充電をキャンセルして充電を開始したいときは、次のいずれかの操作を行ってください。

- "今すぐ充電"をONにする (→P.108, 115)
- ●普通充電インジケーターが通常の速さ

で点滅しているあいだに、接続した普通充電コネクターを取りはずして、すぐに接続し直す

■車を長期間使用しないとき

- →P.59
- ■普通充電インレットに普通充電コネクターを挿し込めないとき
- →P.77
- ■充電時間が長くなるとき
- →P.88

■安全機能について

普通充電コネクターを普通充電インレットに挿し込んだ状態でも、ロック解除ボタンを押しているあいだは、充電が開始されません。

なお、充電中に数秒程度ロック解除ボタンを押し続けると充電が中止されます。 充電を再開したいときは、いつたん普通 充電コネクターを抜いてから再度、普通 充電コネクターを挿し直して、普通充電 ポートの充電インジケーターが点灯する ことを確認してください。

■充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は

マルチインフォメーションディスプレイの"車両設定"で、普通充電時の充電電流の上限値を変更することができます。

- 1 メーター操作スイッチの < または▶ を押してを選択し、 "OK" を 押す
- 2 メーター操作スイッチの ▲ または▼ を押して "車両設定" を選択し、"OK" を押し続ける
- 3 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して "充電設定" を選択 し、"OK" を押す

- "充電設定" 画面が表示されます。
- **4** メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して "充電電流" を選択 し、"OK" を押す
 - "充電電流" 画面が表示されます。
- 5 メーター操作スイッチの ▲ またはを押して "16A" または "8A" を選択し、"OK" を押す

充電時の最大電流が選択した電流以下に 制限されます。※

充電電流の上限値を変更しても、充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は、接続した電源が充電に必要な要件を満たしているか確認してください。(→P.80)

※ 充電電流を制限すると、充電完了まで の時間は長くなります。

■充電量上限設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイの "車両設定"で、充電時の充電量の上限を変更することができます。

充電量上限で設定した値は普通充電、急速充電・V2H充電共通です。

- 1 メーター操作スイッチの < または▶ を押してを選択し、 "OK" を押す
- 2 メーター操作スイッチの ★または★を押して "車両設定" を選択し、 "OK" を押し続ける
- 3 メーター操作スイッチの ▲ または▼ を押して "充電設定" を選択し、 "OK" を押す
 - "充電設定" 画面が表示されます。

- 4 メーター操作スイッチの ▲ または
 - ▼ を押して "充電量上限" を選択 し、"OK" を押す
 - "充電電流" 画面が表示されます。
- 5 メーター操作スイッチの ▲ または
 - ▼を押して "Full / 90%" または "90%" を選択し、 "OK" を押す

"90%" を選択すると、充電量が90% を超えないように充電されます。

急速充電中・V2H 充電中に変更した場合、 充電器(スタンド)のタイムアウトによ り、満充電せずに途中で停止することが あります。

▲ 警告

■充電するときの警告

充電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、 思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●必ず充電に必要な要件を満たす電源 に接続する(→P.79)
- ●充電前に普通充電ケーブル・電源プラグ・コンセントに変形・破損・水分・腐食・ほこり等の異物がないことを確認する
- 充電前に普通充電インレットに変形・破損・腐食・ほこり等の異物がないか、または雪・氷が付着していないことを確認する付着している場合は、普通充電コネクターを接続する前にしつかりと取
- ●普通充電インレットの端子部がぬれないようにする

り除いてください。

●挿し込みがゆるくなったコンセント は使用しない

- ●過熱するおそれがあるため、普通充電ケーブルを束ねたり巻いたりした状態で充電しない
- ●普通充電コネクター・普通充電イン レットの端子に金属製の鋭利なもの (針金など)でふれたり、手でふれた り、異物でショートさせたりしない
- ●屋外では必ず防雨形コンセントを使用する 防雨スイッチプレートを確実に閉めてください。閉まらない場合は、新しいプレートに交換してください。
- ●充電を中断するときは、普通充電器 (スタンド)の取り扱い方法に従う
- 充電中に発熱・発煙・異臭・異音などを発見したときは、ただちに充電を中止する
- ■コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグは挿さない
- ●雨や雪の中で充電を行うときは、ぬれた手で電源プラグの抜き挿しを行わない。また、コンセントや電源プラグをぬらさない
- ●落雷の可能性がある天候のときは充電を行わない
- ●普通充電ケーブルをドアやバックドアで挟まない
- ●普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットを車両で踏まない
- ●電源プラグはコンセントにいっぱいまで挿し込む
- ●延長コード・変換アダプターを使用 しない

▲ 警告

- ●普通充電システムを使用するときは、ボンネットを閉める 冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなど回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣(特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど)が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●普通充電ケーブルの接続後、どこかに巻き付いていないか確認する

■普通充電コネクターを接続するとき

普通充電器(スタンド)の取り扱い方法に従って普通充電コネクターを接続してください。普通充電コネクターが正しく接続されていない場合、システムがコネクターの接続を認識できず、EVシステムを始動できてしまうことがあります。充電完了後、EVシステムを始動する前に、必ず普通充電コネクターを車両の普通充電インレコネクターを車両のが接続されたままの車両を発進させると、思わぬ事故の原因となります。場際におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■充電時にコントロールユニット上の エラーインジケーターが点灯・点滅 したときは

電源経路に漏電が発生しているか、普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常がある可能性があります。P.74の記載内容を確認し、対処してください。対処してもエラーインジケーターが消灯しない場合は、ただちに充電を中止し、普通充電ケーブルを取りはずして、レクサス販売店にご連絡ください。そのまま充電を続けると、思わぬ事故の発生や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

■車載充電器について

モータールームに充電器があります。 充電器については、次のことを必ずお 守りください。お守りいただかないと、 やけどや感電など重大な傷害におよぶ か、最悪の場合死亡につながるおそれ があります。

- ●充電時は高温になります。やけどを するおそれがあるため、ふれないで ください。
- ●分解・修理・改造しないでください。 修理が必要な場合は、必ずレクサス 販売店にご相談ください。

1 注意

■充電時の注意

普通充電インレットに電源プラグを挿 し込まないでください。

普通充電インレットが故障するおそれがあります。

■自家用発電機の使用について

充電用電源に自家用発電機は使用しないでください。

安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、普通充電ケーブルのコントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅したりするおそれがあります。

■駆動用電池の充電について

普通充電時、供給する電源が小さい、 駆動用電池ヒーターもしくは他の電流 の大きい機能を作動する場合、走行可 能な距離は一時的に減る可能性があり ます。

⚠ 注意

■充電設備について

電力設備などが併設された環境では、 ノイズにより安定した充電ができな かったり、電圧が足りず、普通充電 ケーブルのコントロールユニット上の エラーインジケーターが点滅したりす るおそれがあります。

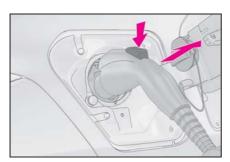
充電したあとは

1 車両のドアを解錠して、普通充電 コネクターを解錠する $(\rightarrow P.167)$

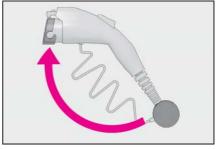
ドアを解錠すると、普通充電コネクター も解錠され、普通充電インレット照明が 点灯します。

2 ロック解除ボタンを押しながら手 前に引いて、普通充電コネクター を取りはずす

普通充電中(充電インジケーター点灯中) にロック解除ボタンを押すと、充電が停 止されます。

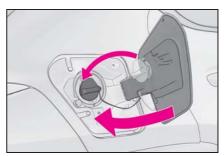


3 普通充電コネクターの保護キャッ プを取り付ける



4 普通充電インレットキャップをは め、普通充電リッドを閉める

キャップとインレットト部の水平部位置 を合わせて、まつすぐはめてください。



5 長期間使用しないときは、コンセ ントから電源プラグを抜く

必ず電源プラグ本体を持って抜いてくだ さい。

取りはずした普通充電ケーブルは、すみ やかに片付けてください。(→P.96)

電源プラグを挿したままにするときは、 1ヶ月に1回は電源プラグに汚れやほこ りがないか点検してください。

知識

■普通充電時の充電時間について

普通充電は、急速充電にくらべて駆動用 電池への負荷が少ないため、駆動用電池 を長持ちさせることができます。

■周囲の温度が低温または高温のとき

充電が完了して駆動用電池残量計 (→P.147) が満充電の状態になっていて も、パワースイッチを ON にすると残量 表示がわずかに低下することがあります が、異常ではありません。

■普通充電コネクターをはずすとき

ロック解除ボタンを押して、レバーが上 がることを確認してから普通充電コネク ターを手前に引いてください。

ロック解除ボタンを押してもレバーが上がらないときは、普通充電コネクターが施錠されています。その場合は、ドアの解錠操作をし、普通充電コネクターを解錠してください。(→P.76)

▲ 警告

■充電後の警告

長期間使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。電源プラグやコンセントにほこり等の汚れがたまると、故障や火災などが発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■充電後の注意

- ●普通充電ケーブルは幼児やお子さま の手の届かない場所で保管してくだ さい。
- ●普通充電インレットから普通充電コネクターを取りはずしたあとは、必ず普通充電インレットキャップをはめ、充電リッドを閉めてください。普通充電インレットキャップをはずしたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。

●コンセントから電源プラグを取りはずしたあとは、普通充電ケーブルをほこりや水などがかからない安全な場所に保管してください。

普通充電ケーブルを足や車両で踏んだりすると、普通充電ケーブルや電源プラグが損傷する原因となります。

急速充電・V2H 充電/ V2H 給電のしかた

急速充電および V2H 充電/ V2H 給電をするときは、次の手順に 従ってください。また、急速充電器(スタンド) および V2H 機器 は種類によって操作方法が異なる ため、急速充電器(スタンド) お よび V2H 機器の取り扱い方法を 必ずご確認ください。

▲ 警告

■急速充電器 (スタンド)・V2H 機器 を使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の 原因となり、重大な傷害におよぶか、 最悪の場合死亡につながるおそれがあ ります。

- CHAdeMO 規格に準拠した急速充電器(スタンド)を使用してください。
- ●30m をこえるケーブルを使用しないでください。
- ●電動自動車用充放電システムガイド ライン V2HDC 版に準拠した V2H 機 器を使用してください。

急速充電前・V2H 充電/ V2H 給電前の重要確認事項

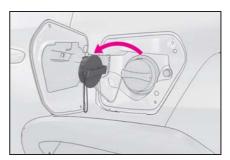
→P.86

急速充電・V2H 充電/ V2H 給電するときは

 車両のドアを解錠して、急速充電 リッドを開ける(→P.167) 2 急速充電リッド(車両の左側)を 開けると、急速充電インレット照 明が点灯します。



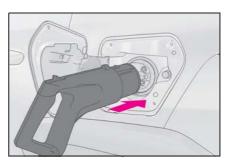
3 急速充電インレットキャップをはずし、図のように固定する



4 急速充電コネクターを急速充電インレットに挿し込む

急速充電コネクターの形状や取り扱い方法などは、急速充電器(スタンド)・ V2H機器のタイプにより異なります。

急速充電器 (スタンド)・V2H 機器の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。



5 急速充電器 (スタンド) · V2H 機 器を操作して充電を開始する

具体的な開始方法については、急速充電器(スタンド)・V2H機器の取り扱い方法に従ってください。

システムチェックが実施されたあと、急速充電・V2H 充電/V2H 給電が開始されます。

急速充電・V2H 充電/ V2H 給電を中断 したいときは、急速充電器(スタンド)・ V2H 機器の取り扱い方法に従って、停止 してください。

□ 知識

■充電時間が長くなるとき

→P.88

■急速充電器 (スタンド)・V2H 機器に 車両異常があるようなメッセージが表 示されたとき

急速充電器 (スタンド)・V2H 機器に車両異常があるようなメッセージ (例えば、"車両に異常がみつかりました"、"車両故障発生" など) が表示されても、車両の異常ではなく、急速充電器 (スタンド)・V2H 機器と車両間の通信異常である可能性があります。

この場合、急速充電コネクター端子故障 (接点不良) などが考えられます。

車両に異常がない場合は、急速充電器 (スタンド) の管理者に連絡するか、V2H 機器に付属の取り扱い説明書を確認して ください。

■急速充電器 (スタンド) 機器に表示される充電時間について

急速充電器 (スタンド) 機器によっては 実際の充電時間より多めの充電時間が表 示されることがありますが、故障ではあ りません。

■急速充電・V2H 充電/ V2H 給電中は

- ●マルチインフォメーションディスプレイで、現在の充電状態を確認することができます。ただし、V2H 充電中の充電時間は表示されません。
- ●急速充電器 (スタンド) での充電中、 急速充電器 (スタンド) に表示される 充電時間と、実際の充電時間とは異な る場合があります。
- ●急速充電・V2H 充電/ V2H 給電中は、 ノイズの発生によりラジオが聞こえな くなる場合があります。
- ■満充電に近づくと充電速度が低下して、 充電完了までの時間が長くなります。
- ●駆動用電池の残量・外気温・充電器 (スタンド)の仕様などの条件により、 充電完了までの時間が変化する、また は充電量上限まで到達する前に充電が 停止する場合があります。
- ■駆動用電池の容量の低下を防ぐため、 ひんぱんな急速充電は避けることをお すすめします。
- ●急速充電が終了したあとは、ほかの利用者のため、すみやかに急速充電スペースから移動してください。
- ●V2H 充電/ V2H 給電中は、マイルームモードを使用できません。

■停雷時の V2H 機器の利用について

V2H 機器の中には、停電時に機器起動のため、車両から電源供給を必要とするものもあります。その場合、DC 外部給電システム (→P.133) を使うことにより、車両の補機バッテリーから機器起動のための電力を供給することで、停電時にも電源供給を行うことができます。

停電時の V2H 機器の利用については、 V2H 機器に付属の取り扱い説明書を確認 してください。

■充電量上限設定のしかた

→P.92

■急速充電後・V2H 充電/ V2H 給電後、 マルチインフォメーションディスプレ イに "充電システム 確認のため 充電 リッドを閉めてください 取扱書を確認 " が表示されたとき

急速充電後・V2H 充電/ V2H 給電後のシステムチェックが正常に終了しなかった場合は、ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押しても、EV システムを始動できなくなります。

急速充電後・V2H 充電/ V2H 給電後に EV システムを始動できなくなったときは 次の手順でシステムのチェックを実施してください。

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、パワースイッチを OFF にする
- 2 急速充電インレットキャップをはめ、 充電リッドを閉める
- 3 パワースイッチを ON にする

マルチインフォメーションディスプレイ に "充電システム確認中" が表示され たことを確認してください。

システムのチェック中は、充電リッドを 開けないでください。

システムチェックが終了すると、パワー スイッチが自動で OFF になります。

4 ブレーキペダルを踏みながらパワース イッチを押し、READY インジケー ターが点灯することを確認する

システムのチェックを実施しても EV システムを始動できない場合は、レクサス 販売店にご連絡ください。

▲ 警告

■急速充電・V2H 充電/ V2H 給電す るときの警告

急速充電・V2H 充電/ V2H 給電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●急速充電器(スタンド)・V2H 機器・ 急速充電インレットに破損箇所がな いか確認する

急速充電インレットに破損箇所がある場合は絶対に急速充電・V2H充電/ V2H 給電を行わず、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

- ●急速充電コネクター・急速充電イン レットの端子に手をふれたり、異物 でショートさせたりしない
- ●急速充電インレットに急速充電コネクター以外のものを挿し込まない
- ●急速充電コネクター・急速充電イン レットの端子に、金属製の鋭利なも の(針金や針など)でふれない
- ◆ケーブルが折れ曲がったり、重いものの下敷きになったりしていないことを確認する
- ●急速充電コネクターと急速充電イン レットは、必ず直接接続する

急速充電コネクターと急速充電イン レットとのあいだに、変換アダプター や延長コードなどを接続しないでくだ さい。

▲ 警告

●急速充電・V2H 充電/ V2H 給電を 中断するときは、急速充電器(スタ ンド)・V2H 機器の取り扱い方法に 従う

急速充電中・V2H 充電/V2H 給電中 に発熱・発煙・異音・異臭などを発見 したときは、ただちに急速充電・V2H 充電/V2H 給電を中止してください。

●急速充電コネクター・急速充電インレットに異物がないか、または、 雪・氷が付着していないか確認する

付着している場合は、急速充電コネクターを接続する前にしつかりと取り除いてください。

●落雷の可能性がある天候のときは急速充電・V2H 充電/V2H 給電を行わない

急速充電中・V2H 充電/V2H 給電中、 雷に気付いたときは、車両およびケー ブルにさわらないでください。

- ●急速充電インレットの端子部が濡れないようにする
- ●急速充電システムまたは V2H 充電/ V2H 給電システムを使用するとき は、ボンネットを閉める

冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなど回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣(特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど)が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■急速充電コネクターを接続するとき

急速充電器(スタンド)・V2H 機器の取り扱い方法に従って急速充電コネクターを接続してください。急速充電コネクターが正しく接続されていながコネクターの接続を認識できず、EVシステムを始動できず、EVシステムを始動できず、EVシステムを始動する前に、必ず急速充電ーン2H 給電完了後、EVシステムを始動する前に、必ず急速元でリンコスネクターを車両の急速充電インレコスネクターを車両の急速充電インレコスクシーが接続されたままの車両を発進すと、思わぬ事故の原因となります。といるおきないあります。

⚠ 注意

■急速充電・V2H 充電/ V2H 給電す るとき

必ず急速充電器(スタンド)・V2H機器の取り扱い方法に従って、急速充電・V2H充電/V2H給電を行ってください。誤った取り扱いをすると、車両や急速充電器(スタンド)・V2H機器などを損傷するおそれがあります。

急速充電・V2H 充電/ V2H 給電したあとは

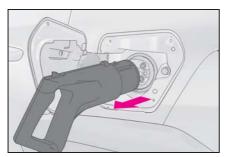
- 1 急速充電器 (スタンド)・V2H 機器を操作して充電を停止する
- 2 急速充電コネクターを取りはずす

急速充電コネクターの形状や取り扱い方法などは、急速充電器(スタンド)・ V2H機器のタイプにより異なります。

急速充電器 (スタンド)・V2H 機器の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。

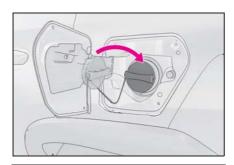
取りはずした急速充電コネクターは、も

との位置にもどしてください。



3 急速充電インレットキャップをは め、急速充電リッドを閉める

キャップとインレット上部の水平部位置を合わせて、まっすぐはめてください。



知識

■急速充電コネクターを解錠できないと き

●急速充電コネクターは、急速充電器 (スタンド)・V2H 機器により施錠して います。

車両のコネクターロック緊急解除レバー で操作を行っても解錠はできません。

- ●急速充電中・V2H 充電/ V2H 給電中は急速充電コネクターをはずすことはできません。はずす必要があるときは急速充電・V2H 充電/ V2H 給電を中止してください。急速充電・V2H 充電/ V2H 給電が停止すると急速充電コネクターをはずすことができます。
- 急速充電・V2H 充電/ V2H 給電が停

止しても急速充電コネクターが抜けない場合、急速充電器(スタンド)・V2H 機器に異常がある可能性があります。 設備の管理者にご連絡ください。

■急速充電・V2H 充電をしたあと

充電量上限で設定した値まで充電しても、 急速充電器(スタンド)・V2H 機器に表 示される充電量が実際の充電量より低く 表示されることがあります。

▲ 注意

■急速充電後・V2H 充電/ V2H 給電 後の注意

急速充電インレットから急速充電コネクターを取りはずしたあとは、必ず急速充電インレットキャップを急速充電インレットにはめて、急速充電リッドを閉めてください。

急速充電インレットキャップをはずしたまま放置すると、急速充電インレットに異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。

タイマー充電機能を使う (普通充電)

充電スケジュールを登録しておくことで、ご希望の時刻に普通充電を実施することができます。また、出発する時刻に合わせて充電が完了するようにしたり、特定の曜日の同じ時刻に充電を実施したりするなど、お好みに合わせたタイマー設定が可能です。

□ 知識

■カレンダー設定について

現在の日時の情報は、GPS を利用して自動で設定されますが、センターディスプレイの設定で、時計の GPS 補正を OFFにした場合は、マルチインフォメーションディスプレイで日付の設定を行う必要があります。(→P.152)

GPS について詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

充電スケジュールを登録しようとしたときに、カレンダー設定の確認画面が表示された場合は正しい日付になっているか確認し、誤っている場合は必ず修正してください。

カレンダーの内容が誤っていると、タイマー充電機能が正しく作動しなくなります。

タイマー設定でできること

充電スケジュールの登録時には、次の各機能の設定が可能です。

■ 充電モードの選択

次の2種類から充電モードを選択できます。

▶開始

設定した時刻 ^{※1,2} に普通充電が開始され、満充電になると充電が終了します。

夜間電力 ^{※3} を利用して普通充電する場合などに便利です。

▶出発

設定した時刻までに普通充電が完了 するように、充電が実施されま す。^{※4,5}

この設定を選択したときは、エアコン連動機能が利用可能になります。

- ※1駆動用電池の状態により、普通充電が 開始される時刻に誤差が生じる場合が あります。
- **²タイマー充電は、マルチインフォメーションディスプレイに表示される時刻に従って実行されます。
- ※3夜間電力の料金設定は、電力会社との 契約内容により異なります。詳しく は、各電力会社にご確認ください。
- ※4車両のシステムにより、設定した出発 時刻までに充電が完了できないと判断 された場合は、すぐに充電が開始され ます。その際は、充電スケジュールを 確認してください。
- **5普通充電中に急激な気温変化が発生したり、電源の状況に変化が生じたりした場合は、システムの予測どおりに充電が完了しない場合があります。

■ 繰り返し設定

ご希望の曜日を選択することで、繰り返しタイマー充電が行われるように設定できます。(曜日を選択しない場合は、1回のみ充電が実施されます)

■ エアコン連動設定

充電モードを "出発" に設定した ときは、設定した時刻に合わせて、 車両のエアコンが自動で作動 ** する ように設定できます。

お出かけに合わせて、あらかじめ車内を 空調しておくことで、乗車直後から快適 にお車をご使用いただけます。

※ 出発設定時刻の約 20 分前から作動を 開始します。

■ " 今すぐ充電 " の ON / OFF

充電スケジュールがひとつでも登録されていると、車両に普通充電ケーブルを接続しても、タイマー充電の設定時刻まで普通充電が開始された。充電スケジュールの登録内たいときは、"今すぐ充電"をONにすることで、充電スケジュールがであることで、充電スケジュールがに対したができます※。

※ 充電スケジュールが登録されており、 かつ今すぐ充電が ON の時に普通充電 コネクターを取り外した場合、今すぐ 充電が OFF になります。

■ "次回充電予定"^{※1}の変更^{※2}

登録済みの繰り返し設定の内容を変更せずに **3、次回の充電予定のみを一時的に変更することができます。

- **1登録済みの充電スケジュールのうち、 現在時刻から最も近い充電スケジュールを "次回充電予定" と呼びます。 タイマー充電は、"次回充電予定" の設定に従い、普通充電を実施します。
- **²マルチインフォメーションディスプレイで "次回充電予定" を変更するこ

とができます。

※3 "次回充電予定" を変更すると、 "次回充電予定" として登録されたタイマー充電が実施されるまでの期間の充電スケジュールは、一時的に無効になります。(例えば、次回充電予定を2日後に設定した場合、それまでの期間に充電スケジュールが登録されていても、次回充電予定として設定された時刻までは、タイマー充電が実施されなくなります)

知識

■タイマー設定について

充電スケジュールは、最大で 15 件まで 登録できます。

■タイマー充電機能について

タイマー充電機能は、急速充電時・V2H 充電時には使用できません。

■タイマー充電機能を正しく作動させる ために

次のことをご確認ください。

- ●車両の時計の時刻がずれていないこと
- ●カレンダーが正しい年月日に設定されていること (→P.152)
- ●パワースイッチが OFF になっているこ と
- ●充電スケジュールの登録後に普通充電ケーブルを接続すること普通充電ケーブルを接続した時点の充電スケジュールを基に、充電の開始時刻が決定されます。
- ●普通充電ケーブルの接続後、普通充電ポートの充電インジケーターが点滅することを確認する(→P.70)
- ■電力遮断機能(タイマー機能を含む) を持つコンセントで使用しない 常に電力が供給されているコンセント を使用してください。タイマー機能な

どで電力が遮断されるコンセントでは、 設定されている時間帯に電力が遮断されるため、意図どおりに充電が行われない場合があります。

●時計の GPS 補正設定が ON になっていること。

GPS 信号を受信できない場所で時刻を変更した場合、一度 GPS 信号を受信できる場所で GPS 補正を ON に設定してください。

GPS について詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■充電スケジュールに関係なく充電する とき

充電スケジュール待機中、一時的にキャンセルする操作を行うと、充電スケジュールがキャンセルされ、充電を開始します。

■普通充電ケーブルが車両に接続された ままの状態のとき

連続する複数の充電スケジュールが登録されていても、充電完了後に普通充電ケーブルを取りはずして再接続するまで、次のタイマー充電は実施されません。また、駆動用電池が満充電のときは、タイマー充電は実施されません。

■エアコン連動設定について

- ●エアコン連動設定を ON にすると、設定 した出発時刻までエアコンが作動する ため、エアコンの電力消費量によって は、設定時刻になっても充電が終了し ていない場合があります。
- ●駆動用電池が満充電の場合、充電スケジュールが登録されていても充電は実施されませんが、エアコン連動が ON の場合は、"出発" に設定した時刻に近付くとエアコンのみが 1 回だけ作動します。その場合、エアコンの電力消費によって、出発時に駆動用電池の残量が低下していることがあります。

■エアコン連動を作動するには、ドアが 施錠されている必要があります。

■スマートフォンとの連携について

G-Link サービスご契約のお客様は、スマートフォンアプリで、次回充電予定の変更を行うことができます。 詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■タイマー設定が無効になるとき

タイマー充電の待機中に次の操作を行ったときは、タイマー充電を一時的にキャンセルして、充電を開始します。

- リモートエアコンシステム (→P.341)を作動させたとき
- ●マイルームモード (→P.116) を開始 したとき
- "今すぐ充電"をONにしたとき (→P.108, 115)
- ●タイマー充電を一時的にキャンセルする操作を行ったとき (→P.91)

■外気温の影響について

充電モードを "出発" に設定したとき は、外気温の影響によりタイマー設定が 無効になり、充電が開始される場合があります。

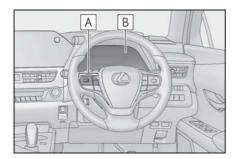
■駆動用電池冷却(→P.83) について

タイマー充電時、駆動用電池の温度に よっては駆動用電池冷却機能が作動する 場合があります。

- ●充電モードを "開始" に設定したとき は、充電開始時刻に作動します。
- ●充電モードを "出発" に設定したときは、システムが算出した充電開始時刻の約30分前に作動します。ただし、現在時刻から充電完了時刻までに十分な余裕がないタイマー設定のときは、駆動用電池冷却時間が短くなったり、駆動用電池冷却が作動しなかったりする場合があります。

マルチインフォメーションディ スプレイでの設定操作

タイマー設定操作を行うときは、 メーター操作スイッチを使用します。



- ▲ メーター操作スイッチ (→P.150)
- **B** マルチインフォメーションディス プレイ
- 充電スケジュールを登録するには
- 1 メーター操作スイッチの < または ➤ を押して を選択する
- 2 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して "車両設定" を 選択し、"OK" を押す
- 3 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して "充電設定" を 選択し、"OK" を押す
 - "充電設定" 画面が表示されます。
- 4 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して "タイマー充電" を選択し、"OK" を押す

"タイマー充電" 画面が表示されます。



5 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して、"充電スケジュール"を選択し、"OK"を押す

"充電スケジュール" 画面が表示され ます。



6 "追加"を選択し、"OK"を 押す

"充電モード" 画面が表示されます。



- 7 メーター操作スイッチの <または ➤ を押して変更する項目にカーソルを合わせ、 ▲ または
 - ▼ を押して設定を変更する

ご希望の充電モード、および充電開始 (または出発) 時刻を設定します。

充電モードが "開始" のときは普通充電を開始する時刻を、"出発" のときは普通充電を完了させておきたい時刻を設定します。

ご希望の設定に変更したら、"OK"を押します。

充電モードを "出発" に設定したとき は "エアコン連動" 画面が表示され、 "開始" に設定したときは "繰り返し" 画面(手順9) が表示されます。



8 エアコンを作動させる場合は、メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して "はい" を選択し、"OK" を押します。

"繰り返し" 画面が表示されます。



- 9 繰り返し設定を有効にしたいときは、メーター操作スイッチの
 - ★または▼を押して、繰り返し 設定を有効にしたい曜日を選択 し、"OK"を押す

"OK" を押すたびに、繰り返し設定の ON / OFF が切りかわります。

設定をONにすると、選択した曜日にタイマー充電が繰り返し実施されます。複数の曜日に対して、繰り返し設定をONにすることも可能です。

いずれの曜日も ON に設定していない場合は、現在時刻から 24 時間以内の設定時刻に、一度だけタイマー充電が実施されます。

ご希望の設定に変更したら、"完了" を選択し、"OK"を押す

設定の保存を確認する画面が表示されます。



10設定を保存するには、"保存" を選択し、"OK"を押す

設定した内容が保存されます。

設定内容を変更したい場合は**、**を押して設定操作をやり直します。

設定の終了後、車両に普通充電ケーブル を接続すると、設定内容に従ってタイマー充電が実施されます。



■ 充電スケジュールの登録内容を変 更するには

登録済み充電スケジュールの登録内容を変更したり、削除したりすることができます。

- 1 メーター操作スイッチの < または ➤ を押して を選択する
- 2 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して "車両設定" を 選択し、"OK" を押す
- 3 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して "充電設定" を 選択し、"OK" を押す

"充電設定" 画面が表示されます。

4 メーター操作スイッチの ↑ または ▼ を押して "タイマー充電" を選択し、"OK" を押す

"タイマー充電" 画面が表示されます。



5 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して、 " 充電スケ ジュール " を選択し、 "OK" を押す

"充電スケジュール" 画面を表示する 登録済みの充電スケジュールが一覧表示 されます。



6 メーター操作スイッチの ▲ また は ▼ を押して、内容を変更した い設定の行を選択し、"OK"を 押し続ける

"スケジュール変更" 画面が表示され ます。



7 メーター操作スイッチの ▲ また は▼を押して操作したい項目を 選択し、"OK"を押して、それ ぞれ必要な操作を行う



● ON / OFF 切替え

"充電スケジュール" 画面で、メー ター操作スイッチの "OK" を押すたび に、選択した充電スケジュールの ON / OFF が切りかわります。

OFF に設定すると充電スケジュールが無 効になり、タイマー充電が実施されなく なります。

スイッチを押すと、設定が終了しま す。

● 変更

"充雷スケジュールを登録するには" (→P.105) の手順 6 以降の操作要領で、 ご希望の設定内容に変更します。

を押すと、前の画面にもどります。



●削除

削除を確認する画面が表示されます。

メーター操作スイッチの ^ または * を 押して"はい"を選択し、"OK"を 押すと、選択した充電スケジュールが削 除されます。

登録内容の削除を中止するときは、"い いえ"を選択して"OK"を押します。

を押すと、前の画面にもどります。



■ "今すぐ充電"をONにするには 次の2つのうち、いずれかの方法で "今すぐ充電"の設定を変更でき ます。

- ▶ "タイマー充電" 画面での操作
- 1 メーター操作スイッチの < または ➤ を押して を選択する
- 2 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して "車両設定" を 選択し、"OK" を押す
- 3 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して "充電設定" を 選択し、"OK" を押す
 - "充電設定" 画面が表示されます。
- 4 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して "タイマー充電" を選択し、"OK" を押す
 - "タイマー充電" 画面が表示されます。
- 5 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して、"今すぐ充電"を選択し、"OK"を押す

"OK" を押すたびに、"今すぐ充電"の ON \angle OFF が切りかわります。



- ▶ エンディング画面での操作
- 1 パワースイッチを OFF にする マルチインフォメーションディスプレイ にエンディング画面が表示されます。

2 "OK"を押して、"今すぐ充電"を ON にする

"OK" を押すたびに、 " 今すぐ充電 " の ON / OFF が切りかわります。



設定の終了後、車両に普通充電ケーブルを接続すると、普通充電が開始されます。(→P.89)

- "次回充電予定"を変更するには ※
- ※ "今すぐ充電"をONにしたときや、マイルームモード(→P.116)の使用中などは、次回充電予定の登録内容を変更できません。
- 1 メーター操作スイッチの < または > を押して を選択する
- 2 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して "車両設定" を 選択し、"OK" を押す
- 3 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して "充電設定" を 選択し、"OK" を押す
 - "充電設定" 画面が表示されます。
- 4 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して "タイマー充電" を選択し、"OK" を押す
 - "タイマー充電" 画面が表示されます。

は * を押して、"次回充電予定 " を選択し、"OK" を押す

"次回充電予定" 画面が表示されます。



6 メーター操作スイッチの ▲ また は * を押して "はい" を選択 し、 "OK" を押す

変更の確認画面が表示されます。

"OK"を押すと、"充電モード"画面 が表示されます。

を押すと、前の画面にもどります。



7 メーター操作スイッチの ▲ また は ▼ を押して、 "OK" を選択 し、 "OK" を押す

"充電モード" 画面が表示されます。



8 メーター操作スイッチの <また は > を押して変更する項目に カーソルを合わせ、 または を押す

次の表に従って、登録内容を変更します。



設定項目	操作
充電モード・時 刻	メーター操作スイッチ の ▲ または ▼:

設定項目	操作
及之次口	321411
エアコン連動	充電モードが "出発" のときに設定できます。エアコンを作動させる場合は、メーター
	操作スイッチの 🔺 ま
	たは : を押して " はい"を選択 し、"OK"を押しま す。
曜日	メーター操作スイッチ の
	ご希望の設定に変更したら、"OK"を押します。

9 すべての設定が終了した ら、"OK"を押す

設定の保存を確認する画面が表示されます。

メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を 押して "保存" を選択し、"OK" を 押すと、設定した内容が保存されます。

設定内容を変更したい場合は、**リ**ス イッチを押して設定操作をやり直します。



□知識

■タイマー設定操作が中断されるとき

車両が次の状態になると、タイマー設定 操作が中断されます。

- ●設定を確定する前にパワースイッチを 操作したとき
- ●車両が走行し始めたとき
- ●タイマー充電設定よりも優先度が高い 画面が表示されたとき

■ "次回充電予定" について

"次回充電予定"の設定内容に従って充電が実施されても、充電完了後に普通充電ケーブルを取りはずすまで、マルチインフォメーションディスプレイに表示される"次回充電予定"の設定内容は変化しません。

■ "次回充電予定"の変更後にもとの設定にもどしたいとき

"今すぐ充電" をいったん ON にしてから再度 OFF にすることで、"次回充電予定" を現在時刻から最も近い充電スケジュールに設定することができます。

■充電中に "次回充電予定" を変更した とき

- ●充電モードが "出発" のときは、充電 完了までに必要な時間に応じて、現在 の充電が中断、または継続されます。
- ●充電モードが "開始" のときは、設定 した時刻から次回の充電が開始される ため、現在の充電は中断されます。

■パワースイッチを OFF にしたとき

パワースイッチを OFF にすると、エンディング画面に次回のタイマー充電予定が表示され、登録内容を確認できます。 充電中など、エンディング画面が表示されない場合があります。

↑ 注意

■設定操作を行うとき

EV システムが停止した状態で設定操作を行うときは、補機バッテリーあがりにご注意ください。

センターディスプレイでの設定 操作

タイマー充電に関する設定操作は、 センターディスプレイの画面上で行います。

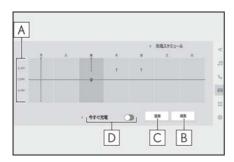
- "充電スケジュール" 画面を表示 するには
- 1 パワースイッチを ON にした状態で、センターディスプレイのメインメニュー画面の会にタッチする

パワースイッチが ACC のときは、 " 充電スケジュール " の設定操作を行うことはできません。

2 "充電スケジュール" にタッチ する

" 充電スケジュール " 画面が表示されます。

■ "充電スケジュール" 画面の見方



A 充電スケジュール(カレンダー表示)

本日を起点とした1週間の範囲で、登録

済みの充電スケジュールがアイコンの形で一覧表示されます。

B 編集ボタン

登録済みの充電スケジュールの内容を変 更・削除したいときにタッチします。 (→P.114)

C追加ボタン

 $(\to P.115)$

充電スケジュールを新規登録するときに タッチします。(→P.112)

D "今すぐ充電" ボタン タッチするたびに "今すぐ充電" の ON / OFF が切りかわります。

● カレンダー上に表示される主な内容

表示	内容
灰色の線	現在時刻
緑色のアイコン	充電モードが "出 発設定" の充電ス ケジュール
青色のアイコン	充電モードが "開 始設定" の充電ス ケジュール

"今すぐ充電"を ON にしたときは、 灰色の線の位置に青色のアイコンが表示 されます。

■ 充電スケジュールを登録するには

- *充電スケジュール "画面を表示する(→P.112)
- 2 "追加" にタッチする

"タイマー設定を追加" 画面が表示さ

2

れます。



3 充電モードを選択

"開始設定" または "出発設定" にタッチすると、タッチした側の充電モードに設定されます。

"開始設定" を選択した場合: 普通充電を開始する時刻(開始時刻)を 設定し、"OK" にタッチします。



"出発設定"を選択した場合: 普通充電を完了させておきたい時刻(出 発時刻)を設定し、"OK"にタッチし ます



4 充電モードを "出発設定" に設定したときは、エアコン連動機能 (→P.103) の ON / OFF を設定する。

エアコンを作動させる場合は、 "エアコン連動" ボタンにタッチして機能を ON にします。ボタンにタッチするたびに、機能の ON / OFF が切りかわります。



5 繰り返し設定を有効にしたい場合 は、"繰返し" にタッチする

表示された画面で今回の充電スケジュールを繰り返し実施する曜日を選択し、"OK" にタッチします。

選択した曜日にタイマー充電が繰り返し 実施されます。

複数の曜日に対して、繰り返し設定を ON にすることも可能です。

いずれの曜日も選択していない場合は、 現在時刻から 24 時間以内の設定時刻に、 一度だけタイマー充電が実施されます。



6 すべての設定が終了したら、 ' 保存' にタッチする

充電スケジュールが登録され、カレン ダー上にアイコンが追加されます。

タイマー設定の登録を中止するときは、"X" にタッチします。

設定の終了後、車両に普通充電ケーブル を接続すると、設定内容に従ってタイマー充電が実施されます。



- 充電スケジュールの ON / OFF を 切りかえるには
- *充電スケジュール "画面を表示する(→P.112)
- 2 "編集" にタッチする

"タイマー設定リスト" 画面が表示されます。

- 3 画面に表示されているリストの中から、ON / OFF を切りかえたい充電スケジュールの行の

ON / OFF を切りかえたい充電スケジュールが画面上に表示されていないときは、リスト表示を上下にスクロールして、対象の充電スケジュールを表示させます。

ボタンにタッチするたびに充電スケ ジュールの ON / OFF が切りかわりま す。



- 充電スケジュールの登録内容を変 更するには
- *充電スケジュール "画面を表示する(→P.112)
- 2 "編集" にタッチする
- "タイマー設定リスト" 画面が表示されます。
- 3 "編集" にタッチする



4 画面に表示されているリストの中から、登録内容を変更したい充電スケジュールにタッチする

"タイマー設定を編集" 画面が表示されます。



● 登録内容を変更するときは:

" 充電スケジュールを登録するには " (→P.112) の手順 3 ~ 6 の操作 要領で、ご希望の設定内容に変更す る

設定を変更すると、カレンダー上のアイコンの表示もかわります。

- 登録内容を削除するときは:
 - "削除" にタッチする

削除を確認するメッセージが表示されます。

"削除"にタッチすると、選択した充電スケジュールが削除されます。

削除を中止する場合は、"キャンセル" にタッチします。

充電スケジュールを削除すると、カレン ダー上のアイコンも削除されます。

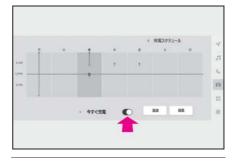


- "今すぐ充電"をONにするには
- * 充電スケジュール "画面を表示する(→P.112)

2 "今すぐ充電"の にタッチ する

ボタンにタッチするたびに、"今すぐ充電"の ON / OFF が切りかわります。

設定の終了後、車両に普通充電ケーブル を接続すると、普通充電が開始されま す。→P.89



__ 知識

■充電スケジュールを登録したとき

充電スケジュールをすべて OFF にすると、"充電スケジュール" (カレンダー表示) 画面上にアイコンは表示されません。"タイマー設定リスト" 画面で ONにすることで、アイコンが表示されます。

■タイマー設定操作が中断されるとき

車両が次の状態になると、タイマー設定 操作が中断されます。

- ●タイマー充電設定よりも優先度が高い 画面が表示されたとき
- ●設定を確定する前にパワースイッチを OFF にしたとき
- ●車両が走行し始めたとき



■設定操作を行うとき

EV システムが停止した状態で設定操作を行うときは、補機バッテリーあがりにご注意ください。

マイルームモードを使う

車両に充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力により、エアコンやオーディオなどの電装品を使用することができます。

マイルームモードを開始するに は

1 車両に充電ケーブルを接続して充 電を開始する

普通充電するとき:→P.89 急速充電するとき:→P.97

V2H 充電/ V2H 給電時は、マイルーム モードを使用できません。

2 充電の実施中にパワースイッチを ON にする

マルチインフォメーションディスプレイ にマイルームモードの設定画面が自動表 示されます。

3 メーター操作スイッチの ▲ また は ▼ を押して "はい" を選択 し、"OK" を押す

マイルームモードが開始され、車内でエアコンやオーディオなどが利用可能になります。

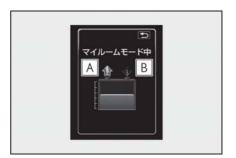
マイルームモードを使用しないとき は、"いいえ"を選択して"OK"を 押します。



マイルームモードを停止するときは、パワースイッチを OFF にします。 急速充電が完了すると、マイルーム モードは自動的に停止する。

マイルームモード使用中の電力収支に関する情報の表示

マイルームモードを開始すると、マルチインフォメーションディスプレイに駆動用電池の残量表示画面が自動的に表示され、矢印の大きさで、マイルームモード使用中の電力収支(電気供給量と電力消費量とのバランス)の目安を確認することができます。



A 放電状況

B 充電状況

充電ケーブルからの電気供給量が車内の 消費電力より多いときは**B** が大きくな り、電気供給量より消費電力が大きいと きは、**A** が大きくなります。

電気供給量と電力消費量の釣り合いがとれているとき (電力の収支がゼロと判断されたとき) は、**A** と**B** が同じ大きさで表示されます。

| 知識

■充電中のメーター表示について

充電中にパワースイッチを ON にしたあと、マイルームモードを選択しない状態が約 100 秒間続くと、パワースイッチが自動で OFF になります。

■マイルームモードの使用中は

次のようなことが起こる場合があります。

■駆動用電池の残量が下限に達すると、 エアコンが自動的に停止する

その場合は、駆動用電池の残量が増えるまでエアコンを操作できなくなります。いったんパワースイッチを OFF にし、駆動用電池の残量が回復したあとで、マイルームモードを使用してください。

- ●駆動用電池の充電時間が長くなる
- ■電波の状況によっては、ラジオに雑音が入る
- ●床下からファンの音が聞こえる
- 充電中・充電完了後は、車載充電器が 搭載されているモータールーム周辺が 温かくなることがあります。
- ●パワーステアリング警告灯(黄色)が 点灯することがありますが、異常では ありません。

■充電スケジュール (→P.102) が登録 されているとき

タイマー充電の待機中にマイルームモードを開始すると、タイマー設定が無効になり、充電が開始されます。

■駆動用電池が満充電の状態でマイルームモードを使用するとき

駆動用電池が満充電の状態でマイルーム モードを使用すると、駆動用電池量の電力が消費されることがあります。その場合は、再度充電を行うことがあります。

■マイルームモードに関するメッセージ が表示されたとき

マイルームモードを開始しようとしたとき、またはマイルームモードの使用中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは、それぞれ次のように対処してください。

● "駆動用電池残量不足 マイルームモー ド起動不可"

マイルームモードの開始に必要な駆動用電池の残量がない状態です。

駆動用電池の残量が増えるまでしばらく 待ってから、マイルームモードを開始し てください。

● "駆動用電池残量不足 マイルームモードを終了します"

駆動用電池の残量が不足しています。 マイルームモードの使用を中止して、駆動用電池を充電してください。

"駆動用電池残量低下使用電力抑制下 さい"

駆動用電池への充電量よりも車内の電力 消費量が多く、駆動用電池の残量が低下 しています。**

- ・車内の電力消費状況が改善されない場合は、マイルームモードが終了します。
- ・マイルームモードを継続したいときは、 エアコンやオーディオなどの電源を OFFにして、駆動用電池の残量を増や してください。
- ※ マルチインフォメーションディスプレイに表示される駆動用電池の残量表示 画面で、マイルームモード中の電力収 支の状況を確認できます。(→P.116)

▲ 警告

■マイルームモードの使用上の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●お子さまや介護を必要とする方、 ペットを車内に残さないでください。 システムの自動停止等により車室内 が高温または低温になり、熱中症・ 脱水症状・低体温症になるおそれが あります。また、ワイパーなどが使 用できる状態になるため、誤操作に よる事故につながるおそれもありま す。
- ●車両の周囲の安全を十分に確認して から使用してください。

正常に充電できないときは

正しい手順に従って作業しても充電が開始されない場合は、それぞれ次の 事項をご確認ください。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示された場合は、P.126 も併せて参照してください。

正常に普通充電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

■ 電源プラグを外部電源に接続してもコントロールユニット上の電源インジ ケーターが点灯しない

考えられる原因	対処方法
電源プラグがコンセントに正しく接続され ていない	電源プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
停電している	停電の解消後、再度充電してください。
手元スイッチが OFF になっている	手元スイッチが設置されている場合は、ス イッチを ON にしてください。
建物側のブレーカーが作動して電気が遮断 されている	ブレーカーの接続状態を確認し、異常がない場合はほかのコンセントで充電可能かご確認ください。
	充電できた場合、最初に接続したコンセントの異常が考えられます。建物・設備の管理者、または電気工事業者にご連絡ください。
コントロールユニットから電源プラグまで のあいだに断線が発生している	ただちに充電を中止して、レクサス販売店 にご連絡ください。

■ コントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅している

考えられる原因	対処方法
漏電検知機能、または自己診断機能が作動 して電気が遮断された	電圧が不足している場合や、ノイズの影響を受けた場合などに、エラーインジケーターが点滅することがあります。リセット操作を行い、正常な電源に接続してください。(→P.74)充電が開始されない場合は、ただちに充電を中止して、レクサス販売店にご連絡ください。

■ 普通充電コネクターを接続しても普通充電ポートの充電インジケーターが 点灯しない

考えられる原因	対処方法
電源プラグがコンセントに確実に接続されていない	電源プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
普通充電コネクターが普通充電インレット に確実に接続されていない	普通充電コネクターの接続状態を確認して ください。
	・普通充電コネクターを接続するときは、 ロック解除ボタンにふれないように注意 し、"カチッ" と音がするまで挿し込 んでください。ロック解除ボタンを押し ながら挿し込むと、正しく接続されない おそれがあります。
	・普通充電コネクターの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、充電ポートの充電インジケーターが点灯していることを確認してください。
	普通充電コネクターが確実に接続されているのに充電ポートの充電インジケーターが 点灯しない場合は、システムに異常がある おそれがあります。ただちに充電を中止し て、レクサス販売店にご連絡ください。
すでに駆動用電池が満充電になっている	駆動用電池が満充電の場合、充電は行われません。
設定した充電量上限より駆動用電池残量が 多い	充電量上限を現在の駆動用電池残量より高 い値に設定して、再度充電してください。
普通充電器(スタンド)が作動しない	普通充電器 (スタンド) に問題がある場合 は、設備の管理者にご連絡ください。

■ 普通充電ポートの充電インジケーターが点滅して充電できない

考えられる原因	対処方法
普通充電ポートの充電インジケーターが点滅(通常)しているとき※:充電スケジュールが登録されている	タイマー充電を実施したい場合は、設定した時刻になるまでそのままお待ちください。 充電を開始したい場合は、"今すぐ充電"を ON にしてください。(→P.108, 115)
普通充電ポートの充電インジケーターが速 い点滅をしているとき※:外部電源、また は車両に異常が発生している	マルチインフォメーションディスプレイに表示されたメッセージの指示に従って、それぞれ対処してください。(→P.126)
※ 英海女電ポートの女電インパケーターのよ	5.14、占減については、D.70を発収してく

[※] 普通充電ポートの充電インジケーターの点灯・点滅については、P.70 を参照してください。

正常に急速充電・V2H 充電/ V2H 給電できないとき

■ 急速充電·V2H 充電/ V2H 給電が開始しない

考えられる原因	対処方法
急速充電コネクターが車両に正しく接続されていない	急速充電コネクターの接続状態を確認し、 コネクターを確実にロックしてください。
急速充電コネクターが確実にロックされていない	接続状態に異常がないのに急速充電・V2H 充電/ V2H 給電が開始されないときは、急速充電器 (スタンド)・V2H 機器または充電システムに異常がある可能性があります。 ・ 急速充電器 (スタンド) に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 ・ V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。
	・急速充電器 (スタンド)・V2H 機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店にご連絡ください。

考えられる原因	対処方法
急速充電器 (スタンド)・V2H 機器または 車両のセルフチェック機能でエラーが検出 された	急速充電器 (スタンド)・V2H 機器または 充電システムに異常がある可能性がありま す。
	・急速充電器 (スタンド) に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。
	・V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。
	・急速充電器(スタンド)・V2H 機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店にご連絡ください。
	・EV システムを始動できなくなった場合 は、レクサス販売店にご連絡ください
急速充電器(スタンド)・V2H 機器の電源 が OFF になっている	・急速充電器 (スタンド) の管理者に連絡 して、電源状態をご確認ください。
	・V2H 機器の取り扱い説明書を確認する など、電源状態をご確認ください。
設定した充電量上限より駆動用電池残量が 多い	充電量上限を現在の駆動用電池残量より高 い値に設定して、再度充電してください。
すでに駆動用電池が満充電になっている	駆動用電池が満充電の場合、充電は行われ ません。
普通充電コネクターも接続している	普通充電と急速充電・V2H 充電/V2H 給電を同時に行うことはできません。
EV システムが始動している	EV システムが始動していると、急速充電・V2H 充電/ V2H 給電を開始できません。また、シフトポジションが P でないと急速充電システムまたは V2H 充電/ V2H 給電システムを使用できません。

■ 急速充電・V2H 充電/ V2H 給電が途中で停止する

考えられる原因	対処方法
急速充電器(スタンド)・V2H 機器のタイマーが作動した	急速充電器 (スタンド)・V2H 機器によっては、一定時間で充電が停止するようにタイマーが設定されている場合があります。 急速充電器 (スタンド) の管理者に確認するか、V2H 機器に付属の取り扱い説明書を確認してください。
急速充電器 (スタンド)・V2H 機器の電源 が OFF になった	急速充電器 (スタンド)・V2H 機器の電源 状態を確認してください。電源の状態が不 明な場合は、急速充電器 (スタンド) の管 理者にご連絡するか、V2H 機器に付属の 取り扱い説明書を確認してください。
駆動用電池の温度が極端に高い、または極端に低い	極端な高温、または極低温の環境下では、 急速充電・V2H 充電/ V2H 給電できない 場合があります。気温が安定してから急速 充電・V2H 充電/ V2H 給電を実施してく ださい。
急速充電器(スタンド)・V2H 機器または 車両のセルフチェック機能でエラーが検出 された	急速充電器 (スタンド)・V2H 機器または 充電システムに異常がある可能性がありま す。
	・急速充電器(スタンド)に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。
	・V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。
	・急速充電器 (スタンド)・V2H 機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店にご連絡ください。
	・EV システムを始動できなくなった場合 は、レクサス販売店にご連絡ください。
充電関連部品の温度が高い	充電関連部品の温度が高いと急速充電・ V2H 充電/ V2H 給電できない場合があり ます。しばらく時間をあけてから再度急速 充電・V2H 充電/ V2H 給電をおこなって ください。
満充電付近で車両のエアコンや電装品の使用を停止した	車両のエアコンや電装品が OFF の状態で、 再度急速充電・V2H 充電してください。

■ 急速充電後・V2H 充電/ V2H 給電後にシステムが始動できなくなった

考えられる原因	対処方法
急速充電後・V2H 充電/ V2H 給電後のシステムチェックが正常に終了しなかった	P.99 の手順でシステムチェックを実施してください。再試行してもシステムチェックが正常に終了しない場合は、レクサス販売店にご連絡ください。
急速充電コネクターが接続されたままに なっている	急速充電コネクターが接続されているときは、安全のため、EV システムを始動することができません。(→P.86)急速充電・V2H 充電/ V2H 給電終了後は、すみやかに急速充電コネクターを取りはずしてください。
急速充電システムまたは V2H 充電/ V2H 給電システムが故障した	・故障の原因によっては、充電リッドを閉めることで、EVシステムを始動できる場合があります。・始動できない場合は、レクサス販売店にご連絡ください。

タイマー充電機能が正常に作動しないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

■ 希望の時刻に充電できない

考えられる原因	対処方法
車両の時計の時刻やカレンダーが正しく設 定されていない	時計の設定を確認し、正しい時刻に調整し てください。 ^{※1} (→P.147)
	カレンダーの設定内容を確認し、正しい年 月日に設定してください。 ^{※2} (→P.152)
車両に普通充電ケーブルが接続されていない	タイマー充電を使用する際は、あらかじめ 普通充電ケーブルを接続しておいてください。
誤った充電モードを選択している	充電モードの設定をご確認ください。 (→P.102)
	充電モードが "開始" のときは設定した 時刻に充電が開始されますが、"出発" に設定したときは、設定した時刻に充電が 完了するように充電が実施されます。(充 電開始時刻は、システムにより自動制御さ れます)

※1時計の GPS 補正設定が ON になっていること

GPS 信号を受信できない場所で時刻を変更した場合、一度 GPS 信号を受信できる場所で GPS 補正を ON に設定してください。

GPS について詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

**2センターディスプレイの設定で、時計の GPS 補正を OFF にした場合のみ、設定が可能になります。

■ スマートフォンのアプリケーション ** から次回充電予定の変更ができない

考えられる原因	対処方法
スマートフォンが通信圏外にある	電波状態を確認し、通信圏外になっている 場合は電波の状況がよい場所へ移動してください。

^{**} ご利用するには G-Link サービスのご契約が必要です。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 充電スケジュールを登録してあるのに充電が開始される

考えられる原因	対処方法
" 今すぐ充電 " が ON になっている	タイマー充電する際は、"今すぐ充電" を OFF に設定してください。(→P.108, 115)
充電スケジュールが OFF になっている	充電スケジュールが OFF に設定されてい ないか確認してください。(→P.107, 114)
充電モードが "出発" に設定されており、かつ出発予定時刻が現在時刻に近い時刻に設定されている	車両のシステムにより、設定した出発時刻 までに充電が完了できないと判断された場 合は、充電が開始されます。充電スケ ジュールを確認してください。
普通充電ポートの充電インジケーターが通常の速さで点滅しているときに普通充電ケーブルを抜き挿しした	普通充電インジケーターが通常の速さで点滅しているときに普通充電ケーブルを抜き挿しすると、タイマー充電がキャンセルされます (→P.91)。いったん普通充電ケーブルを取りはずして、再度、接続し直してください。
マイルームモード、またはリモートエアコ ンシステムを作動させた	マイルームモード、またはリモートエアコンシステムを作動させると、充電スケジュールが登録されていても、充電が開始されます。タイマー充電を実施したい場合は、それぞれの機能を停止してから、接続し直してください。

考えられる原因	対処方法
駆動用電池ヒーター (→P.83) が作動した	充電モードが "出発" のときは、充電前に駆動用電池ヒーターが作動する場合があります。普通充電ポートの充電インジケーターの状態を確認してください。 (→P.70)
外気温が低い、駆動用電池の温度調整システム (→P.83) が作動した	駆動用電池の温度調整システムが作動すると、充電スケジュール設定が無効になり、 充電が開始されます。この場合、駆動用電 池を保護ために、充電を継続します。

■ "出発" に設定した時刻よりも早く充電が終了する

考えられる原因	対処方法
電源環境や気温などの影響により、システ	充電中に急激な気温変化が発生したり、電
ムが予測した充電完了時刻にずれが生じた	源の状況に変化が生じたりした場合は、シ
	ステムの予測よりも早く充電が終了する場
	合があります。

■ "出発" に設定した時刻になっても充電が完了しない

考えられる原因	対処方法
エアコン連動機能を使用している	エアコン連動機能を使用すると、"出発"に設定した時刻までエアコンが作動するため、充電状態によっては、設定時刻になっても充電が完了しない場合があります。その場合は、満充電になるまで充電が継続されるため、充電を続けるときはそのままお待ちください。
電源環境や気温などの影響により、システムが予測した充電完了時刻にずれが生じた	充電中に急激な気温変化が発生したり、電源の状況に変化が生じたりした場合は、システムの予測どおりに充電が完了しない場合があります。

■ "開始" に設定した時刻になっても充電が開始されない

考えられる原因	対処方法		
設定した時刻が過ぎてから普通充電ケーブ	普通充電ケーブルは、"開始" に設定し		
ルを接続した	た時刻になる前に接続してください。		

充電に関するメッセージが表示されたときは

充電後にパワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォ

メーションディスプレイにメッセージが表示されます。

その場合は、メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処置を行ってください。



"充電コネクタ操作により充電停止しました" と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
普通充電中に普通充電コネクターを取りは ずした	満充電にしたい場合は再度、普通充電コネ クターを接続してください。
普通充電で満充電になったあと、電力を消費する機能 ** が作動したことで低下した駆動用電池残量を補うための再充電時に、普通充電コネクターを取りはずした	
普通充電コネクターが確実に接続されてい ない	普通充電コネクターの接続状態を確認して ください。
	 ・普通充電コネクターを接続するときは、ロック解除ボタンにふれないように注意し、"カチッ"と音がするまで挿し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら挿し込むと、正しく接続されないおそれがあります。 ・普通充電コネクターの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、普通充電ポートの充電インジケーターが点灯していることを確認してください。 正しい作業手順に従っても充電できない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。
普通充電中に普通充電コネクターのロック 解除ボタンを押した	充電中にロック解除ボタンを押し続ける と、充電が停止します。充電を続ける場合 は、普通充電コネクターを接続し直してく ださい。

[※] 駆動用電池ヒーター (→P.83)・エアコン連動機能 (→P.103)・リモートエアコン

システム (→P.341) が作動すると、電力が消費されます。また、マイルームモー ド(→P.116)の使用も、電力を消費します。

■ "充電完了しました(駆動用電池温度による制限)" と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
駆動用電池が高温の状態が続いたため、駆動用電池の保護のために充電が終了した	ご希望の充電量に到達していないときは、 駆動用電池が冷えてから再度、充電を行っ てください。

■ "停電または電源プラグ抜けにより充電停止しました" と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
外部電源からの電源供給に問題がある	次の点をご確認ください。
	電源プラグがしっかりと挿し込まれているか
	・延長コードを使用したり、夕コ足配線に なったりしていないか
	・専用回線に接続されているか
	・停電が発生していないか
	・手元スイッチが OFF になっていないか
	・コントロールユニット上の電源インジケーターが点灯しているか
	・ブレーカーが落ちていないか
	以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。(充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください)
	電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。 レクサス販売店で点検を受けてください。
	なお、コントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅している場合は、漏電の可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

		考えられる	5原因	対処方法
普通充筑	電器	(スタンド)	が充電を停止した	●普通充電器(スタンド)の仕様により、 電源供給が停止されることで充電中止と なることがあります。例えば、次のよう な場合があります。普通充電器(スタン ド)の取り扱い説明をご確認ください。
				・普通充電器 (スタンド) の停止ボタンを 押した
				・普通充電器 (スタンド) にタイマー充電 機能がある
				・普通充電器(スタンド)が車両のタイマー充電機能に対応していない
				●この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。 レクサス純正の普通充電ケーブルを使用 しても充電できない場合は、レクサス販 売店にご相談ください。

■ "充電設備の要因により充電停止しました" と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
普通充電器 (スタンド) が車両に適合していない	●普通充電器 (スタンド) の仕様により、 電源供給が停止されることで充電中止と
普通充電器(スタンド)が充電を停止した	なることがあります。例えば、次のよう な場合があります。普通充電器(スタン ド)の取り扱い説明をご確認ください。
	・ 普通充電器 (スタンド) の停止ボタンを 押した
	・ 普通充電器 (スタンド) にタイマー充電 機能がある
	・普通充電器 (スタンド) が車両のタイ マー充電機能に対応していない
	●この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。 レクサス純正の普通充電ケーブルを使用 しても充電できない場合は、レクサス販 売店にご相談ください。

考えられる原因	対処方法
急速充電器 (スタンド)・V2H 機器が故障 している 急速充電器 (スタンド)・V2H 機器が車両 に適合していない	本メッセージが表示された場合は、急速充電器 (スタンド)・V2H 機器が故障しているおそれがあるため、その急速充電器 (スタンド)・V2H 機器は使用しないでください。他の急速充電器 (スタンド)・V2H 機器での充電が可能かご確認ください。他の急速充電器 (スタンド)・V2H 機器で充電しても本メッセージが表示されて充電ができない場合は、数 km 走行してから別の急速充電器 (スタンド)・V2H 機器で充電してください。

■ "AC 供給電源の要因により充電停止しました" と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
外部電源からの電源供給に問題がある	次の点をご確認ください。
	電源プラグがしっかりと挿し込まれているか
	延長コードを使用したり、タコ足配線に なったりしていないか
	・専用回線に接続されているか
	・停電が発生していないか
	以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。(充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください)
	電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。 レクサス販売店で点検を受けてください。
普通充電器(スタンド)が充電を停止した	この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。 レクサス純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■ "電装品の電力消費大のため充電停止しました" と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
車両の電装品によって電力が消費されている	次の点をご確認の上、再度充電してください。
	・ヘッドランプやオーディオなどが ON に なっている場合は、OFF にしてくださ い。
	・パワースイッチを OFF にしてください。
	以上を実施しても充電できない場合は、補機バッテリーの充電不足が考えられます。 EV システムを約 15 分以上作動させて、 補機バッテリーを充電してください。

■ "システムの要因により充電停止しました" と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
充電システムに異常が発生した	レクサス販売店で点検を受けてください。

■ "駆動用電池が低温になりました 電池保護のため充電を優先しました" と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
駆動用電池の温度調整システムが作動する	駆動用電池の温度調整システムが作動すると、充電スケジュール設定が無効になり、 充電が開始されます。この場合、駆動用電 池の保護機能が働きますが、故障ではあり ません。

■ "充電システム確認のため充電リッドを閉めてください取扱書を確認"と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
急速充電時・V2H 充電/ V2H 給電時のシステムチェックが正常に終了しなかった	この場合は、システムチェックが正常に終了するまで、システムを始動できなくなります。P.99 の記載に従って、システムのチェックを実施してください。

■ "充電終了時間に達したため充電停止しました" と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
急速充電器(スタンド)・V2H 機器の制限 時間内に急速充電が・V2H 充電完了しな かつた	・急速充電器(スタンド)・V2H 機器に よっては、一定時間で充電が停止するよ うに、タイマーが設定されている場合が あります。急速充電器(スタンド)の管 理者に確認するか、V2H 機器に付属の 取り扱い説明書を確認してください。
	車両の状態によっては、充電時間が長くなり、制限時間内に急速充電・V2H 充電が完了しない場合があります。
	・エアコンやヘッドランプ、オーディオなどの電源がONのため、消費電力が大きい可能性があります。電装品の電源をOFFにしてから、急速充電・V2H充電を行って下さい。
	・駆動用電池の温度が低い可能性があります。駆動用電池が温まってから急速充電・V2H 充電を行って下さい。

■ "駆動用電池の点検を販売店で受けてください" と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
長期にわたる充放電の繰り返しによって点 検が必要になった	レクサス販売店にご連絡ください。

DC 外部給電システムについて

ご使用前に、必ずここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しく取り扱ってください。

DC 外部給電システムについて

車両に外部給電器 **1 のコネクター を急速充電インレットに差し込むことで、車両から外部へ電源供給 **2 を行います。

車両の補機バッテリーから機器起動 のための電力を供給することで、災 害による停電などの非常時には、住 宅や電気製品にも電源供給を行うこ とができます。

このシステムを使用するには、外部 給電器 ^{※1} が必要です。(車両には付 属していません)

※1車両から電気製品へ電力を供給するために、車両から取り出したDC(直流)電力をAC(交流)電力に変換する機器。

急速充電と同じ CHAdeMO (チャデモ) 規格に準拠した外部給電器。

一般社団法人電動車両用電源供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版に準拠したもの。

※2車両側の定格出力は 9kW です。

ただし、接続する外部給電器の出力上 限以上は出力されません。

□ 知識

■スマートフォンとの連携について

G-Link サービスご契約のお客様は、ス

マートフォンアプリで、DC 外部給電システムに関する情報を確認したり、一部の操作を行ったりすることができます。

詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説 明書」を参照してください。

DC 外部給電のしかた

DC 外部給電作業は、ここで説明 している内容をよくお読みいただ いた上で、正しい手順に沿って 行ってください。

DC 外部給電作業前の重要確認 事項

必ず、次の点をご確認ください。

- パーキングブレーキがかかっていること (→P.222)
- パワースイッチが OFF になっていること (→P.212)
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をおすすめします。輪止め はレクサス販売店で購入することができ ます。

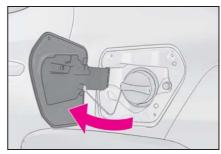
- ボンネットが閉まっていること
- シフトポジションが P の位置にあること

DC 外部給電を開始するときは

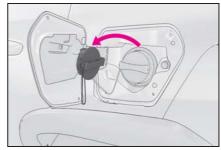
1 急速充電リッドを開ける

急速充電リッド(車両の左側)を開けると、急速充電インレット照明が点灯しま

す。

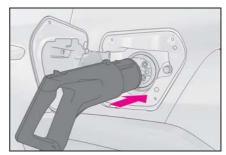


2 急速充電インレットキャップをは ずし、図のように固定する



3 外部給電コネクターを急速充電インレットに挿し込む

外部給電コネクターの形状や取り扱い方 法などは、外部給電器により異なります。 外部給電器の取り扱い説明書に従って、 作業を行ってください。



4 ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを2回押して、ONにする

マルチインフォメーションディスプレイ

に "イグニッション ON" と表示されていることを確認してください。ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押すと、EV システムが始動してしまい、DC 外部給電システムが使用できません。

- 5 メーター操作スイッチの < または ➤ を押して を選択する
- 6 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して "車両設定" を 選択し、"OK" を押す
- **7** メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して "外部給電" を 選択し、"OK" を押す

外部給電モードの選択画面が表示されます。



8 "EV 給電 " を選択し、"OK" を押す

外部給電モードの選択画面上に、給電時間の目安が表示されます。**

駆動用電池の残量が低下しているときは、 EV 給電モードを選択できません。

※ 使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の給電

時間が異なる場合があります。



9 操作ガイド画面の表示に従う

外部給電器に付属の取り扱い説明書に従 い、操作してください。

外部給電器によっては、パワースイッチが OFF になり、給電が停止することがあります。

その場合は、再度手順 **4** から開始操作を 行ってください。



10接続した電気製品の電源を ON にする

DC 外部給電中は、マルチインフォメーションディスプレイの表示で、現在の給電状況をお知らせします。

□知識

■DC 外部給電システムの使用中は

- シフトポジションを P からほかのシフトポジションに切りかえることはできません。
- ●外部給電器の出力上限以上の電力を使

用した場合、外部給電器が出力を制限 したり、給電を停止したりすることが あります。

- ●車両側の定格出力以上の電力を使用した場合、車両が給電を停止することがあります。
- ■スマートエントリー&スタートシステムでドアを解錠・施錠することはできません。
- ●ワイヤレスリモコンでドアの解錠・施 錠をすることができます。使用する電 気製品から発生するノイズにより、正 常に作動しない場合があります。
- ●ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに "キーが見つかりません"と表示されたりすることがあります。
- ●気温が低いときまたは高いときは、出力を制限または停止することがありますが、異常ではありません。

その場合は、使用する電気製品を減らしてください。

- ●DC 外部給電システムの作動中は、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがあります。
- ●走行中はDC 外部給電システムを使用できません。
- ●使用する電気製品によっては、周囲の テレビやラジオに雑音が入ることがあ ります。
- 炎天下など、車内が高温になる状態で使用すると、システムを保護するために DC 外部給電システムが自動で停止することがあります。

その場合は、いったん外部給電コネクターを取りはずしてから、車両を日陰に移動するなどして車内の温度を下げ、再度、DC外部給電を開始してください。

●特に外気温が低いときは、駆動用電池 を保護するため、DC 外部給電システム を使用できないことがあります。

その場合は、いったん外部給電コネクターを取りはずしてからしばらく走行するなどして、駆動用電池を暖めてから使用してください。

- ●DC 外部電源供給システムを開始した時点で、いったんエアコンが OFF になります。DC 外部電源供給中にエアコンを使用したい場合は、エアコンの操作スイッチを操作して、エアコンを作動させてください。※
- ※ DC 外部電源供給システムの使用中にエアコンを使用すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示される 給電可能時間と実際の給電時間が異なる場合があります。
- ●DC 外部給電中にエアコンやアクセサ リーコンセントを使用することが可能 です。
- ●外部給電器に車両に異常があるようなメッセージ(例えば、"車両に異常が見つかりました"、"車両故障発生"など)が表示されても、車両の異常ではなく、外部給電器と車両間の通信異常である可能性があります。

この場合、外部給電コネクターの端子故障(接点不良)などが考えられます。外部給電器に付属の取り扱い説明書を確認してください。

▲ 警告

- ■DC 外部給電システムを使用すると きの警告
- ●傾いた場所や坂道などに停めて使用 しないでください。

使用中に車両を移動させたり、傾けた りしないでください。

▲ 警告

●ボンネットが閉まっていることを確認する

モータルーム内に顔や手を近付けない でください。冷却ファンが急にまわり だすことがあります。

ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣(特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど)が巻き込まれるおそれがあります。

- 燃えやすいものの近くに停めて使用 しないでください。
- ●腐食性のガスまたは溶液の発散する 場所では使用しないでください。
- 給電を開始する前に、接続した電気 製品の電源が OFF になっていること を確認する

電源がONになっていると、電気製品が突然作動するおそれがあります。

- ●車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しない
- ●お子さまなど、不慣れな方だけで作業を行わない
- ●外部給電コネクターと急速充電イン レットは、必ず直接接続する

外部給電コネクターと急速充電イン レットとのあいだに、変換アダプター や延長コードなどを接続しないでくだ さい。

●落雷の可能性がある天候のときはDC 外部給電システムを使用しない

使用中、雷に気付いたときには DC 外部給電システムを停止してください。

●急速充電インレットに急速充電コネクター・外部給電コネクター以外の ものを挿し込まない 外部給電コネクター・急速充電イン レットに異物がないか、または雪・ 氷が付着していないか確認する

付着している場合は、外部給電コネクターを接続する前にしつかりと取り除いてください。

- ●急速充電インレットの端子部がぬれないようにする
- ●外部給電コネクター・急速充電イン レットの端子に金属製の鋭利なもの (ピンや針金など)を挿し込まない
- ■車両に給電ケーブルが接続されているとき

シフトレバーを操作しないでください。 万一、給電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションが P からほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■DC 外部給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー(植込み型心臓ペースメーカー/植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ)装着のお客様は、 給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください

- 給電時は、外部充電器、給電ケーブ ルに近付かないでください。給電に より、ペースメーカーの動作に影響 を与えるおそれがあります。
- 給電中は車内にとどまらないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ●ものを取るときなどに、ラゲージ ルームなど含めた車内に入り込まな いでください。給電により、ペース メーカーの動作に影響を与えるおそ れがあります。

▲ 警告

■接続する電気製品について

給電を行うときは、必ず本書および接続する外部給電器や使用する電気製品に付属の取り扱い説明書に記載されている注意事項をお守りください。

記載されている禁止事項を守らずに給 電すると思わぬ事故につながり、重大 な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に つながるおそれがあります。

■接続する外部給電器について

必ず電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版に準拠した外部給電器を接続してください。ガイドラインに準拠していない外部給電器を使用すると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

▲ 注意

■DC 外部給電システムの故障を防ぐ ために

- ●急速充電インレットの急速充電イン レットキャップに強い衝撃を与えな いでください。
- ケーブルを損傷するおそれがあるので、使用中は充電リッドでケーブルを挟まないでください。
- ●外部給電コネクターを急速充電イン レットに抜き挿しするときは、過度 の負荷をかけないでください。

挿し込み不足の原因になります。

- 給電中に外部給電コネクター・ケーブルに物をのせたり、引っかけたりしないでください。
- 給電中に外部給電コネクター・ケー ブルを引っ張ったり、過度の負荷を かけたりしないでください。

- 給電中に外部給電コネクター・ケー ブルに異常な発熱を感じたらすぐに 使用を中止してください。
- 給電を停止するときは、使用している電気製品の電源を切ってから停止してください。

DC 外部給電を停止するときは

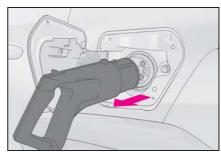
- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 外部給電器を停止させる

外部給電器に付属の取り扱い説明書に従い、操作してください。

パワースイッチを OFF にしても給電を 停止できます。

3 外部給電コネクターを取りはずす 外部給電コネクターの形状や取り扱い方 法などは、外部給電器により異なります。

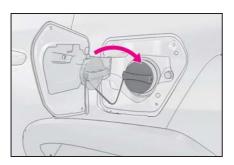
外部給電器に付属の取り扱い説明書に 従って、作業を行ってください。



4 急速充電インレットキャップをは め、急速充電リッドを閉める

キャップとインレット上部の水平部位置

を合わせて、まっすぐはめてください。



DC 外部給電に関する情報の表示

DC 外部給電システムの使用中は、マルチインフォメーションディスプレイに外部給電中画面が表示され、外部給電可能時間 ※ などの情報を確認することができます。



※表示される時間は 400W 消費時の目安 であり、電気製品の使用状況や、使用 環境などにより実際の外部給電可能時 間が異なる場合があります。

__ 知識

■DC 外部給電後、マルチインフォメーションディスプレイに "充電システム確認のため 充電口を閉めてください 詳細は取扱書をお読みください" が表示されたとき

急速充電後・V2H 充電/ V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイ

に "充電システム 確認のため 充電口を 閉めてください 詳細は取扱書をお読みください" が表示されたときの手順に従い、処置してください。 $(\rightarrow P.99)$

■外部給電コネクターを解錠できないと き

"急速充電コネクターを解錠できないとき" (→P.101) を参照してください。

⚠ 注意

■DC 外部給電システムを使用したあ とは

急速充電インレットから外部給電コネクターを取りはずしたあとは、必ず急速充電インレットの急速充電インレットキャップをはめてから、充電リッドを閉めてください。

急速充電インレットを開けたままにすると、急速充電インレットに水や異物が入り、故障につながるおそれがあります。

■車から離れるとき

盗難を防止するため、ドアが確実に施 錠されたことを確認してください。

正常に DC 外部給電できないときは

正しい手順に従って作業しても DC 外部給電が開始されない場合は、それ ぞれ次の事項をご確認ください。

正常に DC 外部給電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

■ 給電が開始しない

考えられる原因	対処方法
外部給電コネクターがしっかりと接続されていない	外部給電コネクターが急速充電インレット に確実に接続されているか確認してくださ い。
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッ チを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワース イッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態でパワース イッチを 2 回押して、メーターに " イグ ニッション ON" と表示されていることを 確認してください。
シフトポジションが P 以外にある	シフトポジション表示灯でシフトポジションが P になっていることを確認してください。
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池の残量を確認し (→P.147)、 残量が少なくなっているときは、駆動用電 池を充電してください。(→P.89, 97)
開始操作が適切でない	外部給電器によっては、開始操作が通常の 手順と異なるものがあります。外部給電器 の製造業者または販売業者にご確認くださ い
外部給電器に異常が発生している	外部給電器の取り扱い説明書に従って、適
外部給電器の電源が OFF になっている	切に処置してください
前回使用時に正常終了していない	急速充電後・V2H 充電/ V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに "EV システム確認のため充電口を閉めてください 詳細は取扱書をお読みください" が表示されたときの手順に従い、処置してください。(→P.99) その後、再度開始操作を行ってください。

考えられる原因	対処方法
普通充電または急速充電・V2H 充電/ V2H 給電を使用している	普通充電または急速充電・V2H 充電/ V2H 給電を終了してから DC 外部給電シ ステムの開始操作を行ってください。
その他	"DC 外部給電作業前の重要確認事項" (→P.134) の手順により、再度開始操作を行ってください。

■ 給電が途中で停止する

考えられる原因	対処方法
外部給電器の電源が何らかの理由で OFF になっている	外部給電器の取り扱い説明書に従って、適 切に処置してください。
車両の出力を超過する電気製品を使用している	使用する電気製品を減らして、再度開始操 作を行ってください。
外部給電器に異常が発生している	外部給電器の取り扱い説明書に従って、適 切に処置してください。

■ 使用後、EV システムが始動しない

考えられる原因	対処方法
車両に外部給電器が接続されている	外部給電器の取り扱い説明書に従って、外部給電コネクターを取りはずしてください。
前回使用時に正常終了していない	急速充電後・V2H 充電/ V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに "EV システム確認のため充電口を閉めてください 詳細は取扱書をお読みください" が表示されたときの手順に従い、処置してください。(→P.99) その後、再度開始操作を行ってください。

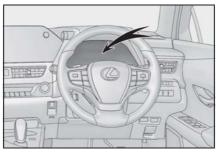
■ 使用終了後、外部給電コネクターがはずれない

考えられる原因	対処方法
外部給電コネクターが何らかの理由でロッ	外部給電器の取り扱い説明書に従って、適
クされている	切に処置してください。

給電後に関するメッセージが表示されたときは

給電後にパワースイッチを押していない状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

その場合は、メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処置を行ってくだ さい。



■ "外部給電器の要因により給電停止しました" と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
	外部給電器の取り扱い説明書に従って、適 切に処置してください。

走行に関する情報表示

3

3-1. 計器の見方

警告灯/表示灯1	44
計器類1	47
マルチインフォメーションディス	プ
レイ1	50
ヘッドアップディスプレイ 1	54

警告灯/表示灯

メーター・センターパネル・ドアミラーの警告灯/表示灯でお車の状況を お知らせします。

メーターの警告灯/表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯/表示灯を示しています。



警告灯一覧

システム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯※1 $(\to P.424)$



補機バッテリー充電警告灯※2 $(\to P.424)$



タイヤ空気圧警告灯※1 $(\to P.424)$



ブレーキ警告灯 ※1 $(\to P.425)$

(黄色)

SRS エアバッグ/プリテン ショナー警告灯※1 $(\rightarrow P.425)$



ABS &ブレーキアシスト警告 灯^{※1} (→P.425)



|パワーステアリング警告灯 ^{※1} $(\to P.425)$

パワーステアリング警告灯※1 $(\to P.425)$

スリップ表示灯 ^{※1} $(\to P.425)$

パーキングブレーキ表示灯 (→P.222)

HOLD (点滅)

ブレーキホールド作動表示灯 ^{※1} (→P.426)

(点滅)

クリアランスソナー OFF 表示 灯^{※1} (→P.426)



RCTA OFF 表示灯★ ※1 $(\to P.426)$



PKSB OFF 表示灯 **1 $(\to P.427)$



駆動用電池充電警告灯 $(\to P.427)$



運転席・助手席シートベルト 非着用警告灯(→P.427)



リヤ席シートベルト非着用警 告灯 ^{※2} (→P.427)



ペダル誤操作警告灯 ※2 $(\rightarrow P.248.428)$



LTA 表示灯 ^{※2} (→P.428)



PCS 警告灯 ^{※1} (→P.428)

点灯)

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後または EV システムを始動すると消灯します。 点灯しない場合や点灯したままのとき はシステム異常のおそれがあります。 レクサス販売店で点検を受けてくださ 610

^{※2}マルチインフォメーションディスプレ イに表示されます。

▲ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置 の警告灯がパワースイッチを ON にし ても点灯しない場合や点灯したままの 場合は、事故にあったときに正しく作 動せず、重大な傷害を受けたり、最悪 の場合死亡につながるおそれがありま す。ただちにレクサス販売店で点検を 受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯(→P.221)

-00

尾灯表示灯 (→P.227)



ハイビーム表示灯 (→P.229)

AHS 表示灯★※1 (→P.230)



オートマチックハイビーム表 示灯★※1 (→P.234)



フロントフォグランプ表示灯 $(\rightarrow P.236)$



リヤフォグランプ表示灯★ $(\to P.236)$



PCS 警告灯 ^{※1, 2} (→P.248)



クルーズコントロール表示灯 *3 (→P.270)



レーダークルーズコントロー ル表示灯 **3 (→P.270)

SET

クルーズコントロールセット 表示灯 ^{※3} (→P.270)



LTA 表示灯 ^{※3, 4} (→P.263)

(白色)



LTA 表示灯 ^{※3, 4} (→P.248. 263)



LTA 表示灯 ^{※3, 4} (→P.263)

(橙色点滅)



BSM ドアミラーインジケー 9-★*1,5 (→P.295, 308)

BSM 表示灯★ (→P.295)



クリアランスソナー OFF 表示 灯^{※1,2} (→P.301)



RCTA OFF 表示灯★※1,2 $(\to P.309)$



PKSB OFF 表示灯 ※1, 2 $(\to P.313)$



スリップ表示灯 ^{※1} $(\to P.322)$



VSC OFF 表示灯 **1, 2 (→P.322)



スマートエントリー&スター トシステム表示灯※3



READY インジケーター $(\to P.212)$

 $(\to P.212)$



パーキングブレーキ表示灯 $(\to P.222)$



ブレーキホールドスタンバイ 表示灯 ^{※1} (→P.224)



ブレーキホールド作動表示灯 *1 (→P.224)



低温表示灯 ^{※3,6} (→P.147)



セキュリティ表示灯 ※7 $(\rightarrow P.52, 53)$



ITS Connect アイコン★※3 $(\to P.289)$



ITS Connect アイコン★※3 $(\rightarrow P.289)$



ITS Connect アイコン★※3 $(\to P.289)$

▶ 走行モード表示

Eco

エコドライブモード表示灯 $(\to P.320)$

スポーツモード表示灯 $(\to P.320)$

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

※1作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後または EVシステムを始動すると消灯します。 点灯しない場合や点灯したままのとき はシステム異常のおそれがあります。 レクサス販売店で点検を受けてくださ 610

※2システムが OFF のときに点灯します。

^{※3}マルチインフォメーションディスプレ イに表示されます。

※⁴システムの作動状態により、表示色と 点灯・点滅の状態が変化します。

^{※5}ドアミラーに表示されます。

**6外気温が約3°C以下のとき、約10 秒間点滅後に点灯します。

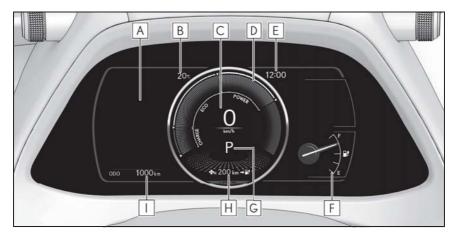
^{※7}センターパネルに表示されます。

3

計器類

メーターの表示について

■ 計器類の位置



A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.150) 車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.431)

B 外気温

外気温度を -40° C $\sim 50^{\circ}$ C のあいだで表示します。外気温が約3 $^{\circ}$ C以下のときは、低温表示灯が点灯します。

Cスピードメーター

車両の走行速度を示します。

D EV システムインジケーター

EV システムの出力や回生レベルを示します。(→P.148)

E 時計

GPS の時刻情報(GPS 時計)を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

F 駆動用電池残量計

駆動用電池の残量を示します。

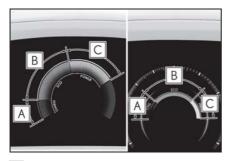
G シフトポジション・回生ブレーキカインジケーター(→P.216, 220)

H 走行可能距離

駆動用電池残量による走行可能な距離を示します。(→P.66) エアコンの作動中は、

アイコンとエアコンを使用した場合の走行可能距離が表示されます。

■ EV システムインジケーター



A チャージエリア

回生 ** ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

Bエコエリア

エコ運転 (環境に配慮した走行) をして いる状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリア に保つことで、エコ運転が可能です。

Cパワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

※ ここでの回生の意味は、運動エネル ギーを電気エネルギーに変換すること です。

□知識

■外気温表示について

- ●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
- ・停車しているときや、低速走行(約 20km/h以下)のとき
- 外気温が急激に変化したとき(車庫・

トンネルの出入り口付近など)

● "--" または "E" が表示されたとき は、システム故障のおそれがあります。 レクサス販売店で点検を受けてくださ い。

■GPS による時計の自動調整について

システムに異常があるときは、マルチインフォメーションディスプレイの設定画面に、時計の時刻調整画面が表示されることがあります。この場合、レクサス販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→P.150

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイので、計器類の表示を変更できます。 $(\rightarrow P.464)$

▲ 警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面 表示の切りかえが遅れる場合がありま すので、車室内を暖めてからご使用く ださい。

例えば回生ブレーキカインジケーターを使用した場合、シフト操作をしてもすぐに回生ブレーキカインジケーターが切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度の回生ブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オドメーター/トリップメー ターディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

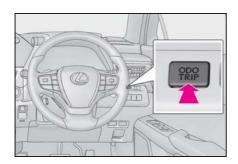
走行した総距離を表示します。

トリップメーター A / トリップ メーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

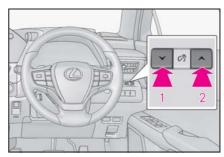
■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。



インストルメントパネル照明の 明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明る さを調整できます。



- 1 暗くする
- 2 明るくする

□知識

■インストルメントパネルの照度調整に ついて

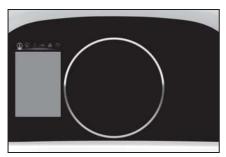
周囲が明るいとき(昼間など)と暗いとき(夜間など)それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

マルチインフォメーション ディスプレイ

ディスプレイの表示/メニュー アイコン一覧

■ ディスプレイの表示

メニューアイコンを選択し、走行に 関するさまざまな情報を表示したり、 車両設定を変更することができます。 また、状況に応じて注意喚起やアド バイスなどを割り込み表示します。



■ メニューアイコン

メーター操作スイッチ (→P.150)

の **く**または **>** を押すとメニューア イコンが表示されます。



ドライブインフォメーショ ン (→P.151)



ナビゲーションシステム連 携表示 (→P.152)



オーディオシステム連携表示(→P.152)



運転支援機能情報 (→P.152)



警告メッセージ (→P.431)



設定 (→P.152)

□ 知識

■オープニング画面の表示について

パワースイッチを ACC または ON にしたとき、マルチインフォメーションディスプレイにオープニング画面が表示されます。

オープニング画面表示中は、ドライブ モード (→P.320) を切りかえてもメーター画面の表示は切りかわりません。 オープニング表示が終了すると、そのと き選択されているドライブモードのメーター画面が表示されます。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

▲ 警告

■運転中の使用について

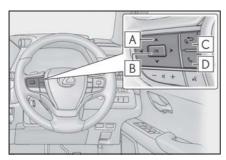
- ●マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に 十分注意してください。
- ●マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

→P.148

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次の ように操作します。



▲ ✓/>: メニューの切りかえ

▲ / ¥:表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

B 短押し:決定 長押し:リセット

€ ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。 ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

ドライブインフォメーションに ついて

■ 表示項目

メーター操作スイッチのくまたは

- を押して (1) を選択し、 ∧ または
- ▼ を押すことで次の項目を表示する ことができます。
- ドライブインフォメーション 1
- ドライブインフォメーション 2
- タイヤ空気圧
- 表示 OFF

■ ドライブインフォメーション 1 /2

次の項目から 1 画面につき 2 項目ずつ表示します。

表示する項目は、メニューアイコンのから変更することができます。 (→P.150)

表示される数値は参考として利用してください。

● 瞬間電費

現在の瞬間電費を表示します。

● 平均雷費

リセット間: リセット後の平均電費を表示 *1

● 平均車速

リセット間:リセット後の平均車速を表

示※1

始動後: EV システム始動後の平均車速 を表示

● 走行時間

リセット間: リセット後の経過時間を表示 *¹

始動後: EV システム始動後の経過時間 を表示

● 距離

走行可能距離:駆動用電池残量による走 行可能な距離を表示 ^{※2}

エアコンの作動中は、 アイコンとエアコンを使用した場合の走行可能距離が表示されます。 **3

始動後: EV システム始動後の走行距離 を表示

● その他

非表示

- **1リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの "OK"を長押しします。
- ※2現在の駆動用電池残量から算出した走行可能な距離を表示します。 (→P.66)
- **3エアコン使用時は、エアコンを使用していないときよりも航続可能距離が少なく表示されます。
- タイヤ空気圧
- →P.393
- 表示 OFF

画面表示が OFF になります。

ナビゲーションシステム連携表示について

ナビゲーションシステムと連携して、 次の情報を表示します。

- 目的地案内
- コンパス

オーディオシステム連携表示に ついて

オーディオソースの選択、選曲など の操作を行うことができます。

運転支援機能情報について

次のシステムの作動状況を表示しま す。

- LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.258)
- レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) (→P.270)
- RSA(ロードサインアシスト)

 $(\rightarrow P.267)$

- ITS Connect * (→P.288)
- ★: グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

警告メッセージについて

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。(→P.431)

設定について

- 変更できる項目(メーター表示)
- 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

電費表示の単位を選択することができま す。

● 車速表示

スピードメーターの表示を、デジタル/ アナログから選択することができます。

● ドライブインフォ 1 / ドライブインフォ 2

ドライブインフォメーションに表示させる項目をドライブインフォ 1、ドライブインフォ 2 それぞれに 2 項目ずつ選択することができます。 $(\rightarrow P.151)$

● 割り込み表示

一部の割り込み表示される項目の表示・ 非表示を、項目ごとに変更することがで きます。

● カレンダー

年・月・日を設定することができます。 (センターディスプレイの設定で、時計の GPS 補正を OFF にした場合にのみ、設 定が可能になります。)

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

| 知識

■設定画面の操作について

- ●一部の項目を除き、車両走行中は設定 画面を操作することができません。設 定を変更するときは、安全な場所に停 車して操作してください。
- ●警告メッセージが表示されたときは、 設定画面の操作が一時中断されます。

⚠ 注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に EV システムが作動している状態で実施してください。

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

■ パワーバックドア機能*の ON 切りかえ提案

パワーバックドアメインスイッチがOFF(でパワーバックドアの機能をOFFに設定しているとき)の状態で運転席のパワーバックドアスイッチを操作したときに、メインスイッチをONに変更する提案メッセージを表示します。このとき "はい"を選択すると、メインスイッチがONに変更されます。

メインスイッチが ON に変更されてから 再度パワーバックドアスイッチを操作す ると、バックドアを開閉することができ ます。

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

■ ヘッドランプ消灯提案

パワースイッチを OFF にしたあとに ランプスイッチが**■○**またはAUTOの 状態でヘッドランプを点灯したまま しばらく車内にいると、ヘッドラン プの消灯を提案するメッセージを表 示します。

このとき "はい" を選択すると、 ヘッドランプが消灯します。

パワースイッチを OFF にしてからメッセージが表示されるまでのあいだに運転 席または助手席のドアを開けたときは、提案メッセージが表示されません。

■ 窓閉め提案(ワイパー連動)

雨が車内に入ることを防ぐために、 ドアガラスが開いている状態でワイ パーが動き始めるとドアガラスを閉 める提案メッセージを表示します。

このとき "はい" を選択すると、 開いているすべてのドアガラスが閉 まります。

□ 知識

■カスタマイズ機能

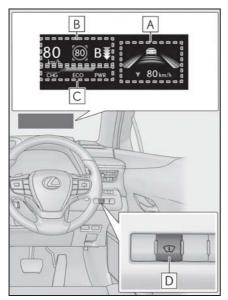
機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.464)

ヘッドアップディスプレイ ★

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際 の表示状況とは異なります。

▲ 運転支援システム表示エリア (→P.156) ナビゲーションシステム連携表示 エリア

ナビゲーションシステムと連携して、次 の内容が表示されます。

- 交差点名
- · 目的地案内

レーン(車線)案内

B 走行状況表示エリア

次の内容が表示されます。

- ・スピードメーター
- ・シフトポジション・回生ブレーキカインジケーター(→P.216, 220)
- RSA (ロードサインアシスト)表示 (→P.267)
- C EV システムインジケーター表示 エリア (→P.158)
- ▶ ヘッドアップディスプレイスイッチ

□知識

■ヘッドアップディスプレイの作動条件 パワースイッチが ON のとき

■ヘッドアップディスプレイを使用する ときは

サングラス(特に偏光サングラス)を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■交差点名表示について

地図データに情報がない場合など、状況 によっては交差点名称が表示されない場 合があります。

■レーン(車線)表示について

地図データに情報のない交差点では、 レーン表示は行われません。また、交差 点によっては、レーン表示と実際の交差 点形状が異なる場合があります。現場の 標識、道路形状に従ってください。

■外気温表示について

- ●次の場合、外気温が表示されます。
- ・ 外気温が約3°C 以下のとき(この場合、外気温が約10 秒間表示され、同時に低温表示灯が点滅します)

- ・オープニング画面 (→P.150) が表示 されたあと (外気温が約 10 秒間表示 されます)
- ●次の場合は、正しい外気温が表示され なかったり、温度表示の更新が遅く なったりすることがありますが、故障 ではありません。
- ・停車しているときや、低速走行(約 20km/h 以下)のとき
- ・ 外気温が急激に変化したとき (車庫・ トンネルの出入り口付近など)
- "--" または "E" が表示されたとき は、システム故障のおそれがあります。 レクサス販売店で点検を受けてくださ い。

▲ 警告

- ■ヘッドアップディスプレイを使用するときは
- ●映像の明るさ、および表示位置は、 安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。 調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

▲ 注意

■ヘッドアップディスプレイ映写部に ついて

●映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



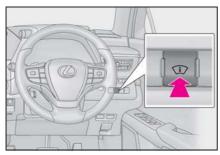
- ●映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
 - ヘッドアップディスプレイの表示の さまたげとなります。
- ●映写部の内部にふれたり、とがった ものを押し付けたりしないでくださ い。

装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使 い方

■ ヘッドアップディスプレイの表示 /非表示切りかえ

ヘッドアップディスプレイスイッチ を押すと表示/非表示が切りかわり ます。



■ ヘッドアップディスプレイの設定

マルチインフォメーションディスプ レイのから、次の設定を変更する ことができます。(→P.465)

● 表示の明るさ/上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整する ことができます。

● EV システムインジケーター **

EV システムインジケーター/表示なし のいずれかから表示内容を選択すること ができます。

※マルチインフォメーションディスプレ イの から、"車両設定"を選択 し、"HUD"を選択すると設定するこ とができます。

● 表示内容 **1

次の内容の表示/非表示を設定する ことができます。

- 目的地案内
- レーン表示
- ・ 運転支援システム表示 ※2
- オーディオ表示

※¹マルチインフォメーションディスプレ イのかから、"車両設定"を選択 し、"HUD"を選択すると設定する ことができます。

※2運転支援システムを使用するときは、

表示に設定してください

● 表示の傾き ※

表示の傾きを調整することができま

※マルチインフォメーションディスプレ イの から、"車両設定"を選択 し、"HUD"を選択すると設定するこ とができます。

知識

■ヘッドアップディスプレイの表示/非 表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にし たときは、パワースイッチを OFF にした あとで再度 ON にしても、非表示のまま です。

■表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイ のこによる明るさの調整に加えて、周囲 の明るさに応じて表示の明るさが自動で 調整されます。

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

ヘッドアップディスプレイの設定がリ セットされます。



■ヘッドアップディスプレイの設定を 変更するときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性 がありますので、確実に EV システム が始動している状態で実施してくださ い。

運転支援システム表示エリア

次のシステムの作動状況を表示しま す。

- LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.258)
- レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) (→P.270)

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。 詳しくは各システムの説明を参照してください。

割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み 表示されます。

■ 運転支援システム

次のシステムの警告/注意喚起/通知/作動状況を表示します。

- PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.248)
- 免 先行車発進告知機能(→P.281)
- ITS Connect ★ (→P.288)
- クリアランスソナー (→P.300)
- PKSB (パーキングサポートブレーキ) (→P.312)
- ブレーキオーバーライドシステム (→P.205)
- ▶ ドライバー異常時対応システム (→P.283)
- トライブスタートコントロール (→P.209)

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。 詳しくは各システムの説明を参照してください。

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

■ ▲/⑤アイコン

マルチインフォメーションディスプレイと連携して、次のアイコンが表示されます。

▲: マスターウォーニングアイコン

マルチインフォメーションディスプレイ に警告メッセージが表示されているとき に表示されます。(→P.431)

①: インフォメーションアイコン

マルチインフォメーションディスプレイ に提案サービス (→P.153) や操作アド バイスなどのメッセージが表示されてい るときに表示されます。

■ メッセージ表示

次のメッセージを表示します。

● 警告メッセージ

一部の警告メッセージが表示されます。 (マルチインフォメーションディスプレイの表示と同内容)

- ETC に関する通知
- オーディオ表示

ハンドル上のオーディオ操作スイッチを使用したときに表示されます。

■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。

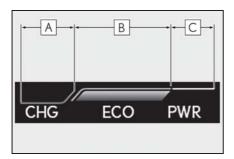
__ 知識

■割り込み表示について

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

EV システムインジケーター表 示エリア

■ EV システムインジケーター



- **A** チャージエリア
- Bエコエリア
- **C** パワーエリア

表示される内容はメーターの EV システ ムインジケーターと同様です。詳しくは、 P.148 を参照してください。

運転する前に

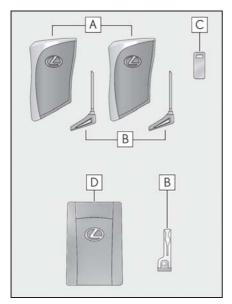
4

4-1.	+ -	
	+	160
	デジタルキー	164
4-2.	ドアの開閉、ロックのしかだ	Ė
	ドア	167
	バックドア	171
	スマートエントリー&スタート	
	テム	184
4-3.	シートの調整	
	フロントシート	189
	リヤシート	190
	ヘッドレスト	191
4-4.	ハンドル位置・ミラー	
	ハンドル	193
	インナーミラー	194
	ドアミラー	195
4-5.	ドアガラス・ムーンルーフ <i>0</i> 閉	D開
	パワーウインドウ	197
	ムーンルーフ	200

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

- スマートエントリー&スタートシステムの作動(→P.184)
- ・ ワイヤレス機能の作動
- リモートエアコンシステムの作動 (→P.341)
- B メカニカルキー
- C キーナンバープレート
- **D** カードキー

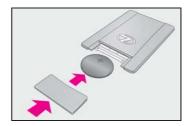
スマートエントリー&スタートシステム の作動 (\rightarrow P.184)

□ 知識

■カードキー

●カードキーに内蔵されているメカニカ ルキーは、カードキーが正常に作動し ないなどの緊急時にのみ使用してください。

●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の+極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



●カードキーは非防水です。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

- ■電池の標準的な寿命は1~2年です。 (カードキーの電池は1~1年半程度 で消耗します)
- ●電池残量が少なくなると、EV システム を停止した際に車内から警告音が鳴り ます。
- 長期間使用しない電子キーは、節電 モードにすることで電池の消耗を抑え ることができます。(→P.185)
- ●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→P.406)
- スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない

- 作動範囲が狭くなった
- ・電子キーの LED が点灯しない
- ■電池はお客様自身で交換することができます(→P.406)が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、レクサス販売店での交換をおすすめします。
- ●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。
- · TV
- ・パソコン
- ・携帯電話やコードレス電話機、および 充電器
- ・ 電気スタンド
- · 電磁調理器
- ■電池の交換方法
- →P.406
- ■電子キーの取り扱いについて

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認する ことができます。詳しくはレクサス販売 店へご相談ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに "新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください "と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをレクサス販売店で確認してください。

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを 使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

⚠ 注意

- ■キーの故障を防ぐために
- ■落としたり、強い衝撃を与えたり、 曲げたりしない
- ■湿度の高いところに長時間放置しない
- ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ●分解しない
- ■電子キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm以上離して携帯してください。 10cm以内にあると電化製品の電波と 干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー&スタートシス テムの故障などで販売店に車両を 持っていくとき

→P.448

⚠ 注意

■電子キーを紛失したときは

→P.447

■カードキーの取り扱いについて

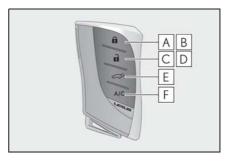
●電池やカードキーの電極がぬれた場 合は、電池が腐食するおそれがあり ます。

水の中に落としたときや飲料水など をこぼしたときは、ただちに電池力 バーをはずして電池および電極部分 をふき取ってください(電池カバー をはずすには、軽く持つて引き抜い てください)。電池が腐食した場合 は、レクサス販売店で電池を交換し てください。

- ●電池カバーを取りはずす場合は、押 しつぶしたりドライバーなどを使用 したりしないでください。 無理にこじ聞けようとすると、曲
 - がったり傷を付けたりするおそれが あります。
- ●電池カバーをひんぱんに取りはずす と、電池カバーが抜けやすくなるこ とがあります。
- ●電池を取り付けるときは、必ず電池 の向きを確認してください。電池の 向きを間違えると、電池が急激に消 耗する原因になります。
- ●次のような使い方をした場合は、 カードキーの表面に傷を付けたり塗 装がはがれたりするおそれがありま
- 小銭や鍵などの硬いものと同時に携 帯したとき
- ・シャープペンシルの先端などの鋭利 なものでこすったとき
- ・シンナーやベンジンでカードキーの 表面をふいたとき

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が装備 されています。



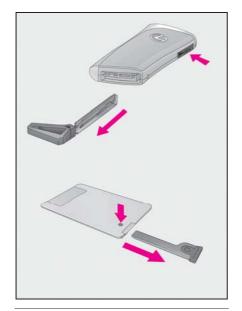
- A 全ドアを施錠する (→P.167)
- B ドアガラスとムーンルーフ★を閉 める[※] (→P.167)
- **C** 全ドアを解錠する (→P.167)
- **D** ドアガラスとムーンルーフ[★]を開 < * (→P.167)
- E パワーバックドア★を開閉する $(\rightarrow P.174)$
- **F** リモートエアコンシステムを作 動・停止する (→P.341)
- ★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。
- ※ レクサス販売店での設定が必要です。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解 除ボタンを押してキーを取り出して ください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定の ある片溝キーです。キーシリンダーに挿 し込めないときは、キー溝面の向きをか えて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P.448)



□ 知識

■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてグローブボックスを施錠 (→P.350) します。メカニカルキーを取 り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.447

■不正キーの使用について

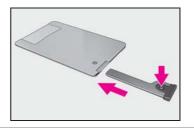
指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

■カードキーについて

メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などで解除ボタンを押してください。引き出しにくいと

きは、コインなどで引っかけてください。

●メカニカルキーをカードキーへ入れる ときは、解除ボタンを押しながら奥ま で入れてください。



/ 注意

■カードキーの取り扱いについて

メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

デジタルキー★

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

スマートフォンに専用のデジタル キーアプリをインストールするこ とで、スマートフォンを車両の電 子キーの代わりとして利用できま す。また、デジタルキーアプリを 使って、家族や友人などとのあい だで、デジタルキーを共有するこ ともできます。

本書では、デジタルキーについての基本的な情報のみを記載しています。システム全体の説明や、デジタルキーをお使いいただく上での注意事項やアプリのインストール方法などについては、デジタルキーのWebサイトの説明を必ずご覧の上、正しくご使用ください。

URL: https://toyota.jp/

digital_key/

QR コード:



■デジタルキーの取り扱い

- ・本機は、電波法の基準に適合しています。
- ・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

デジタルキーの使用条件

デジタルキーを使用するためには、

□ 知識

■QR コード

QR コードは(株)デンソーウェーブの登 録商標です。

■フリー/オープンソースソフトウェア 情報について

本製品はフリー/オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー/オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/dkey/toyota/

G-Link に契約したうえで、デジタルキー契約が必要となります。デジタルキー契約はレクサス販売店でのみ

行うことができます。

契約は有償(無料期間有)です。詳細は 販売店にお問い合わせください。

ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客さまのご負担となります。すべてのスマートフォンでの動作を保証している訳ではありません。対応機種・OS バージョンについては、デジタルキーの Web サイトをご覧ください。

デジタルキーの注意事項

- デジタルキーは本書に記載された 使用方法および注意事項を守って ご利用ください。 デジタルキーは以下の場合などで は使用できなくなることがありま す (詳細は、https://toyota.jp/ digital_key/をご確認ください)。 そのため、電子キーを常に携行す ることを推奨いたします。
- ・ スマートフォンが故障した場合
- スマートフォンとサーバーが通信できない場合
- スマートフォンのバッテリー残量が無くなった場合
- ・システムメンテナンス等により一時的 にサービスが停止している場合
- スマートフォンのバッテリー残量 がなくなると、デジタルキーとし ての使用もできなくなります。ス マートフォンのバッテリー残量が 少ない場合はお出かけ前に必ず充 電してください。
- デジタルキーは、スマートエント リー&スタートシステムに関連す るシステムです。そのため、車両 のカスタマイズ機能でスマートエ ントリー&スタートシステムを無 効にしているときは、デジタル

キーも使用できなくなります。

- デジタルキーでは、ドアハンドル にふれたり握ったりしてドアを施 錠/解錠することはできません。 (ワイヤレスで施錠/解錠することはできます)
- 電波環境によりデジタルキーが不 作動になる場合があります。(デ ジタルキーの Web サイト参照)
- ◆ お客様が車両を売却するときはデ ジタルキーを必ず削除してください。
 - 削除方法はデジタルキーの Web サイトを参照ください。
- 14 日間以上、車両の操作が無い 場合はデジタルキーが自動では接 続されません。その際は一度、電 子キーを所持頂き運転席のドアハ ンドルに触れて下さい。
- サーバーメンテナンス期間はサービスを一部停止させて頂く場合があります。ただし、登録済みのデジタルキーは一定期間ご利用いただけます。
- デジタルキーアプリで車両に登録 したスマートフォンは、車両の電 子キーと同様にドアの施錠/解錠 や EV システムの始動などが可能 になるため、スマートフォンの車 内への置き忘れや盗難などには特 にご注意ください。

万一、スマートフォンを紛失した、または盗難にあった場合は、クルマのディスプレイでデジタルキーを削除またはデジタルキーの設定を無効にしてください。または、ただちにレクサスオーナーズデスク、レクサス販売店にご相談ください。

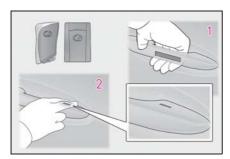
- 点検や修理などでレクサス販売店 にお越しの際は、電子キーを必ず ご持参ください。
- デジタルキーのみでは車両への接 近時の照明の点灯はしません。

ドア

車外から解錠/施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシ ステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 フロント席のハンドルを握って解 錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後3秒間は解錠できません。

2 フロント席のドアハンドル上側の ロックセンサー部(ハンドルのく ぼみ部)にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。 押し続けるとドアガラスとムーンルーフ

★が閉まります。[※]

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ

★ / * ***

- ★が開きます。※
- ★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。
- ※ レクサス販売店での設定が必要です。

□知識

■解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠 できるドアの設定を切りかえることができます。

- 1 パワースイッチを OFF にする
- **2** オートアラームの侵入センサーを停止 する

(操作中のオートアラーム誤作動防 止:→P.55)

- - **計** または *←* のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと5秒以上間隔をあけてから手順3を行ってください)

マルチインフォ メーションディス プレイ表示 / ブ ザー音	解錠できるドア
8	運転席のドアハンド ルを握ると運転席の み解錠
車外:"ピピッ" (3 回) 車内:"ポーン" (1 回)	助手席のドアハンド ルを握ると全席解錠
車外: "ピピッ" (2回) 車内: "ポーン"	運転席または助手席 のドアハンドルを握 ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。

■キーを使わずに車外からフロント席を 施錠をするときは

- 1 ドアロックボタンを押し下げる (→P.170)
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチが ACC または ON のとき や車内に電子キーが放置されているとき は施錠されません。ただし、キーが正し く検知されずに施錠される場合がありま す。

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、 すべてのドアが解錠されます。衝撃の度 合いや事故の状況によっては作動しない ことがあります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅 灯の点滅で知らせます。(施錠は1回、解 錠は2回)

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

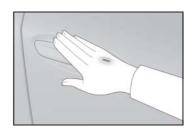
解錠操作後、約30秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドア を施錠しようとすると、ブザーが鳴りま す。ドアを完全に閉めてから、もう一度 施錠してください。

■ドアハンドル上部のロックセンサーで 施錠できないとき

ドアハンドル上部のロックセンサーに指 でふれても施錠できないときは、手のひ らでロックセンサーにふれてください。 手袋を着用しているときは、手袋をはず してください。



■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。 $(\rightarrow P.53)$

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.185

■スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動 しないとき

- ●メカニカルキーを使ってドアの施錠・ 解錠ができます。(→P.448)
- 電子キーの電池が消耗しているときは、 電池を交換してください。(→P.406)

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステム やワイヤレスリモコンでドアを施錠・解 錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解 錠をしてください。(→P.448)

■リヤシートリマインダー機能

- リヤシートへの荷物などの置き忘れを 防ぐために、次のいずれかの操作を 行ったあとにパワースイッチを OFF に すると、ブザーが鳴り、約6秒間マル チインフォメーションディスプレイに メッセージが表示されます。
- ・リヤドアを開閉したあと約 10 分以内 に EV システムを始動した
- EV システムが始動している状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約2秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しない可能性があります。

- ●リヤシートリマインダーは、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断する機能です。そのため、状況によっては、リヤシートリマインダー機能が作動せず、リヤシートに荷物などを置き忘れたり、正しく作動しなくなったりする可能性があります。
- リヤシートリマインダーの作動・非作動を切りかえることができます。 (→P.464)

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定

などを変更できます。 (カスタマイズ一覧:→P.465)

▲ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが 開き車外に放り出されるなど、重大な 傷害におよぶか、最悪の場合死亡につ ながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- ●走行中はドア内側のドアハンドルを 引かない

特に、運転席はドアロックボタンが 施錠側になっていてもドアが開くた め、注意してください。

◆お子さまをリヤ席に乗せるときは、 チャイルドプロテクターを使用して 車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

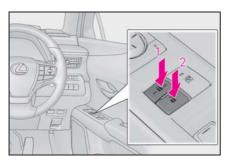
■ ワイヤレスリモコンを使ってドアガ ラスやムーンルーフ*を操作すると き

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

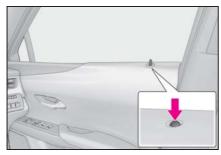
車内から施錠/解錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する



- 1 全ドアを施錠する
- 2 全ドアを解錠する
- ドアロックボタンを使って施錠する

ドアロックボタンを押し下げて、ドアを施錠する



■ ドアハンドルを使って解錠する

▶ 運転席ドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、ドアが開きます。

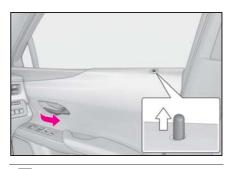
ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。

▶ 運転席以外のドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、再度ドアハンドルを引くとドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタン

が上がります。



□ 知識

■半ドア走行時警告ブザー

ボンネットまたはいずれかのドアが確実に閉まっていません。マルチインフォメーションディスプレイに開いているドアが表示されます。ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約5km/hをこえると警告ブザーが鳴ります。ボンネットおよび全ドアを確実に閉めてください。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内 から開かなくなります。



1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

__ 知識

■ チャイルドプロテクター使用時のドア の開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック 機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.463 を 参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ド アが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	EV システムが作動 中にシフトポジ ションを P 以外に したとき全ドアが 施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトポジション を P にしたとき全 ドアが解錠されま す。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席 ドアを開けると全 ドアが解錠されま す。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解 錠および開閉することができます。

▲ 警告

■走行する前に

走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。

バックドアが完全に閉まっていないと、 走行中にバックドアが突然開き、思わ ぬ事故につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。

開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、重大な傷害に およぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。

- ●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- ◆お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・腕・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

▲ 警告

バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、体を挟むなど して重大な傷害におよぶか、最悪の場 合死亡につながるおそれがあります。

- ●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- ●バックドアを開閉するときは、十分 に周囲の安全を確かめてください。
- ●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ●強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- ●パワーバックドア非装着車:半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。

特に傾斜した場所では、平坦な場所 よりもバックドアの開閉がしにくく、 急にバックドアが開いたり閉じたり するおそれがあります。必ずバック ドアが全開で静止していることを確 認して使用してください。



- ●パワーバックドア装着車:傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、 バックドアが突然閉じて重大な傷害 を受けるおそれがあります。必ず バックドアが静止していることを確 認して使用してください。
- ●バックドアを閉めるときは、指など を挟まないよう十分注意してください。

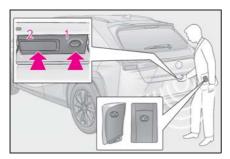


- ●バックドアは必ず外から軽く押して 閉めてください。バックドアハンド ルを持ったままバックドアを閉める と、手や腕を挟むおそれがあります。
- ●バックドアダンパーステー (パワーバックドア非装着車) (→P.174) または、スピンドルユニット (パワーバックドア装着車) (→P.181) を持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステー (パワーバックドア非装着車)または、スピンドルユニット (パワーバックドア装着車)が破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・腕・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

車外から施錠/解錠するには

■ スマートエントリー&スタートシ ステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



- 全ドアを施錠する
 必ず施錠されたことを確認してください。
 全ドアを解錠する
- 施錠操作後3秒間は解錠できません。
- **ワイヤレス機能を使用する** →P.162

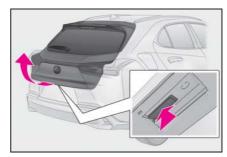
車内から施錠/解錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する→P.170

バックドアを開閉するには(パ ワーバックドア非装着車)

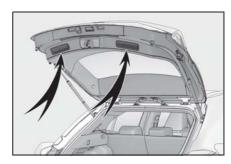
■ 開ける

バックドア解錠時に、バックドア オープンスイッチを押したまま、 バックドアを持ち上げる



■ 閉める

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



□ 知識

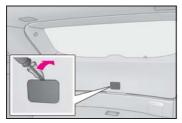
■ラゲージルームランプ

- ●バックドアを開けたとき、ラゲージ ルームランプが点灯します。
- ●パワースイッチが OFF の場合、ラゲー ジルームランプが点灯したままのとき は、約20分後に自動消灯します。
- ■バックドアが開かないときは

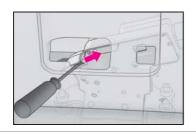
バックドアを内側から開けることができ ます。

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



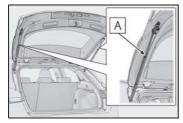
2 レバーを押す



★ 注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステー**A** が取り付けられています。ダンパーステー**A** の損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ●ビニール片・ステッカー・粘着材な どの異物をステーのロッド部(棒部) に付着させない
- ●ロッド部を軍手などでふれない

- ●バックドアにレクサス純正品以外の アクセサリー用品をつけない
- ■ステーに手をかけたり、横方向に力 をかけたりしない

バックドアを開閉するには(パ ワーバックドア装着車)

■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

スイッチを約1秒押し続ける

バックドア解錠時[※] に作動させることが できます。

※ カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。



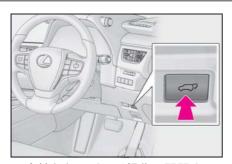
■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約1秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を 停止します。

作動を停止した状態から再度、スイッチを約1秒間押し続けると、バックドアは 反転作動します。



■ 車外からスイッチ操作で開閉する

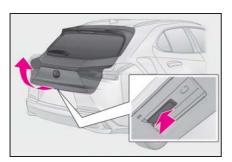
● 開ける

バックドア解錠時:バックドアオー プンスイッチを押す

バックドア施錠時:電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で開きます。

バックドアが開く途中でスイッチを押す と、作動を停止します。



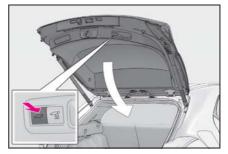
閉じる

スイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まり ます。

バックドアが閉まる途中でスイッチを押 すと、作動を停止します。

再度スイッチを押すと、バックドアは自動で開きます。



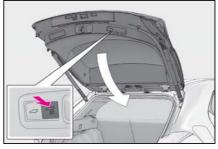
● 閉じると同時に全ドアの施錠をする(クローズ&ロック機能)

スイッチを押す

動で閉まります。

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。閉まると同時にすべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

パワーバックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動を停止します。 再度スイッチを押すと、バックドアは自

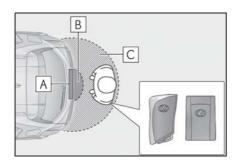


■ バックドアグリップを使用して閉じる

バックドアグリップを持ってバック ドアを引き下げると、ブザーが鳴り バックドアが自動で閉まります。

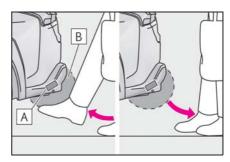


- ハンズフリーパワーバックドアを 使用して開閉する
- 1 電子キーを携帯し、スマートエントリー&スタートシステムの作動 範囲内でリヤバンパーから約50~70cm離れた位置に立つ



- A キックセンサー
- **B** ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア
- C スマートエントリー&スタートシステム作動検知エリア (→P.184)
- 2 足をリヤバンパーから約 10cm の距離になるまで近付けて、ブ ザーが 1 回鳴ったあと足を引く
- ・ 足を近付けて引く動作を 1 秒以内 に行ってください。
- 足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。
- リヤバンパーに足先をあてずに非 接触で操作してください。

- ・車室内またはラゲージルーム内に 他の電子キーがあると、作動まで の時間が少し長くなることがあり ます。
- ブザーが2回鳴った場合は、再度 足を近付けて引く動作を行ってく ださい。



- A キックセンサー
- **B** ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア
- 3 足を引く動作をキックセンサーが 検知するとブザーが鳴り、その後 バックドアが自動で全開・全閉し ます。

バックドアの作動中に再度操作をすると、 作動を停止します。

□知識

■ラゲージルームランプ

- ●バックドアを開けたとき、ラゲージ ルームランプが点灯します。
- パワースイッチが OFF の場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約20分後に自動消灯します。

■パワーバックドアの作動可能条件

パワーバックドアの作動が ON で、次のときに自動で開閉できます。

●バックドアが解錠されているとき、ただし次のときはバックドアが施錠され

4

ていてもパワーバックドアは作動しま す。

- ・電子キーを携帯してバックドアオープンスイッチを押したとき
- ワイヤレスリモコン使用時では、カス タマイズ機能により施錠時からでも作動できるように設定したとき
- ●パワースイッチがONのとき開作動する には、上記に加え、次のいずれかの条 件で作動します。
- パーキングブレーキがかかっている
- ブレーキペダルを踏んでいる
- · シフトポジションが P にある

■ハンズフリーパワーバックドアの作動 条件

- ハンズフリーパワーバックドアの作動 の設定が ON のとき
- 電子キーを携帯して作動範囲内にある とき (→P.184)

■バックドアイージークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、 バックドアイージークローザーが作動し、 バックドアが自動で完全に閉まります。

パワースイッチがどの状態であっても、 バックドアイージークローザーは作動し ます。

■パワーバックドアの作動について

- ●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅 灯が2回点滅します。
- ●パワーバックドアの作動が OFF のとき は、パワーバックドアは作動しません が手動で開閉できます。
- ●パワーバックドアが自動で開いている ときに、人や異物などにより異常を感 知すると、作動が停止します。

■予約ロック機能について

パワーバックドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

- 1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる
- 2 パワーバックドアの自動閉作動中にスマートエントリー&スタートシステムによる施錠操作を行う(→P.167)またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う(→P.162)

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブ ザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。 挟み込み防止機能やキー閉じ込み防止機 能により施錠されない場合があります。

■ クローズ & ロック機能について

パワーバックドアが開いている状態で、 パワーバックドアを閉じると同時に全ド アを施錠する機能です。

自車のもう 1 つの電子キーを車室内に置いていない状態で次の操作をすると、パワーバックドアが閉まると同時に全ドアも施錠されます。

- パワーバックドア以外のすべてのドア を閉じる

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが閉じると同時にすべてのドアが施錠したことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

■クローズ&ロック機能が正常に作動しない状況

クローズ&ロック機能は、次のような状況では作動しないことがあります。

●電子キーを持った手でパワーバックド

ア下部の **☆** スイッチ (→P.175) を押したとき

- ●地面に置いたかばんなどに電子キーを 入れたままパワーバックドア下部のマイッチ (、P 175) を押した
 - **☆** スイッチ (→P.175) を押した とき
- パワーバックドア下部の ☆ スイッチ(→P.175) から離れた位置から押したとき
- ■ハンズフリーパワーバックドアが正常 に作動しない状況

ハンズフリーパワーバックドアは、次のような状況では作動しないことがあります。

- ●足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき
- ●リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間触れたときリヤバンパーに一定時間触れた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。
- ●人がリヤバンパーに近すぎる位置で操作したとき
- 電子キーと車両間の通信をさまたげる 電波があるとき (→P.185)
- ●外部電源からの充電中、もしくは充電 ケーブルを車両に接続しているとき
- コインパーキング・ガソリンスタンド・ ロードヒーター・蛍光灯・鉄板の上な どハンズフリーパワーバックドアの感 度をさまたげる電波・ノイズ・金属が ある場所に駐車したとき
- ●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送 局・大型ディスプレイ・空港があるな ど、強い電波やノイズの発生する場所 にいるとき
- ●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量 の水がかかっているとき

- リヤバンパーの表面に泥・雪・氷など が付着したとき
- リヤバンパーに草木などの動くものが ふれる状態が長時間続いたとき
- ●リヤバンパーにアクセサリー用品を付けたとき アクセサリー用品を取り付けた場合は、 ハンズフリーパワーバックドアの作動 の設定を OFF にしてください。

■ハンズフリーパワーバックドアの誤作 動を防ぐために

ハンズフリーパワーバックドアは、電子 キーが作動範囲内にあるときに誤作動す るおそれがありますので、以下のことに ご注意ください。

- ●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき
- ●リヤバンパーの汚れを拭き取る動作を したとき
- ●小動物やボールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき
- ●リヤバンパーの下のものを取る動作を したとき
- ●リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき
- リヤバンパーに足や体を触れながら車 両を横切ったとき
- コインパーキング・ガソリンスタンド・ ロードヒーター・蛍光灯などハンズフ リーパワーバックドアの感度をさまた げる電波やノイズがある場所に駐車し たとき
- ●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送 局・大型ディスプレイ・空港があるな ど、強い電波やノイズの発生する場所 にいるとき
- ●リヤバンパーの近くに草木などがある 場所に駐車したとき
- ●リヤバンパーの近くで荷物などの積み

降ろしをしたとき

- リヤバンパーの近くでアクセサリー用 品やカーカバーの着脱作業したとき
- けん引されるとき

誤作動を防ぐときは、ハンズフリーパワーバックドアの作動の設定を OFF にしてください。

■補機バッテリーを再接続したときは

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。

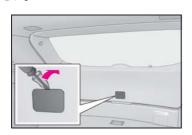


■バックドアが開かないときは

バックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



2 レバーを押す



■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧:→P.465)

▲ 警告

- ■バックドアイージークローザーについて
- ●バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



●バックドアイージークローザーは、 パワーバックドアの作動が OFF のと きにも作動するため、指などの挟み 込みには十分注意してください。

■パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、体を挟むなど して重大な傷害におよぶか、最悪の場 合死亡につながるおそれがあります。

- ●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる 危険がないか確認してください。
- ◆人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる 「声かけ」をしてください。
- ●自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- ●自動開閉中に作動可能条件 (→P.176)を満たさなくなったとき は、ブザーが鳴り、作動が停止し手 動操作に切りかわる場合があります。 この場合、傾斜した場所ではバック ドアが急に開いたり閉じたりするお それがあるので十分注意してくださ い。
- ●傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

- ●次のような場合、システムが異常と 判断して自動作動が停止し、手動操 作に切りかわることがあります。こ の場合、バックドアが急に開いたり 閉じたりするおそれがあるので、十 分注意してください。
- ・自動作動中、障害物に干渉したとき
- ・EVシステム停止時でパワーバックド アが自動作動しているときに、パ ワースイッチを ON にしたり EV シ ステムを始動したりして、補機バッ テリー電圧が急に低下したとき
- ●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

■挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、体を挟むなど して重大な傷害におよぶか、最悪の場 合死亡につながるおそれがあります。

- ●挟み込み防止機能を故意に作動させ ようとして、体の一部を挟んだりし ないでください。
- ●挟み込み防止機能は、バックドアが 完全に閉まる直前に異物を挟むと作 動しない場合があります。指などを 挟まないように注意してください。
- ●挟み込み防止機能は、挟まれるもの の形状や挟まれかたによっては作動 しない場合があります。指などを挟 まないように注意してください。

4

▲ 警告

■ハンズフリーパワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

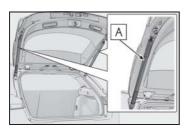
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる 危険がないか確認してください。
- リヤバンパーの下のスペースが狭い 場合は、操作しないでください。

↑ 注意

■スピンドルユニットについて

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニットAが取り付けられています。スピンドルユニット

A の損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ●ビニール片・ステッカー・粘着材な どの異物をスピンドルユニットに付 着させない
- ●ロッド部を軍手などでふれない
- ●バックドアにレクサス純正品以外の アクセサリー用品を付けない
- ■スピンドルユニットに手をかけたり、 横方向に力をかけたりしない

■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために

バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。 無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因となります。

- ■パワーバックドアの故障を防ぐため に
- ●パワーバックドアを作動させる前に、 凍結によるバックドアの貼り付きが ないことを確認してください。バッ クドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因にな ります。
- ●パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。
- パワーバックドア左右端部のセンサー(→P.179)を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■クローズ&ロック機能について

クローズ&ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。

正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。またパワーバックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

車から離れるときは、ドアロックアン サーバックを確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

⚠ 注意

■ ハンズフリーパワーバックドアにつ いて

ハンズフリーパワーバックドアを正し く作動させるために次のことをお守り ください。

- ●リヤバンパーに親水性コーティング などの液体を塗らない
- ●リヤバンパーへの強い衝撃を避ける リヤバンパーが強い衝撃を受けると、 ハンズフリーパワーバックドアが正 常に作動しなくなるおそれがありま す。次のような場合にハンズフリー パワーバックドアが作動しないとき は、必ずレクサス販売店で点検を受 けてください。
- ・キックセンサーやその周辺に強い衝撃を受けた
- リヤバンパーに傷や破損がある
- ●リヤバンパーを分解しない
- ●リヤバンパーにステッカーを貼らない
- ●リヤバンパーを塗装しない

パワーバックドアの作動を ON / OFF するには(パワーバッ クドア装着車)

マルチインフォメーションディスプレイで ON / OFF の切りかえができます。(\rightarrow P.150)

- 1 メーター操作スイッチの < または > を押して を選択する
- 2 メーター操作スイッチの ▲ または、▼ を押し、"車両設定"を 選択し "OK"を押す

- **4** メーター操作スイッチの ▲ または、 ▼ を押して "機能" を選択する
- 5 メーター操作スイッチの "OK" を押すごとに ON / OFF が切り かわる

OFF を選択して、パワーバックドアの作動を停止させた場合、再度、ON にしないとパワーバックドアの作動は復帰しません。(パワースイッチの操作では復帰しません)

ハンズフリーパワーバックドア の作動を ON / OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイでハンズフリーパワーバックドアセンサー(キックセンサー)のON / OFF の切りかえができます。 $(\rightarrow P.150)$

- 1 メーター操作スイッチの < または > を押して を選択する
- 2 メーター操作スイッチの ▲ または、 ▼ を押し、"車両設定"を 選択し "OK"を押す
- 4 メーター操作スイッチの ↑ または、 ▼ を押して "キックセンサー" を選択する

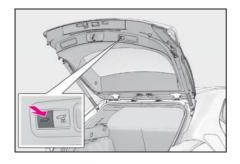
5 メーター操作スイッチの "OK" を押すごとに ON / OFF が切り かわる

OFF を選択して、ハンズフリーパワーバックドアの作動を停止させた場合、再度、ON にしないとハンズフリーパワーバックドアの作動は復帰しません。(パワースイッチの操作では復帰しません)

バックドア自動開停止位置調整 について(パワーバックドア装 着車)

パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

- **1** バックドアをお好みの位置で停止 させる(→P.174)
- 2 バックドア下部のスイッチを約 2 秒間押し続ける
- ・ 設定が完了するとブザーが4回鳴ります。
- ・次回パワーバックドアを開けると、その位置でバックドアが停止します。

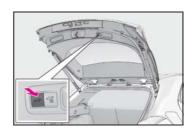


□知識

■バックドア自動開停止位置を初期状態 の位置にもどすには

バックドア下部のスイッチを約7 秒間押し続ける。

ブザーが4回鳴ったあと、さらに2回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。



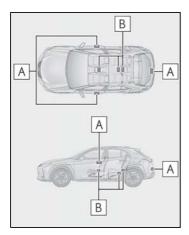
スマートエントリー&ス タートシステム

電子キー (カードキー含む) をポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- トアを施錠・解錠する (→P.167)
- バックドアを施錠・解錠する (→P.171)
- EV システムを始動する (→P.212)

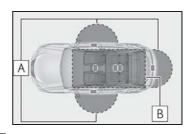
□ 知識

■アンテナの位置



- A 車外アンテナ
- B 車室内アンテナ

■作動範囲(電子キーの検知エリア)



|A||ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。 (電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

B EV システム始動時またはパワース イッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりし たとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。 $(\rightarrow P.431)$

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法 は次のようになります。

●車外から "ピー" と5 秒間鳴る

状況	対処方法
いずれかのドアが開いて いるときにスマートエン トリー&スタートシステ ムで施錠しようとした	たあと、再度 施錠してくだ

4

●車内から "ポーン、ポーン" と鳴り続ける

状況	対処方法
運転席ドアが開いている 状態でパワースイッチを ACC にした (ACC のと き運転席ドアを開いた)	パワースイッ チを OFF にし たあと、運転 席ドアを閉め てください。
運転席ドアが開いている 状態でパワースイッチを OFF にした	運転席ドアを 閉めてくださ い。

■マルチインフォメーションディスプレイに "車室内にキーがあります" と表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、スマート エントリー&スタートシステムでドアを 施錠しようとすると、警告メッセージが 表示されます。車内から電子キーを取り 出したあと、再度施錠してください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- ●次の状況では、スマートエントリー& スタートシステムによる解錠に時間が かかる場合があります。
- ・ 車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分 以上放置した
- 5日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- ●14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーを節電モードにするには

● 節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子

キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、

★ を 2 回押し、電子キーのインジケーターが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



●長期間使用しない電子キーは、節電 モードにしておくことをおすすめします。

■電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定 時間電子キーの位置に変化がなかった場 合、電池の消耗を抑えるために電子キー の機能が停止します。

この場合は、電子キーを持ち上げるなど して位置を動かすことで、自動的に復帰 します。

■機能が正常に働かないおそれのある状 況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法:→P.448)

- ●電子キーの電池が消耗しているとき
- ●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンス

- タンド・放送局・大型ディスプレイ・ 空港があるなど、強い電波やノイズの 発生する場所にいるとき
- ●無線機や携帯電話・コードレス式電話 などの無線通信機器を携帯していると き
- ■電子キーが、次のような金属製のもの に接していたり、覆われたりしている とき
- ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
- ・アルミ箔を使用したタバコの箱
- ・ 金属製の財布やかばん。
- 小銭
- ・カイロ
- · CD や DVD などのメディア
- ●近くで他の電波式ワイヤレスリモコン を使用しているとき
- ■電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
- ・他の車の電子キーや電波式ワイヤレス リモコン
- ・パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
- ・ デジタルオーディオプレーヤー
- ポータブルゲーム機器
- リヤウインドウガラスに金属を含む フィルムなどが貼ってあるとき
- ●充電器など電子機器の近くに電子キー を置いた場合
- ■コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき
- ■ご留意いただきたいこと
- ●電子キーが作動範囲内(検知エリア内) にあっても、次のような場合は正しく 作動しないことがあります。
- ・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドア ガラスやドアハンドルに近付きすぎて いる、または地面の近くや高い場所に ある
- EV システム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロアト・ラゲー

- ジルーム・ドアポケット・またはグ ローブボックス内などに置かれていた
- ●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- ●電子キーが作動範囲内にあれば、電子 キーを携帯している人以外でも施錠・ 解錠できます。ただし、電子キーを検 知しているドア以外は解錠しません。
- ■車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、EV システムを始動できることがあります。
- ●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。(ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約30秒後に自動で施錠します)
- ●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時に キーが車両の近くにあると、スマート エントリー&スタートシステムでの解 錠ができないことがあります。(ワイヤ レスリモコンを使用すると解錠できま す)
- ●手袋を着用していると施錠しないことがあります。
- ●ロック操作は、連続で2回まで有効です。3回目以降はロック動作しません。
- ●電子キーを携帯したまま洗車をすると、 水がドアハンドルにかかったときに施 錠・解錠をくり返すことがあります。 その場合は次のような処置をしてくだ さい。
- ・キーを車両から約2m以上離れた場所 に置く(盗難に注意し保管してください)
- ・キーを節電モードに設定してスマート エントリー&スタートシステムの作動

- ●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、車外のブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに "車室内にキーがあります" が表示されることがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。
- ●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- ●作動範囲内に他の電子キーがあると、 解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

- ●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m以上離しておいてください。
- ●あらかじめスマートエントリー&ス タートシステムを非作動にすることが できます。
- 電子キーを節電モードに設定すると、 電池の消耗を抑えることができます。 (→P.185)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させて ください。また、車外から操作する場合 は電子キーを車両に近付けすぎないよう にしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ●ドアの施錠・解錠ができないときは、 次の方法を行ってください。
- ・電子キーをドアハンドルに近づけて施 錠・解錠の操作をする
- ワイヤレスリモコンを使用する

上記の方法で施錠・解錠できないときは、 メカニカルキーを使って操作してくださ い。(→P.448)

なお、オートアラーム設定中にメカニカ ルキーで解錠すると、警報が鳴りますの でご注意ください。(→P.53)

●EV システムの始動ができないときは、 次の方法を行ってください。 (→P.450)

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステム を非作動にするなどの変更ができます。 (カスタマイズ一覧: \rightarrow P.466)

カスタマイズ機能でスマートエントリー &スタートシステムを非作動にしたとき は、次の操作の説明を参照してください。

- ドアの施錠・解錠:ワイヤレス機能、 またはメカニカルキーを使ってドアの 施錠・解錠ができます。(→P.167, 171,448)
- ●EV システムの始動・パワースイッチの モード切りかえ:→P.450
- ●EV システムの停止:→P.214

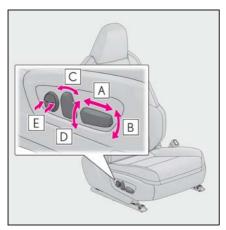
- ■電波がおよぼす影響について(ス マートエントリー&スタートシステ ムアンテナ)
- ●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ(→P.184)から約22cm以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型向心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

フロントシート

スイッチ操作により、シートの前後・上下位置などの調整ができます。正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。(→P.25)

調整するには



- A 前後位置調整
- B クッション前端の上下調整
- ℂ リクライニング調整
- D シート全体の上下調整
- **E** 腰部調整 (ランバーサポート) (運転席のみ)

□ 知識

■シートを調整するときは

- ●周囲の人やものがシートに挟まれないよう注意してください。
- ●ヘッドレストが天井にあたらないよう に注意してください。

▲ 警告

■シートを調整するとき

- ●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を 近付けないでください。 指や手を挟み、重大な傷害を受ける おそれがあり危険です。
- ●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでくだ さい。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

リヤシート

レバー操作により、リヤシートの背もたれを倒すことができます。

背もたれを倒すには

■ 操作する前に

1 車を安全な場所に駐車する

しっかりとパーキングブレーキをかけ、 シフトポジションを P にします。 (→P.222)

2 フロントシートの位置・背もたれ の角度を調整する(→P.189)

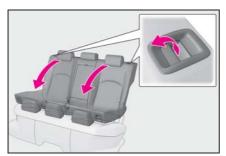
フロントシートの位置によっては、背も たれが後方に倒れていると、リヤシート の操作時にあたる場合があります。

- 3 リヤシートのヘッドレストを下げる(→P.191)
- 4 リヤシートのアームレストを引き 出している場合は、格納する (→P.365)

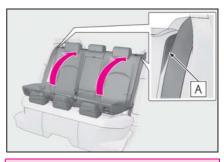
助手席側のシートのみを操作する場合、 この手順は不要です。

■ 前に倒すときは

ロック解除レバーを引きながら、背 もたれを倒す



■ 背もたれをもとにもどすときは シートベルトをシートベルトガイド A にかけて、シートとボデーのあいだに挟まれないように操作してください。また、背もたれがロックされるまで確実にもどしてください。



A 警告

■背もたれを前倒しするときや、前倒ししたあとは

次のことをお守りください。 お守りいただかないと、重大な傷害に およぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。

- ●走行中に前倒しをしない
- ●平坦な場所で確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにする
- ●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- ●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- ●シートに人が乗っている状態で背も たれを操作しない
- ●操作中は、可動部や結合部に手足を 挟まないように注意する
- ●お子さまに操作させない

■背もたれをもとの位置にもどしたあ とは

次のことをお守りください。 お守りいただかないと、重大な傷害に およぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実 に固定する

背もたれが確実に固定されていないと きは、レバーに赤色が見えます。赤色 が見えていないことを確認してくださ い。



シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに 装備されています。

▲ 警告

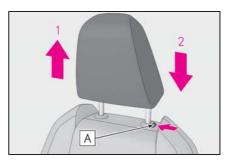
■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。 お守りいただかないと、重大な傷害に およぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート 専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、 ヘッドレストを押し下げて固定され ていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

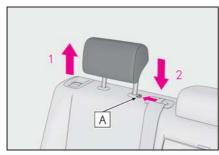
■ フロント席



- 1 上げる
- 2 下げる

下げるときは、解除ボタンA を押しながら操作します。

■ リヤ席



1 上げる

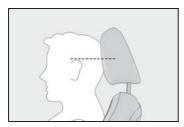
2 下げる

下げるときは、解除ボタンA を押しながら操作します。

□知識

■ヘッドレストの高さについて(フロント席)

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちば ん上のあたりになるよう調整してくださ い。



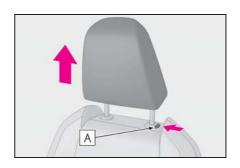
■リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段 上げた位置にしてください。

ヘッドレストを取りはずすには

解除ボタン $\boxed{\mathbf{A}}$ を押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取り はずしにくいときは、シートの高さ や角度をかえてください。 (→P.189, 190)

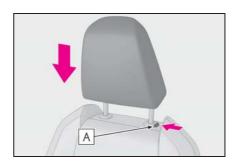


ヘッドレストを取り付けるには

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタン

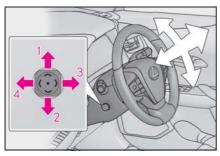
A を押しながら操作してください。



ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを 次の方向に動かします。



- 1 上方へ
- 2 下方へ
- 3 手前へ
- 4 前方へ

□知識

■ハンドル位置調整の作動条件

パワースイッチが ACC、または ON のと き **

- ※ 運転席シートベルトを装着していれば、 パワースイッチのモードにかかわらず、 ハンドルの調整ができます。
- ■運転席への乗降をしやすくする(オートアウェイ&オートリターン機構)

パワースイッチを OFF にすると、乗降が しやすくなるように、ハンドルが動きま す。

パワースイッチを ACC または ON にすると、もとの位置にもどります。



■カスタマイズ機能

オートアウェイ&オートリターン機構の 設定を変更できます。

(カスタマイズ一覧:→P.467)

▲ 警告

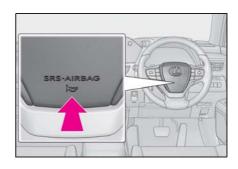
■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、 最悪の場合死亡につながるおそれがあ ります。

ホーン(警音器)を使うには

ハンドルの **一** 周辺部を押すと ホーンが鳴ります。



インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整するには

運転姿勢に合わせてインナーミラー の高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持つて、上下 方向に調整する



警告

■走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでくだ さい。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、 最悪の場合死亡につながるおそれがあ ります。

防眩機能を使うには

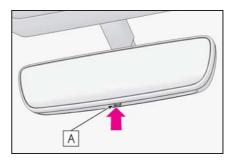
後続車のヘッドランプのまぶしさに 応じて反射光を自動的に減少させま す。

自動防眩機能の ON / OFF を切り かえる

ON のときはインジケーター $\boxed{f A}$ が点灯します。

パワースイッチを ON にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

ボタンを押すと OFF になりインジケーター \mathbf{A} が消灯します。



□知識

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサー にふれたりセンサーを覆ったりしないで ください。



ドアミラー

安全に運転していただくためには、 運転する前に視界が確保できるよ うミラーの角度を調整してくださ い。

□知識

■寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

▲ 警告

■走行中の留意事項

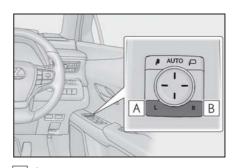
走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って 重大な傷害におよぶか、最悪の場合死 亡につながるおそれがあります。

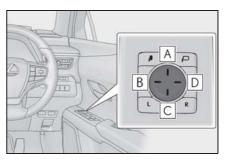
- ●ミラーの調整をしない
- ●ドアミラーを格納したまま走行しない
- ●走行前に必ず、運転席側および助手 席側のミラーをもとの位置にもどし て、正しく調整する

調整するには

1 調整するミラーを選ぶ



- A 左
- B右
- 2 ミラーの鏡面を調整するにはス イッチを押す



- A上
- B左
- C下
- D右

□ 知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、 曇りを取ることができます。(→P.334)

■自動防眩機能

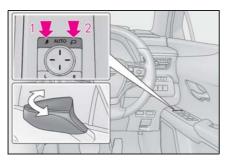
インナーミラーを自動モードにしておく と、運転席側のドアミラーも連動して防 眩機能が作動します。(→P.194)

▲ 警告

■ ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納するには



格納する

2 もとの位置にもどす

スイッチを中立の位置 ("AUTO") に すると自動モードに切りかわり、ドアの 施錠・解錠と連動します。

□ 知識

■カスタマイズ機能

オート電動格納の設定を変更できます。 (カスタマイズ一覧:→P.467)

▲ 警告

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。 手を挟んでけがや、ミラーの故障など の原因になるおそれがあります。

リバース連動機能

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置(L・Rともに選択していない状態)にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整 するときは

シフトポジションを R にした状態 で、鏡面位置を調整することで、下 向きに動く角度を調整できます。

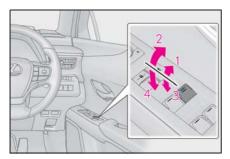
次回からシフトポジションをRにするたびに、その角度で作動します。

通常時(シフトポジションが R 以外のとき)の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

パワーウインドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、ドアガラスを開 閉できます。



- 1 閉める
- 2 自動全閉※
- 3 開ける
- 4 自動全開※
- ※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

፟──知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■EV システム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠と ドアガラスのあいだに異物が挟まると、 作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物が ドアガラスとドアのすき間に巻き込まれ ると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができない ときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が 異常に作動してしまい、ドアガラスを開 閉することができないときは、開閉する ことができないドアのパワーウインドウ スイッチで、次の操作を行ってください。

- ●車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- ●上記の操作を行ってもドアガラスが開 閉できない場合、機能の初期化を次の 手順で実施してください。
- 1 パワースイッチを ON にする
- 2 パワーウインドウスイッチを「自動全 閉」の位置で引き続け、ドアガラスを 全閉にする
- 3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約1秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約4秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウインドウスイッチを 「自動全閉」の位置で引き続け、ドア ガラスを閉めたあと、さらにスイッチ を約1秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を 離すと、最初からやり直しとなります。 以上の操作を行っても反転して閉じ切ら ない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- ●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※ (→P.449)
- ●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開 閉できます。※ (→P.167)
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。 (→P.53)
- ※ レクサス販売店での設定が必要です。

■窓開警告ブザー

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに "窓が開いています" が表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。

(カスタマイズ一覧:→P.467)

▲ 警告

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、重大な傷害に およぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。

■ドアガラスを開閉するときは

- ●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P.199)
- ●ドアガラスを開閉するときは、乗員 の手・腕・頭・首などを挟んだり巻 き込んだりしないようにしてくださ い。特にお子さまへは手などを出さ ないよう声かけをしてください。



- ●ワイヤレスリモコンやメカニカル キーを使ってドアガラスを操作する ときは、ドアガラスに人が挟まれる おそれがないことを確認してから操 作してください。またお子さまには、 ワイヤレスリモコンやメカニカル キーによる操作をさせないでくださ い。お子さまや他の人がドアガラス に挟まれたり巻き込まれたりするお それがあります。
- ●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- ●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- ●挟み込み防止機能は、ドアガラスが 完全に閉まる直前に異物を挟むと作 動しない場合があります。また、挟 み込み防止機能は、スイッチを引き 続けた状態では作動しません。指な どを挟まないように注意してくださ い。

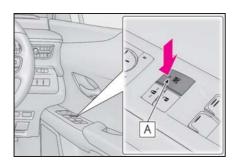
■巻き込み防止機能

- ●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- ●巻き込み防止機能は、ドアガラスが 完全に開く直前に異物を巻き込むと 作動しない場合があります。手・ 腕・服などを巻き込まないように注 意してください。

誤操作を防止するには(ウインドウロックスイッチ)

お子さまが誤ってドアガラスを開閉 することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター A が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。



□知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になる ため、補機バッテリーを接続したあと、 再度ウインドウロックスイッチを ON に する必要があります。

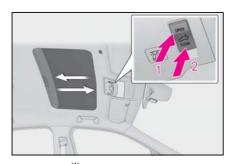
ムーンルーフ★

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

頭上のスイッチでムーンルーフを 開閉・チルトアップ/ダウンでき ます。

ムーンルーフを操作するには

■ ムーンルーフを開閉するには



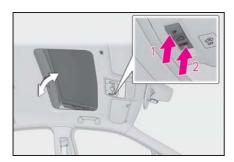
1 開ける [※]

チルトアップしてから開きます。

2 閉める[※]

** 途中で停止するときは、ムーンルーフ スイッチを軽く押します。

■ チルトアップ/ダウンするには



- **1** チルトアップする **
- 2 チルトダウンする※
- ※ 途中で停止するときは、ムーンルーフ

スイッチを軽く押します。

□知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■EV システム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。 ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- ●メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。** (→P.449)
- ●ワイヤレスリモコンでムーンルーフを 開閉できます。[※] (→P.162)
- ●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能でムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→P.53)
- ** レクサス販売店での設定変更が必要です。
- ■ムーンルーフが正常に閉まらないとき 次の操作を行ってください。
- 1 車を停止する
- 2 スイッチの "CLOSE" 側を押し続ける※

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10

秒間停止します。その後再び閉じ、全 閉位置で停止します。

- **3** ムーンルーフが完全に閉まったことを 確認し、スイッチから手を離す
- ※ 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフが正常に働かないとき

ムーンルーフの開閉操作や自動全開機能 が正常に働かないときは、次の手順で初 期化を行ってください。

- 1 車を停止する
- **2** スイッチの "DOWN" 側を押し続ける [※]

ムーンルーフがチルトアップ位置で停止 します。その後開いて閉じ、チルトアッ プしたあとチルトダウンして全閉位置で 停止します。

- **3** ムーンルーフが完全に閉まったことを 確認し、スイッチから手を離す
- ※ 途中でスイッチから手を離すと、最初 からやり直しとなります。

以上の操作を行っても開閉操作や自動全 開機能が正常に働かない場合は、 レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

パワースイッチが OFF でムーンルーフが 開いていると、運転席ドアを開けたとき にブザーが鳴り、メーター内のマルチイ ンフォメーションディスプレイに "ムー ンルーフが開いています" が表示されま す。

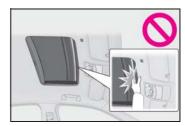
■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.467)

▲ 警告

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと重大な傷害にお よぶか、最悪の場合死亡につながるお それがあります。

- ■ムーンルーフを開けているときは
- ●走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない
- ■ムーンルーフを開閉するときは
- ●運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- ●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・ 首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。





- ワイヤレスリモコンやメカニカル キーを使ってムーンルーフを操作す るときは、ムーンルーフに人が挟ま れるおそれがないことを確認してか ら操作してください。 またお子さまには、ワイヤレスリモ コンやメカニカルキーによる操作を させないでください。お子さまや他 の人がムーンルーフに挟まれたり巻 き込まれたりするおそれがあります。
- ●車から離れるときはパワースイッチ を OFF にし、キーを携帯してお子さ まも一緒に車から離れてください。 いたずらなどによる誤った操作によ り、思わぬ事故につながるおそれが あります。

■挟み込み防止機能

- ●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- ●挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

5

5-1.	運転にあたって	ITS Connect288
	運転にあたって 204	BSM(ブラインドスポットモニ
	荷物を積むときの注意 210	ター) 294
5-2.	運転のしかた	PKSA (パーキングサポートアラー ト) 299
	パワー(イグニッション)スイッチ	
	212	クリアランスソナー 300
	シフトポジション 216	RCTA (リヤクロストラフィックア ラート)
	方向指示レバー221	PKSB (パーキングサポートブレー
	パーキングブレーキ 222	キ) 312
	ブレーキホールド 224	パーキングサポートブレーキ(静止
	ASC(アクティブサウンドコント	物) 317
	ロール)226	パーキングサポートブレーキ(後方
5-3.	ランプのつけ方・ワイパーの使	接近車両)3 19
	い方	ドライブモードセレクトスイッチ
	ランプスイッチ 227	320
	AHS (アダプティブハイビームシス	運転を補助する装置321
	テム) 230	5-5. 運転のアドバイス
	AHB (オートマチックハイビーム) 234	寒冷時の運転327
	フォグランプスイッチ 236	
	ワイパー & ウォッシャー(フロン ト)	
	ワイパー & ウォッシャー(リヤ)	
	241	
5 1	運転支援装置について	
J- 4 .		
	Lexus Safety System + 243	
	PCS (プリクラッシュセーフティ) 248	
	LTA(レーントレーシングアシス	
	ト) 258	
	RSA (ロードサインアシスト). 267	
	レーダークルーズコントロール(全 車速追従機能付き) 270	
	先行車発進告知機能	

ドライバー異常時対応システム 283

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従っ て走行してください。

安全に走行するには

■ 乗車前の確認事項

充電ケーブルが車両に接続されていないことを確認する(→P.89,97)

■ EV システムを始動する

→P.212

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする

シフトポジション表示灯が D であること をメーターで確認します。

- 2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する(→P.222)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆつくり踏み発進する

■ 停車する

- 1 ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレー キをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。(→P.216)

■ 駐車する

- 1 ブレーキペダルを踏み、車を完全 に停止させる
- 2 パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける(→P.222)

3 シフトポジションを P にする (→P.216)

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

- **4** パワースイッチを押して EV システムを停止する
- 5 ブレーキペダルからゆつくり足を 離す
- 6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車する場合は、必要に応 じて輪止め ** を使用してください。

** 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

1 ブレーキペダルをしっかり踏み、 シフトポジションを D にする

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。

- 2 パーキングブレーキをかける (→P.222)
- 3 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆつくり踏み車を発進する
- 4 車が動き出す感触を確認したら、 パーキングブレーキを解除する (→P.222)

፟──知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールを使用することができます。(→P.322)

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラス が曇ったり、路面がすべりやすくなっ たりするので、慎重に走行してくださ

- ●雨の降りはじめは路面がよりすべりや すいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと 路面のあいだに水膜が発生し、ハンド ルやブレーキが効かなくなるおそれが あるので、スピードは控えめにしてく ださい。
- ■EV システム出力の抑制について(ブレーキオーバーライドシステム)
- ●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、EV システム出力を抑制する場合があります。
- ●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■カスタマイズ機能

後退速度の抑制制御の設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧: →P.471)

▲ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、 最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

READY インジケーターが点灯している 状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

- ●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・アクセルペダルをブレーキペダルと 間違えて踏むと、車が急発進して思 わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・後退するときは体をひねった姿勢と なるため、ペダルの操作がしにくく なります。ペダル操作が確実にでき るよう注意してください。
- ・車を少し移動させるときも正しい運 転姿勢をとり、ブレーキペダルとア クセルペダルが確実に踏めるように してください。
- ・ブレーキペダルは右足で操作してく ださい。左足でのブレーキ操作は緊 急時の反応が遅れるなど、思わぬ事 故につながるおそれがあり危険です。
- ●電気自動車は電気モーターで走行するためエンジン音がありません。そのため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- ●通常走行時は、走行中に EV システムを停止しないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルや ブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に 停車してください。

なお、通常の方法で車両を停止する ことができないような緊急時は、 P.416を参照してください。

- ●急な下り坂では、回生ブレーキを使用してスピードを下げてください。 フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.216)
- ●マルチインフォメーションディスプレイに "回生ブレーキ制限中 減速時は ブレーキを踏んでください"が表示されたときは、ブレーキペダルをしっかり踏んで減速してください。(→P.433)
- ●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体 の一部を車から出さないようにして ください。
- ●渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートや EV システムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- ■すべりやすい路面を運転するとき
- ●急ブレーキ・急加速・急ハンドルは タイヤがスリップし、車両の制御が できなくなるおそれがあります。
- ●急激なアクセル操作、シフト操作に よる回生ブレーキで車が横すべりす るなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを 軽く踏んでブレーキが正常に働くこ とを確認してください。ブレーキ パッドがぬれるとブレーキの効きが 悪くなったり、ぬれていない片方だ けが効いたりしてハンドルをとられ るおそれがあります。

■シフトポジションを変更するとき

- ●前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。 思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。
- ●車両が動いているあいだは、Pポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- ●車両が前進しているあいだは、シフトポジションをRにしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- ●車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- ●走行中にシフトポジションをNにすると、EVシステムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。
- ●アクセルペダルを踏み込んだまま操作をしないように気を付けてください。シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■継続的にブレーキ付近から警告音 (キーキー音)が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

- ●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●車が動き出すことによる事故を防ぐ ため、READY インジケーターが点灯 しているときは常にブレーキペダル を踏み、必要に応じてパーキングブ レーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き 出して事故につながることを防ぐた め、常にブレーキペダルを踏み、必 要に応じてパーキングブレーキをか けてください。

■駐車するとき

- ●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
 - 放置したままでいると、次のような ことが起こるおそれがあり危険です。
- ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
- ・プラスチックレンズ・プラスチック 素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
- ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚し たり、電気部品がショートする原因 になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ●フロントウインドウガラスなどには 吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器 を置かないでください。 吸盤や容器がレンズの働きをして、 車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやドアガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキン グブレーキをかけ、シフトポジショ ンを P にし、EV システムを停止し、 施錠してください。

READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。

パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■仮眠するとき

必ず EV システムを停止してください。 READY インジケーターが点灯した状態 のまま仮眠すると、無意識にシフトレ バーを動かしたり、アクセルペダルを 踏み込んだりして、車が発進して事故 につながり、重大な傷害におよぶか、 最悪の場合死亡につながるおそれがあ ります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段 よりも注意して走行してください。 ブレーキがぬれていると、制動距離 が長くなり、ブレーキのかかりに、 左右の違いが出るおそれがあります。 また、パーキングブレーキがしつか りとかからないおそれもあります。
- ●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

▲ 注意

■運転しているとき

- ■運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。 アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、EVシステム出力を抑制する場合があります。
- ●坂道で停車するために、アクセルペダルとダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■部品の損傷を防ぐために

- ●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐ ため、段差などを通過するときは、 できるだけゆっくり走行してくださ い。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしつかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ●ハンドルがとられる
- ●異常な音や振動がある

運転

▲ 注意

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P.435 をご覧ください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがある ため、走行しないでください。

- ●電装品がショートする
- ●水の侵入による駆動用電池の破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に 浸かってしまったときは必ずレクサス 販売店で次の点検をしてください。

- ●ブレーキの効き具合
- ▶ランスミッションフルードなどの 量および質の変化
- ●各ベアリング・各ジョイント部など の潤滑不良
- ■駆動用電池に接続されている構成部品

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションがPに切りかえられない、またはPから他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。その場合はレクサス販売店へご連絡ください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。 パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■事故にあったとき

駆動用電池や周辺部品が損傷すると、 誤作動の原因になる可能性があります。 軽度の事故であっても、レクサス販売 店で点検を受けてください。

急発進および後退速度の抑制 (ドライブスタートコントロー ル)

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、 次のようにシフトポジションを切り かえたとき、EV システム出力を抑制 することがあります。

- R に切りかえたとき **
- PまたはRから、Dなどの前進シフトポジションに切りかえたとき **

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

** 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるよう に EV システム出力を抑制 [※] しま す。

後退速度の抑制制御が作動している ときは、マルチインフォメーション ディスプレイに "速度抑制中" が 表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制 できない場合があります。

□知識

■ドライブスタートコントロールについて

- ●TRC の作動を停止(→P.322) すると、 急発進の抑制制御も停止します。急発 進の抑制制御により、ぬかるみや新雪 などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。 (→P.322)
- ●タイヤがスリップ(空転)していると、 後退速度の抑制制御が作動することが あります。
- ●後退速度の抑制制御のON(作動)/ OFF(非作動)を切りかえることができます。(→P.463)
- パワースイッチを ON にしたときは、 後退速度の抑制制御は常に ON (作動) になっています。
- ・後退速度の抑制制御を OFF (非作動) にしても、急発進の抑制制御は作動し ます。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするため に、荷物を積むときは次のことを お守りください。

▲ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- ●燃料が入った容器
- ●スプレー缶
- ■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、ブレーキペダ ル・アクセルペダルを正しく操作でき なかったり、荷物が視界をさえぎった り、荷物が乗員に衝突したりして、思 わぬ事故につながるおそれがあり危険 です。

- ●できるだけ荷物はラゲージルームに 積んでください。
- ●シート背もたれより高いものをラ ゲージルームに積まないでください。
- ●後席のシート背もたれを折りたたん で荷物を積むときは、荷物を積み重 ねないでください。
- ●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

- 次の場所には荷物を積まないでください。
- · 運転席足元
- ・助手席やリヤ席(荷物を積み重ねる場合)
- ・トノカバー
- ・インストルメントパネル
- ・ダッシュボード
- センターディスプレイの前
- ●室内に積んだ荷物はすべてしつかり と安定させてください。
- ●ルーフレール装着車:ルーフレール には直接荷物を置かないでください。 荷くずれを起こしたりして思わぬ事 故につながるおそれがあり危険です。
- ■荷物の重量・荷重のかけ方について
- ●荷物を積み過ぎないでください。
- ●荷重を不均等にかけないようにして ください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ルーフレール★を使用するときは

ルーフレールをルーフラゲージキャリアとして使用するときは、2つ以上のレクサス純正キャリアを装着してください。レクサス純正品以外を装着される場合は、レクサス純正品に相当するものを装着してください。

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

●車両に荷重が均等になるように荷物 を積んでください。

- ●車両の大きさ(全長、全幅)をこえる荷物を積まないでください。
- ●走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。
- ●ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。 高速走行、急加速、急旋回、急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●長距離走行、荒れた路面での走行、 高速走行をするときは、時おり車両 を止めて、荷物が固定した位置にあ ることを確認してください。
- ●80kg以上の荷物を積まないでください。
- ★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

1 注意

■荷物を積むとき

ムーンルーフ★に荷物がふれないよう にしてください。お守りいただかない と傷が付いたり割れたりするおそれが あります。

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

パワー(イグニッション) スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、EVシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

EV システムを始動するには

- 充電ケーブルが車両に接続されていないことを確認する(→P.89, 97)
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す(→P.222)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯 が点灯します。

3 ブレーキペダルをしつかり踏む マルチインフォメーションディスプレイ に ことメッセージが表示されます。

表示されないと、EV システムは始動しません。

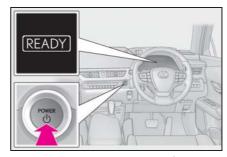
シフトポジションが N と表示されている ときは、EV システムを始動できません。 EV システムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。 $(\rightarrow P.216)$

4 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、 EV システムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまで ブレーキペダルを踏み続けてください。 パワースイッチのどのモードからでも EV システムを始動できます。



5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している 状態では走行できません。

知識

■パワースイッチ照明

状況に応じて、次のようにパワースイッチ照明が切りかわります。

- ●運転席または、助手席のドアが開いているとき、もしくはパワースイッチをACC または ON から OFF にしたときは、パワースイッチ照明が遅く点滅します。
- ■電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、パワースイッチ照明が速く点滅します。
- ●パワースイッチがACCまたはONのとき は、パワースイッチ照明が点灯します。

■EV システムが始動しないときは

- ●イモビライザーシステムが解除されて いない可能性があります。(→P.52) レクサス販売店へご連絡ください。
- ●車両に充電ケーブルが接続されている ときは、EV システムを始動することは できません。(→P.86)
- 始動操作に関するメッセージがマルチ インフォメーションディスプレイに表 示されている場合は、画面の指示に

運転

従ってください。

- スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動していない場合があります。(→P.450)
- ●メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー&スタートシステムで EV システムを始動することができません。EV システムを始動するには、P.450 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合(→P.170)は EVシステムを始動できます。

■外気温が低いときは

- ●EVシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READYインジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。
- 極寒の環境などで駆動用電池の温度が 著しく低くなっている場合(およそー 30℃以下)、EVシステムが始動できな くなることがあります。その場合は気 温の上昇を待つなど、駆動用電池の温 度が上がってから再度始動操作をして ください。

■EV 車特有の音と振動について

→P.59

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムで EV システムを始動することができません。EV システムを始動するには、P.451を参照してください。

■電子キーの電池の消耗について

→P.160

■電子キーが正常に働かないとき

→P.185

■ご留意いただきたいこと

→P.186

■万一、READY インジケーターが点灯し ないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

■EV システムに異常があるときは

→P.64

■電子キーの電池交換

→P.406

■パワースイッチの操作について

- ■スイッチを短く確実に押せてない場合 は、モードの切りかえや EV システムの 始動ができない場合があります。
- ●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、EV システムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー &スタートシステムを非作動にしたとき は、P.448 を参照してください



■EV システムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。 このとき決してアクセルペダルは踏ま ないでください。思わぬ事故につなが り、重大な傷害におよぶか、最悪の場 合死亡につながるおそれがあります。



■EV システムを始動するとき

もし EV システムが始動しにくい場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりな どの違和感があるときは、故障のおそ れがあります。すみやかにレクサス販 売店にご連絡ください。

EV システムを停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキがマニュアル モードのときは、パーキングブ レーキをかける (→P.222)
- 3 P ポジションスイッチを押す $(\rightarrow P.216)$

シフトポジション表示灯が P であること と、パーキングブレーキ表示灯が点灯し ていることを確認します。

4 パワースイッチを押す

EV システムが停止し、メーター表示が 消えます。(シフトポジション表示灯は、 メーター表示が消えたあとも数秒間表示 されています)

5 ブレーキペダルから足を離して メーターの "アクセサリー" や "イグニッション ON" の表示 が消灯していることを確認する

知識

■シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パ ワースイッチを操作して OFF にしようと しても ACC になることがあります。その 場合は、パーキングブレーキをかけてか らパワースイッチを操作すると OFF にす ることができる場合があります。システ ムが故障した場合は、すみやかにお近く のレクサス販売店で点検を受けてくださ 610

■自動Pポジション切りかえ機能について →P.218

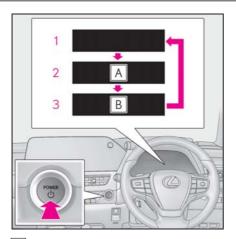
▲ 警告

■緊急時の EV システム停止方法

- 走行中に EV システムを緊急停止した。 い場合には、パワースイッチを2秒 以上押し続けるか、素早く3回以上 連続で押してください。(→P.416) ただし、緊急時以外は走行中にパ ワースイッチにふれないでください。 走行中に EV システムを停止しても ハンドルやブレーキの操作は可能で すが、補機バッテリーの残量や使用 状況によっては、車両が停止する前 にハンドルの操作力補助がなくなり、 ハンドル操作が困難になります。安 全を確認した上で、すみやかに道路 脇に停車してください。
- ●走行中にパワースイッチを操作する と、マルチインフォメーションディ スプレイに警告メッセージが表示さ れ、警告ブザーが鳴ります。
- ●走行中に EV システムの緊急停止した あと、走行中に EV システムを再始 動させる場合は、パワースイッチを 押してください。

パワースイッチを切りかえるに は

ブレーキペダルを踏まずにパワース イッチを押すと、モードを切りかえ ることができます。(スイッチを押す ごとにモードが切りかわります)



- A "アクセサリー"
- B "イグニッション ON"
- OFF
 非常点滅灯が使用できます。

2 ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。 メーターに "アクセサリー" が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。 メーターに "イグニッション ON" が 表示されます。

__ 知識

■自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P にあるとき、約20分以上 ACC か 1 時間以上 ON (EV システムが作動していない状態) にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。ただし、自動電源OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。EV システムが作動していないときは、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

⚠ 注意

- ■補機バッテリーあがりを防止するために
- EV システム停止中は、パワースイッ チを ACC または ON にしたまま長時 間放置しないでください。
- ●EV システム停止中に、マルチイン フォメーションディスプレイの "ア クセサリー" または "イグニッ ション ON" の表示が消灯していな い場合、パワースイッチが OFF に なっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてくださ い。

シフトポジション

目的や状況に応じてシフトポジ ションを選択してください。

シフトポジションの使用目的に ついて

シフトポジション	目的および状態
Р	駐車または EV システムの 始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行
В	回生ブレーキカ選択モード 走行

□知識

- ■急発進の抑制について (ドライブス タートコントロール)
- →P.209
- ■シフト操作に関するメッセージがマル チインフォメーションディスプレイに 表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

- ■補機バッテリーを脱着したとき
- →P.453

▲ 警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作を行わないでください。横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

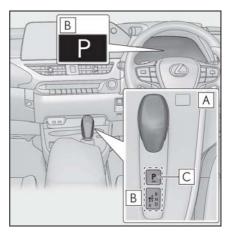
⚠ 注意

■シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。 安全で平坦な場所に停車し、パーキン グブレーキをかけて、レクサス販売店 にご連絡ください。

- ●マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき(→P.431)
- ●シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトポジションの切りかえ方 法と表示について



A シフトレバー

N に切りかえるときは、矢印に従って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフト

レバーが定位置() にもどります。

B への切りかえは、シフトポジションが D のときのみ可能です。

P から $N \cdot D \cdot R$ 、および $N \cdot D \cdot B \cdot R$ から P へ、または $D \cdot B$ から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキ ペダルを踏み、車が完全に停止している 状態で行ってください。

Bシフトポジション表示灯

メーター表示:

現在のシフトポジションが表示されます。 シフトレバー表示:

現在のシフトポジションが点灯表示され ます。

シフトレバーを操作したあとは、シフト ポジション表示灯で、目的のシフトポジ ションに切りかわったことを必ず確認し てください。

C P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

□知識

■パワースイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ

●パワースイッチが OFF または ACC のと

きはシフトポジションの切りかえはで きません。

- ●パワースイッチがONで、READYイン ジケーターが消灯しているときは、N のみに切りかえが可能です。
- READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。
- READY インジケーターが点滅している ときは、シフトレバーを操作しても、P から他のシフトポジションへ切りかえ ることはできません。READY インジ ケーターが点滅から点灯にかわってか ら、再度シフトレバーを操作してくだ さい。

■Pから他のシフトポジションに切りかえる

- ブレーキペダルをしっかり踏みながら、 シフトレバーを操作します。(ブレーキ ペダルを踏まずにシフトレバーを操作 すると、ブザーが鳴りシフトポジショ ンの切りかえができません)
- ●操作後は、シフトポジション表示灯で、 目的のシフトポジションに切りかわっ たことを必ず確認してください。
- ●Pから直接、シフトポジションを B に切りかえることはできません。

■シフトポジションを切りかえられな かった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- ●ブレーキペダルを踏まずに、P からシフトレバーを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、P からシ フトレバーを操作したとき
- ●ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中にNからシフトレバーを操作したとき

- ●アクセルペダルを踏んだまま、停車中 または極低速走行中にNからシフトレ バーを操作したとき
- ●PまたはNから、Bを選択した
- 走行中に、P ポジションスイッチを押し た

極低速走行時は、P に切りかわることがあります

■シフトポジションが自動的にNに切りかわった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- ●車両が前進しているときに R を選択した 低速走行時は R に切りかわることがあります。
- ■車両が後退しているときにDを選択した 低速走行時は D に切りかわることがあります。
- ■RからBを選択した

■走行中に N を選択した場合

一定以上の速度で走行中に N を選択した場合、シフトレバーを N の位置で保持しなくても N に切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、N にかわったことを運転者に知らせます。

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■自動Pポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションが Pに切りかわります。

●パワースイッチが ON、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止

- させパワースイッチを押したとき(シフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります)※
- ●シフトポジションが P 以外の状態で、万 が一、運転席ドアを開け、次の条件を すべて満たしているとき
- ・パワースイッチが ON
- 運転席シートベルトを着用していない
- ブレーキペダルを踏んでいない

シフトポジションが P に切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

- ●走行中に EV システムを緊急停止したあ と、停車したとき
- ●シフトポジションが P 以外の状態で、補機バッテリーの電圧が低下したとき
- ※ 停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

■シフトポジションがPから切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.451を参照してください。

警告

■シフトレバーについて

●シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

▲ 警告

- ●意図せぬシフトポジションの切りか わりを防止するため、操作時以外は シフトレバーにふれないでください。
- ■P ポジションスイッチについて
- ●車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。 停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外は Pポジションスイッチにふれないでください。

⚠ 注意

■シフトポジションの切りかえ操作に ついて

PからP以外、およびP以外からPへの切りかえ操作を短時間にくり返し行わないでください。そのような操作を行うと、システム保護のため、一定時間Pからの切りかえができなくなることがあります。その場合は、時間をおいてから操作し直してください。

■車を降りるとき(運転席のみ)

シフトポジション表示灯がPであることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

シフトポジションを N に保持 したままパワースイッチを ACC にするときは

● 次の操作を行うと、シフトポジ ションを N に保持したままパワー スイッチを ACC にすることがで

きます

- 1 EV システムが始動しているとき にシフトレバーを操作し、シフト ポジションを N に切りかえる
- 2 シフトレバーを定位置(●)に もどす
- 3 シフトレバーを N の位置に操作 しブザーが鳴るまで保持する
- **4** ブザーが鳴ったあと、5 秒以内に パワースイッチを押す

シフトポジションが N で ACC になります。※

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに "N 保持中 解除するには P スイッチを押してください" が表示されたことを必ず確認してください。

- シフトポジションを N 以外にする には、P ポジションスイッチを押 してシフトポジションを P に切り かえます
- EV システムが停止しているとき に、N ポジションを保持したまま ACC にする操作を行うと、シフト ポジションが N で ACC になる場 合がありますが、必ず EV システ ムが始動している状態で行ってく ださい。
- ** この状態を維持したい場合は、パワースイッチを操作しないでください。パワースイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFFになります。

走行モードの選択

■ ドライブモード

→P.320

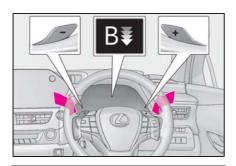
回生ブレーキカ選択モードでの 操作方法

シフトポジションを B にして、パドルシフトスイッチを操作することで、アクセルベダルを離したときまたは、ブレーキペダルを踏んだときの回生ブレーキカを固定した走行ができます。

回生ブレーキカは4段階から選択できます。

メーター内の (回生ブレーキカイ

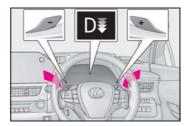
ンジケーター)の**■**の数が多いほど 回生ブレーキ力が強くなります。



□ 知識

■一時的に強い回生ブレーキ力にするには

シフトポジションが D で走行中、パドルシフトスイッチの "-" 側を操作することにより、現状より強い回生ブレーキカにすることができます。このとき、メーター内に回生ブレーキカインジケーターが表示されます。



次のとき、一時的に強い回生ブレーキカ は、自動的に解除されます。

- ●停車したとき
- ●アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- ●シフトポジションを D 以外にしたとき
- ●パドルシフトスイッチの"+"側を長押ししたとき

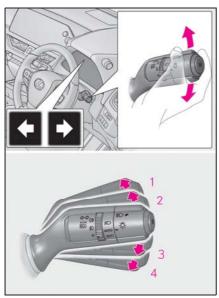
■回生ブレーキについて

- 高速走行時は、通常の車にくらべて回 生ブレーキによる減速感が小さくなり ます。
- ●マルチインフォメーションディスプレイに "回生ブレーキ制限中 減速時はブレーキを踏んでください" が表示されたときは、ブレーキペダルをしつかり踏んで減速してください。(→P.433)

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



- 1 左折
- 2 左側へ車線変更 (レバーを途中で 保持)

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

3 右側へ車線変更(レバーを途中で 保持)

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

4 右折

□知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったとき は

方向指示灯の電球が切れていないか確認 してください。

パーキングブレーキ

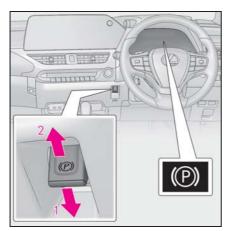
自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



スイッチを押し、パーキングブレーキをかける

作動後、パーキングブレーキ表示灯が点 灯します。(→P.223)

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。

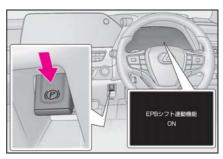
2 スイッチを引き、パーキングブレーキを解除する

- ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消 灯します。

■ オートモードを ON にする

停車中に、マルチインフォメーショ ンディスプレイにメッセージが出る までスイッチを押し続ける



オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

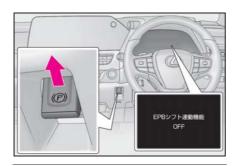
- シフトポジションをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
- シフトポジションを P 以外から P にすると、パーキングブレーキが かかり、パーキングブレーキ表示 灯が点灯します。

シフトレバーおよび P ポジションスイッチは、停車した状態でブレーキペダルを 踏みながら操作してください。

■ オートモードを OFF にする

停車中に、マルチインフォメーショ ンディスプレイにメッセージが出る

までスイッチを引き続ける



□ 知識

■パーキングブレーキの作動

- ●パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- ●パワースイッチが ON 以外では、オート モードによる作動(かける・解除する) はできません。

■パーキングブレーキ自動解除について

オートモード:

シフトポジションを P から P 以外 にする と、パーキングブレーキが自動的に解除 されます。

マニュアルモード:

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- ●運転席ドアが閉まっているとき
- ■運転席シートベルトを着用しているとき
- ●シフトポジションが D、B または R のと
- ■マルチインフォメーションディスプレイに "EPB が連続で操作されましたしばらくお待ちください" と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システム過 熱防止のために作動制限することがあり ます。その場合は、操作を控えてください。1分程度でもとの状態にもどります。

- ■マルチインフォメーションディスプレ イに "EPB 動作が途中で停止しました
 - " または "EPB 現在使用できません
 - "と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、 モーターの音 ("ウィーン" という音) が聞こえることがありますが、異常では ありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

ON:パーキングブレーキを解除するまで点灯します。

ON 以外:約15秒間点灯します。

- ●パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。
- ■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→P.204

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに "EPB がロックされています" と表示されます

(車速が 5km/h をこえたとき)

- ■ブレーキ警告灯が点灯したとき
- →P.424
- ■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.328

▲ 警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを Pにし、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセー ジを確認してください。

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

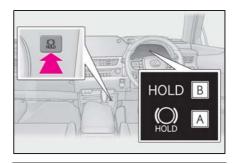
ブレーキホールド

シフトポジションが D・B または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションが D または B のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホール ドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯 (緑) A が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯 (黄) B が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON にできません。

- ●運転席ドアが閉まっていない
- ●運転席シートベルトを着用していない
- ●パーキングブレーキがかかっている ブレーキホールドシステムが ON のとき に上記いずれかを検出したときは、シス

テムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯(緑)が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、 自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マル チインフォメーションディスプレイに メッセージが表示されます。
- ●急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり 踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキ が自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- ■運転席シートベルトを着用した状態で アクセルペダルを踏む
- ■ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯 が消灯したことを確認してください。 (→P.222)

■レクサス販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を 満たしているときに、ブレーキホールド スイッチを押してもブレーキホールドス タンバイ表示灯(緑)が点灯しないとき はシステムの異常が考えられます。ただ ちにレクサス販売店で点検を受けてくだ さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに "BrakeHold 故障" が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。 ただちにレクサス販売店で点検を受けて ください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯(黄)が 点滅したときは

→P.426

警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを 使用するときは注意してください。急 坂路ではブレーキホールドシステムに てブレーキを保持できないことがあり ます。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

▲ 注意

■駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ASC(アクティブサウンド コントロール)

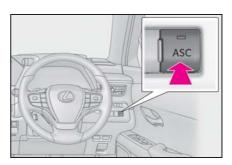
ASC は、車室の前方から車内に向けて特殊な音を付加し、実際の電気モーター音などと協調させることで、運転者が加速感を、より実感しやすくするためのシステムです。

設定のしかた

ASC スイッチを押す

ON のときはスイッチ上のインジケー ターが点灯します。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

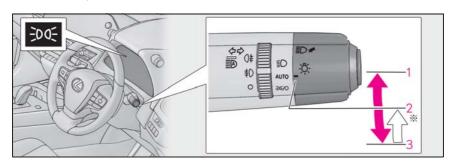


ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように -〇 スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※スイッチを 3つ0/Oの位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態		
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき	
1 <u>E</u> O	ヘッドランプ・スモールランプが点灯		
2 AUTO ^{※ 1}	デイタイムランニングランプ (→P.228)が点灯	ヘッドランプ・スモールランプ が点灯	
3 =00=/0 [*] 1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ^{※2}	

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

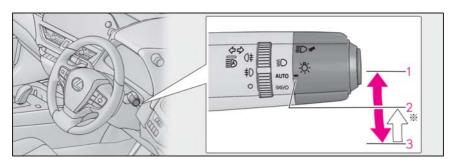
消灯のしかた

- ☆- スイッチを **3**⇒∞/oの位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

^{※1}操作するたびに、2AUTOによる点灯状態と3ioc/Oによる点灯状態が切りかわります。

^{※&}lt;sup>2</sup>停車中のみ点灯可能。車両を発進させると **2AUTO**による点灯状態に切りかわります。

消灯中に 1 2 ○か 3 305/0の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを 330E/Oの位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態		
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき	
3 =00=/O	ヘッドランプ・スモールラン プ・デイタイムランニングラン プ(→P.228)が消灯	ヘッドランプ・スモールランプ が消灯 [※]	

[※] 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

□知識

■ AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■デイタイムランニングランプ

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、EVシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、デイタイムランニングランプが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します)デイタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

■自動で点灯/消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが 点灯/消灯します。日中走行中でも周囲 の環境や明るさによって、ヘッドランプ が自動点灯する場合があります。

■ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを ACC または OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワース イッチを ON にするか、一度ランプス イッチを AUTO にしてから≫のまたは

€○の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、 乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢 の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸 を自動で調整します。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON にすると節電機能 は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ●ランプスイッチを操作したとき
- ●ドアを開閉したとき

■おもてなし照明

ランプスイッチが AUTO の位置で車両周 辺が暗いとき、スマートエントリー&ス タートシステムまたはワイヤレスリモコ ンでドアを解錠すると、車幅灯が自動で 点灯します。

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが AUTOでワイパーを作動してしばらくす ると、自車が他車から見やすくなるよう にヘッドランプが自動点灯します。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更 できます。(カスタマイズー

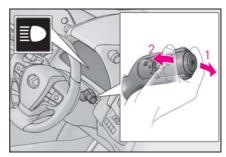
覧:→P.468)

↑ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに 切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービー ムにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイ ビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが 点灯します。レバーを離すと、ロービー ムにもどる、または消灯します。

コーナリングランプ

ヘッドランプ (ロービーム) 点灯時 に次のいずれかの条件を満たしたと き、夜間走行時の交差点や駐車時に 優れた視認性を確保するため、コー ナリングランプが追加点灯し車両進 行方向を照射します。

- ハンドルを操作したとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- シフトポジションが R のとき(左 右両側のコーナリングランプが点

灯)

□知識

■コーナリングランプ制御について

- ●車速が約30 km/h 以下のときに点灯します。ただし、約35 km/h 以上になる と消灯します。
- 点灯した状態で 30 分間経過すると、自動で消灯します。

AHS(アダプティブハイ ビームシステム)★

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

アダプティブハイビームシステム は、フロントウインドウガラス上 部に設置された前方カメラにより 前方車両のランプや街路灯などの 明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

▲ 警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

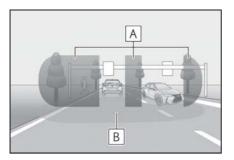
■アダプティブハイビームシステムの 誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

システムの制御

- 車速に応じて、ハイビームの明る さと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行 方向側をハイビームでより明るく 照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイ ビームを点灯します。(遮光ハイ ビーム)

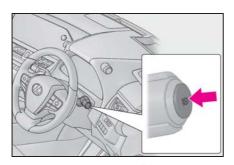
前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前 方視界の確保を補助します。



- Bロービームで照らす範囲
- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。
- 低速で走行しているとき、両側の コーナリングランプで車両側方を 照らします。

アダプティブハイビームシステ ムを使うには

 アダプティブハイビームシステム スイッチを押す

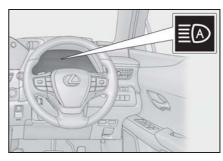


2 ランプスイッチを**≣○**または

AUTOの位置にする

アダプティブハイビームシステムが作動

すると、AHS 表示灯が点灯します。



□ 知識

■システムの作動条件

- ●次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
- ・ 車速が約 15km/h 以上※
- ・ 車両前方が暗い
- ** 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。
- ●次の条件をすべて満たすと、前方車両 の位置に応じて遮光ハイビームに切り かわり、ロービームの照らす範囲を調 整します。
- ・ 車速が約 15km/h 以上
- ・ 車両前方が暗い
- 前方にランプを点灯した車両がいる
- ●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。
- · 車速が約 12km/h 以下
- ・車両前方が明るい
- 前方車両の台数が多い
- ■車速が約3~15km/hのとき、両側の コーナリングランプが点灯します。

■前方カメラの検知について

- ●次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
- ・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき

- ・他車が前方を横切ったとき
- ・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- ・前方車両が離れた車線から接近してき たとき
- 前方車両が無灯火のとき
- ●前方車両のフォグランプにより、ハイ ビームが遮光ハイビームに切りかわる 場合があります。
- ●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮 光範囲が変化する場合があります。
- ●次の原因により、遮光範囲の追従速度 やロービームへの切りかえのタイミン グが変化する場合があります。
- 前方車両のランプの明るさ
- 前方車両の動きや向き
- 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
- 前方車両が二輪車のとき
- ・道路の状態(勾配やカーブ、路面状況など)
- ・乗車人数や荷物の量
- ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。
- ●自転車などの軽車両は検知しない場合 があります。
- ●次のような状況では、周囲の明るさが 正確に検知されず、ハイビームが歩行 者や前方車両などの迷惑になる場合や、 ロービームが継続する場合があります。 このような場合は、手動でハイビーム とロービームを切りかえてください。
- ・悪天候時(霧・雪・砂嵐・大雨など)
- フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
- フロントウインドウガラスにひび割れ や破損があるとき
- 前方カメラが変形しているときや、汚れているとき

- 前方カメラが極端に高温になっているとき
- ・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た 光があるとき
- 前方車両のランプが無灯火のときや、 ランプに汚れや変色があったり光軸が ずれているとき
- ・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- ・起伏や段差が多い道路を走行している とき
- カーブが多い道路を走行しているとき
- ・車両前方に標識やミラーのように光を 強く反射するものがあるとき
- ・コンテナなど、先行車の後部が光を強 く反射するとき
- ・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- パンクやけん引などにより車両が傾い ているとき
- ハイビームとロービームをひんぱんに 切りかえているとき
- ・ハイビームの使用に問題がある、また は他の運転者・付近の歩行者の迷惑に なると思われるとき

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.468)

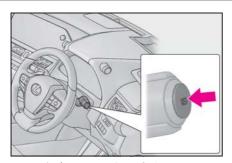
手動制御に切りかえるには

■ ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムス イッチを押す

AHS 表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもど すには、再度アダプティブハイビームシ ステムスイッチを押します。

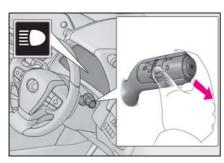


■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHS 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

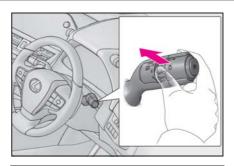
アダプティブハイビームシステムにもど すには、再度レバーをもとの位置にもど します。



■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを引き、もとの位置にもどす レバーを引いているあいだは、ハイビー ムが点灯しますが、レバーがもとの位置 にもどるとしばらくのあいだロービーム

ムが無対しますが、レバーがもこの位置 にもどるとしばらくのあいだロービーム が点灯します。その後、再度アダプティ ブハイビームシステムが作動します。



__ 知識

■一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または 他の運転者・付近の歩行者の迷惑になる と思われるときに使用します。

AHB(オートマチックハイ ビーム)*

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

▲ 警告

■安全にお使いいただくために

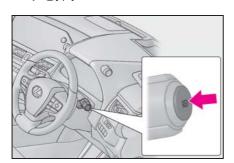
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動 を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

オートマチックハイビームを使 うには

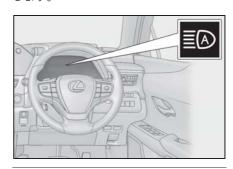
オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチを**■○**または

AUTOの位置にする

オートマチックハイビームが作動すると、 オートマチックハイビーム表示灯が点灯 します。



□知識

■ハイビームとロービームの自動切りか え条件

- ●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
- ・車速が約30km/h以上
- 車両前方が暗い
- 前方にランプを点灯した車両がいない
- ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない
- ●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
- ・ 車速が約 25km/h 以下
- ・車両前方が明るい
- 前方車両がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方カメラの検知について

- ●次のような状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
- ・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- ・他車が前方を横切ったとき
- ・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- ・前方車両が離れた車線から接近してき たとき
- 前方車両が無灯火のとき
- ●前方車両のフォグランプにより、ハイ

ビームがロービームに切りかわる場合があります。

- ●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- ●次の原因により、ハイビームとロー ビームの切りかえのタイミングが変化 する場合があります。
- 前方車両のランプの明るさ
- ・前方車両の動きや向き
- 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
- 前方車両が二輪車のとき
- ・道路の状態(勾配やカーブ、路面状況など)
- ・ 乗車人数や荷物の量
- ●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- ●自転車などの軽車両は検知しない場合 があります。
- ●次のような状況では、周囲の明るさが 正確に検知されず、ハイビームが歩行 者や前方車両などの迷惑になる場合や、 ロービームが継続する場合があります。 このような場合は、手動でハイビーム とロービームを切りかえてください。
- ・悪天候時(霧・雪・砂嵐・大雨など)
- フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
- フロントウインドウガラスにひび割れ や破損があるとき
- 前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
- 前方カメラが極端に高温になっているとき
- ・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た 光があるとき
- ・前方車両のランプが無灯火のときや、 ランプに汚れや変色があったり光軸が ずれているとき

- ・ 先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- ・ 起伏や段差が多い道路を走行している とき
- カーブが多い道路を走行しているとき
- ・車両前方に標識やミラーのように光を 強く反射するものがあるとき
- ・コンテナなど、先行車の後部が光を強 く反射するとき
- ・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ハイビームとロービームをひんぱんに 切りかえているとき
- ・ハイビームの使用に問題がある、また は他の運転者・付近の歩行者の迷惑に なると思われるとき

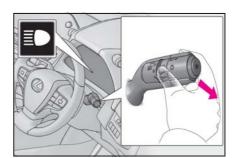
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯 し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。



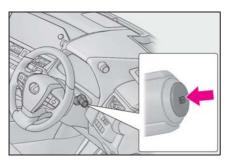
■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチ を押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯

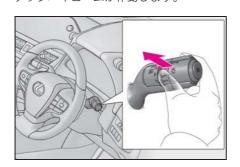
します。

オートマチックハイビームにもどすには、 再度オートマチックハイビームスイッチ を押します。



■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを引き、もとの位置にもどす レバーを引いているあいだは、ハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置 にもどるとしばらくのあいだロービーム が点灯します。その後、再度オートマ チックハイビームが作動します。



□ 知識

■一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または 他の運転者・付近の歩行者の迷惑になる と思われるときに使用します。

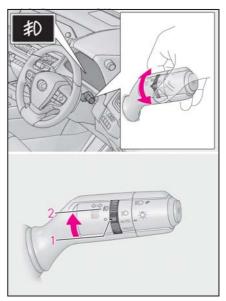
フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下では、前方 の視界を確保するためにフロント フォグランプを、後続車に自車の 存在を知らせるためにリヤフォグ ランプ★を点灯させます。

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

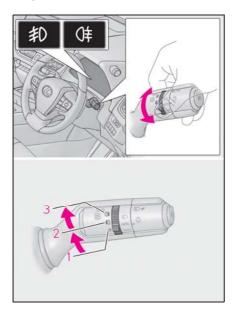
操作のしかた

▶ フロントフォグランプ装着車



- 1 0 消灯する
- 2 美0点灯する

▶ フロント&リヤフォグランプ装着車



- 1 0 消灯する
- 2 **季**()フロントフォグランプを点灯する
- 3 () まプロント&リヤフォグランプを点灯する

手を離すと**手**の位置までもどります。 再度操作すると、リヤフォグランプのみ 消灯します。

□知識

■点灯条件

- ▶ フロントフォグランプ装着車
- ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
- ▶ フロント&リヤフォグランプ装着車 フロントフォグランプ: ヘッドランプま たは車幅灯が点灯しているときに使用で

きます。

リヤフォグランプ:フロントフォグラン プが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプ★について

- ●リヤフォグランプが点灯しているとき は、メーター内の表示灯が橙色に点灯 します。
- ●雨や霧、雪などで視界が悪いときに後 続車に自分の車の存在を知らせるため に使用します。視界が悪いとき以外に 使用すると後続車の迷惑になる場合が あります。必要なとき以外は使用しな いでください。
- ★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ワイパー & ウォッシャー (フロント)

レバー操作で、ワイパーの作動を 自動/手動に切りかえたり、 ウォッシャーを作動させたりする ことができます。

↑ 注意

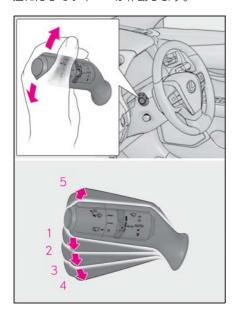
■フロントウインドウガラスが乾いて いるときは

ワイパーを使わないでください。 ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

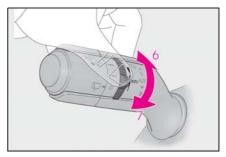
次のように **い** レバーを操作する と、ワイパーまたはウォッシャーが 作動します。

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車 速に応じてワイパーが作動します。

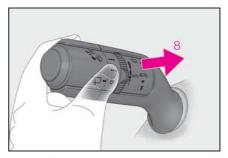


- 1 〇 停止
- 2 AUTOAUTO モード
- **3** ▼ 低速作動
- **4 ¥** 高速作動
- 5 ▲ 一時作動

AUTOが選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



- 6 雨滴センサーの感度調整(高)
- 7 雨滴センサーの感度調整(低)



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。)

ヘッドランプクリーナー装着車: ヘッドランプが点灯しているときに5回

連続で手前に引くとヘッドランプクリーナーが作動します。

| 知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■車速による作動への影響

車速によってワイパー作動の間欠時間へ の影響があります。

■雨滴感知センサー

雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- パワースイッチがONのときにワイパー スイッチをAUTOにすると、動作確認の ためワイパーが1回作動します。
- ●雨滴感知センサーの温度が90℃以上または-15℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのに ウォッシャー液が出ないときは、ノズル のつまりを点検してください。

■ドア開連動ワイパー停止機能

シフトポジションが P の状態でワイパー

が作動しているときにフロントドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

▲ 警告

■AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャーを使用するとき

寒冷時はフロントウインドウガラスが 暖まるまでウォッシャー液を使用しな いでください。ウォッシャー液がフロ ントウインドウガラスに凍りつき、視 界不良を起こして思わぬ事故につなが り、重大な傷害におよぶか、最悪の場 合死亡につながるおそれがあります。

↑ 注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはレクサス販売 店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。 ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパーの停止位置切りかえ/ ワイパーの立て方

ワイパーは使用していないとき、ボ ンネット下に格納されています。

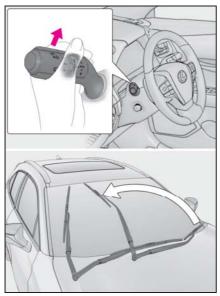
寒冷時やワイパーゴムを交換すると きは、ワイパーの停止位置を格納位 置からサービスポジションに切りか えた上でワイパーを立ててください。

■ サービスポジションへ切りかえる

パワースイッチを OFF にしたあと、 約 45 秒以内にワイパースイッチを

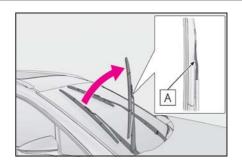
▲ の位置で約2秒以上保持する

ワイパーがサービスポジションに移動し ます。



■ ワイパーを立てる

ワイパーアームのフック部**A** を持ってガラス面から引き上げる



□知識

■ワイパーを格納位置にもどすには

ワイパーを倒した状態でパワースイッチを ON にし、いずれかのワイパー操作をしてください。作動後は格納位置で停止します。パワースイッチが OFF のときにワイパーがずれてしまっていても、作動後は正常な位置にもどります。

⚠ 注意

■ワイパーを立てるときは

- ●ワイパーがボンネット下の格納位置 にあるときは、ワイパーを立てない でください。格納位置でワイパーを 立てるとボンネットに干渉し、傷が 付くおそれがあります。
- ●ワイパーブレードのみを持ってワイパーを立てないでください。ブレードが変形するおそれがあります。



●ワイパーを立てた状態でワイパーを 作動させないでください。ワイパー がボンネットに干渉し、傷が付くお それがあります。

ワイパー & ウォッシャー (リヤ)

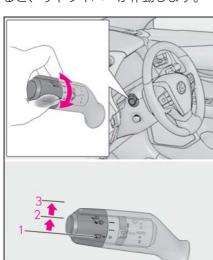
レバー・スイッチ操作でリヤワイ パーやウォッシャーを作動させる ことができます。

⚠ 注意

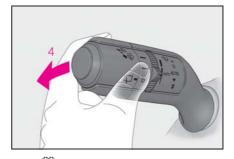
■リヤウインドウガラスが乾いている ときは

ワイパーを使わないでください。 ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた



- 1 〇 停止
- 2 --- 間欠作動
- 3 通常作動



4 ウォッシャー液を出す レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

□ 知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのに ウォッシャー液が出ないときは、ノズル のつまりを点検してください。

■リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、シフトポジションを R にするとリヤワイパーが 1 回作動します。

■バックドア開連動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■カスタマイズ機能

リバース連動機能などの設定を変更できます。(カスタマイズ一覧:→P.468)



⚠ 注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けな いでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはレクサス販売 店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するた めに

EV システムを停止した状態でワイパー を長時間作動しないでください。

Lexus Safety System +

Lexus Safety System + は、次の 運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

- PCS (プリクラッシュセーフ ティ)
- →P.248
- LTA (レーントレーシングアシスト)
- →P.258
- AHS(アダプティブハイビームシ ステム)★
- →P.230
- AHB (オートマチックハイビーム) *
- →P.234
- RSA(ロードサインアシスト)
- →P.267
- レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)
- →P.270
- 先行車発進告知機能
- →P.281
- ドライバー異常時対応システム
- →P.283
- ★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

▲ 警告

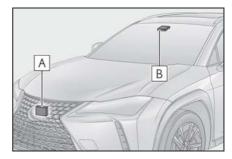
■Lexus Safety System + について

Lexus Safety System + は運転者の安 全運転を前提としたシステムであり、 事故被害や運転負荷の軽減に寄与する ことを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限 界があります。システムを過信せず、 運転者は常に自らの責任で周囲の状況 を把握し、安全運転を心がけてくださ い。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインド ウガラスにある 2 種類のセンサーに より、各運転支援装置に必要な情報 を認識します。



- A レーダー
- B 前方カメラ

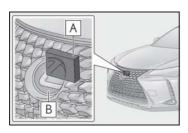
▲ 警告

■レーダーの故障や誤作動を防ぐため に

次のことをお守りください。 お守りいただかないと、レーダーが正 常に作動せず、思わぬ事故につながり、 重大な傷害におよぶか、最悪の場合死 亡につながるおそれがあります。

▲ 警告

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

Bレーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前 後面に汚れ・水滴・雪などが付着した 場合は、取り除いてください。

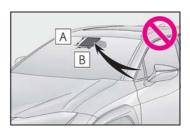
お手入れをする際は、レーダーやレー ダー専用カバーを傷付けないよう、や わらかい布を使ってください。

- レーダーやレーダー専用カバー周辺 にアクセサリーを付けたり、ステッカー(透明なものを含む)などを 貼ったりしない
- レーダー周辺への強い衝撃を避ける レーダー・フロントグリル・フロン トバンパーに強い衝撃を受けた際は、 必ずレクサス販売店で点検を受けて ください。
- レーダーを分解しない
- ●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない
- ◆次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ・レーダー・フロントグリルを脱着や 交換したとき
- フロントバンパーを交換したとき

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。 お守りいただかないと、前方カメラが 正常に作動せず、思わぬ事故につなが り、重大な傷害におよぶか、最悪の場 合死亡につながるおそれがあります。

- ●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
- ・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- フロントウインドウガラスにガラス コーティング剤を使用していても、 前方カメラ前部に水滴などが付着し た場合は、ワイパーでふき取ってく ださい。
- フロントウインドウガラス内側の前 方カメラ取り付け部が汚れた場合は、 レクサス販売店にご相談ください。
- ●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部(図に示す範囲内)にステッカー(透明なものを含む)などを貼り付けない



- **A** フロントウインドウガラス上端から 前方カメラ下端より下約 1cm まで
- **B** 約 20cm (前方カメラ中心から左右 約 10cm)

▲ 警告

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、 凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する(フロントウインドウガラスの曇りを取る:→P.334)
- ●前方カメラ前部のフロントウインド ウガラスの水滴をワイパーが正しく ふき取れないときは、ワイパーゴム またはワイパーブレードを交換する
- ●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換するフロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ●前方カメラに液体をかけない
- ●前方カメラに強い光を照射しない
- ●前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないフロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
 - レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- ●前方カメラに強い衝撃を加えない
- ●前方カメラの取り付け位置や向きを 変更したり、取りはずしたりしない
- ●前方カメラを分解しない
- ●インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ●ルーフ上に全長の長い荷物(サーフボードなど)を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ●ヘッドランプなどのランプ類を改造 しない

□ 知識

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されている マークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せ られることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

- ■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき
- 前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。
- ●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物(曇り、結露、凍結などを含む)があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、 汚れや付着物を取り除く(フロントウイン ドウガラスの曇りを取る:→P.334)
	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温 のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を 下げる
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周 の温度などが作動条件外のとき	特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温の ときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度 を上げる
ボンネットが開いているときや、フロント ウインドウガラスの前方カメラ前部にス テッカーが貼り付けられているときなど、 前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを 剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎら れないようにする
"プリクラッシュセーフティ レーダー向き調整中 取扱書確認ください" が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着 物がないか確認し、あった場合には取り除 く

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたま まの場合はレクサス販売店にご相談ください。

- ・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
- ・暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき

・車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき その場合には "プリクラッシュセーフティ 現在使用できません 取扱書確認ください

"が表示されます。

PCS(プリクラッシュセーフティ)

進路上の作動対象 (→P.248) を 前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したきに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作をが高まったと判断したときは、 自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュ セーフティの ON / OFF や、警報 タイミングを切りかえることがで きます。(\rightarrow P.251)

システムの作動対象

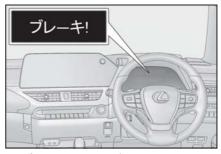
システムは次のものを作動対象として検出しています。(機能によって、 作動対象が異なります)

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、"ピピピ・・・" とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

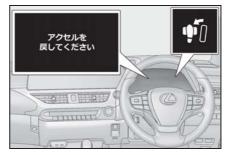
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ 低速時加速抑制

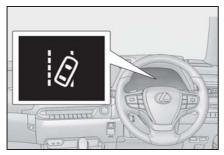
低速走行時にアクセルペダルが強く 踏み込まれ、衝突の可能性があると システムが判断したとき、EV システム出力を抑制または弱いブレーキを かけることで加速を抑制します。作 動時には、ブザー音が鳴り、マルチ インフォメーションディスプレイに 警告灯とメッセージを表示します。



■ 緊急時操舵支援

衝突する可能性が高く自車線内に回

避するための十分なスペースがある とシステムが判断した場合で、運転 者の回避操舵があったとき、操舵支 援を行い、車両安定性確保と車線逸 脱抑制に寄与します。作動時には、 表示灯が緑色に点灯します。

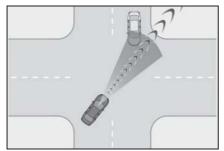


■ 交差点右左折支援

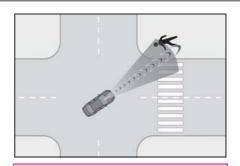
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、 衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援 できない場合があります。

● 交差点で右折して対向車の進路を 横切るとき



● 右左折中に、対向方向からの横断 歩行者を検出したとき(自転車運 転者は対象ではありません)



▲ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安 全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティを日常の ブレーキ操作のかわりには絶対に使 用しないでください。本システムは あらゆる状況で衝突を回避または衝 突の被害を軽減するものではありま せん。システムに頼ったり、安全を 委ねる運転をしたりすると思わぬ事 故につながり、重大な傷害におよぶ か、最悪の場合死亡につながるおそ れがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回 避を支援、あるいは衝突被害の軽減 に寄与することを目的としています が、その効果はさまざまな条件によ りかわります。そのため、常に同じ 性能を発揮できるものではありませ ん。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき:→P.254
- ・システムが正常に作動しないおそれがあるとき:→P.255

▲ 警告

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象(マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど)や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

- ●プリクラッシュブレーキが作動した ときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- ●プリクラッシュブレーキは運転者の 操作状態によっては作動しません。 運転者がアクセルペダルを強く踏ん でいたり、ハンドルを操作したりし ていると、場合によっては運転者の 回避操作とシステムが判断し、プリ クラッシュブレーキが作動しない場 合があります。
- ●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、 運転者の回避操作とシステムが判断 し、プリクラッシュブレーキの作動 開始タイミングが遅れる場合があり ます。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、 回避操作とシステムが判断し、低速時 加速抑制が作動しない場合があります。

■緊急時操舵支援について

- ■緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- ■緊急時操舵支援は運転者の操作状態 によっては作動しない、または作動 中に解除される場合があります。
- ・運転者がアクセルベダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
- ・緊急時操舵支援作動中に、アクセル ベダルを強く踏んだり、ハンドルを 大きく操作したり、ブレーキを踏ん でいると、場合によっては運転者の 回避操作とシステムが判断し、緊急 時操舵支援の作動が解除されます。
- ・緊急時操舵支援作動中に、ハンドル を保持したりシステムと逆方向にハ ンドル操作した場合には、緊急時操 舵支援の作動が解除されます。
- ■プリクラッシュセーフティを OFF に するとき

次のときは、システムを OFF にしてく ださい。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、 最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- ●けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- ●車両をリフトで上げ、EV システムを 始動しタイヤを空転させるとき

▲ 警告

- ●点検でシャシーダイナモやフリー ローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパー やフロントグリルに強い衝撃が加 わったとき
- ●事故や故障で自車の走行が不安定な とき
- ●オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- ●タイヤの空気圧が適正でないとき
- ■著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- ●メーカー指定サイズ以外のタイヤを 装着しているとき
- ●タイヤチェーンを装着しているとき
- ●応急用タイヤやタイヤパンク応急修 理キットを使用しているとき
- ●車両に前方センサーをさえぎるよう な装備品(除雪装置など)を一時的 に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティの設 定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON / OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの (→P.150) から、プリクラッシュセーフティの ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。

パワースイッチが ON になるとシステム は ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが

表示されます。



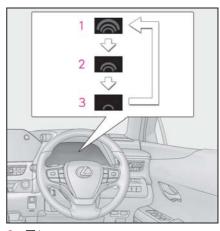
■ 衝突警報の作動タイミングを変更 する

マルチインフォメーションディスプレイの (→P.150) から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはパワースイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ONの状態にすると「中間」に戻ります。

衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミング も変更されます。

「遅い」を選択した場合、緊急時操舵 支援はほとんどの場合作動しません。



1 早い

2 中間

初期設定

3 遅い

| 知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- ・補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- ・ シフトポジションが R のとき
- · VSC OFF 表示灯が点灯しているとき (衝突警報のみ作動可能状態になります)

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ~ 180km/h	約 10 ~ 180km/h
対向車両	約 10 ~ 180km/h	約 20 ~ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ~ 80km/h	約 10 ~ 80km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約30~180km/h	約 30 ~ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ~ 80km/h	約 30 ~ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ~ 180km/h	約 10 ~ 180km/h
対向車両	約 10 ~ 180km/h	約 20 ~ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ~ 80km/h	約 10 ~ 80km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が 解除される場合があります。

- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転 車運転者・歩行者	約 15km/h 以下	約 15km/h 以下

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

- アクセルペダルを離す
- ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ■緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転 車運転者・歩行者	約 40 ~ 80km/h	約 40 ~ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合が あります。

- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ブレーキペダルを踏む
- 交差点右左折支援(衝突警報)

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 10 ~ 25km/h	約 30 ~ 55km/h	約 40 ~ 80km/h
歩行者	約 10 ~ 25km/h	_	約 10 ~ 25km/h

●交差点右左折支援(プリクラッシュブレーキ)

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 15 ~ 25km/h	約 30 ~ 45km/h	約 45 ~ 70km/h
歩行者	約 10 ~ 25km/h	_	約 10 ~ 25km/h

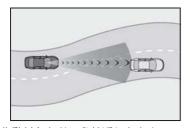
■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

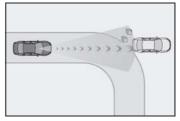
周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・ 角度などによっては、作動対象を検出で きず、システムが正常に作動しないおそ れがあります。(→P.255) 図は作動対象として検出する対象のイ メージです。



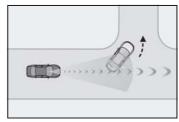
- ■衝突の可能性が高くなくてもシステム が作動するおそれがあるとき
- ●例えば次のような状況では、システム が衝突の可能性が高いと判断し、作動 するおそれがあります。
- ・作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・車線を変更して作動対象などを追いこ すとき
- ・ 進路変更時や曲がりくねった道を走行 時など、自車前方の隣車線や路側に作 動対象が存在するとき



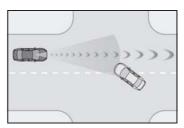
- 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体 (ガードレール・電柱・木・壁など) などに近付い たとき
- ・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物 体などが存在するとき



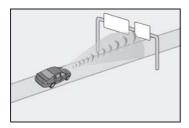
- ・ 自車の前方に作動対象との区別がつき にくい模様・ペイントがあるとき
- ・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの 巻き上げがあるとき
- ・車線変更や右左折している作動対象な どを追い抜くとき



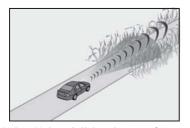
・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違う とき



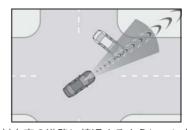
- ・作動対象などが自車進路内に入る手前 で停止したとき
- ・路面にうねり・凹凸があるときなど、 車両姿勢が変化しているとき
- ・ 構造物に囲まれた道 (トンネルや鉄橋 など) を走行するとき
- ・ 自車の前方に金属物(マンホール・鉄 板など)・ 段差・ 突起物があるとき
- ・道路上方に物体(道路標識や看板など) がある場所を走行するとき



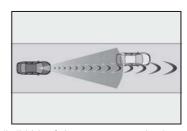
- ・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開 閉バーに接近したとき
- 洗車機を使用するとき
- ・ 自車に覆い被さるような障害物(生い 茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕な ど)がある場所を走行するとき



- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあると き
- ・電波の反射が強い物体(大型トラック・ ガードレールなど)の横を走行すると き
- ・テレビ塔・放送局・発電所・レーダー 搭載車両など、強い電波やノイズが発 生する場所の近くを走行するとき
- ・周囲にレーダーの電波を反射するもの が多いとき (トンネルやトラス橋、砂 利道、轍のある雪道など)
- ・右折中に、対向車が自車の前方を通過 したとき
- ・右折中に、対向車の手前を通過しよう としたとき
- ・右折中に、対向車が自車進路に入る手 前で停止したとき
- ・ 交差点内で右折中、対向車が右折して いるとき、または左折しているとき



- 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車進路に 入る手前で停止したとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車の前方 を通過したとき
- ・右左折中に、横断歩行者の手前を通過 しようとしたとき
- ■システムが正常に作動しないおそれが あるとき
- ●例えば次のような状況では、前方セン サーが作動対象を検出できず、システ ムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 自車に向かって作動対象が近付いてく るとき
- ・自車や作動対象がふらついているとき
- ・作動対象が急な動きをしたとき(急ハンドル・急加速・急減速など)
- ・作動対象に急接近したとき
- ・作動対象が自車の中心軸からずれてい るとき

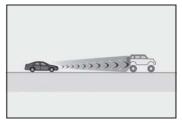


- ・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・上方に構造物がある場所の下に作動対 象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れてい

- るとき(大きな荷物や傘、またはガードレールなど)
- ・周囲にレーダーの電波を反射するもの が多いとき (トンネルやトラス橋、砂 利道、轍のある雪道など)
- ・他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
- ・作動対象が複数重なっているとき
- ・作動対象が太陽光などの強い光を反射 しているとき
- ・作動対象の色合いが白系統で、極端に 明るく見えるとき
- ・作動対象の色合いや明るさが背景に溶 け込んでいるとき
- ・作動対象が割り込んできたり、飛び出 してきたりしたとき
- ・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの 巻き上げがあるとき
- ・自車の正面方向から強い光(太陽光や 対向車のヘッドランプ光など)が前方 カメラにあたっているとき
- ・ 横向き、または自車方向を向いている 前方車両に近付いたとき
- 前方車両がオートバイのとき
- ・前方車両の全幅が狭いとき(超小型モ ビリティなど)
- ・前方車両の後端面積が小さいとき(空 荷のトラックなど)
- ・前方車両の後端が低い位置にあるとき (低床トレーラーなど)

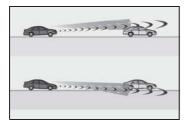


・前方車両の最低地上高が極端に高いと

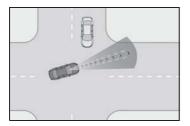


- ・前方車両の荷台から荷物がはみ出して いるとき
- 前方車両が特殊な形状のとき(トラクター・サイドカーなど)
- ・子供用自転車、大きい荷物を載せた自 転車、2人以上乗車している自転車、 または特殊な形状の自転車(チャイル ドシート装着車・タンデム自転車など)
- ・歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- ・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭が あいまいなとき (レインコート・ロン グスカートを着用している場合など)
- ・歩行者・自転車運転者が前かがみに なっている、またはしゃがんでいると き
- ・ 歩行者・自転車運転者の移動速度が速 いとき
- ・歩行者がベビーカー・車いす・自転車 などを押しているとき
- ・悪天候(雨・霧・雪・砂嵐など)のと
- ・自車の前方に水蒸気や煙などがあると
- ・周囲が薄暗い(朝方・夕方など)、また は周囲が暗い(夜間やトンネル内など) など、作動対象が背景に溶け込んでい るとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を 走行するとき (トンネルの出入り口な ど)
- ・EV システムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- カーブ走行中およびカーブを曲がり きってからの数秒間

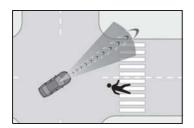
- 自車が構すべりしているとき
- ・車両姿勢が変化しているとき



- ホイールアライメントがずれていると
- ワイパーブレードが前方カメラの視界 をさえぎっているとき
- · 過度な高速走行をしているとき
- ・坂道を走行しているとき
- 前方センサーの向きがずれているとき
- ・右折中に、対向車が自車の走行する車 線よりも2つ以上離れた車線を走行し ているとき
- ・右折中に、自車の向きが対向車線に対 する正対方向から大きく外れていると き



・右左折中に、横断歩行者が自車と同じ 方向から直進して近づいてくるとき



●上記に加えて、例えば次のような状況 では緊急時操舵支援が作動しないおそ れがあります。

- ・車線を区切る白(黄)線が認識できない(かすれている、分岐・合流している、影が重なっているなど)とき
- 車線幅が狭いとき、または広いとき
- ・工事の補修跡などで、道路面に濃淡の 模様があるとき
- 対象に近づきすぎたとき
- ・回避するための十分なスペースがない、 または回避先に物があるとき
- 対向車がいるとき
- · VSC が作動しているとき
- ●例えば次のような状況では、制動力や 旋回力が十分に得られず、システムの 性能を発揮できないおそれがあります。
- ・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合(ブレーキ部品が極度に冷えている・ 過熱している・ぬれているなど)
- ・車両の整備状態 (ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など) が良好でないとき
- 砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
- 道路面に深いわだちがあるとき
- 坂道を走行しているとき
 - ・左右に傾きのある道路を走行している とき

■VSC を停止したとき

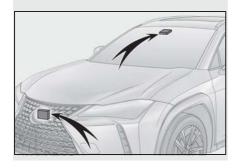
- ●VSC の作動を停止 (→P.322) したと きは、プリクラッシュブレーキアシス ト・プリクラッシュブレーキの作動も 停止します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに "VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも 停止します" が表示されます。

LTA(レーントレーシング アシスト)

白(黄)線が整備された道路を走行中、車線または走路 ** からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路 ** からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き)(→P.270)の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

白(黄)線または走路 ** を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境 界



▲ 警告

■LTA をお使いになる前に

- ●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- ●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。 思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

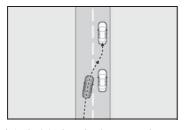
- ●雨天時や積雪・凍結などで、すべり やすい路面を走行しているとき
- ●雪道を走行しているとき
- ●水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白(黄)線が見えにくいとき
- ■工事によって規制された車線・仮設 の車線を走行しているとき
- ●工事区間を走行しているとき
- ●応急用タイヤ・タイヤチェーンなど を装着しているとき
- ●タイヤの残り溝が十分にないとき、 または空気圧が不足しているとき
- ●車両けん引時
- ■LTA の故障、または誤作動を防ぐために
- ヘッドランプを改造したり、ランプ の表面にステッカーなどを貼ったり しないでください。

▲ 警告

- ●サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、 レクサス販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も 取り付けたり置いたりしないでくだ さい。また、グリルガード(ブル バー・カンガルーバーなど)を取り 付けたりしないでください。
- ●フロントウインドウガラスの修理が 必要な場合は、レクサス販売店にご 相談ください。
- ■機能が正常に作動しないおそれのある状況

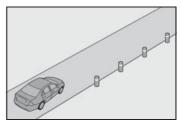
次のような状況では、各機能が正しく 作動せず車線から逸脱するおそれがあ ります。運転者は常に自らの責任で周 囲の状況を把握し、本機能を過信せず にハンドル操作で進路を修正してくだ さい。

● 先行車追従表示中(→P.263) に、 先行車が車線変更したとき(先行車 の動きに合わせて自車も車線変更す るおそれがあります)

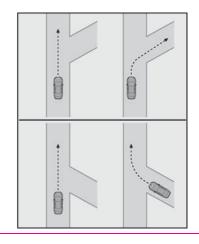


●先行車追従表示中(→P.263)に、 先行車がふらついたとき(先行車の 動きに合わせて自車もふらついて走 行しレーンをはみ出すおそれがあり ます)

- ●先行車追従表示中(→P.263)に、 先行車が車線から逸脱したとき(先 行車の動きに合わせて自車も車線か ら逸脱するおそれがあります)
- ●先行車追従表示中(→P.263)に、 先行車がレーン内を右、または左に 片寄って走行したとき(先行車の動 きに合わせて自車も片寄って走行し レーンをはみ出すおそれがあります)
- ●急カーブを走行しているとき
- ●路側物に白(黄)線と見間違えるような構造物や模様があるとき(ガードレール・反射ポールなど)

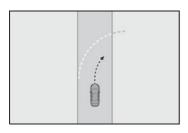


●分岐・合流路などを走行するとき



▲ 警告

●道路の修復で、アスファルト修復後 や白(黄)線の跡が残っているとき



- ●白(黄)線に平行するような影がある、または白(黄)線が影の中にあるとき
- ●料金所や検札所の手前や交差点など、 白(黄)線がない場所を走行するとき
- ●白(黄)線がかすれている、または キャッツアイ(道路鋲)や置き石な どがあるとき
- ●白(黄)線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- ●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれ た路面を走行しているとき
- ●車線が黄色のとき(白線にくらべて 認識率が低下することがあります)
- ●白(黄)線が縁石等の上に引かれて いるとき
- ■コンクリート路のような明るい路面 を走行しているとき
- ●アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- ■照り返しなどにより明るくなった路 面を走行しているとき
- ●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき

- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- ●坂道を走行しているとき
- ●左右に傾いた道路やうねった道路を 走行しているとき
- ●舗装されていない道路や荒れた道路 を走行しているとき
- ●車線の幅が極端に狭いとき、または 広いとき
- ●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不 足などで、車両が著しく傾いている とき
- ●先行車との車間距離が極端に短く なったとき
- ●走行中の路面状況(悪路・道路の継ぎ目など)により、車両が上下に大きく揺れているとき
- ●夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- ●横風を受けているとき
- ●周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- ●車線変更をした直後、または交差点 を通過した直後
- ●構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- ●メーカー指定のサイズ以外のタイヤ を装着しているとき
- ●冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

LTA に含まれる機能

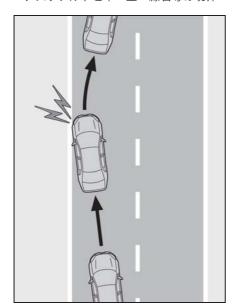
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路 ** から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったとき、またはハンドルに振動があったとき、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白(黄)線または走路※内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車:車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



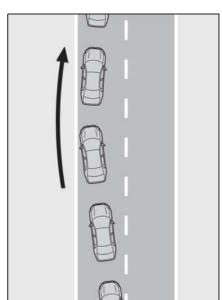
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路 ** から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小

さな操舵力をハンドルに与えて、車 線からの逸脱を避けるために必要な ハンドル操作の一部を支援します。

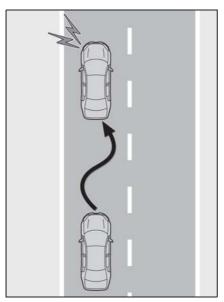
BSM 装着車:車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているとき に、警報ブザーおよびマルチイン フォメーションディスプレイの表示 により注意をうながします。

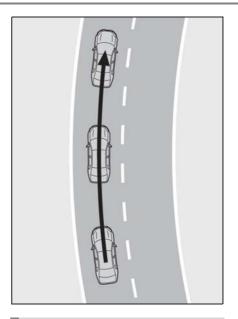


■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール (全車速 追従機能付き) が作動していないときは、 車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白(黄)線が見えにくい、 または見えない場合、先行車の軌跡を利 用して先行車に追従する支援を行います。

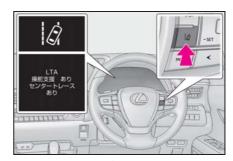


設定のしかた

■ 車線維持支援機能のON / OFF を 変更するには

LTA スイッチを押す

スイッチを押すごとに、車線維持支援機能のON / OFFが切りかわります。



車線維持支援機能が ON のとき: "LTA 操舵支援あり センタートレースあり" と表示されます。

LTA を ON にすると、次回 EV システム を始動したときにも、そのままの状態が 続きます。

■ LTA を OFF にする

LTA スイッチを長押しする

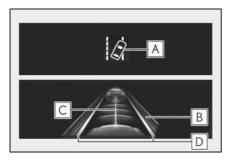
LTA が OFF されると、LTA 表示灯が消 灯します。

ON にするには、再度スイッチを押します。

パワースイッチが ON になるとシステム は ON になります。

ただし、車線維持支援機能は、パワースイッチが OFF になる前の状態が継続します。

マルチインフォメーションディ スプレイ表示



A LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの 作動状況をお知らせします。

白色に点灯:車線逸脱監視中

緑色に点灯:車線逸脱抑制機能、または 車線維持支援機能によるハンドル操舵支 援が作動中

橙色に点滅:車線逸脱警報中

Bハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディス プレイを運転支援機能情報に切り かえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維 持支援機能によるハンドル操舵支 援が作動中であることを示してい

ます。

両側点灯:車線維持支援機能によるハン ドル操舵支援が作動中

片側点灯:車線逸脱抑制機能によるハン

ドル操舵支援が作動中

両側点滅:車線維持支援機能の注意喚起が作動中

C 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中(先行車に追従中)であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

D 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディス プレイを運転支援機能情報に切り かえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白(黄)線または走路※ を認識していることを示しています。 車両が車線から逸脱した場合、逸脱 している側の白線表示が橙色で点滅 します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白(黄)線または走路※ を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを 示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

□知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動しま す。

- · LTA を ON にしているとき
- 車速が約50km/h 以上のとき^{※1}
- ・システムが白(黄)線または走路^{※2}を認識しているとき(白[黄]線または走路^{※2}が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します)
- ・車線の幅が約3m以上のとき
- ・方向指示レバーを操作していないとき (BSM 装着車:方向指示灯方向に車両 がいる場合は除く)
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・システムの異常が検知されていないとき (→P.266)
- ※1車線維持支援機能が作動中は約50km/h以下でも作動します。

※²アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- 一定以上の加減速がないとき
- ・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動してい ないとき
- ・TRC または VSC を OFF にしていない とき
- ●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・マルチインフォメーションディスプレ イので "ふらつき検知" を "On" に設定しているとき (→P.150)
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・車線の幅が約3m以上のとき
- ・システムの異常が検知されていないとき (→P.266)
- ●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- · LTA を ON にしているとき
- ・マルチインフォメーションディスプレ イの で "センタートレース" を "On" に設定しているとき (→P.150)
- ・システムが白(黄)線を認識している とき、または先行車の軌跡を認識して いるとき(先行車が二輪車の場合を除 く)
- ・レーダークルーズコントロール(全車 速追従機能付き)が車間制御モードで 作動しているとき
- 車線の幅が約3~4mのとき
- ・方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・システムの異常が検知されていないとき (→P.266)
- 一定以上の加減速がないとき
- ・車線変更に相当する程度の操舵力でハ

ンドルを操作していないとき

- ・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動してい ないとき
- ・TRC または VSC を OFF にしていない とき
- ・手放し運転に対する注意喚起 (→P.265) が行われていないとき
- ・車線中央付近を走行しているとき
- ・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

- ●作動条件(→P.264)が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- ●車線維持支援機能作動中に、作動条件 (→P.264) が満たされなくなった場 合、ハンドル振動または "ピピッ" とブザー音で、一時的に機能が解除さ れたことをお知らせする場合がありま す。また、カスタマイズ設定で "警報 手段"を に設定している場合は、 ブザーの代わりにハンドル振動でお知 らせします。

■車線逸脱抑制機能/車線維持支援機能 について

- ●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能/車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能/車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。
- ■これらの各機能によるステアリング制 御は、運転者のハンドル操作によって 修正することができます。
- ■車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能について

●外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などによ

- り、ハンドルの振動を感じにくい場合があります。
- ●走路 [※] がはっきり見えない場合、または 直線的でない場合は走路逸脱に対する 警報・制御が作動しない場合がありま す。
- ●BSM 装着車:となりの車線を走行中の 車両と衝突する可能性を判断できない 場合があります。
- ■車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。
- ※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



●車線維持支援機能作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが 鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的 に解除されます。運転者のハンドル操作 が小さい状態が続いたときも同様に注意 喚起が行われます。

また、警報手段を<mark>●●●</mark>に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

●車線維持支援機能作動中にカーブを曲

がりきれず車線から逸脱する可能性が あるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

●車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル 操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注 意喚起が行われます。ハンドル操舵支援 の回数が増えるごとに、ブザーの継続時 間が長くなります。

また、警報手段をできる。 に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて 走行しているとシステムが判断したとき、 ブザーと同時にマルチインフォメーショ ンディスプレイに休憩をうながすメッ セージと図で示すシンボルで注意喚起を 行います。



車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

● "LTA 故障 販売店で点検してください

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。

レクサス販売店で点検を受けてください。

● "LTA 現在利用できません"

前方カメラ以外のセンサーの異常により システムが一時停止しています。いった んLTAを OFF にして、しばらくしてか ら再度、LTA を ON にしてください。

● "LTA 現在の車速では使用できません

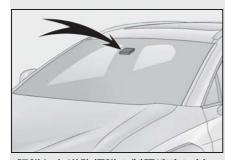
車速がLTAの作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。 (カスタマイズ一覧:→P.469)

RSA(ロードサインアシスト)

前方カメラまたはナビゲーションシステム(情報を取得した場合)を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して 走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、 告知表示およびブザー音もしくは ハンドルの振動で運転者に告知し ます。

▲ 警告

■RSA をお使いになる前に

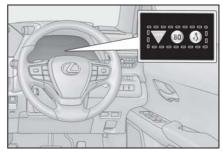
RSAは、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

マルチインフォメーションディ スプレイ表示

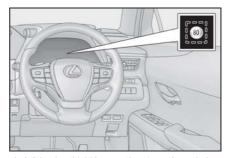
前方カメラまたはナビゲーションシステム(情報を取得した場合)に

よって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

運転支援機能情報を選択したときは、最大3つの標識を表示できます。(→P.150)



- 運転支援機能情報以外を選択した ときは、次のいずれかの標識が表 示されます。
- 最高速度標識
- ・ 車両進入禁止標識(告知時のみ)



速度制限標識以外を認識した場合、速度 標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路 標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入され た標識は認識されない場合があります。



: 最高速度



: 車両進入禁止



一時停止



はみ出し通行禁止



: 終わり [※]

※マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識 し、自車が進入禁止区域に進入し たと判定したときには、マルチイ ンフォメーションディスプレイに 表示される車両進入禁止標識の点 滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やハンドル振動をします。

状況によっては、告知表示が正常に 作動しない場合があります。

□知識

■設定のしかた

- 1 メーター操作スイッチの < または▶ を押して を選択する
- 2 メーター操作スイッチの ▲ または▼ を押して "車両設定" を選択し、"OK" を押す
- 3 メーター操作スイッチの ↑ または▼ を押して を選択し、 "OK"を押す
- **4** メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して "RSA" を選択し、 "OK" を押す

■RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行 禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- ●一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- ●右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- ●終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- ■標識を通過したとシステムが判定したとき
- ●右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- ■機能が正常に作動しないおそれのある 状況

次のような状況では、システムが正常に

標識を認識できず、正しい標識の表示が されない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- ●悪天候時 (霧・雪・砂嵐・大雨など)
- ●強い光(太陽光や対向車のヘッドラン プ光など)が前方カメラに直接あたっ ているとき
- ●標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- ●電光標識のコントラストが低いとき
- ●標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- ●前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- ●運転の状況(曲がる・車線変更等)が 誤って判断されたとき
- ●標識が高速道路の分岐した直後、また は合流直前の隣の車線にあるとき
- ●先行車の後部分にステッカーが貼って あるとき
- ●システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- ●側道の速度標識が前方カメラの認識範 囲内に入ったとき
- ■ロータリー(環状交差路)を走行しているとき
- ●重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- ●十分な光がなかったり、明るさが急激 に変化したりしたとき
- ●トラックなどの車両を対象にした標識 を認識したとき
- ●ナビゲーションシステムの地図情報が

古いとき

- ●ナビゲーションシステムを利用できないとき
- ●マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、パワースイッチを OFF にすると、次回パワースイッチを ON にしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに "RSA 故障 販売店で点検してください" が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧:→P.470)

レーダークルーズコント ロール(全車速追従機能付 き)

アクセルペダルを踏まなくても、 車間制御モードでは、先行車の車 速変化に合わせた追従走行を行い、 自動的に加速・減速・停止をしま す。定速制御モードでは、一定の 車速で走行できます。

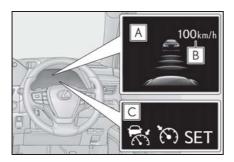
通信利用型レーダークルーズコン トロールは ITS Connect を装備 している車両のみ使用できます。

高速道路や自動車専用道路で使用 してください。

- 車間制御モード (→P.272)
- 定速制御モード (→P.276)
- 通信利用型レーダークルーズコントロール (ITS Connect 装着車のみ) (→P.276)

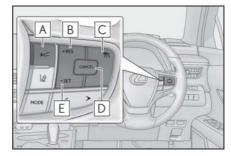
システムの構成部品

■ メーター表示



- **A** マルチインフォメーションディス プレイ
- B設定速度
- C 表示灯

■ 操作スイッチ



- A 車間距離切りかえスイッチ
- **B** "+RES" スイッチ
- D キャンセルスイッチ
- **E** "-SET" スイッチ

警告

- ■安全にお使いいただくために
- ●安全運転を行う責任は運転者にあり ます。システムを過信せず、運転者 は常に自らの責任で周囲の状況を把 握し、安全運転に努めてください。
- ●レーダークルーズコントロール(全 車速追従機能付き)は運転者の操作 の一部を支援し、操作負担を軽減す るためのシステムで、支援の範囲に は限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・センサーが正しく検知しないおそれのある先行車:→P.279
- ・車間制御モードが正しく作動しない おそれのある状況: →P.280

▲ 警告

- ●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。
- ●システムが正常に機能していても、 運転者が認識している先行車の状況 とシステムが検知している状況が異 なる場合があります。従って注意義 務・危険性の判断・安全の確保は運 転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転を したりすると思わぬ事故につながり、 重大な傷害におよぶか、最悪の場合 死亡につながるおそれがあります。
- ●レーダークルーズコントロール(全 車速追従機能付き)を使わないとき はクルーズコントロールメインス イッチでシステムを OFF にしてくだ さい。
- ■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容 レーダークルーズコントロール(全 車速追従機能付き)は、自車と設定 された先行車との車間距離を検知す るのみであり、わき見やぼんやり運 転を許容するシステムでも、視界不 良を補助するシステムでもありませ ん。

運転者自らが周囲の状況に注意を払 う必要があります。

- ●運転者が判断する過程での支援内容 レーダークルーズコントロール(全 車速追従機能付き)は、自車と設定 された先行車との車間距離が適正か どうかを判断しており、それ以外の 判断はしません。このため、危険性 があるかどうかなど運転者は自ら安 全の判断をする必要があります。
- ●運転者が操作する過程での支援内容 レーダークルーズコントロール(全 車速追従機能付き)は、先行車への 追突を防止する機能はありません。 このため、危険性があれば運転者自 らが安全を確保する必要があります。
- ■レーダークルーズコントロール(全 車速追従機能付き)を使用してはい けない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き)を使用しないでください。

適切な制御が行われず、思わぬ事故に つながり、重大な傷害におよぶか、最 悪の場合死亡につながるおそれがあり ます。

- ●歩行者や自転車等が混在している道
- ●交通量の多い道
- ●急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- ●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- ●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂 急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- ●高速道路や自動車専用道路の出入り□
- ●センサーが正しく検知できないよう な悪天候時(霧・雪・砂嵐・激しい 雨など)

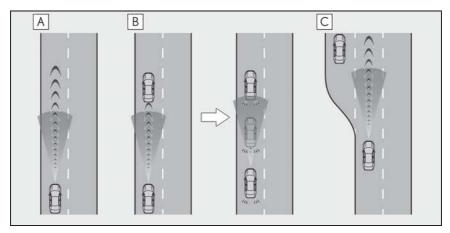
▲ 警告

- ●レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ●ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- ●車両けん引時
- ●接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



A 定速走行:

先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行一追従走行:

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります (このとき制動灯が点灯します)。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します(制御停車)。先行車の発進 後、"+RES"スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります(発 進操作)。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

約80km/h以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

C 加速走行:

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき 設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する(車間制御モード)

1 クルーズコントロールメインス イッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が 点灯し、マルチインフォメーションディ スプレイにメッセージが表示されます。 OFF にするには再度スイッチを押しま す。

クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モード でシステムが ON します。(→P.276)

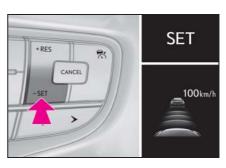


2 希望の車速(約30km/h以上) までアクセルペダル操作で加速/ 減速し、"-SET"スイッチを押 して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点 灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行

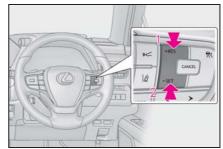
できます。



設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度 が表示されるまで "+RES" スイッ チまたは "-SET" スイッチを押し ます。



- 1 速度を上げる(車間制御モードの 制御停車中は除く)
- 2 速度を下げる

微調整:スイッチを押す

大幅調整:スイッチを押し続けて速度を かえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、 次のとおりに増減されます:

微調整:スイッチを押すごとに 1km/h 大幅調整:スイッチを押し続けているあ

いだ、5km/h ずつ

定速制御モード (→P.276) では、 設定速度は、次のとおりに増減され ます:

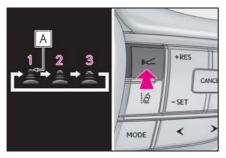
微調整:スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整:スイッチを押し続けているあ いだ連続して変化

- アクセルペダルで設定速度を上げる
- **1** 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する
- 2 "-SET" スイッチを押す

車間距離を変更する(車間制御 モード)

スイッチを押すごとに次のように車 間距離を切りかえます。



- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

先行車がいる場合、先行車マーク $\boxed{\mathbf{A}}$ も表示されます。

車間距離選択の目安(車間制御 モード)

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

(車速 80km/h で走行している場合) なお、車速に応じて車間距離は増減 します。また、制御停車時は設定に かかわらず状況に応じた車間距離で 停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

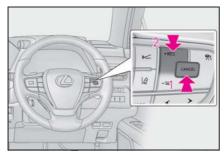
制御停車から追従走行に復帰させる(車間制御モード)

先行車の発進後、"+RES" スイッチを押す

先行車の発進後にアクセルペダルを踏ん でも追従走行に復帰します。



制御を解除する・復帰させる



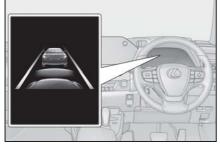
1 制御を解除するには、キャンセル スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。(車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません)

2 制御を復帰させるに は、 "+RES" スイッチを押す

接近警報(車間制御モード)

追従走行中の他車の割り込みなど、 十分な減速ができない状態で先行車 に接近したときは、表示の点滅とブ ザーで運転者に注意をうながします。 その場合は、ブレーキペダルを踏む など適切な車間距離を確保してくだ さい。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場

合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

車間制御モードでの走行中、システムが必要と判断したときに車速を抑制します。

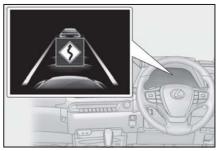
■ システム作動について

ハンドルをまわし始めると、車速の 抑制を開始します。その後、ハンド ルを戻すと車速の抑制が終了します。

状況に応じて車間制御モードの設定 速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走 行が優先された場合も車速抑制は終 了します。

■ システム作動時の表示



車速抑制中であることを示していま す。

車速の抑制が終了すると、表示が消 灯します。

■ カーブ速度抑制機能の設定を変更 する

マルチインフォメーションディスプレイの $(\rightarrow P.150)$ から、カーブ速度抑制機能の速度抑制の強弱や、ON / OFF を切りかえることができます。

"OK" を押すごとに設定が切りかわります。

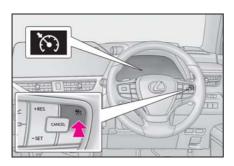
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速 変化に合わせた追従走行を行わず、 一定の車速で走行します。レーダー の汚れなどにより、車間制御モード で走行できない場合のみご使用くだ さい。

1 クルーズコントロールが OFF の 状態で、クルーズコントロールメ インスイッチを 1.5 秒以上押し 続ける

クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したと きのみ、定速制御モードへの切りかえが 可能です。



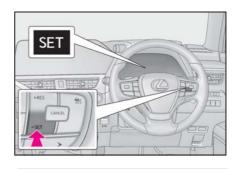
2 希望の車速(約30km/h以上) までアクセルペダル操作で加速/ 減速し、"-SET"スイッチを押 して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点 灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる (→P.273)

制御を解除する・復帰させる (→P.275)



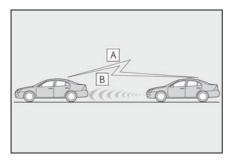
通信利用型レーダークルーズコ ントロール(ITS Connect 装 着車)

通信利用型レーダークルーズコントロールは、ITS Connect が装着されている車両のみ利用できます。

ITS Connect については P.288 を 参照してください。

このシステムは車間制御モードでの 追従走行中、先行車も通信利用型 レーダークルーズコントロールに対 応している場合に自動的に作動しま す。

■ 情報取得



A 先行車との通信

加減速情報などを取得します。

B レーダー

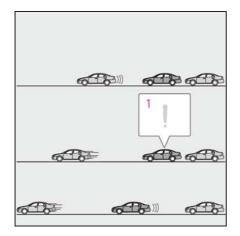
車間距離情報などを取得します。

■ システム作動について

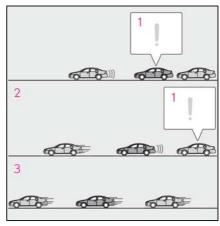
先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に車間制御モードに切りかわります。

車間制御モードに比べて、次のよう な作動になります。

● 車間制御モード



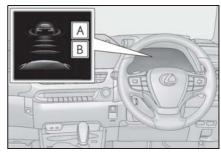
- 1 先行車の発進に遅れて気づく
- 通信利用型レーダークルーズコントロール



- 1 先行車の発進に素早く気づく
- 2 スムーズな加速で追従
- 3 短時間で渋滞解消
- 通信利用型レーダークルーズコントロールの ON / OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの (→P.150) から、通信利用型クルーズコントロールの ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。

■ システム作動時の表示



A 先行車通信マーク

B 車間距離表示

■ 通信利用型レーダークルーズコン トロールの作動目安

レーダークルーズコントロールの車間距離設定に応じて、本機能の作動 レベルがかわります。(→P.274)

車間距離設定	作動目安
長い	ゆったりとした加減速に よる追従走行
中間	中間の追従走行
短い	きびきびとした加減速に よる追従走行

| 知識

■設定条件について

定されます)

- シフトポジションがDのとき設定できま す。
- ●車速が約30km/h以上のとき、希望の 設定速度に設定できます。(ただし車速が約30km/h未満で設定したときは、設定速度が約30km/hに設

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

- ●制御停車中に "+RES" スイッチを押した場合、約3秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- ●先行車に続いて停車したあと約3秒以内 に先行車が発進した場合、追従走行に もどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解

除されます。

- ●VSC が作動したとき
- ●TRC が一定時間作動したとき
- ●TRC または VSC を OFF にしたとき
- ●センサーが何かでふさがれて正しく検 知できないとき
- ●運転支援装置によるブレーキ制御、出 カ抑制が作動したとき(例:プリク ラッシュセーフティ、ドライブスター トコントロール)
- ●パーキングブレーキが作動したとき
- ●急坂路で制御停車したとき
- ●制御停車中に次を検出したとき
- 運転席シートベルトを着用していない
- 運転席ドアが開いた
- 車両が停止したあと約3分経過した

上記以外の理由で車間制御モードが自動 解除されるときは、システムが故障して いる可能性があります。レクサス販売店 にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- ●設定速度より車速が約16km/h以上低下 したとき
- ●車速が約 30km/h 未満になったとき
- ●VSC が作動したとき
- ■TRC が一定時間作動したとき
- ●TRC または VSC を OFF にしたとき
- ●運転支援装置によるブレーキ制御、出 力抑制が作動したとき(例:プリク ラッシュセーフティ、ドライブスター トコントロール)
- パーキングブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

- ●緩やかなカーブを走行しているとき
- ●アクセルペダルを操作しているとき
- ●極端に短いカーブを走行しているとき
- ■通信利用型レーダークルーズコント ロールについて
- ●本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。
- ●先行車が通信利用型レーダークルーズ コントロールに対応していないときは、 本機能は作動しません。
- ●先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■通信利用型レーダークルーズコント ロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから車間制御モードに切りかわる場合があります。

- 免行車との通信が途絶したとき
- ●センサーが先行車を誤って検知したとき
- ●トンネルやビル街などで、自車または 先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪 化しているとき
- ■雪道などスリップしやすい路面を走行しているとき
- ●急な坂道を走行しているとき
- ●追従していた先行車が車線変更などで

離脱したとき

●通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告 メッセージ・警告ブザー

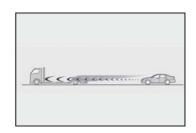
走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。(→P.246, 431)

■センサーが正しく検知しないおそれの ある先行車

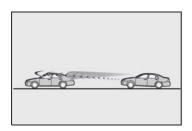
次のような場合にシステムによる減速が 不十分な場合はブレーキペダルを、加速 が必要な場合はアクセルペダルを、状況 に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接 近警報 (→P.275) も作動しないおそれ があります。

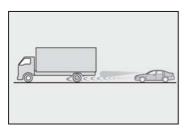
- ●先行車が急に割り込んできたとき
- ●先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- ●先行車の後部分が小さすぎるとき(荷物を積んでいないトレーラーなど)



- ●同じ車線を二輪車が走行中のとき
- ■周囲の車より水や雪がまき散らされ、 レーダーの検知のさまたげになる場合
- ●自車の車両姿勢が上向きになる場合 (重い荷物を積んだときなど)



●先行車の車高が極端に高いとき

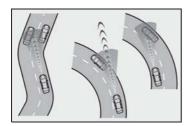


■車間制御モードが正しく作動しないお それのある状況

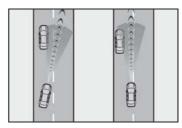
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速(場合によってアクセルペダルを操作)してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあり ます。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行 する場合



●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



- ●先行車が急ブレーキをかけた場合
- 道路脇に構造物がある道(トンネル・ 橋など)を走行する場合
- ●アクセルペダルを踏んで加速したあと、 車速が設定速度にもどるとき
- ■カーブ速度抑制機能が正しく作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が正しく作動しない場合があります。

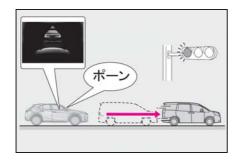
- ●上り坂、または下り坂のカーブを走行 しているとき
- ●カーブの形状とは異なる経路で走行しているとき
- ●カーブへの進入速度が過度に高いとき
- ●急なハンドル操作を行ったとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに 先行車を認識し続け、先行車が発進 してしばらく進んでも自車が停止し 続けた場合にお知らせします。



□ 知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- ●シフトポジションが P・R 以外でブレー キペダルを踏んで、停止している、ま たはシフトポジションが N で停止して いるとき
- ●ブレーキホールドが作動中のとき
- ●レーダークルーズコントロール(全車 速追従機能付き)が作動していて、制 御停車中のとき
- ■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラ とレーダーが対象を検出できず、システ ムが正常に作動しない場合があります。

- ●自車と先行車の停止位置がずれており、 先行車を正しく認識できないとき
- ●先行車との車間距離が極端に短くなり、 先行車を正しく認識できないとき
- ●坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- ●先行車の背面形状(けん引をしている 車両や荷物を積んでいないトレーラー、 雪や泥などが大量に付着している車両 など)やボデーカラーなどにより、先 行車を正しく認識できないとき
- ●先行車がオートバイ・自転車などのと
- ●先行車の右左折や車線変更などにより、 先行車を認識できなくなったとき
- ●悪天候(雨・霧・雪・砂嵐など)・煙・ 水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- ●前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
- ●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- ●プリクラッシュセーフティが一時的に 使用できないときや、故障などにより PCS 警告灯が点滅または点灯している とき
- ●右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- ■先行車が発進していなくても告知する 場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発 進したと判断し、システムが作動する場 合があります。

●悪天候(雨・霧・雪・砂嵐など)により、先行車の発進を誤認識したとき

- 坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- ●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを 先行車と認識しているとき
- ●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- ●自車と先行車とのあいだに、ほかの車 両が割り込んだり通過したりしたとき
- ■先行車発進告知機能の設定を変更する には
- ●先行車発進告知機能の ON / OFFシステムの ON / OFF を切りかえることができます。(→P.150)
- 1 メーター操作スイッチの < または▶ を押して を選択する
- 2 メーター操作スイッチの ▲ または▼ を押して "車両設定" を選択し、"OK" を押す
- 3 メーター操作スイッチの ↑ または▼ を押して "先行車発進告知" を 選択し、"OK" を押す
- 4 メーター操作スイッチの ↑ または▼ を押して "先行車発進告知" を 選択し、"OK" を押す
- ●先行車発進告知機能の告知距離告知する距離を切りかえることができます。(→P.150)
- 1 メーター操作スイッチの < または▶ を押して を選択する
- **2** ▲ または ▼ を押して "車両設定" を選択し、"OK" を押す

- **3** ▲ または ▼ を押して " 先行車発進 告知 " を選択し、"OK" を押す
- **4** ▲ または ▼ を押して "告知タイミング" を選択し、"OK" を押す

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、自動車専用道路(一部除く)を走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に 自車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

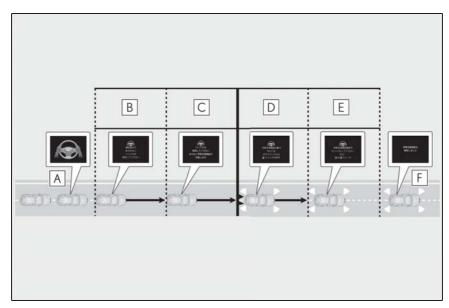
LTA(レーントレーシングアシスト)制御中に、手放しなどの無操作運転 状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、周囲に警告を 行いながら自車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に 寄与します。

ドア解錠やヘルプネット ※ 自動接続による運転者の救命要請も行います。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

システム概要

本システムは 4 つの状態に分けられます。**B**「警告 1 状態」、**C**「警告 2 状態」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常 / 異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には**D**「減速停止制御」、**E**「停止保持」で自車を減速、停車させ、**E**「停止保持」を継続します。



A 手放し運転警告 (→P.265)

- B「警告1 状態」
- C [警告 2 状態]
- D「減速停止制御」
- E 「停止保持」
- F 制御解除

▲ 警告

■安全にお使いいただくために

- ●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。
- ●ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件に同ります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。
- お客様自身でドライバー異常時対応 システムの作動テストを行わないで ください。状況によってはシステム が正常に作動せず、思わぬ事故につ ながるおそれがあります。

- ●ヘルプネット自動接続は、G-Link 通信エリア内、かつ G-Link 契約がされている場合にのみ行われます。 G-Link 通信エリア外や G-Link 未契約、G-Link 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の G-Link 契約をご確認の上、システムをご利用ください。
- ●システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、停止表示板・停止表示灯および発煙筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。(→P.414)
- ●システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。
- ●本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

□知識

■システムの作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

●車速と前方カメラによって自動車専用 道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

- ●LTA スイッチを ON し、LTA 制御中
- ●レーダークルーズコントロールメイン スイッチを ON し、レーダークルーズ コントロール(全車速追従機能付き) 制御中
- 自車速が約 50km/h 以上
- ■システムの作動解除条件
- B 「警告 1 状態」、C 「警告 2 状態」、
 - **D** 「減速停止制御」作動時、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。
- ・LTA 制御がキャンセルされたとき (LTA スイッチを押した場合など)
- ・レーダークルーズコントロール(全車 速追従機能付き)制御がキャンセルさ れたとき(レーダークルーズコント ロールメインスイッチを押した場合な ど)
- ・手放し運転を終了したとき (ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど)
- ・自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき
- ・運転者がブレーキ操作をしたとき
- 運転者がアクセル操作をしたとき
- ・ブレーキ異常検出時
- · 方向指示レバーを操作したとき
- **E**「停止保持」中、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。



- ・シフトポジションを P にした状態で LTA スイッチを押したとき
- ・パワースイッチを ON から OFF にした とき
- ・ブレーキ異常検出時

■システム作動解除時の LTA 制御

下記の条件でシステム作動が解除された 場合、LTA 制御がキャンセルされます。

LTA を再度使用する場合は、LTA スイッチを押し LTA 制御を ON にしてください。

- **B** 「警告 1 状態」において、LTA スイッチを押しシステム作動を解除したとき
- ■C [警告 2 状態]、D [減速停止制御]において、システム作動を解除したとき
- ●レーダークルーズコントロール(全車 速追従機能付き)制御がキャンセルさ れたとき(レーダークルーズコント ロールメインスイッチを押した場合な ど)
- ●手放し運転を終了したとき (ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど) (C 「警告 2 状態」および D 「減速停止制御」のみ)
- ●運転者がブレーキ操作をしたとき
- ■運転者がアクセル操作をしたとき
- ●方向指示レバーを操作したとき

■警告メッセージ

LTA システムに異常が発生した場合や、

ー時使用不可となった場合、警告メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、ドライバー異常時対応システムが使用できなくなります。(→P.266)

■ドライバー異常時対応システムの留意 事項

- ヘルプネット通話中は、音声が聞き取りやすいようブザー吹鳴を中止します。
- ●LTA 制御が継続できない場合は、システムがキャンセルされます。

B 「警告 1 状態」

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー吹鳴(「ピッ、ピッ、・・・」)とマルチインフォメーションディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常/異常判定を行います。レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き)および LTA による制御が継続され、警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、**C**「警告 2 状態」に移行します。



C 「警告 2 状態」

ブザー吹鳴(「ピッピッピッ ピッ・・・」)とマルチインフォメー ションディスプレイ表示により注意 喚起を行い、引き続き運転者の正常 /異常判定を行います。このとき、 ブザーを聞き取りやすくするために、 オーディオがミュート(消音)** れます。LTA 制御は継続され、緩や かな減速度で車速を一定速度内(約 40km/h ~ 50km/h の間)まで砂 40km/h ~ 50km/h の間)まで砂 させます。この状態で、約30秒は きせます。この状態で、約30秒は と響告を継続してもハンドル保持な どの運転者による操作がされなか た場合には、システムが運転者が た場であると判断し、**D** 「減速停止 制御」に移行します。

※ 異常状態から復帰するまで継続します。



□ 知識

■非常点滅灯 (ハザードランプ) について

で 「警告 2 状態」移行後に、約 10km/h 程度減速した場合、非常点滅灯(ハザードランプ)が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

D 「減速停止制御」

本制御では運転者が異常状態にあると判断し、緩やかな減速度で車両を

停車させます。車内ではブザー吹鳴(「ピッピッピッピッピッ・・・」)とマルチインフォメーションディスプレイ表示で運転者に状況を知らせ、車外ではストップランプ、非常点滅灯(ハザードランプ)とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせます。車両が停車すると**E**「停止保持」に移行します。



□ 知識

■非常点滅灯(ハザードランプ)について

D 「減速停止制御」においては、非常点減灯 (ハザードランブ) が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点減灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点減灯が消灯されます。

E 「停止保持」

車両停車後、停止保持制御により車 両停車状態を保持します。ストップ ランプは消灯しますが、引き続き、 非常点滅灯 (ハザードランプ) と ホーン吹鳴によって周囲に緊急事態 を知らせ、ドア解錠やヘルプネット 自動接続による運転者の救命・救護 要請を行います。



__ 知識

■非常点滅灯(ハザードランプ)について

[**E**]「停止保持」においては、非常点滅灯 (ハザードランプ) が点滅します。すでに 運転者がハザードスイッチを操作してい た場合は、システムによる非常点滅灯の 点滅は行われません。

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネット のオペレーターからの声掛けに対して車 内からの応答がない場合、救命・救護の ために救急や警察へ通報を行います。

ヘルプネット通話中は音声が聞き取りや すいよう、ブザー吹鳴を停止します。

■非常点滅灯 (ハザードランプ) について (制御解除後)

システムの作動が終了しても、非常点減灯 (ハザードランプ) の点滅は継続します。ハザードスイッチを2回押すと、非常点滅灯が消灯します。

ITS Connect ★

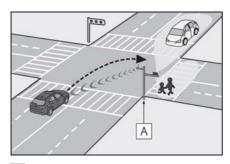
★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

ITS Connect は、交通情報や周辺 車両の情報を受信することにより、 安全運転や快適な運転を支援する システムです。

ITS Connect の概要

■ 安全運転を支援する通知・案内・ 注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS[※] 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。



A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意をうながすことにより安全運転を支援します。



- ** DSSS (Driving Safety Support Systems) とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。
- 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速 /減速情報をレーダークルーズコン トロールの制御に利用し、よりス ムーズな追従走行に寄与することで 快適な運転を支援します。詳細は P.276を参照してください。

知識

■ITS Connect 機器に関する情報

- ●本システムは、トロンフォーラム (www.tron.org) の T-License2.0 に基 づき T-Kernel ソースコードを利用して います。
- ●本システムは、ITS Connect 推進協議会 が規定する相互接続性確認試験に適合 しています。

機種名:DTU-1010 型式認定番号:10005

●本システムは、周波数 760MHz の電波 を発信するため、お車を海外へ持ち込 んだ場合はその国の関連法規に違反す る場合があります。

■ITS Connect に関するお問い合わせに ついて

ITS Connect に関するお問い合わせ(機 器の調子・機能・使用方法や路側装置の 整備計画など) はレクサスオーナーズデ スクにお問い合わせください。

レクサスオーナーズデスクについて詳し くは、別冊「マルチメディア取扱説明書」 を参照してください。

4 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあり ます。常に周囲の状況を把握し、安 全運転に努めてください。

ITS Connect はあらゆる状況で安全 運転の支援をするものではありませ ん。システムに頼ったり、安全を委 ねる運転をしたりすると思わぬ事故 につながり、重大な傷害におよぶか、 最悪の場合死亡につながるおそれが あります。

●ITS Connect は安全運転の支援を目 的として設計していますが、その効 果はさまざまな条件によりかわり、 常に同じ性能を発揮できるものでは ありません。

「システムが正常に作動しないおそれ があるとき I (→P.292) をお読みい ただき、システムを過信せず安全運 転に努めてください。

■ITS Connect について

- ●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。
- · 交差点に DSSS 用路側装置が設置さ れていないとき
- ・ 先行車や接近してくる車両に通信機 が搭載されていないとき

- ●交差点に進入する方向によっては、 作動する通知・案内・注意喚起が異 なる場合があります。
- ■右折時注意喚起(DSSS 用路側装置 との通信) について

DSSS 用路側装置が設置された交差点 であっても、DSSS 用路側装置の種類 や交差点に進入する方向によっては、 対向車のみを検知し、歩行者に対する 注意喚起をしない場合があります。 そのため、注意喚起の表示内容が実際 の交通状況と異なる場合があります。 「割り込み表示による通知・案内・注意 喚起 | (→P.290) をお読みいただき、 必ず自らの目視による安全確認を行っ てください。

■右折時注意喚起(通信機を搭載した 車両との通信)・出会い頭注意喚起に ついて

通信機を搭載した車両が接近してきて も、地図データと実際の道路状況が異 なるときは、交差点付近であることが 判断できず、注意喚起をしなかったり、 注意喚起の表示内容が実際の交通状況 と異なる場合があります。

⚠ 注意

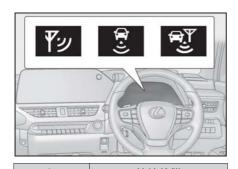
■ITS Connect 機器取り扱いの注意

- ●ITS Connect 機器は電波法の基準に 適合しています。ITS Connect 機器 に貼り付けられているラベルはその 証明ですのではがさないでください。
- ●ITS Connect 機器を分解・改造する と、法律により罰せられることがあ ります。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なと き、マルチインフォメーションディ

スプレイに次のアイコンを表示して 通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
Ye	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
(÷)	通信機を搭載した車両か ら必要な情報を取得でき ている
₽ Y	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信 機を搭載した車両、両方 から必要な情報を取得で きている

割り込み表示による通知・案 内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注 意喚起をマルチインフォメーション ディスプレイに割り込み表示します。

ヘッドアップディスプレイ装着車: 右折時注意喚起、赤信号注意喚起、 出会い頭注意喚起はヘッドアップ ディスプレイにも割り込み表示しま す。

■ 右折時注意喚起(DSSS 用路側装 置との通信)

交差点で右側方向指示灯を点滅させ て右折待ちをしているときに、対向 車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路 側装置(感知器)の種類によって、 注意喚起の表示は次のように異なり ます。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点



▶ 対向車のみを感知する交差点



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交 通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消え ますが、周囲に車や人がいないこ とを示すものではありません。
- 右折時注意喚起(通信機を搭載し た車両との通信)

DSSS 用路側装置が設置されていな

い交差点で、地図データを用いることにより、右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交 通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消え ますが、周囲に車や人がいないこ とを示すものではありません。

■ 出会い頭注意喚起

地図データを用いることにより、交 差点で停車しているときに、右また は左方向から交差点に進入してくる 車両がいるにもかかわらず発進しよ うとしているなど、接近する右また は左方向の車両を見落している可能 性があるとシステムが判断したとき に、ブザーと表示で注意喚起を行い ます。



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交 通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消え ますが、周囲に車や人がいないこ とを示すものではありません。

■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかって もアクセルペダルを踏み続けている など、赤信号を見落している可能性 があるとシステムが判断したときに、 ブザーと表示で注意喚起を行います。



■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。



■ 緊急車両存在通知

緊急車両(救急車)がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、 ブザーが鳴り、自車に対する緊急車 両のおおよその方向・距離・進行方 向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近く に緊急車両がいることを表します。



通信車両接近通知

交差点などで停車しているときに、 通信機を搭載した車両が接近してく ると、通信車両のおおよその方向を 表示します。

接近してくる方向が正面の場合は、右側 方向指示灯を点滅させているときのみ表 示します。



■ 通信車両接近通知の使い方

▼ マルチインフォメーションディス プレイで専用の通知画面を表示し ているときに使用することができ ます。

ハンドルのメーター操作スイッチ の **く**または **>** を押して を選 択し、 **∧** または **∨** を押して、通

車両が停止しているときに表示が 有効になります。車両が完全に停止していないときは通知されません。

知画面を表示してください。

□知識

■交差点ごとの作動する通知・案内・注 意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置 の種類により発信している情報が異なる ため、交差点によって作動する通知・案 内・注意喚起は異なります。

■システムが正常に作動しないおそれが あるとき

- 例えば次のような状況などでは、車両 の位置や向きを正しく特定できず、シ ステムが正常に作動しないおそれがあ ります。
- 高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
- トンネルや高架下を通過しているとき

- ・EV システムを始動してから、しばらく 走行するまでのあいだ
- ●例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・周囲に大型車が走行しているときなど、 通信がさえぎられたとき
- ・ 通信を妨害する電波が発せられている
- DSSS 用路側装置の向きがかわってしまっているとき
- ・DSSS 用路側装置がメンテナンス中や 故障しているとき
- ・他車両の通信機が故障しているとき
- ●右折時注意喚起(DSSS 用路側装置との 通信)は、次のような状況などでは正 常に作動しないおそれがあります。
- ・ 交差点内で一旦停止せずに右折しよう としたとき
- ・周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置 の劣化などの影響により、対向車や歩 行者の検知性能が低下しているとき
- ・対向車や歩行者が周囲の建物や別の車 両に隠れているとき
- ・ DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向 車や歩行者がいるとき
- ・DSSS 用路側装置から受信した情報が 誤っているとき
- ●右折時注意喚起(通信機を搭載した車両との通信)は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 交差点内で一旦停止せずに右折しよう としたとき
- ・地図データと実際の道路状況が異なる ため、交差点付近であることが判断で きないとき
- ・相手通信車両から受信した情報が誤っ ているとき
- ●出会い頭注意喚起は、次のような状況 などでは正常に作動しないおそれがあ ります。
- ・ 交差点手前で一旦停止せずに通過しよ

- うとしたとき
- ・地図データと実際の道路状況が異なる ため、交差点付近であることが判断で きないとき
- ・相手通信車両から受信した情報が誤っ ているとき
- ●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 遅い速度で走行しているとき
- 停車しているとき
- ・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
- ・DSSS 用路側装置から受信した情報が 誤っているとき
- ●信号待ち発進準備案内は、次のような 状況などでは正常に作動しないおそれ があります。
- ・前方の信号機が青信号、黄信号または 矢印信号のとき
- ・ 青信号にかわるまでの待ち時間が残り 少ないとき
- 停車していないとき
- ・交差点付近の側道や駐車場など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する 場所に停車しているとき
- ・DSSS 用路側装置から受信した情報が 誤っているとき
- ■緊急車両存在通知は、次のような状況 などでは正常に作動しないおそれがあ ります。
- ・緊急車両と自車の距離が一定以上離れ ているとき
- ・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走 行しているとき
- ・立体交差付近を走行しているとき
- ・緊急車両から受信した情報が誤っているとき
- ●通信車両接近通知は、次のような状況 などでは正常に作動しないおそれがあ ります。
- ・ 相手通信車両から受信した情報が誤っ

ているとき

各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの (→P.150) で、機能の設定を変更することができます。

● 信号情報

次の機能の作動・非作動を変更すること ができます。

- 赤信号注意喚起
- ・ 信号待ち発進準備案内
- 道路環境情報

次の機能の作動・非作動を変更すること ができます。

- 右折時注意喚起
- ・ 出会い頭注意喚起
- 支援タイミング

次の機能の表示タイミングを変更することができます。

- 右折時注意喚起
- 出会い頭注意喚起
- 赤信号注意喚起
- 緊急車両通知

緊急車両存在通知の作動・非作動を変更 することができます。

● クルーズ (ITS)

通信利用型レーダークルーズコントロー ルの作動・非作動を変更することができ ます。

BSM(ブラインドスポット モニター)★

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

ブラインドスポットモニターは、 リヤバンパー内側にある後側方 レーダーセンサーを使用し、運転 者による車線変更時の判断を支援 するシステムです。

▲ 警告

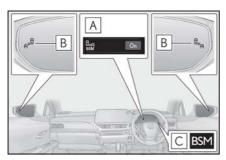
■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運 転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディス プレイ

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C BSM 表示灯

ブラインドスポットモニターが ON のときに点灯します。

□知識

■ドアミラーインジケーターの視認性に ついて

強い日差しのもとでは、ドアミラーイン ジケーターが見えづらいことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに "BSM 現在使用できません"が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。 (→P.295) センサー周辺のバンパーの 氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧:→P.471)

■後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・ 改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01

▲ 警告

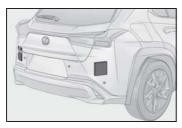
■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

▲ 警告

●センサー周辺のリヤバンパーは常に きれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや 着雪がある場合、警告表示(→P.295) とともにシステムが作動しなくなるこ とがあります。その場合、汚れや雪を 落としたあと、BSM 機能の作動条件 (→P.298) でしばらく走行してくださ い(目安:約10分)。それでも警告表 示が消えない場合はレクサス販売店に て点検を受けてください。



- ●センサーやセンサー周辺のリヤバン パーにステッカーを貼らない
- ●センサー周辺のリヤバンパーへの強 い衝撃を避ける

センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。

次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

- ・センサーやセンサー周辺に強い衝撃 を受けた
- ・センサー周辺のリヤバンパーなどに 傷や凹みがある、一部が外れている

- ●センサーを分解しない
- ●センサーやセンサー周辺のリヤバン パーを改造しない
- リヤバンパーの塗装修理の際には レクサス設定色以外への変更は行わ ないでください

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って ON / OFF を切りかえます。 (→P.150)

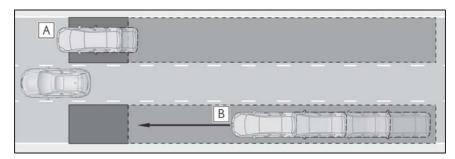
- **1 <**または **>**を押して **※**を選択する
- **2 ^** または **v** を押して **w** を選択し、 "OK"を押す

ブラインドスポットモニターの作動

■ 検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走

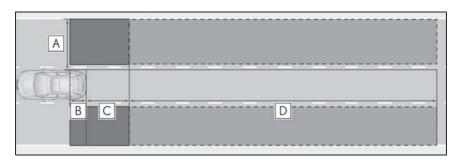
行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の 存在を運転者に知らせます。



- ▲ ドアミラーに映らない領域(死角領域)を併走する車両
- **B** 後方からドアミラーに映らない領域(死角領域)に急速に接近してくる車 両

■ 検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲:

- **A** 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1
- B リヤバンパーから約 1m 前方の領域
- **D** リヤバンパーから後方約 3m ~ 60m の領域 **2
- ※1車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。
- **²自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

□ 知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ●ブラインドスポットモニターがONのとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- ●車速が約 16km/h 以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のよ うな状況で検知範囲に入った車両を検知 します。

- ●隣の車線を走行する他車に自車が追い こされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- ●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象と しません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- ●対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 [※]
- ●同じ車線を走行する後続車※
- ●2つ隣の車線を走行する他車※
- ●大きい速度差で自車が追い越す他車 ※
- ※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれが ある状況

- ●次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃 などにより、センサーの位置や向きが ずれているとき
- ・泥・雪・氷・ステッカーなどがセン サーやセンサー周辺のリヤバンパーに 付着したとき
- ・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たま りなどの濡れた路面を走行するとき
- ・複数台の他車が狭い間隔で連続して接 近するとき
- ・自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が 大きすぎるとき
- ・自車と他車の速度差に変化があるとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほ とんど等しいとき
- ・停止状態から発進した際に、検知範囲 に他車が存在し続けたとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や 道路のくぼみ等を走行しているとき
- きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・車線の幅が広い、もしくは車線の端を 走行するなど、隣の車線の他車が自車 から離れすぎているとき
- ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- ・検知範囲に入る他車と自車の高さに差 がありすぎるとき
- ・ ブラインドスポットモニターを ON に した直後
- ●特に次のような状況では不要な検知が 増えることがあります。
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃 などにより、センサーの位置や向きが ずれているとき
- ガードレールや壁などとの距離が短い 状況で、それらが検知範囲に入ったと き

- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や 道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を 走行するなど、隣の車線以外を走行す る車両が検知範囲に入ったとき
- きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- タイヤがスリップ(空転)していると
- ・自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

PKSA(パーキングサポートアラート)

PKSA(パーキングサポートアラート)は、ソナーで壁などの静止物を検知しお知らせするクリアランスソナー、レーダーで後方接近車両を検知しお知らせするRCTA(リヤクロストラフィックアラート)★機能により、駐車時に運転者に注意喚起を行います。

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

駐車支援機能

- クリアランスソナー
- →P.300
- RCTA (リヤクロストラフィック アラート) *
- →P.308
- ★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

警報ブザー

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

クリアランスソナー、RCTA のブ ザー音を一括で調整します。

メーター操作スイッチを使って設定 を変更します。(→P.150)

1 < または **>** を押して **※** を選択 する

- **2** ▲ または ▼ を押して "PKSA" を選択し、"OK" を押す
- **3** ▲ または ▼ を押して 🕠 を選択し、 "OK" を押す

押すごとに 1,2,3 のあいだで音量が切りかわります。

■ ブザー音の一時ミュート (消音)

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイまたはセンターディスプレイ上に一時ミュート(消音)スイッチが表示されます。

"OK" または √ を押すとクリアランスソナー、RCTA のブザー音が一括でミュート(消音)されます。

ー時ミュート (消音) が解除される とき:

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

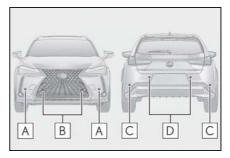
クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイ、ヘッドアップディスプレイ*およびセンターディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

システムの構成部品

■ センサーの種類



- **A** フロントコーナーセンサー
- **B** フロントセンターセンサー
- C リヤコーナーセンサー
- **D** リヤセンターセンサー
- クリアランスソナーの表示のしか た

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイ、ヘッドアップディスプレイ★、またはセンターディスプレイに表示されます。

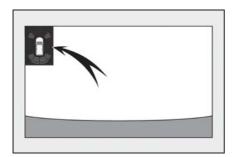
● マルチインフォメーションディス プレイおよびヘッドアップディス プレイ[★]の表示



- フロントコーナーセンサー作動表示
- **B** フロントセンターセンサー作動表示
- Cリヤコーナーセンサー作動表示
- **D** リヤセンターセンサー作動表示
- センターディスプレイの表示

作動対象を検知するとセンターディスプレイトに自動表示されます。

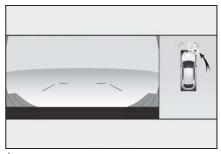
シフトポジションが R のとき



・ シフトポジションが N、B または D の とき



作動対象を検知するとパノラミック ビューモニター★画面上に自動表示され ます。



★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON / OFF を切りかえます。 (→P.150)

- **1 く**または **>** を押して **※** を選択する
- **2** ▲または ▼ を押して "PKSA" を選択し、 "OK" を押す
- **3 ▲**または ▼ を押して P// を選択し、"OK"を押す

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯 $(\rightarrow P.145)$ が表示されます。

いったんクリアランスソナー機能を ON

/ OFF すると、次回 EV システムを始動 したときにも、そのままの状態が続きま す。

▲ 警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限 界があります。システムを過信せず、 運転者は常に自らの責任で周囲の状況 を把握し、安全運転を心がけてくださ い。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。 お守りいただかないと、思わぬ事故に つながるおそれがあり危険です。

- ●センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- ◆センサー付近に市販の電装部品(字 光式ナンバープレート・フォグラン プ・フェンダーポール・無線アンテ ナなど)を取り付けないでください。
- ●センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はレクサス販売店にご相談ください。
- ●改造・分解・塗装をしないでください。
- ●ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してくだ さい。
- ■クリアランスソナーを OFF にすると き

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●上記の内容が守られないとき
- ●レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■洗車時の注意

- ●高圧洗車機を使用して洗車するとき は、センサー部に直接水をあてない でください。強い水圧により衝撃が 加わり、正常に作動しなくなるおそ れがあります。
- ●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

| 知識

■作動条件

- ●パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- ■車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- ●シフトポジションが P 以外にあるとき

■ブザーの音量調整について

マルチインフォメーションディスプレイ のからブザー音量を変更することができます。(→P.299)

■マルチインフォメーションディスプレイに "クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください"が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・ 泥などが付着していることが考えられま す。

この場合はセンサーの氷・雪・泥などを 取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに "クリアランスソナー使用できません" が表示されたときは

- ◆大雨などでセンサー表面に水が継続的 に流れている可能性があります。シス テムが正常と判断した時に復帰します。
- ●補機バッテリーを脱着したあとに、初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。初期化を行っても表示が消えない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。 約35km/h以上の車速で5秒以上直進走 行することで初期化できます。

■センサーの検知について

- ●センサーの検知範囲は車両前部と後部 のバンパー周辺に限られます。
- ●静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- ●静止物を検知してから、表示が出る (ブザーが鳴る) までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が 出る(ブザーが鳴る) までに、静止物 まで約30cm以内に接近するおそれがあります。
- 次のような状況では、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- オーディオ使用時
- エアコン使用時
- ・他システムのブザー音吹鳴時

■システムが正しく検知できないことが ある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

針金・フェンス・ロープなどの細いも

\mathcal{O}

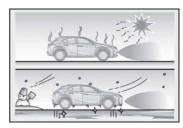
- ●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- ●鋭角的な形のもの
- ●背の低いもの
- ●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■システムが正常に作動しないおそれの ある状況

次のような状況では、センサーが正常に 作動しないことがあります。

- ●センサーに氷・雪・泥などが付着したとき(取り除けば、正常に復帰します)
- ●センサー部が凍結したとき(解ければ、正常に復帰します) 特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- ●炎天下や寒冷時



- ●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- ●他車のホーン・オートバイのエンジン 音・大型車のエアブレーキ音・他車の センサーなど超音波を発生するものが 近付いたとき
- ●大雨や水しぶきがかかったとき
- ●センサーに静止物が近付きすぎたとき
- ●超音波を反射しにくい歩行者(例: ギャザーやフリルの多いスカートなど)
- ●地面に対して垂直でないもの、車両進

行方向に対して直角でないもの、凹凸 なもの、波打っているものが検知範囲 にあるとき

- ●風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- ●作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき
- ●車・オートバイ・自転車・歩行者など の作動対象が車両の横から割り込んだ り、飛び出してきたとき
- ●衝突などで、センサーの方向がずれた とき
- ●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置(スノーブラウ)などを取り付けたとき
- ●積載状況などにより車高が著しく変化 したとき (ノーズアップ・ノーズダウンなど)
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤバンク応急修理キットを使用しているとき
- ■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき

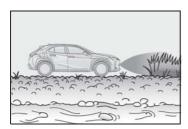


●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、 遮断機(踏切のバー・ETCのバー・駐

- 車場のバーなど)に向かって走行するとき
- ●地面にわだちや穴がある場合
- ●排水溝などの金属のフタ(グレーチング) 走行時
- ●急な登坂路や降坂路を走行するとき
- ■冠水している道路でセンサーに水がか ぶったとき
- ●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付 着したとき(取り除けば、正常に復帰 します)
- ●大雨や水しぶきがかかったとき
- ■霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



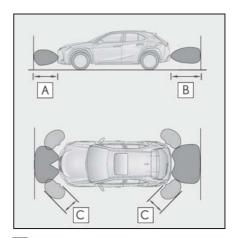
- ●他車のホーン・オートバイのエンジン 音・大型車のエアブレーキ音・他車の センサーなど超音波を発生するものが 近付いたとき
- ●積載状況などにより車高が著しく変化 したとき (ノーズアップ・ノーズダウンなど)
- ●衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- ●背の高い縁石や直角の縁石に向かって 進んだとき
- ●立体駐車場や工事現場などで柱(H 形 鋼など)の付近を走行するとき
- ●事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



- **A**約100cm
- **B**約 150cm
- **C**約60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると 検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 画面表示

静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイおよびセンターディスプレイ、またはヘッドアップディスプレイ★の作動表示が点灯(一部、枠が点滅)します。

- ★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
- 静止物までのおおよその距離: 150cm ~ 60cm[※] (リヤセンターセンサー)

マルチインフォメーション ディスプレイ	センターディスプレイ	ヘッドアップディスプレイ

- ※ 自動ミュート機能あり (→P.307)
- 静止物までのおおよその距離: 100cm ~ 60cm[※] (フロントセンターセンサー)

マルチインフォメーション ディスプレイ	センターディスプレイ	ヘッドアップディスプレイ

※ 自動ミュート機能あり (→P.307)

● 静止物までのおおよその距離:60cm ~ 45cm[※]

マルチインフォメーション ディスプレイ	センターディスプレイ	ヘッドアップディスプレイ

※ 自動ミュート機能あり (→P.307)

● 静止物までのおおよその距離:45cm ~ 30cm[※]

マルチインフォメーション ディスプレイ	センターディスプレイ	ヘッドアップディスプレイ
	E	

※ 自動ミュート機能あり (→P.307)

● 静止物までのおおよその距離:30cm ~ 15cm^{※1}

マルチインフォメーション ディスプレイ ^{※2}	センターディスプレイ ^{※2}	ヘッドアップディスプレイ

^{※1}自動ミュート機能なし (→P.307)

※²点灯および枠が遅い点滅

● 静止物までのおおよその距離: 15cm 以下 **1

マルチインフォメーション ディスプレイ ^{※2}	センターディスプレイ ^{※2}	ヘッドアップディスプレイ
		♦

※1自動ミュート機能なし(→P.307)

※²点灯および枠が早い点滅

■ 音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴り ます。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。 静止物との距離が約30cm以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を 検知しているときは、もつとも近 い静止物との距離に合わせたブ ザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が 近付かない場合は、自動でブザー が消音されます。(自動ミュート 機能)

RCTA(リヤクロストラフィックアラート)★

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

RCTA(リヤクロストラフィックアラート)機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

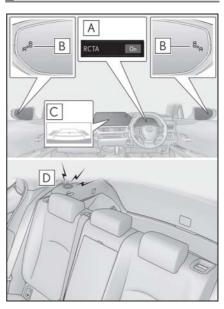
▲ 警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。(\rightarrow P.294)

■システムを正しく作動させるために →P.295

システムの構成部品



■ マルチインフォメーションディス プレイ

RCTA 機能の ON / OFF を切りかえます。

RCTA 機能を OFF にすると、RCTA OFF 表示灯が点灯します。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近して いる車両を検知したときは、両側のドア ミラーインジケーターが点滅します。

C センターディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイに検知した側の RCTA アイコン (→P.309) が点灯します。イラストは両後方から車両が接近している例です。

D RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近して いる車両を検知したときは、ブザーが鳴 ります。

設定のしかた

メーター操作スイッチを使って ON / OFF を切りかえます。 (→P.150)

- **1 く**または **>**を押して を選択 する
- **2** ▲ または ▼ を押して "PKSA" を選択し、"OK" を押す
- **3** ▲ または ▼ を押して "RCTA" を選択し、"OK" を押す

パワースイッチが ON になるたび、 RCTA 機能は ON になります。

□ 知識

■ドアミラーインジケーターの視認性に ついて

強い日差しのもとでは、ドアミラーイン ジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする 場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくな る場合があります。

■マルチインフォメーションディスプレイに "RCTA 現在使用できません"が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。 センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

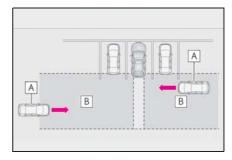
■後側方レーダーセンサーについて

→P.296

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



- A 接近車両
- B接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

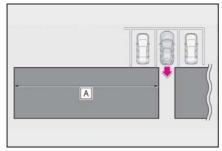
自車の右後方または左後方から接近 している車両を検知したときは、セ ンターディスプレイ上に次の表示を します。

例:両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。 例:

接近車両の速度 A 警報距離(概算) 56km/h (速い) 40m 8km/h (遅い) 5.5m

□知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ●パワースイッチが ON のとき
- RCTA 機能が ON のとき
- シフトポジションが R のとき
- 自車の車速が約 15km/h 以下のとき
- ●接近する他車の車速が約 8km/h ~ 56km/h のあいだのとき

■ブザーの音量調整について

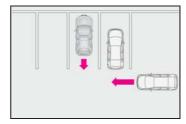
マルチインフォメーションディスプレイ のからブザー音量を変更することができます。(→P.299)

■システムが検知しない車両について

次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真うしろから接近する車両

- 自車の隣の駐車スペースで後退する車 両
- ●障害物のためにセンサーが検知できない車両

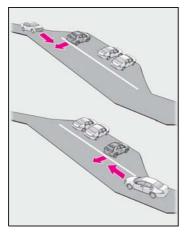


- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物
- ●小型のオートバイ・自転車・歩行者など
- ●自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する 車両
- ●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合
- ■システムが正常に作動しないおそれの ある状況

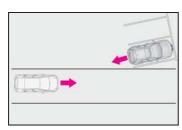
RCTA 機能は、次のような状況では車両 を有効に検知しないおそれがあります。

- ●センサーやセンサー周辺への強い衝撃 などにより、センサーの位置や向きが ずれているとき
- ●泥・雪・氷・ステッカーなどがセン サーやセンサー周辺のリヤバンパーに 付着したとき
- ●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- ●複数台の他車が狭い間隔で連続して接 近するとき
- ●車両が高速で接近するとき
- ●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置(スノーブラウ)などを取り付けたとき

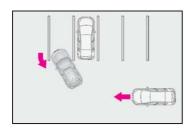
■勾配の変化が激しい坂で後退している とき



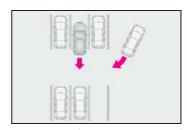
●斜めの駐車場から出庫するとき



- ●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- ●炎天下や寒冷時
- ●ローダウンサスペンションや、純正と 異なるサイズのタイヤを取り付けたと き
- ■車高が極端に変化しているとき (ノーズアップ、ノーズダウンなど)
- ●自車が旋回しているとき



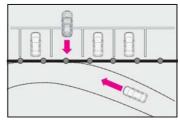
●旋回しながら車両が近付いてきたとき



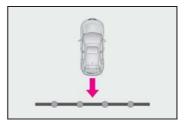
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

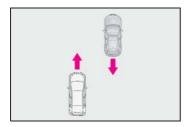
●駐車場に面した道を車両が走行しているとき



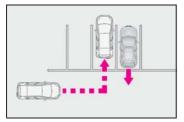
●車両後方に電波の反射しやすい金属 (ガードレール・壁・標識・駐車車両な ど)が存在するとき



- ●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置(スノーブラウ)などを取り付けたとき
- 車両が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- ●自車近くに室外機などの回転体がある とき
- ●センサーに向けてスプリンクラーなど による水の飛散があったとき
- 動いているもの(旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など)
- ガードレールや壁などとの距離が短い 状況で、それらが検知範囲に入ったと き
- グレーチングや側溝
- ●炎天下や寒冷時
- ●ローダウンサスペンションや、純正と 異なるサイズのタイヤを取り付けたと
- ■車高が極端に変化しているとき (ノーズアップ、ノーズダウンなど)

PKSB(パーキングサポートブレーキ)

PKSB(パーキングサポートブレーキ)は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ(静止物)、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ(後方接近車両)★があります。

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

駐車支援機能

- パーキングサポートブレーキ(静 止物)
- →P.317
- パーキングサポートブレーキ(後 方接近車両) ★
- →P.319
- ★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

▲ 警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

▲ 警告

- ●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB (パーキングサポートブレーキ) は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB (パーキングサポートブレーキ) は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- ●故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。
- ■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB (パーキングサポートブレーキ)を OFF にしてください。 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- ●点検などで、シャシーローラー・ シャシーダイナモ・フリーローラー などを使用する場合
- ●船舶・トラックなどへ積載する際の 進入時
- ●ローダウンサスペンションや、純正 と異なるサイズのタイヤを取り付け た場合
- ●積載状況などにより車高が著しく変化した場合(ノーズアップ、ノーズダウンなど)

- ●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置(スノーブラウ)などを取り付けたとき
- ●自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定な とき
- ●オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- ●タイヤの空気圧が適正でないとき
- ■著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- ●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- ●車両けん引時

1 注意

■マルチインフォメーションディスプレイに "パーキングサポートブレーキ 現在使用できません" が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

パワースイッチを ON にした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。

一定距離の走行で使用可能となりますが、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。

設定のしかた

パーキングサポートブレーキ (静止物)、パーキングサポートブレーキ (後方接近車両) を一括で ON /

OFF します。

メーター操作スイッチを使って ON / OFF を切りかえます。 (\rightarrow P.150)

- **1 く**または > を押して<mark>袋</mark>を選択 する
- **2** ▲ または ¥ を押して <u>★ を選</u> 択し、"OK" を押す

PKSB システムを OFF した場合、PKSB OFF 表示灯(→P.145)が点灯します。 いったん PKSB システムを ON / OFF

いったん PKSB システムを ON / OFF すると、次回 EV システムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

EV システム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

EV システム出力抑制制御・ブレーキ 制御が作動したときは、ブザーでお 知らせするとともに、センターディ スプレイ、マルチインフォメーショ ンディスプレイおよびヘッドアップ ディスプレイ★にメッセージが表示 されます。

EV システム出力抑制制御は状況により、 加速制限制御か出力最大抑制制御のいず れかが作動します。

- ★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。
- EV システム出力抑制制御作動中 (加速制限制御)

ー定以上の加速をシステムが制限しているとき:

センターディスプレイ表示:表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示: "加速抑制中です"

ヘッドアップディスプレイ表示:表示な

L

PKSB OFF 表示灯: 消灯のまま

ブザー: 吹鳴なし

● EV システム出力抑制制御作動中 (出力最大抑制制御)

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要 だとシステムが判断したとき:

センターディスプレイ表示 (パノラミックビューモニター装着車): "ブレーキ!"

マルチインフォメーションディスプレイ 表示: " ブレーキ! "

ヘッドアップディスプレイ表示: "ブレーキ!"

PKSB OFF 表示灯: 消灯のまま

ブザー:ポーン(単発音)

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断し たとき:

センターディスプレイ表示 (パノラミックビューモニター装着車): "ブレーキ!"

マルチインフォメーションディスプレイ 表示: "ブレーキ!"

ヘッドアップディスプレイ表示: "ブレーキ!"

PKSB OFF 表示灯:消灯のまま

ブザー:ポーン(単発音)

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき:

センターディスプレイ表示 (パノラミックビューモニター装着車): "ブレーキを踏んでください"

マルチインフォメーションディスプレイ 表示: "アクセルが踏まれています ブ レーキを踏み直してください" アクセルが踏まれていない場合は "ブレーキを踏んでください" が表示されます。

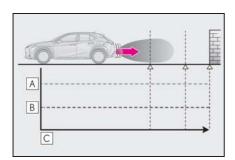
ヘッドアップディスプレイ表示: "ブレーキを踏み直してください" アクセルが踏まれていない場合は "ブレーキを踏んでください" が表示されます。

PKSB OFF 表示灯: 点灯 ブザー: ポーン (単発音)

PKSB(パーキングサポートブ レーキ)の作動について

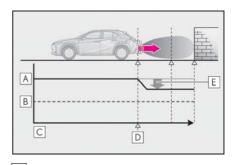
PKSB (パーキングサポートブレーキ)は、衝突の可能性がある作動対象 (壁などの静止物、後方接近車両)を検知したとき、EV システムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。(EV システム出力抑制制御:下記図 2)また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。(ブレーキ制御:下記図 3)

■ 図 1 (PKSB[パーキングサポート ブレーキ] 非作動時)

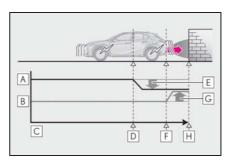


- A EV システム出力
- B制動力
- C 時間

● 図 2 (EV システム出力抑制制御 時)



- **A** EV システム出力
- B 制動力
- C 時間
- D EV システム出力抑制制御開始 (作動対象と衝突の可能性がある とシステムが判断したとき) マルチインフォメーションディスプレイ に"ブレーキ!"が表示されます。
- E EV システム出力を抑える
- 図 3 (EV システム出力抑制制御か つブレーキ制御時)



- **A** EV システム出力
- B制動力
- C時間
- DEVシステム出力抑制制御開始 (作動対象と衝突の可能性がある

とシステムが判断したとき)

マルチインフォメーションディスプレイ に "ブレーキ!" が表示されます。

- E EV システム出力を抑える
- F ブレーキ制御開始(作動対象と衝 突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき)
- G ブレーキ制御を上げる
- | II マルチインフォメーションディス プレイに "アクセルが踏まれて います ブレーキを踏み直してく ださい" が表示される

___知識

■ PKSB(パーキングサポートブレーキ) が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、 PKSB(パーキングサポートブレーキ)が 停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯しま す。また、PKSB(パーキングサポートブ レーキ)が作動した場合でもブレーキ制 御は約2秒で解除されるため、そのまま 発進できます。また、ブレーキペダルを 踏んでも解除されるため、再度アクセル ペダルを踏むと発進できます。

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) 作動後の復帰について

システム作動により PKSB(パーキング サポートブレーキ)が停止した場合に、 PKSB(パーキングサポートブレーキ)を 復帰させたい場合は、再度、 PKSB(パーキングサポートブレーキ)を ON に (\rightarrow P.313) するか、パワースイッチ を いったん OFF にしてから再度、ON にしてください。また、進行方向の作動対象 がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れかわった(前進から後退、または後退から前進に切りかえた)ときはシステムが自動的

に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに "パーキングサポートブレーキ現在使用できません" が表示され、 PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

クリアランスソナーセンサーのバンパー 周辺に汚れが付着していることが考えられます。バンパー周辺の汚れを取り除いてください。

- ■マルチインフォメーションディスプレイに "パーキングサポートブレーキ現在使用できません" と "クリアランスソナー使用できませんソナーの汚れを除去してください" が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅しているときは
- ●センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、またはセンサーが汚れていなくても表示が出るときはレクサス販売店で点検を受けてください。
- ●センサーが凍結している可能性があります。氷が解ければ正常に復帰します。
- ●大雨などでセンサー表面に水が継続的 に流れている可能性があります。シス テムが正常と判断した時に復帰します。

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。 約35km/h以上の車速で5秒以上直進走 行することで初期化できます。

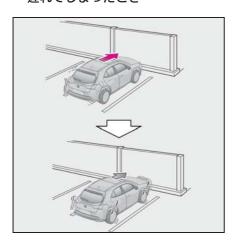
パーキングサポートブレー キ(静止物)

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

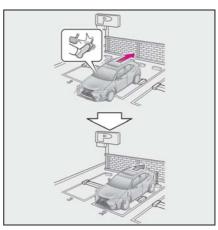
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

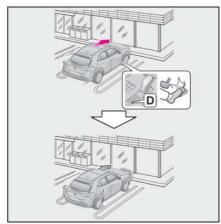
■ 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトポジションを D にして前進してしまったとき



センサーの種類

→P.300

▲ 警告

■システムを正しく作動させるために→P.302

▲ 警告

- ■万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ(静止物)が誤って作動したときは
- →P.316
- ■洗車時の注意
- →P.302

| 知識

■パーキングサポートブレーキ (静止物) の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅 (→P.144, 145) しておらず、次の条件 をすべて満たすと作動します。

- ●EV システム出力抑制制御
- PKSB (パーキングサポートブレーキ)を ON (作動) にしているとき
- ・ 車速が約 15km/h 以下
- ・車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき(約2~4m 先まで)
- ・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき
- ●ブレーキ制御
- ・ EV システム出力抑制制御作動中
- ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要 とシステムが判断したとき
- ■パーキングサポートブレーキ(静止物) の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- ●EV システム出力抑制制御
- ・PKSB(パーキングサポートブレーキ) を OFF(非作動)にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能 になったとシステムが判断したとき
- ・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき(約2~4m 先まで)

●ブレーキ制御

- ・PKSB(パーキングサポートブレーキ) をOFF(非作動)にしたとき
- ・ブレーキ制御により車両が停止して約 2秒が経過したとき
- ・ブレーキ制御により車両が停止したあ とに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき(約2~4m 先まで)

■パーキングサポートブレーキ(静止物) の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ (静止物) の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲 (→P.305) とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ (静止物) は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれの ある状況

→P.303

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.304

パーキングサポートブレー キ (後方接近車両) ★

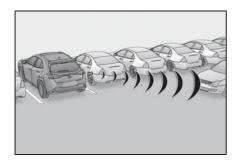
★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

後側方レーダーセンサーで自車の 右後方または左後方から接近して いる車両を検知し、システムが衝 突の危険性があると判断した場合 にブレーキ制御をすることで、接 近車両への衝突を緩和し衝突被害 軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を 検知してシステムが作動します。

■ 後退時、近接車両接近中にブレー キペダルを踏み損なってしまっ た、または踏み遅れてしまったと き



センサーの種類

→P.295



■システムを正しく作動させるために

→P.295

□知識

■パーキングサポートブレーキ(後方接 近車両)の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅 (→P.144, 145) しておらず、次の条件 をすべて満たすと作動します。

- ●EV システム出力抑制制御
- PKSB (パーキングサポートブレーキ)を ON (作動) にしているとき
- ・ 車速が約 15km/h 以下
- ・後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
- ・ シフトポジションが R のとき
- ・接近車両への衝突回避には、通常より やや強めのブレーキ操作が必要とシス テムが判断したとき
- ●ブレーキ制御
- ・EV システム出力抑制制御作動中
- ・接近車両への衝突回避には、急ブレー キ操作が必要とシステムが判断したと き
- ■パーキングサポートブレーキ(後方接 近車両)の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- ●EV システム出力抑制制御
- PKSB (パーキングサポートブレーキ)を OFF (非作動) にしたとき
- ・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能 になったとき
- ・ 自車後側方への接近車両がなくなった とき
- ●ブレーキ制御
- ・PKSB(パーキングサポートブレーキ) を OFF(非作動)にしたとき
- ブレーキ制御により車両が停止して約2秒が経過したとき
- ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・自車後側方への接近車両がなくなった

とき

■パーキングサポートブレーキ(後方接 近車両)の検知範囲について

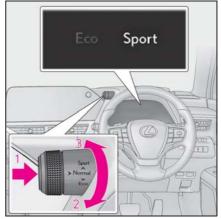
パーキングサポートブレーキ(後方接近車両)の検知範囲は、RCTAの検知範囲 (\rightarrow P.309) とは異なります。そのため、RCTAが後方接近車両をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ(後方接近車両)は作動を開始していない場合があります。

- ■システムが正常に作動しないおそれの ある状況
- →P.310
- ■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況
- →P.311

ドライブモードセレクトス イッチ

走行・使用状況に合わせて走行 モードを選択できます。

走行モードを選択するには



1 ノーマルモード

電費性能、静粛性、運動性能のバランス がよく、市街地を走行する場合に適して います。

ノーマルモード以外のときにスイッチを 押すと、ノーマルモードにもどります。

2 エコドライブモード

スロットル特性をおだやかに設計することで、エコ運転中の運転者のアクセル操作をアシストします。またエアコン(暖房/冷房)の作動を抑え、電費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを手前にまわすと、エコドライブモードに切りかわり、 "Eco" 表示灯が点灯します。

3 スポーツモード

ステアリングの応答性、および EV システムの制御によるアクセルレスポンスな

どがスポーツ走行に適した制御にかわります。山岳路などで、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ モード以外のときにスイッチを 奥側へまわすとスポーツ モードに切りか わり、"Sport" 表示灯が点灯します。

□知識

■エコドライブモード時のエアコン作動 について

エコドライブモードは、暖房/冷房の作動や風量を抑制して、電費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

- ・エコ空調モードを OFF にする (→P.337)
- ・風量を調整する (→P.333, 336)
- エコドライブモードを解除する

■スポーツモードの自動解除

スポーツモードを選択して走行後、パワースイッチを OFF にし、再度パワースイッチを ON にした場合は、自動でノーマルモードにもどります。

■センターディスプレイの割り込み表示

モードを切りかえるごとに、選択した モードがセンターディスプレイに表示されます。(ノーマルモードを除く)

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB (電子制御ブレーキシステム)

電子制御により、ブレーキ操作に応 じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS (アンチロックブレーキシステム)

急ブレーキ時やすべりやすい路面で のブレーキ時にタイヤのロックを防 ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC (ビークルスタビリティコントロール)

急なハンドル操作や、すべりやすい 路面で旋回するときに横すべりを抑 え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC(ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール)

ABS · TRC · VSC · EPS を協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急な ハンドル操作をした際に、ハンドル 操作力を制御することで、車両の方 向安定性確保に貢献します。

■ TRC (トラクションコントロール)

すべりやすい路面での発進時や加速 時にタイヤの空転を抑え、駆動力確 保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト (ACA)

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退 するのを緩和します。

■ EPS(エレクトリックパワーステ アリング)

電気式モーターを利用して、ハンド ル操作を補助します。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を 検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、 車両を減速させ二次衝突による被害 の軽減に寄与します。

□ 知識

■TRC・VSC · ABS が作動しているとき

TRC・VSC ・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



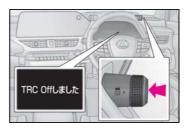
■TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRCが作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもEVシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

TRC を停止するには ネスイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイ に "TRC Off しました" と表示されま す。

もう一度 **ネ**スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に

₹スイッチを押し3秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに "TRC Off しました" と表示されます。※

もう一度 スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

- ※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。 PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P.257)
- ネスイッチを押さなくてもマルチイ ンフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はレクサス販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの 作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトポジションが P または N 以外 (前進または後退での上り坂発進時)
- ●車両停止状態
- ●アクセルペダルを踏んでいない
- ●パーキングブレーキがかかっていない
- ●パワースイッチが ON
- ■ヒルスタートアシストコントロールの 自動解除

次のいずれかのときシステムが解除され ます。

- シフトポジションを P または N にした
- アクセルペダルを踏んだ
- ●パーキングブレーキをかけた
- ■ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した
- ●パワースイッチが OFF
- ABS・ブレーキアシスト・TRC・ VSC・ヒルスタートアシストコント ロールの作動音と振動
- ●EV システム始動時や発進直後、ブレー

- キペダルをくり返し踏んだときなどに、 モータールームから作動音が聞こえる ことがありますが、異常ではありませ ん。
- ●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、 異常ではありません。
- ・車体やハンドルに振動を感じる
- ・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- ●ブレーキペダルを操作したときに、 モータールームから聞こえる作動音 ("カチ"、"シュー"、"ジー" という音)
- ●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音("ジー"という音)
- ●EVシステム停止後1~2分後経過時に、 モータールームから聞こえる作動音 ("カチ"、"シュー"、"ジー" という音)

■アクティブコーナリングアシストの作 動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動 したときに、ブレーキシステムから作動 音や振動が発生することがありますが、 異常ではありません。

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの 音("ウィーン" という音)が聞こえる ことがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチを OFF にしたとき

● (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき ただし、TRC と VSC の作動を停止し ている場合は、車速による自動復帰は ありません。

■アクティブコーナリングアシストの作 動条件

次のときシステムが作動します。

- ●TRC・VSC が作動可能状態
- ●旋回中に加速しようとするとき
- ■車両が外側に膨らんでいるとシステム により判断された
- ●ブレーキを踏んでいない

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPSシステムのオーバーヒートを避けるため、EPSの効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、EVシステムを停止してください。10分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 事常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ●車両の減速度から急ブレーキであると システムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- ●非常点滅灯を点滅させた
- ●車両の減速度から急ブレーキではない とシステムにより判断された
- ■セカンダリーコリジョンブレーキの作 動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝

突を検知して作動したとき。

ただし次のいずれかのとき、システムは 作動しません。

- ●車速が約 10km/h 未満のとき
- ●構成部品が破損したとき
- ■セカンダリーコリジョンブレーキの解 除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが 解除されます。

- ●車速が約 10km/h 未満になったとき
- ●作動して一定時間経過したとき
- ●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

▲ 警告

■ABS の効果を発揮できないとき

- ●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に 摩耗したタイヤで走行するときなど)
- ●雨でぬれた路面やすべりやすい路面 での高速走行時に、ハイドロプレー ニング現象が発生したとき
- ■ABS が作動することで、制動距離が 通常よりも長くなる可能性があると き

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- ●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- ●タイヤチェーンを装着しているとき
- ●道路のつなぎ目など、段差をこえた とき
- ●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

▲ 警告

■ TRC や VSC の効果を発揮できないと

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性 や駆動力が得られないことがあります。 車両の方向安定性や駆動力を失うよう な状況では、特に慎重に運転してください。

■アクティブコーナリングアシストの 効果を発揮できないとき

- アクティブコーナリングアシストを 過信しないでください。下り坂での 加速中やすべりやすい路面などでは、 アクティブコーナリングアシストが 効かないことがあります。
- ●アクティブコーナリングアシストが ひんぱんに作動したときは、ブレー キ・TRC・VSC を正常に機能させる ために、アクティブコーナリングア シストが一時的に作動しないことが あります。
- ■ヒルスタートアシストコントロール の効果を発揮できないとき
- ●ヒルスタートアシストコントロール を過信しないでください。急勾配の 坂や凍った路面ではヒルスタートア シストコントロールが効かないこと があります。
- ●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているとき は

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換すると きは

4輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン(溝模様)のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。 異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSCなど、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

A 警告

■セカンダリーコリジョンブレーキに ついて

セカンダリーコリジョンブレーキを過 信しないでください。本システムは、 二次衝突による被害の軽減に寄与する ことを目的としていますが、その効果 はさまざまな条件によりかわります。 システムを過信すると重大な傷害にお よぶか、最悪の場合死亡につながるお それがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など 正しく処置していただいた上で適 切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

- 冷却水
- ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてく ださい。
- 冬用タイヤ(4輪) やタイヤ チェーン(前2輪) を使用してく ださい。タイヤは4輪とも指定サ イズで同一銘柄のものを、タイヤ チェーンはタイヤサイズに合った ものを使用してください。(タイヤについて:→P.391)

__ 知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- ●安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- ●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- ■取り付け後 0.5 ~ 1.0km 走行したら締め直しを行う

A 警告

■冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●指定サイズのタイヤを使用する
- ●空気圧を推奨値に調整する
- ●装着する冬用タイヤの最高許容速度 や制限速度をこえる速度で走行しない
- ●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーンを装着するとき

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、安全に車を運 転することができずに、思わぬ事故に つながり、重大な傷害におよぶか、最 悪の場合死亡につながるおそれがあり ます。

- ●装着したチェーンに定められた制限 速度、もしくは30km/hのどちらか 低い方をこえる速度で走行しない
- ●路面の凹凸や穴を避ける
- ●急加速・急ハンドル・急ブレーキや シフト操作による急激な回生ブレー キの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、 車のコントロールを失うのを防ぐ
- ●LTA (レーントレーシングアシスト)を使用しない

⚠ 注意

■タイヤチェーンの使用について

レクサス純正タイヤチェーンのご使用 をおすすめします。

レクサス純正品以外のタイヤチェーン の中には、使用すると車体にあたり、 走行のさまたげとなるおそれがあるも のもあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談くだ さい。

■タイヤを修理・交換するときは

レクサス販売店へご依頼ください。

タイヤの取り付け・取りはずしは、タ イヤ空気圧バルブ/送信機の作動に影 響します。(タイヤについての詳しい説 明は P.391 を参照してください)

■タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ 空気圧バルブ/送信機が正しく作動し ないおそれがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってくだ さい。

- ドアやワイパーが凍結したときは 無理に開けたり動かしたりせず、 ぬるま湯をかけるなどして氷を解 かし、すぐに水分を十分にふき 取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外 気取り入れ口に雪が積もつている ときは、エアコンのファンを正常 に作動させるために、雪を取り除 いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガ ラス・車両の屋根・タイヤの周辺 やブレーキ装置に雪や氷が付いて

いるときは、取り除いてくださ (1)

● 乗車する前に靴底に付いた雪をよ く落としてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- ●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブ レードは、雪が付着するのを防ぐため に金属部分をゴムで覆ってあります。 レクサス販売店で各車指定のブレード をお求めください。
- ●高速走行時は、通常のワイパーブレー ドよりガラスがふき取りにくくなるこ とがあります。その場合には速度を落 としてください。



/ 注意

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。 ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆつくりスタートし、車間距離を十 分にとって控えめな速度で走行して ください。

駐車するとき

● パーキングブレーキをかけると、 ブレーキ装置が凍結して解除でき なくなるおそれがあります。パー キングブレーキはかけずに、シフ トポジションを P にして駐車し、 必ず輪止め※をしてください。 輪止めをしないと、車が動き思わ ぬ事故につながるおそれがあり危 険です。

パーキングブレーキがオートモー

ドのときは、シフトポジションを P にしたあとにパーキングブレー キを解除してください。 (\rightarrow P.222)

- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、 凍結するおそれがあります。
- ** 輪止めは、レクサス販売店で購入する ことができます。

ワイパーについて

積雪や凍結のおそれがある場合は、 ボンネット下にあるワイパーをサー ビスポジションに切りかえてから立 ててください。(→P.240)

王
\boxtimes
松焦
-
残信

6-1.	レクサスクライメイトコンシェ ルジュ
	レクサスクライメイトコンシェル ジュ 332
6-2.	エアコンの使い方
	オートエアコン 333
	リモートエアコンシステム 341
	ステアリングヒーター/シートヒー
	ター/シートベンチレーター 343
6-3.	室内灯のつけ方
	室内灯一覧
6-4.	収納装備
	収納装備一覧 349
	ラゲージルーム内装備 352
6-5.	その他の室内装備の使い方
	その他の室内装備 357
	アクセサリーコンセント (AC100V・1500W) 367
	非学時給雷システム 373

レクサスクライメイトコン シェルジュ

エアコンの設定温度、外気温、車室内温度などに応じて、フロント席のシートヒーターやベンチレーター、ステアリングヒーターがそれぞれ自動制御されます。 各システムの調整の手間を省き、 快適な状態を維持するよう制御します。

クライメイトコンシェルジュを 使用する

- 1 センターディスプレイのメインメニューから 会 を選択する
- 2 "エアコン" を選択する

オプション画面が表示されたときは、 ' メインエアコン " を選択します。

3 "クライメイトコンシェル ジュ"を選択する

スイッチの作動表示灯が点灯し、エアコン・フロント席のシートヒーター/ベンチレーター・ステアリングヒーターがオート設定で作動します。

いずれかのシステムを手動で操作すると、 作動表示灯が消灯しますが、操作した機 能以外のオート設定は継続します。

各システムの作動について

■ エアコン (→P.333)

運転席および助手席の設定温度を 別々に調整することができます。

■ シートヒーター/ベンチレーター (フロント席) (→P.343)

エアコンの設定温度・外気温などに

応じて、暖房・換気が自動的に切り かわります。

助手席のシートヒーターやベンチレーターは、乗員を検知してオート設定で作動します。

■ ステアリングヒーター (→P.343)

エアコンの設定温度・外気温などに 応じて自動で作動します。

□知識

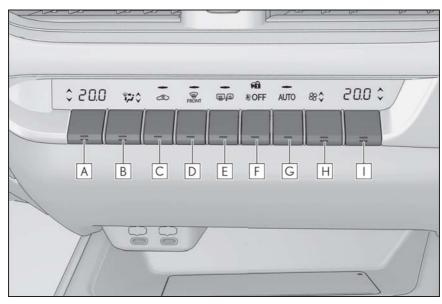
■フロント席のシートヒーター/ベンチ レーターの作動について

フロント席のシートヒーター/ベンチ レーターのスイッチでオート設定にした 場合は、乗員の検知を行いません。

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。 エアコン操作パネルと、センターディスプレイのエアコン操作画面 (→P.336)で操作します。

エアコン操作スイッチについて



- A助手席側温度調整スイッチ
- **B** 吹き出し口切りかえスイッチ
- C 内外気切りかえスイッチ
- **D** フロントデフロスタースイッチ
- **E** リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒータースイッチ
- **F** OFF スイッチ
- G AUTO スイッチ
- H 風量調整スイッチ
- Ⅱ 運転席側温度調整スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを上に、下げるときは下に操作する

■ 風量を切りかえる

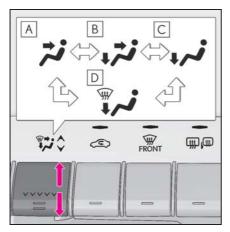
風量を増やすときは風量調整スイッチを上に、減らすときは下に操作する

OFF スイッチを押すと、ファンが止まり ます。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを上下 に操作する

スイッチを操作するたびに吹き出し口が切りかわります。



- A 上半身に送風
- B 上半身と足元に送風
- C足元に送風
- **D** 足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ 内気循環/外気導入を切りかえる

内外気切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに内気循環/外気導入が切りかわります。

■ フロントウインドウガラスの曇り を取る

フロントデフロスタースイッチを押 す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内 気循環にしている場合は、外気導入にし てください。(自動的に外気導入に切りか わることがあります)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの霜を取るのに時間がかかる場合があります。

■ リヤウインドウデフォッガー&ミ ラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取る ときや、ドアミラーから雨滴や霜を 取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー&ミ ラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガーとミラー ヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

- ウインドシールドデアイサー*→P 337
- ★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

__ 知識

■ガラスの曇りについて

- ●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、"A/C"をONにすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- "A/C" を ON から OFF にすると、ガラ

スが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

- ●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を 車内に入れたくないときや、外気温度 が高いときに冷房効果を高めたい場合 は、内気循環にすると効果的です。
- ●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動に ついて

- ■エコドライブモードは電費性能を優先 させるため、空調システムが次のよう に制御されます。
- ・モーター回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房/冷房の能力を抑制します。
- ・オート設定での使用時、ファンの風量 を抑制します。
- ●空調の効きをより良くしたいときは、 次の操作を行ってください。
- ・エコ空調モードを OFF にする (→P.337)
- 風量を調整する。
- ・エコドライブモードを解除する。(→P.320)

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

"A/C" を選択しても除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

- ■車室外の空気を車室内に取り入れたい ときは、外気導入にしてください。
- ●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- ●エアコン始動時に発生する臭いを抑え

るために、オート設定での使用時また は花粉除去モードが ON の時にはエア コン始動直後、しばらく送風が停止す る場合があります。

●駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、 始動時に発生するにおいを緩和します。

■音声対話サービスについて

音声対話サービスを使用して、エアコン を操作することができます。詳しくは、 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参 照してください。

■エアコンフィルターについて

→P.404

■カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能 を連動させるかどうかなどを設定できま す。(カスタマイズ一覧:→P.472)

▲ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを 防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー&ミ ラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

↑ 注意

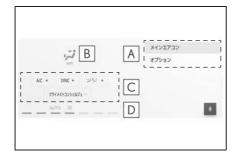
■補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システム停止中は、エアコンを必要 以上に使用しないでください。

エアコン操作画面について

■ エアコン操作画面

- 2 "エアコン" を選択する オプション画面が表示されたときは、" メインエアコン" を選択します。



A サブメニュー

画面表示を切りかえることができます。 "メインエアコン": エアコン操作画 面を表示する

"オプション":オプション画面を表示する

B 吹き出し口を切りかえる 選択するたびに、吹き出し口が切りかわります。

⇒ : 上半身に送風

:上半身と足元に送風

: 足元に送風

※ : 足元に送風・ガラスの曇りを取る

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

C 各機能の ON / OFF を切りかえる

次の機能の ON / OFF を、それぞれ切りかえることができます。

機能が ON のとき、表示灯が点灯します。

"A/C": 冷房・除湿する

"SYNC": 運転席と助手席の設定温度を同時に設定する(連動モード) (→P.338)

プロント席集中送風モード (S-FLOW) を設定する (→P.340)

"クライメイトコンシェルジュ":クライメイトコンシェルジュを作動させる(→P.332)

D 風量表示

現在の風量が表示されます。

■ オプション画面

エアコン操作画面(→P.336)の" オプション"を選択する

次の機能の (作動) / (非作動) を切りかえることができます。



A エコ空調モードに設定する 電費を優先するため冷房/暖房の効きを 抑えます。

B フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐ(ウインドシールドデアイサー)★

C 「ナノイー X」[※] を作動させる

「ナノイー X」とは「ナノイー」発生装置 のことです。

- **D** 花粉を除去する(花粉除去モード)
- ※「nanoe」、「ナノイー」および 「nanoe」マークは、パナソニック株式 会社の商標です。
- ★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

□ 知識

■ ウインドシールドデアイサー*

フロントウインドウガラスとワイパーブ レードの凍結を防ぐために使用してくだ さい。

ウインドシールドデアイサーは、しばら くすると自動的に OFF になります。

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコ ドライブモードを選択すると、エコ空調 モードが ON になります。エコドライブ モード以外を選択したときは、エコ空調 モードが OFF になる場合があります。

■花粉除去モードについて

内気循環に切りかわり、上半身に送風し て花粉を除去します。

花粉除去モードは、しばらくすると自動的に OFF になります。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する、または内気循環に切りかわらない場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■[ナノイー X] ^{※1} について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭

載されています。この装置は運転席右側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます**2。

- ●ファンが作動すると、自動的に「ナノイー X」が作動します **3。
- ●「ナノイー X」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。
- ・吹き出し口が 📈 、 📈 または

₩ のとき

- ・ 運転席右側の吹き出し口が開いている とき
- ●「ナノイー X」作動時は、微量のオゾン が発生し、かすかに臭うことがありま すが、森林など、自然界に存在する程 度の量なので、人体に影響はありませ ん。
- ●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
- **1「nanoe」、「ナノイー」および 「nanoe」マークは、パナソニック株式 会社の商標です。
- **²温湿度環境、風量・風向きによっては 「ナノイー」の効果が十分に得られない 場合があります。
- **³[ナノイー X」が ON のとき。 (→P.336)

▲ 警告

■ウインドシールドデアイサー*が作動しているとき

フロントウインドウガラス下部および フロントピラー横の表面が熱くなって おり、やけどをするおそれがあるので ふれないでください。

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

■「ナノイー X」について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。 修理が必要な場合は、レクサス販売店 にお問い合わせください。

⚠ 注意

■[ナノイー X] の損傷を防ぐために

運転席右側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

オート設定で使用する

- 1 AUTO スイッチを押す
- 2 温度を設定する
- 3 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、 AUTO スイッチの作動表示灯が消灯 しますが、操作した機能以外のオー ト設定は継続します。

□ 知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、"AUTO"をONに

した直後、温風や冷風の準備ができるま でしばらく送風が停止する場合がありま す。

日射の影響により、暖房時でも上半身付 近に冷風が出る場合があります。

■フロントウインドウガラス内側の曇り 検知機能

オート設定時、湿度センサーでフロントウインドウガラス内側の曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

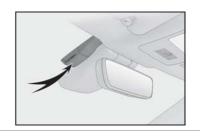
↑ 注意

■湿度センサーについて

フロントウインドウガラスの曇り検知 のために、フロントウインドウガラス の温度やその付近の湿度などを監視す るセンサーが装着されています。

センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- ・湿度センサーを分解しない
- ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
- ・湿度センサーにシールなどを貼らない



運転席と助手席の設定温度を同時に設定する(連動モード)

連動モードを ON にするには、エア コン操作画面の "SYNC" を選択す る

運転席側温度調整スイッチで運転席側お

よび助手席の設定温度を変更します。

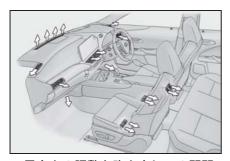
個別モードにするには、助手席側の設定 温度を変更するか、もう一度 "SYNC" を選択してください。

連動モードが ON のときは作動表示灯が 点灯します。

吹き出し口の配置・操作

■ 吹き出し口の位置

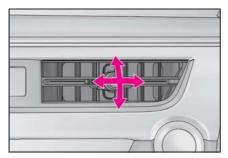
吹き出し口の切りかえ設定により、 風が出る位置や風量が変化します。



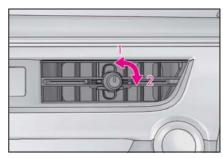
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント

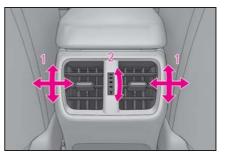
風向きの調整



吹き出し口の開閉



- 1 開ける
- 2 閉じる
- ▶リヤ



- 1 風向きの調整
- 2 吹き出し口の開閉

A 警告

■フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために

吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



フロント席集中送風モード(S-FLOW)

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。助手席に乗員がいない場合は、運転席のみへの送風に切りかわることがあります。無駄な冷暖房を抑えることで、電費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

- リヤ席に乗員を検知していない
- フロントウインドウガラスの曇り 取りが作動していない
- 花粉除去モードが作動していない 作動中は、スイッチの作動表示灯が 点灯します。
- 手動でフロント席集中送風モード の作動/非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、ス イッチ操作によりフロント席のみへ の送風と全席への送風を切りかえる ことができます。このとき、送風の 自動制御は作動しなくなります。

表示灯が点灯:フロント席のみへの送風

● 表示灯が消灯:全席への送風

□知識

■送風の自動制御について

●車室内を快適に保つために、EVシステム始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることが

あります。

●EV システム始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

■送風の手動制御について

手動でフロント席のみへの送風に切りか えた場合でも、リヤ席に乗員がいると自 動的に全席に送風されることがあります。

■送風を自動制御にもどすには

- 表示灯が消灯している状態でパワース イッチを OFF にする。
- 2 60 分以上経過後にパワースイッチを ON にする。

リモートエアコンシステム

駆動用電池に蓄えられた電力を使用して、乗車前に車外から冷房/ 暖房を作動させ、車内を空調する ことができます。

車両に充電ケーブルを接続した状態でリモートエアコンシステムを使用すると、外部電源からの電力を使用することができるため、駆動用電池の充電量の低下を抑えられます。

リモートエアコンシステム停止後 は自動的に充電を行います。

車を降りる前に

エアコンの設定温度を確認してください。(→P.334)

リモートエアコンシステムは、エアコン の設定温度に従って作動します。

作動させるには

電子キーの "A/C" を押したまま保持する

"A/C" を 2 回押して停止させることもできます。



□知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしていないと、リモートエアコンシステムは作動しません。

- ●パワースイッチが OFF になっている
- ●すべてのドアが閉じている (バックドアを含む)
- ■ボンネットが閉じている
- ■リモートエアコンシステムの自動停止 について

次のとき、自動的に停止します。

- ●リモートエアコンシステムの作動開始 から約 20 分後
- ●作動条件がひとつでも満たされなく なったとき

駆動用電池の充電量が少ないときも、停 止する場合があります。

■リモートエアコンシステムの作動について

次のような場合は、作動しないことがあ ります。

- ●駆動用電池の充電量が少ないとき
- ●EV システムが低温のとき(低外気温下に長時間放置したあとなど)

■フロントガラスの曇り取りについて

リモートエアコンシステムでフロントガラスの曇りを取る場合、通常のエアコン使用時よりも電力が制限されているため、十分にフロントガラスの曇りが取れないことがあります。また、外気温や湿度、エアコンの設定温度などにより、フロントガラスの外側が曇る場合があります。

■セキュリティ機能

リモートエアコンシステムを作動するとき、盗難防止のため施錠されていないドアは自動的に施錠され、ブザーと非常点滅灯の点滅でお知らせします。

■スマートフォンでの操作について

G-Link サービスご契約のお客様は、スマートフォンアプリで、リモートエアコンシステムの操作をすることができます。アプリから操作する場合は、温度設定やタイマー予約などを行うことができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P.185

■リモートエアコンシステムの作動中は

- ●リモートエアコンシステムの作動状態 によっては、電動ファンが回転して作 動音が発生しますが、異常ではありません。
- ●リモートエアコンシステム以外の電気 負荷(シートヒーターなど)が作動し ているときや、補機バッテリーの充電 量が少ないときには、リモートエアコ ンシステムが停止することがあります。
- ●ワイパー・メーターなどは作動しません。
- ●侵入センサーが自動的に停止します。

■電子キーの電池の消耗について

→P.160

■電子キーの電池が切れたとき

→P.406

■カスタマイズ機能

リモートエアコンシステムの作動開始・ 停止時の、ワイヤレスリモコンの操作方 法を変更できます。(カスタマイズー 覧:→P.472)

▲ 警告

■使用上の警告

- ●車室内に人がいるときは使用しないでください。
 - リモートエアコンシステムを使用していても、システムの自動停止等により車室内が高温、または低温になる場合があります。お子さまやペットを車室内に残したままにしておくと、熱中症や脱水症状や低体温症になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車両の周囲の安全を十分に確認して から使用してください。
- ●ボンネットが開いているときは、電子キーの "A/C" を操作しないでください。

意図せず冷房が作動して、冷却ファンに手や衣服などが巻き込まれるおそれがあります。

1 注意

■駆動用電池の消費を防ぐために

必要なとき以外、電子キーの "A/C" を操作しないでください。

ステアリングヒーター/ シートヒーター/シートベ ンチレーター

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

● シートベンチレーター

シート内部に装備されたファンで 換気することにより、シート表面 の通気をよくします。

▲ 警告

■低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター/シートヒーターに触れないようにご注意ください。

- ●乳幼児・お子さま・お年寄り・病 人・体の不自由な方
- ●皮膚の弱い方
- ●疲労の激しい方
- ●深酒や眠気をさそう薬(睡眠薬、風邪薬など)を服用された方

⚠ 注意

■シートヒーター/シートベンチレー ターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で使用しないでください。

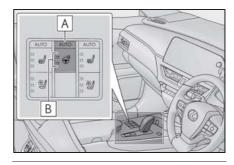
ステアリングヒーター

システムの ON / OFF を切りかえ る

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO (点灯) \rightarrow 強 (2 個点灯) \rightarrow 弱 (1 個点灯) \rightarrow OFF (消灯)

作動中は AUTO インジケーター $oldsymbol{A}$ 、またはレベルインジケーター $oldsymbol{B}$ のいずれか、または両方が点灯します。



__ 知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■カスタマイズ機能

ステアリングヒーター AUTO モード時の 温度を変更することができます。(カスタ マイズ一覧: \rightarrow P.473)

シートヒーター

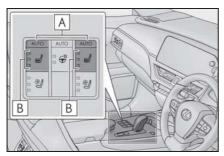
■ フロント席

システムの ON / OFF を切りかえ る

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

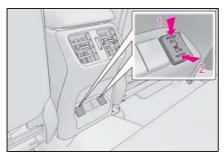
AUTO (点灯) → 強 (3 個点灯) → 中 (2 個点灯) → 弱 (1 個点灯) → OFF

作動中は AUTO インジケーター $oldsymbol{A}$ 、またはレベルインジケーター $oldsymbol{B}$ のいずれか、または両方が点灯します。



■ リヤ外側席

スイッチを押してシートヒーターを 作動させる



1 HI(強)

2 LO (弱)

作動中は作動表示灯が点灯します。

作動を停止するときは、押した側と反対 側のスイッチを軽く押してください。ス イッチが中立の位置にもどり、作動表示 灯が消灯します。

□知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■カスタマイズ機能

シートヒーターのオート設定を変更することができます。(カスタマイズー

覧:→P.473)

全警告

■異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- ●長時間連続使用しない
- ●毛布・クッションなどを使用しない

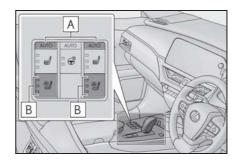
シートベンチレーター (フロン ト席)

システムの ON / OFF を切りかえ る

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO (点灯) \rightarrow 強 (3 個点灯) \rightarrow 中 (2 個点灯) \rightarrow 弱 (1 個点灯) \rightarrow OFF

作動中は AUTO インジケーターf A 、またはレベルインジケーターf B のいずれか、または両方が点灯します。



─ 知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■エアコン連動制御モードについて

シートベンチレーターが強のとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーターの風量が強くなります。

■カスタマイズ機能

シートベンチレーターのオート設定を変更することができます。(カスタマイズー覧: \rightarrow P.473)

操作画面について

- 2 "シート空調" を選択する



A シートベンチレーターの風量を切りかえる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター(青)が次のように切りかわります。

強 (3 個点灯) → 中 (2 個点灯) → 弱 (1 個点灯) → OFF

B フロント席のシートヒーターの温度を調整する

スイッチを選択するたびに、作動状態と レベルインジケーター(赤)が次のよう に切りかわります。

強(3 個点灯) \rightarrow 中(2 個点灯) \rightarrow 弱(1 個点灯) \rightarrow OFF

ステアリングヒーターの温度を調整する

スイッチを選択するたびに、作動状態と レベルインジケーター(赤)が次のよう に切りかわります。

強(2個点灯)→弱(1個点灯)→OFF

D 各機能を AUTO モードに切りか える

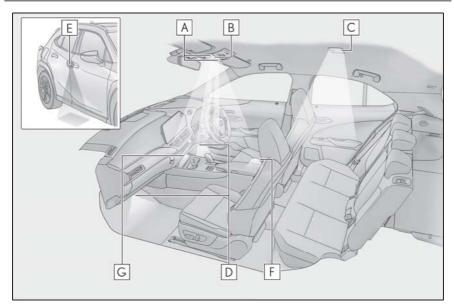
次の機能を、それぞれ AUTO モードに切りかえることができます。

AUTO モードが ON のとき、スイッチが 点灯します。

- 運転席のシートヒーター/ベンチレーター
- 助手席のシートヒーター/ベンチレーター
- ・ステアリングヒーター

室内灯一覧

室内灯の位置



- **A** パーソナルランプ (→P.348)
- **B** フロントインテリアランプ (→P.347)
- **C** リヤインテリアランプ (→P.347)
- **D** 足元照明 **1, 2
- **E** アウトサイドドアハンドル照明
- **F** ドアカーテシランプ
- G 小物入れ照明 ※2
- ※1パワースイッチが ON のとき、足元照明が常時点灯します。ただし、インストルメ ントパネル照度を最も暗く調整すると、足元照明が消灯します。(→P.149)
- ※2いずれかのドアを解錠したとき点灯し、シフトポジションが P 以外のときに明るさ が暗くなります。

知識

- ■各部照明の自動点灯/消灯について
- ●電子キーの検知・ドアの施錠/解錠・

ドアの開閉・パワースイッチのモード により、各部の照明が自動的に点灯・ 消灯します。(イルミネーテッドエント リーシステム)

- ●パワースイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。
- ■フロントインテリアランプとパーソナ ルランプが正常に反応しない状況につ いて
- ●レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき
- ●濡れた手で操作したとき
- ●手袋などを装着しているとき

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から 強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、 二次災害を防ぐため、安全が確保できる までは消灯しないことをおすすめします。

(衝撃の度合いや事故の状況によっては点 灯しないことがあります。)

■カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などを設定できます。(→P.473)

⚠ 注意

■ランプのレンズの取り外しについて

絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

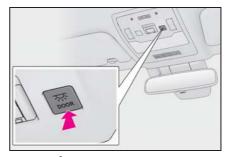
EV システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

インテリアランプを操作するに は

■ ドアポジション(ドア連動)を ON にする

ドア連動スイッチを押す

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

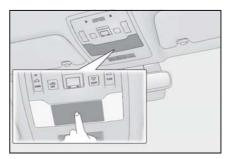


■ ランプを点灯・消灯する

▶ フロント

ランプを点灯・消灯する (ランプに タッチする)

ドアポジション(ドア連動)が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。

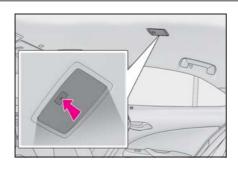


▶リヤ

ランプを点灯・消灯する

フロントインテリアランプに連動しても 点灯・消灯します。

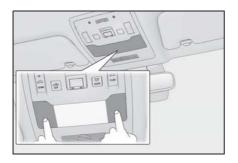
ドアポジション(ドア連動)が ON のと きは、ドアが開くとランプが点灯します。



パーソナルランプを操作するに は

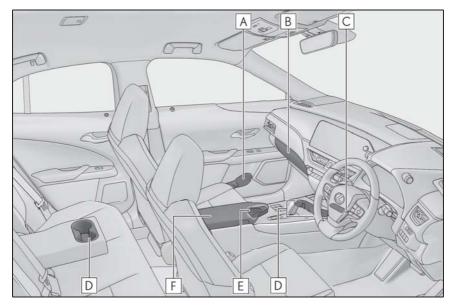
■ ランプを点灯・消灯する

ランプを点灯・消灯する(ランプに タッチする)



収納装備一覧

収納装備の位置



- **A** ボトルホルダー (→P.351)
- **B** グローブボックス (→P.350)
- **C** 小物入れ/ワイヤレス充電器★ (→P.359)
- **D** カップホルダー (→P.351)
- **E** コインホルダー (→P.351)
- **F** コンソールボックス (→P.350)
- ★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▲ 警告

■収納装備に放置してはいけないもの

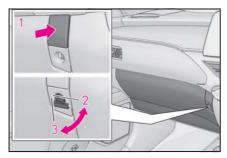
メガネ、ライターやスプレー缶を収納 装備内に放置したままにしないでくだ さい。放置したままでいると、次のよ うなことが起こるおそれがあり危険で す。

- ■室温が高くなったときの熱や、他の 収納物との接触などにより、メガネ が変形やひび割れを起こす
- ■室温が高くなったときにライターや スプレー缶が爆発したり、他の収納 物との接触でライターが着火したり スプレー缶のガスがもれるなどして 火災につながる

■収納装備を使わないときは

グローブボックスまたはコンソールボックスを必ず閉じてください。 急ブレーキや急旋回時などに、開いたグローブボックスやコンソールボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックスを使うには



- 1 開ける
- 2 メカニカルキーで解錠
- 3 メカニカルキーで施錠

□知識

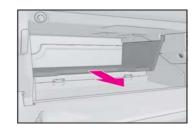
■グローブボックスランプ

車幅灯点灯時は、グローブボックス内の ランプが点灯します。

■仕切り板について

グローブボックス内の仕切り板を取りはずして使用することができます。

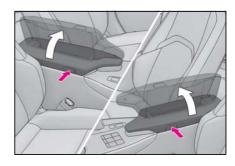
仕切り板を引き抜く



コンソールボックスを使うには

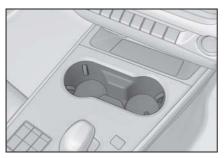
ボタンを押しながらフタを持ち上げ て開く

両側から開けることができます。



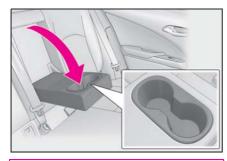
カップホルダーを使うには

■ フロント



■リヤ

リヤアームレストを手前に倒す



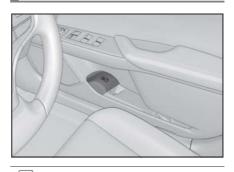
A 警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。

急ブレーキや事故により落ちてけがを するおそれがあります。やけどを防ぐ ために温かい飲み物にはフタを閉めて おいてください。

ボトルホルダー



__ 知識

■ボトルホルダーについて

- ●ペットボトルのフタを必ず閉めてから 収納してください。
- ●ペットボトルの大きさ・形によっては 収納できないことがあります。

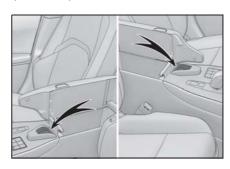
⚠ 注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが 入っている紙コップ・ガラス製のコッ プなどを収納しないでください。 ジュースなどがこぼれたり、ガラス製 品が割れたりするおそれがあります。

コインホルダー

コンソールボックスを開ける (→P.350)



1 注意

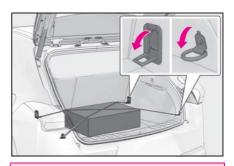
■コインホルダーについて

トレイの高さ以上にコインを入れない でください。ふたの開閉の妨げになる おそれがあります。

ラゲージルーム内装備

デッキフックを使うには

フックを起こして使用する フックを使って荷物を固定することができます。



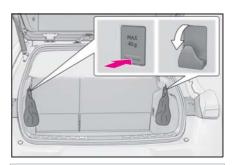
▲ 警告

■デッキフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置 にもどしておいてください。

買い物フックを使うには

下側を押してフックを起こす



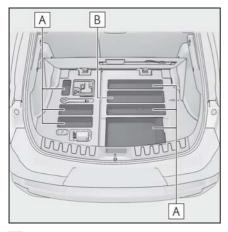
★ 注意

■買い物フックの破損を防ぐには

4kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。

デッキアンダートレイを使うに は

デッキボードを持ち上げて留めひも で固定し (→P.353)、次のものを 収納することができます。



A 小物など

B 停止表示板 ※

※ 停止表示板は、レクサス販売店で購入 することができます。

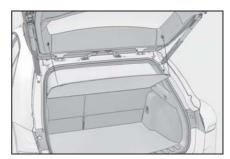
知識

■停止表示板について

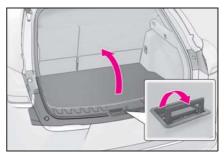
ケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

デッキボードを開けるには

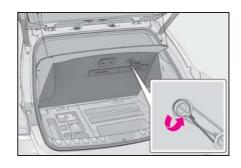
1 バックドアを開ける



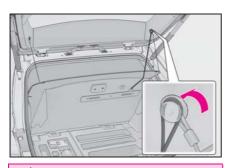
2 レバーを引き上げて、デッキボードを持ち上げる



3 裏面の留めひもをはずす



4 留めひもをバックドアにあるフックに引っかけて固定する



全警告

■デッキボードを開けたり取りはずしたときは

走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。そのまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

↑ 注意

■デッキボードの損傷を防ぐために

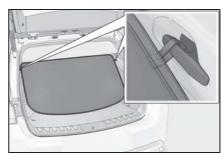
バックドアを閉めるときは、デッキボードの留めひもをフックにかけたままにしないでください。

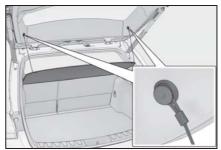
トノカバー

- トノカバーを取り付けるときは
- 1 袋からトノカバーを取り出す
- 2 トノカバーをゆっくり広げる
- 3 留めひもをトノカバーフックにかける

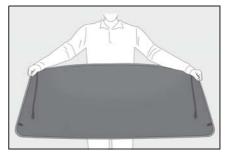
ひもが縫い付けられている面を下にして

取り付けてください。





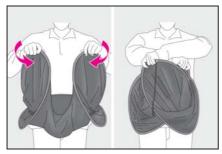
- トノカバーを収納するときは
- 1 長い留めひもがある側の角を持つ



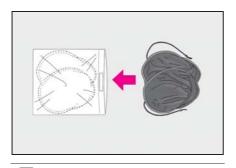
2 半分に曲げる



3 手首をひねりながらたたむ



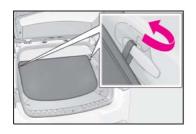
4 トノカバーを袋に入れる



| 知識

■トノカバーを取りはずすときは

短い留めひもは、いったん手前に引いて から取りはずしてください。



▲ 警告

■トノカバーを取り出したり広げたり するときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、トノカバーが急に広がり、けがをするおそれがあります。

- ●袋から取り出すときは、トノカバー の縁を手でしっかりと押さえながら、 ゆつくり取り出してください。
- ●トノカバーを広げるときは両手で しつかり持ってゆっくり広げてくだ さい。
- ●顔の近くでトノカバーを広げないでください。
- ●トノカバーを広げているときに手を 離さないでください。
- ●近くに人がいるときはトノカバーを 広げないでください。

■トノカバーを取り付けるときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●視界のさまたげにならないよう、ト ノカバーの後端部を水平にして取り 付けてください。
- ■留めひもを正しく取り付けてください。

/ 注意

■トノカバーを使用するときは

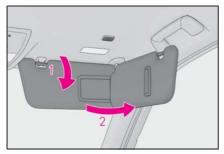
- ●トノカバーの上に物を置かないでく ださい。トノカバーが変形するおそ れがあります。
- ●留めひもがはずれた状態でバックドアの開閉をしないでください。トノカバーが破損するおそれがあります。



●トノカバーフックにトノカバーと デッキボードの留めひも以外のもの を掛けないでください。フックや バックドアが破損するおそれがあり ます。

その他の室内装備

サンバイザーを使うには

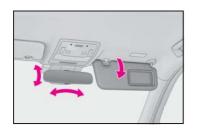


- 1 前方をさえぎるには、バイザーを 下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを 下ろした状態でフックからはず し、横へまわす

□ 知識

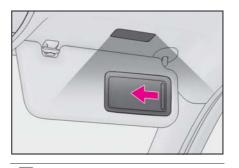
■インナーミラーを調整するときは

サンバイザー使用時に干渉しない範囲で、 後方を十分に確認できるように調整して ください。



バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける カバーを開けるとバニティミラーランプ が点灯します。



___ 知識

■自動消灯について

パワースイッチが OFF の場合、バニティーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

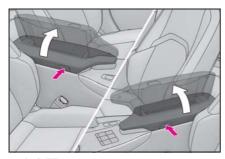
アクセサリーソケットを使うに は

DC12 V/10 A (消費電力 120 W) 未満の電気製品を使用するときの電 源としてお使いください。

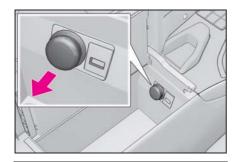
電気製品を使用するときは、すべて のアクセサリーソケットに接続され ている電気製品の消費電力合計を 120 W 未満にしてください。

ボタンを押しながらフタを持ち上げ て開く

両側から開けることができます。



フタを開ける



□ 知識

■アクセサリーソケットを使用するとき パワースイッチが ACC または ON のとき

■EV システムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を 備えた電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、EV システムが正常に停止しなくなる場合があります。

⚠ 注意

■アクセサリーソケットを使用しない ときは

異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

■誤作動を防ぐために

パワースイッチを OFF にするときは、 充電機能をもつ電気製品をはずしてく ださい。

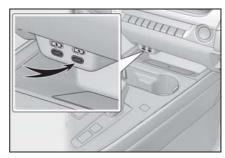
接続したままにしておくと、次のような誤作動を起こすおそれがあります。

- ●ドアが施錠できない
- ●メーターのオープニング画面が表示 される
- ■室内灯やインストルメントパネル照明などが点灯する

充電用 USB Type-C 端子

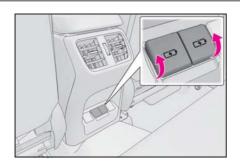
DC5 V/3 A (消費電力 15.75 W) の電源としてお使いください。 この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。 また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。 ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

- 充電用 USB Type-C 端子を使用するには
- ▶ フロント



▶ コンソール後方

フタを開けて使用する



□ 知識

■ 充電用 USB Type-C 端子の作動条件 パワースイッチが ACC または ON のとき

- ■充電用 USB Type-C 端子が正常に働かないおそれのある状況
- ●DC5 V/3 A (消費電力 15.75 W) をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- ●パソコンと通信を行う機器を接続した とき
- ●接続機器の電源が OFF のとき (機器により異なります)
- ●炎天下に駐車したあとなど、車室内の 温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいった ん停止後、再充電を開始する場合があり ますが、故障ではありません。

⚠ 注意

- 充電用 USB Type-C 端子の損傷を防 ぐために
- ●端子部に異物を入れないでください。
- ●水や液体をかけないでください。
- ●コンソール後方: 充電用 USB Type-C 端子を使わないときはフタを必ず閉 じてください。端子部に異物や液体 が入ると故障やショートの原因にな ります。

- ●強い力や衝撃を加えないでください。
- ●分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部 機器や外部機器のケーブルを押し下 げたり、不要な力を加えたりしない でください。
- ■補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しない でください。

ワイヤレス充電器(おくだけ充 電)を使うには[★]

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバ イルバッテリーなどの携帯機器を充 電エリアに置くだけで、携帯機器を 充電することができます。

充電トレイより大きい携帯機器には 本機能を使用できません。また、携 帯機器によっては、正常に作動しな い場合があります。

ご使用になる携帯機器に付属の取扱 説明書もお読みください。

■「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパ ワーコンソーシアム(WPC)の商標 です。

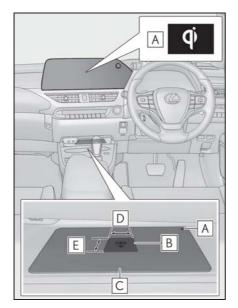


■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。



■ 各部の名称



- A 作動表示灯
- **B** 充電エリア **
- C 充電トレイ
- **D**約7cm

E約6cm

※ 携帯機器およびワイヤレス充電器には 充電用コイルが入っています。ワイヤ レス充電器内の充電用コイルは、充電 トレイの中央付近にある充電エリア内 を移動することができます。充電エリ ア上で携帯機器内の充電用コイルが検 出されると、その付近までワイヤレス 充電器内の充電用コイルが移動し、充 電を開始します。携帯機器内の充電用 コイルが充電エリアからはずれた場合、 充電は自動的に停止します。

また、2 つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

■ 充電する

充電トレイに携帯機器を置く

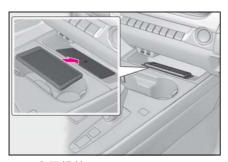
携帯機器の充電面を下にして、機器の中央が充電エリアの中央に来るように置いください。

携帯機器によっては充電コイルが機器の中央にない場合があります。その場合は、 携帯機器の充電コイルが充電エリアの中 央に来るように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。充電が行われないときは、ワイヤレス充電器側の作動表示灯が緑色と橙色にゆっくり点滅し、充電コイルの作動音がくり返し聞こえることがあります。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点 灯します。



■ 再充電機能

- 充電が完了し、充電停止状態が一 定時間経過すると充電を再開しま す。
- 充電エリア内で携帯機器が大きく 動くと、充電用コイルがはずれて 充電がいったん停止しますが、充

電エリア内に充電用コイルがある 場合は、ワイヤレス充電器内の充 電用コイルがその付近まで移動し て充電を再開します。

■ 急速充電機能

- 次の携帯機器に対しては急速充電が行えます。
- ・ WPC の Ver1.2.4 に準拠した、急速充 電に対応した携帯機器
- 7.5 W 充電に対応した iOS を搭載している iPhone (iPhone 8 以降の機種)
- 急速充電に対応した携帯機器を充電すると、自動的に急速充電機能に切りかわります。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯			
充電トレイ側	センターディ スプレイ側	状況	
消灯	非表示	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき	
緑(点灯)	灰	待機中(充電可能状態)※1	
		充電完了時 ^{※2}	
橙(点灯)	青	充電エリアに携帯機器を置いたとき(携帯機器を検出中)	
		充電中	

^{**1}待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電トレイ に置いても、加熱されることはありません。

■ ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況

ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

^{※2}携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

作動表示灯		
充電トレイ側	センターディ スプレイ側	想定される原因・対処方法
橙(1 秒間に 1 回の点滅を くり返す)	灰	車両とワイヤレス充電器の通信不良 → EV システムが始動しているときは、一度 EV システムを停止し、再始動してください。 パワースイッチが ACC のときは、一度 EV システムを始
		動してください。(→P.212)
緑 (1 秒間に 1 回の点滅を くり返す)	非表示	ワイヤレス充電器とマルチメディアシステムの通信異常 → EV システムが始動しているときは、一度 EV システムを停止し、再始動してください。
		パワースイッチが ACC のときは、一度 EV システムを始動してください。(→P.212)
緑(点灯)	青	AM 放送局を自動選局している → AM 放送局の自動選局が完了するのをお待ちくださ い。また、自動選局が完了しないときは、自動選局を 停止させてください。
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		スマートエントリー&スタートシステムがキーの検出を 行っている。 → キーの検出が完了するのをお待ちください。
		異物検知: 充電エリア内に金属製の異物があり、異常過熱防止機能が働いた → 充電エリア内にある異物を取り除いてください。
橙 (3 回連続 の点滅をくり 返す)	灰	携帯機器のずれ: 携帯機器の充電用コイルが充電エリアからはずれたことで、異常過熱防止機能が働いた → 携帯機器を充電トレイから取り出し、作動表示灯が緑に戻ったことを確認して、充電トレイの中央付近に置き直してください。また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、外してください。
橙 (4 回連続 の点滅をくり 返す)	灰	ワイヤレス充電器内の温度が一定値をこえたことによる 安全停止 → いったん充電を停止し、携帯機器を充電トレイから取 り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電 を開始してください。

□知識

■使用条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■使用できる携帯機器について

- ●ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用 できます。ただし、すべての Qi 準拠機 器と互換性を保証しているものではあ りません。
- ●携帯電話やスマートフォンをはじめと する携帯機器を対象とした5W以下の 低電力給電を対象としています。
- ●ただし、次の携帯機器に対しては、5 Wをこえる充電に対応しています。
- 7.5 W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5 W 以下の充電に対応しています。
- ・WPC 規格の Ver1.2.4 に規定されている EPP 出力に準拠した携帯機器に対しては、10 W 以下の充電に対応しています。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバー(一部メーカー純正品を含む)やアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中の AM ラジオ放送連携機能

- ●充電中、AM ラジオにノイズが入る場合、充電の周波数を自動で切りかえて ノイズを低減します。
- ●AM ラジオを自動選局中は、充電によって発生するノイズで誤選局しないよう、 一時的に充電を停止します。選局が終了すると、充電は自動的に再開します。

■充電中についての留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器 が温かくなりますが、異常ではありませ ん。充電中に携帯機器が温かくなったと きは、携帯機器側の保護機能により、充 電が停止することがあります。この場合、 携帯機器の温度が十分に下がってから、 再度、充電を行ってください。

また、ワイヤレス充電器内の温度を下げるためファンが作動することがありますが、異常ではありません。

■作動中の音について

パワースイッチを押して ACC または ON に変更したとき、および携帯機器を検出中は "ジー" や "カチッ" と作動音がしますが、異常ではありません。

■商標について

iPhone は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。なお、iPhone の商標はアイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。

▲ 警告

■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、 運転者は運転中に携帯機器本体の操作 をしないでください。

■走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量 の携帯機器は、走行中に充電しないで ください。非常に軽量のため充電トレ イから飛び出し、思わぬ事故の原因に なるおそれがあり危険です。

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。 お守りいただかないと装置の故障や損 傷、車両火災、発熱によるやけど、ま たは感電につながるおそれがあります。

- ●充電中に、充電エリアと携帯機器の あいだに金属物を挟まない
- ●充電エリアにアルミなどのシールや 金属製のものを貼り付けない
- ●携帯機器本体および外付けのケース やカバーなどに対して、充電エリア と接触する側に、アルミなどのシー ルや金属製のものを貼り付けたまま 充電しない
- ●小物入れがわりにものを置かない
- ●強い力や衝撃をかけない
- ●分解や改造、取りはずしをしない
- ●指定された携帯機器以外は充電しない
- ●磁気を帯びたものを近付けない
- ●充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- ●布などをかぶせて充電しない

▲ 注意

■機能が正常に働かないおそれのある 状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- ●携帯機器が満充電のとき
- ●有線接続で携帯機器を充電中のとき
- ●充電エリアと携帯機器のあいだに異物があるとき
- ●充電により、携帯機器の温度が高温 になっているとき
- ●炎天下などにより、充電トレイ付近 の温度が35℃以上になっていると き
- 携帯機器の充電面を上にして置いたとき
- 携帯機器の充電コイルが充電エリア から外れているとき
- 携帯機器が充電トレイよりも大きいとき
- ●折りたたみ式の携帯機器を充電エリアの外に置いたとき
- 携帯機器のカメラ部の突起が充電面 より3 mm 以上あるとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

▲ 注意

- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに次のようなものを挟んだり、 装着したりして、あいだが2 mm 以上となるとき
- 厚みがあるケースやカバー
- ・ 充電面が平面状ではなく、段差や傾 斜があるケースやカバー
- ・ 厚みがあるデコレーション
- ・指リングやストラップなどのアクセ サリー
- 携帯機器が、次のようなものに接していたり、覆われたりしているとき
- アルミ箔などの金属の貼られたカード
- ・アルミ箔を使用したタバコの箱
- ・金属製の財布やかばん
- 小銭
- カイロ
- ・CD や DVD などのメディア
- ・ 金属製のデコレーション
- ・ 金属製のケースやカバー
- ・携帯機器の充電面側に磁石が入った ケース
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを 使用しているとき
- ■電子キーが車室内にないとき
- ●2つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の 異常が考えられます。レクサス販売店へお問い合わせください。

■故障やデータ破損を防止するために

- ●充電中に、充電エリアにクレジット カード・ETC カードなどの磁気カー ドや磁気記録メディアなどを近付け ると、磁気の影響によりデータが消 えるおそれがあります。また、腕時 計などの精密機器を近付けると、こ われたりするおそれがありますので、 近付けないでください。
- ●携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを取り付けられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでく ださい。炎天下など車室内が高温と なり、故障の原因になります。
- ■スマートフォンの OS を更新したと き

スマートフォンの OS バージョンを更新したとき、充電の仕様が大きく変更されることがあります。WPC の対応バージョンが変更された場合、急速充電機能が使えなくなる場合があります。詳しくは各メーカーのホームページ情報等でご確認ください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

リヤアームレストを使うには

手前に倒して使用します。



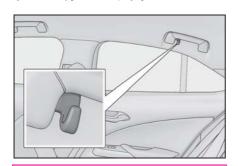
⚠ 注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

コートフックを使うには

コートフックは、リヤのアシストグ リップに付いています。



▲ 警告

■ コートフックへかけてはいけないも の

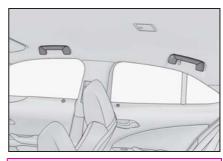
コートフックにハンガーや他の硬いも の、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、 重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

アシストグリップを使うには

天井に取り付けられているアシスト

グリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



▲ 警告

■アシストグリップについて

乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

1 注意

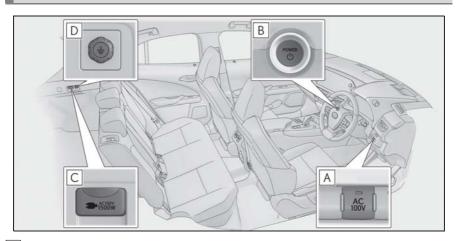
■アシストグリップの破損を防ぐため に

破損を防ぐために、アシストグリップ に過度の負荷をかけないでください。

アクセサリーコンセント (AC100V・1500W)

車内において、AC100Vで最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

各部の名称



- **A** AC100V スイッチ
- **B** パワースイッチ (→P.212)
- **C** ラゲージルーム内コンセント
- D アース端子

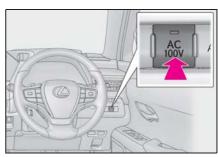
コンセントを ON するとき

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す(→P.212)
- 2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100V スイッチを押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

AC100V スイッチを押すたびにコンセン

トのON / OFF が切りかわります。



3 フタを開けて電気製品の電源プラ グをコンセントの奥までしっかり 挿し込む

電気製品の電源プラグを接続す るとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください

1 フタを開けて電気製品の電源プラ グをコンセントの奥までしっかり 挿し込む

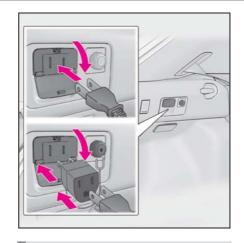
コンセントはラゲージルーム内にありま す。

電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、 電源プラグを確実に接続してご使用くだ さい。

- 電源プラグが大きくコンセントの 奥までしっかり挿し込めない
- 電源プラグが重くコンセントから 抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。



コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- **2** AC100V スイッチを押して OFF にする
- **3** コンセントから電源プラグを取り はずす
- 4 コンセントのフタを閉める

□知識

■使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■アクセサリーコンセントについて

- ●AC100V で最大消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用してく ださい。規定容量をこえる電気製品を 使用すると、保護機能が働き、給電機 能が停止することがあります。
- ●消費電力が大きな電気製品(ホットプレートなど)の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。

- ●複数の電気製品に給電する場合、電気 製品によっては正常に作動しない可能 性があります。その場合は、単独で電 気製品を使用してください。
- ●コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。
 - この場合、保護機能が働き、給電機能 が停止することがあります。
- ●コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- コンセントの使用中、ラゲージルーム 付近から冷却用ファンの音がすること がありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- ●起動時の電力が大きい電気製品
- ●取扱説明書などに記載されている消費 電力よりも大きな供給電力を必要とす る電気製品
- ●精密なデータ処理をする計測機器
- ●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■コンセントが使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。

この場合、まず次の処置を行ってください。

電気製品の電源プラグを抜き、すべて のコンセントの使用電力合計が 1500W以下になっているかを確認し、

- 再度 AC100V スイッチを押してください。
- ●電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V スイッチを押してください。
- ●駆動用電池の残量を確認してください。 駆動用電池充電警告灯点灯時は、駆動 用電池を充電後、再度 AC100V スイッ チを押してください。
- ●炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100Vスイッチを押してください。
- ●特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するためコンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池を暖めてから使用してください。

以上の処置を行ってもコンセントが使用 できない場合は、レクサス販売店で点検 を受けてください。

■駐車中または停車中に使用するとき

- ■スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。
- ■電子キーでドアを施錠・解錠することはできません。メカニカルキー (→P.448)のみでドアを施錠・解錠することができます。
- ●ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに "キーが見つかりませんキーの所在を確認してください" と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。
- 給電中に周囲が暗くなると、自動で ヘッドランプなどが点灯します。ラン プを消灯したいときは、P.227 を参照

してください。

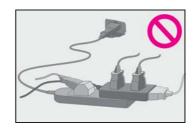
▲ 警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、思わぬ事故の 原因となり、重大な傷害におよぶか、 最悪の場合死亡につながるおそれがあ ります。

- ●お子さまなど、不慣れな方だけで給 電作業を行わないでください。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを 抜き挿ししたり、ピンなどをコンセ ントに挿したりしないでください。 また、コンセントに雨水・飲料水・ 雪などが付着した場合は乾燥させて から使用してください。
- ■コンセントの改造・分解・修理など はしないでください。修理について はレクサス販売店にご相談ください。
- ■コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- コンセントへは電源プラグ本体を 持って抜き挿しをし、プラグの刃に ふれないようにしてください。コー ドを引っ張って電源プラグを抜くと、 電源プラグやコードが損傷するおそ れがあります。
- ●電源コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。

・コンセントに、分岐用コンセントを 複数接続しない



- ・コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す
- ●アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。
- ●電気製品の電源プラグをコンセント に挿し込んでもゆるいときは、コン セントを交換してください。交換に ついてはレクサス販売店にご相談く ださい。

■接続する電気製品について

- ●使用する電気製品に付属の取扱説明 書や、製品に記載されている注意事 項を必ずお守りください。
- ●電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- ◆特に外気温が低いときや高いときは、 故障や作動不良になる可能性があり ます。
- ●水平設置が必要な電気製品は、正常 に作動しない可能性があります。
- ●防水仕様の電気製品を除き、雨や水 のかかる場所、湿気の多い場所では 使用しないでください。

- ●水没や浸水した、またそのおそれの ある電気製品は使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給 電機能が停止することがあります。

■電源周波数について

- ●工場出荷時、車両側の電源周波数は、60Hz に設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ(50/60Hz)機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- ◆特に電子レンジは使用中に発熱する おそれがあるため、必ずコンセント と電源周波数が合っていることを確 認してください。

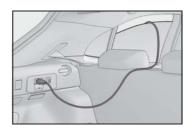
■駐車中または停車中に使用するとき

- コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム(外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など)に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ■コンセントの使用中は車両から離れないでください。
- ●落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、 雷に気付いたときは給電を停止して ください。
- ●車両をカーカバーなどで覆った状態 で使用しないでください。
- ●暖房器具などの電気製品を使用して 車中に泊まる際は、十分注意してく ださい。給電システムの自動停止な どにより、電気製品が意図せず停止 するおそれがあります。
- ●傾いた場所や坂道などに停めて使用 しないでください。使用中に車両を 移動させたり、傾けたりしないでく ださい。
- ●車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。
- ・雨水の侵入などに注意する

コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

- コードを窓やドアで挟まない
- たるみをもたせ、異常な張りが発生 しないようにする



- 誤って車両を発進させない
- ●洗車は行わないでください。

- ●ボンネットが閉まっていることを確認してください。また、モータールーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣(特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど)が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くに停めて使用 しないでください。
- ●腐食性のガスまたは溶液の発散する 場所では使用しないでください。
- 災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。(→P.373)

■走行中に使用するとき

- ●次のような場合は、電気製品を使用 しないでください。また、電気製品 を確実に固定できない状態で使用し ないでください。
- わき見運転など、安全運転のさまた げになる場合(テレビ・ビデオ・ DVD など)
- ・ 急ブレーキをかけたときや衝突した ときなどに、固定が不完全で転倒の おそれがある場合
- ・落下による事故や、発熱により火災 が発生するおそれがある場合
- ・やけどなどのおそれがある場合 (トースター・電子レンジ・電熱器・ ポット・コーヒーメーカーなど)
- ペダルの下に電気製品が入り込み、 ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合(ドライヤー・ACアダ プター・マウスなど)

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、停車した状態で窓を開けて使用してください。

⚠ 注意

■ショートや故障を防ぐために

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、正常に作動し なかったり、車両や電気製品が損傷し たりするおそれがあります。

- ●車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。 熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- ●振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。 車両の振動や、炎天下での駐車時の 熱などにより、電気製品が故障する おそれがあります。
- ■コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。 コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

6

非常時給電システム

災害などによる非常時に電力が必要なとき、車両の走行機能を停止した状態で、AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用することができるシステムです。

非常時給電システムを使用するときの重要確認事項

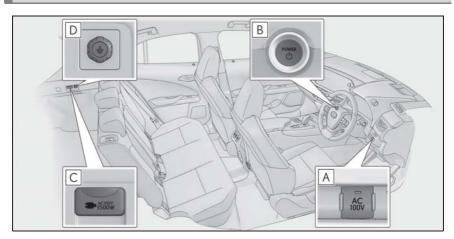
必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

- 普通充電・急速充電・V2H 充電を行っていないこと
- DC 外部給電・V2H 給電を行っていないこと
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

- ボンネットが閉まっていること
- パーキングブレーキがかかっていること
- シフトポジションが P になっていること
- パワースイッチが OFF になっていること
- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、 車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと

システムの構成部品



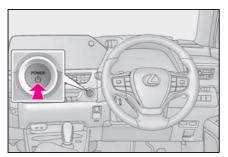
- **A** AC100V スイッチ
- **B** パワースイッチ (→P.212)

- **C** ラゲージルーム内コンセント
- D アース端子

非常時給電システムを使用する には

- 非常時給電システムを起動すると き
- 1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にする(→P.212)

ブレーキペダルを踏んだまま、パワース イッチを押し、READY インジケーター が点灯した場合、非常時給電システムは 使用できません。



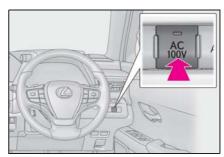
2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、 AC100V スイッチを3回連続で押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、起動が完了します。

AC100V スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯しないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

AC100V スイッチを 4 回以上連続で押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、

はじめから操作をやり直してください。



- 3 フタを開けて電気製品の電源プラ グをコンセントの奥までしっかり 挿し込む
- 非常時給電システムを停止すると き

次の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 AC100V スイッチを押して OFF にする
- **3** コンセントから電源プラグを取り はずす
- 4 コンセントのフタを閉める
- 5 パワースイッチを OFF にする

電気製品の電源プラグを接続するには

■ 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源がOFFになっていることを確認してください。

1 フタを開けて電気製品の電源プラ グをコンセントの奥までしつかり 挿し込む

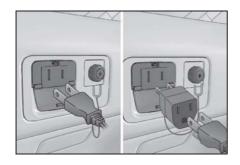
電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

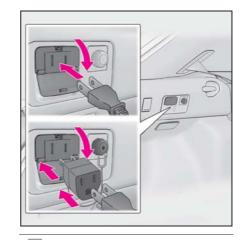
次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、 電源プラグを確実に接続してご使用くだ さい。

- 電源プラグが大きくコンセントの 奥までしっかり挿し込めない
- 電源プラグが重くコンセントから 抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。

また、接地極付きプラグのある電気製品 を使用するときは、市販の変換アダプ ターを使用してアース線をアース端子に 接続してください。





┈知識

■非常時給電システムについて

- ●AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- ●消費電力が大きな電気製品(ホットプレートなど)の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。
- ●複数の電気製品に給電する場合、電気 製品によっては正常に作動しない可能 性があります。その場合は、単独で電 気製品を使用してください。
- ●コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- ●コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- コンセントの使用中、リヤ席付近から 冷却用ファンの音がすることがありま すが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下でも正常に作動しないお それがあります。

- ●起動時の電力が大きい電気製品
- ●取扱説明書などに記載されている消費 電力よりも大きな供給電力を必要とす る電気製品
- ●精密なデータ処理をする計測機器
- ●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- ●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■非常時給電システムを使用するとき

- ■スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。
- 電子キーでドアを施錠・解錠することはできません。メカニカルキー (→P.448)のみでドアを施錠・解錠することができます。
- ●ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに "キーが見つかりませんキーの所在を確認してください" と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。
- 給電中に周囲が暗くなると、自動で ヘッドランプなどが点灯します。ラン プを消灯したいときは P.227 を参照し てください。
- DC 外部給電・V2H 給電は使用できません。
- ●車両への充電は実施できません。

▲ 警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、思わぬ事故の 原因となり、重大な傷害におよぶか、 最悪の場合死亡につながるおそれがあ ります。

- ●非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。
- お子さまなど、不慣れな方だけで給 電作業を行わないでください。
- ●ぬれた手で電気製品の電源プラグを 抜き挿ししたり、ピンなどをコンセ ントに挿したりしないでください。 また、コンセントに雨水・飲料水・ 雪などが付着した場合は乾燥させて から使用してください。
- ■コンセントの改造・分解・修理など はしないでください。修理について はレクサス販売店にご相談ください。
- ●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- ■コンセントへは電源プラグ本体を 持って抜き挿しをし、プラグの刃に ふれないようにしてください。コー ドを引っ張って電源プラグを抜くと、 電源プラグやコードが損傷するおそ れがあります。

- コードやコンセントに異常な発熱を 感じたらただちに使用を中止してく ださい。また、コードやコンセント の発熱を防ぐために、次のことをお 守りください。
- ・コンセントに、分岐用コンセントを 複数接続しない



- ・コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す
- ●アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。
- ■電気製品の電源プラグをコンセント に挿し込んでもゆるいときは、コン セントを交換してください。交換に ついてはレクサス販売店にご相談く ださい。

■接続する電気製品について

- ●使用する電気製品に付属の取扱説明 書や、製品に記載されている注意事 項を必ずお守りください。
- ●電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- ◆特に外気温が低いときや高いときは、 故障や作動不良になる可能性があり ます。

- ●水平設置が必要な電気製品は、正常 に作動しない可能性があります。
- ●防水仕様の電気製品を除き、雨や水 のかかる場所、湿気の多い場所では 使用しないでください。
- ●水没や浸水した、またそのおそれの ある電気製品は使用しないでください。
- ●車両の状態によっては、一時的に給 電機能が停止することがあります。

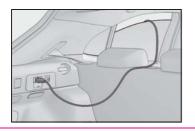
■電源周波数について

- ●工場出荷時、車両側の電源周波数は、60Hz に設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ(50/60Hz)機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- ●特に電子レンジは使用中に発熱する おそれがあるため、必ずコンセント と電源周波数が合っていることを確 認してください。

■非常時給電システムを使用するとき

●コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム(外部電源からの電気を表ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など)に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

- コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- コンセントの使用中は車両から離れないでください。
- ●落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。
- ●車両をカーカバーなどで覆った状態 で使用しないでください。
- ●暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。
- ●傾いた場所や坂道などに停めて使用 しないでください。使用中に車両を 移動させたり、傾けたりしないでく ださい。
- ●車外にコードを引いて使用する場合 は、次のことに注意してください。
- ・雨水の侵入などに注意する コンセントに雨水が付着した場合は、 乾燥させてから使用してください。
- コードを窓やドアで挟まない
- たるみをもたせ、異常な張りが発生 しないようにする



- ・誤って車両を発進させない
- ●洗車は行わないでください。
- ●ボンネットが閉まっていることを確認してください。また、モータールーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣(特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど)が巻き込まれるおそれがあります。
- ●燃えやすいものの近くに停めて使用 しないでください。
- ●腐食性のガスまたは溶液の発散する 場所では使用しないでください。

⚠ 注意

■ショートや故障を防ぐために

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、正常に作動し なかったり、車両や電気製品が損傷し たりするおそれがあります。

- ●車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。 熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- ●振動や熱などに弱い電気製品を車内 で使用しないでください。車両の振 動や、炎天下での駐車時の熱などに より、電気製品が故障したりするお それがあります。
- ■コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障や

ショートのおそれがあります。

⚠ 注意

■非常時給電システムを使用したあと、 走行させるとき

非常時給電モードを停止してから EV システムを始動してください。

正常に非常時給電システムが使 用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ 非常時給電システムが使用できない

考えられる原因	対処法
ブレーキペダルを 踏みながらパワー スイッチを操作し ている	ブレーキペダルか ら足を離してパ ワースイッチを操 作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワース状態が、ブレース状態がルース状態がルース状態がルース状態がルーではまずが、パワーにはいいでは、(→P.212) マルーシーでは、ファインディグーでは、ファイグでは、マルシーでは、ファイグでは、ファイグでは、とことには、
AC100V スイッチ を押す間隔が長す ぎる、または AC100V スイッチ を3回よりも多く 押している	AC100V スイッチ は 1 秒以上間隔を あけずに 3 回連続 で押してください。

考えられる原因	対処法
特に外気温が高い ときなど、駆動用 電池が高温になっ ている	車両を日陰なとなった。 移動とではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではい
特に外気温が低い ときなど、駆動用 電池が低温になっ ている	しばらく走行した り、エアコンを使 用するなどして車 内温度を上げ、い パワースイッチを OFF にし、はじり から操作をやり直 してください。
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜きして、 自体がかを確認後をがいってして、 のFFにないのでは、 のFFにして、 のFFにないがらいではいいでは、 のFFにないができるができる。 のFFにないができるができる。 のFFにないができるができる。 のFFにないができるができる。 のFFにないができるができる。 のFFにないができるができる。 のFFにないができる。 のFFにないができるができる。 のFFにないができるができる。 のFFにないができるができる。 のFFにないができる。 のFFにないができるができる。 のできるができるができる。 のできるができるができる。 のできるができるができる。 のできるができるができる。 のできるができるができる。 のできるができるができる。 のできるができるができるができる。 のできるができるができる。 できるができるができるができる。 のできるができるができるができる。 のできるができるができるができるができる。 のできるができるができるができるができるができるができる。 のできるができるができるができるができるができるができるができるができるができるが

考えられる原因	対処法
消費電力の合計が 1500W を超えて いる	電気製品の電源プラグを抜き計が 1500W以下になっているかをスパワース は、パワースイッチを OFF にし、はじめからしていた。操作をやり直してださい。
コンセントが ショートしている	電気が表する。 電気が表する。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、 レクサス販売店で点検を受けてくだ さい。

非常時給電システムが停止した とき

下記、必要な処置を行ってください。

■ 駆動用電池充電警告灯が点灯して いる

考えられる原因	対処法
駆動用電池の残量 が少なくなった	駆動用電池を充電 後、再度非常時給 電システムを起動 することが可能に なります。

お手刀

入れの	しかり	ב

7-1. お手入れのしかた	
外装の手入れ 382	2
内装の手入れ 385	5
7-2. 簡単な点検・部品交換	
ボンネット 388	3
ガレージジャッキ)
ウォッシャー液の補充 39 1	
タイヤについて391	
タイヤの交換 39 9	9
タイヤ空気圧について403	3
エアコンフィルターの交換 40 4	4
電子キーの電池交換406	ô
ヒューズの点検・交換 408	3
電球(バルブ)の交換	1

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった 適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら、車体・足ま わり・下まわりの順番に上から下 へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のよう なやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャン プーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、 ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉 状にならないときは、車体の温度が冷え ているときにワックスをかける。(およそ 体温以下を目安としてください)

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

□ 知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さ なすり傷を自然に復元する、傷付きにく い塗装を使用しています。

- 新車時から5~8年のあいだ、効果が持続します。
- ●傷が復元するまでの時間は、傷の深さ や周囲の温度により変化します。 なお、お湯をかけて塗装を暖めると、 復元するまでの時間が短くなる場合が

あります。

- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- ●成分にコンパウンド(磨き粉)が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うときは

- お車を洗う前に:
- ・ドアミラーを格納する
- パワーバックドア★を停止する

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にも どしてください。

- ●ブラシで車体などに傷が付き、塗装を 損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが 引っかかり洗車できない場合や傷付い たり、破損したりするおそれがあります。
- ●N ポジションに保持したままパワース イッチを ACC にする必要があるとき は、P.219 を参照してください。
- ★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■スマートエントリー&スタートシステ ムについて

- ●電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。
- ・電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する

(電子キーの盗難に注意してください)

・電子キーを節電モードに設定し、ス

マートエントリー&スタートシステム の作動を停止する (→P.185)

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、車外のブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに "車室内にキーがあります" が表示されることがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

■ホイール・ホイールキャップについて

- ●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落と してください。
- ●洗剤を使用したあとは放置せずに水で 十分洗い流してください。
- ●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
- ・酸性・アルカリ性および研磨剤の入っ た洗剤を使用しない
- ・硬いブラシを使用しない
- ・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱 いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターに ついて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、 錆びて貼り付くことがあります。洗車後 は低速で走行し、ブレーキを数回かけて 乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

撥水効果を長持ちさせるため、次のこと に注意してください。

- ●フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
- ●汚れは早めにやわらかい湿った布など で清掃する
- ■コンパウンド(磨き粉)が入ったガラ

スクリーナーやワックスを使用しない

- ●金属製の道具で霜取りをしない
- ■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- ●中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- ●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- ●油分を含んだ汚れはアルコール系 ウェットティッシュなどで油を浮かせ てからふき取る

▲ 警告

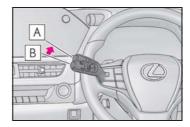
■洗車をするときは

モータールーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃す るときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- A OFF
- **B** AUTO
- ●雨滴センサー上部のフロントウイン ドウガラスに手でふれたとき

- ●水分を含んだ布などを雨滴センサー に近付けたとき
- ●フロントウインドウガラスに衝撃を 与えたとき
- ●車内から雨滴センサー本体にふれる などして衝撃を与えたとき

■リヤバンパーについて

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

- Lexus Safety System +
- ■BSM ★
- ■RCTA ★
- PKSB
- ★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

★ 注意

- ■塗装の劣化や車体・部品(ホイール など)の腐食を防ぐために
- ●次のような場合は、ただちに洗車してください。
- ・海岸地帯を走行したあと
- ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
- ・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学 物質などの降下が多い場所を走行し たあと
- ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
- ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

- ●塗装に傷が付いた場合は、早めに補 修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐため によごれを落とし、湿気の少ない場 所へ保管してください。

■ランプの清掃

- ●注意して洗ってください。有機溶剤 や硬いブラシは使用しないでください。
 - ランプを損傷させるおそれがあります。
- ●ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。
- ■自動洗車機を使用するときは

ワイパースイッチを OFF にしてくださ $(\rightarrow P.238)$

AUTO モードになっていると、不意に ワイパーが作動してワイパーブレード などを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

- ●洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- レーダー専用カバー裏に搭載されて いるレーダーに直接水をかけないで ください。部品故障の原因になるお それがあります。

↑ 注意

- ●ノズルの先端を、下記部品の結合部 やブーツ類(ゴムまたは樹脂製のカ バー)、コネクタ類に近付けすぎない でください。
 - 高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
- · 駆動系部品
- ステアリング部品
- サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品
- ●モール、バンパーなど樹脂部品は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- ●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄 しないでください。駆動用電池の中 に水が侵入し、EV システムの不調や 故障の原因になります。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった 適切な方法で実施してください。

車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、 水またはぬるま湯を含ませた布で ふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つこと をおすすめします。洗浄には、市販の泡 タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡を カーペットに広げ、円を描くように塗り 込んでください。直接水をかけたりせず、 ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラスについて

- ●ドアガラスが汚れているときは、早め に水またはぬるま湯を含ませた布で軽 くふいて清掃してください。
- ●ドアガラスの汚れがひどいときは、ド アガラスの開閉をくり返さないでくだ さい。

■車両への水の浸入

- ●車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線を ぬらさないでください。(→P.30) 電気の不具合により、エアバッグが 展開したり、正常に機能しなくなり、 重大な傷害におよぶか、最悪の場合 死亡につながるおそれがあります。
- おくだけ充電(ワイヤレス充電器)★ (→P.359)をぬらさないでください。

発熱によるやけど、または感電により 重大な傷害におよぶか、最悪の場合死 亡につながるおそれがあります。

- ★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。
- ■内装の手入れをするときは(特にインストルメントパネル)

艶出しワックスや艶出しクリーナーを 使用しないでください。インストルメ ントパネルがフロントウインドウガラ スへ映り込み、運転者の視界をさまた げ思わぬ事故につながり、重大な傷害 におよぶか、最悪の場合死亡につなが るおそれがあります。

▲ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- ●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
- ・シート以外の部分:ベンジン・ガソ リンなどの有機溶剤や酸性またはア ルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
- ・シート部分:シンナー・ベンジン・ アルコール・その他のアルカリ性や 酸性の溶剤
- ●艶出しワックスや艶出しクリーナー を使用しないでください。インスト ルメントパネルやその他内装の塗装 のはがれ・溶解・変形の原因になる おそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。 オーディオやフロアカーペット下にある 素気部品に水がかかると、東の物障

る電気部品に水がかかると、車の故障 の原因になったり、ボデーが錆びるお それがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を 掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。 (\rightarrow P.243)

■リヤウインドウガラスの内側を掃除 するときは

- ●熱線やアンテナを損傷するおそれが あるため、ガラスクリーナーなどを 使わず、熱線やアンテナにそって水 またはぬるま湯を含ませた布で軽く ふいてください。
- ●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

⚠ 注意

■スーパー UV カットガラスを清掃す るときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパ ウンドまたは研磨剤入り用品(ガラス クリーナー・洗剤・ワックスなど)を 使用しないでください。コーティング を損傷させるおそれがあります。

サテン仕上げ金属コーティング 部分の手入れをするには

- 水で湿らせたやわらかい布または 合成セーム皮で汚れをふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面に残っ た水分を完全にふき取る

知識

■サテン仕上げ金属コーティング部分の お手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますの で、普段のお手入れが大切です。汚れた まま長い間放置すると、汚れが落ちにく くなります。

革部分の手入れをするには

- 本革部分の手入れ
- 掃除機などでほこりや砂を取り除 <
- うすめた洗剤をやわらかい布に含 ませ、よごれをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約5%にう すめて使用してください。

- 水を浸した布を固くしぼり、表面 に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分 をふき取り、風通しのよい日陰で

乾燥させる

- 合成皮革部分の手入れ
- 掃除機などでほこりを取り除く
- 汚れがついた場合は、柔らかい布 に水を含ませ固くしぼりふき取る
- 水拭きで取れない汚れは、本革 シート用クリーナーを使用しふき 取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定 期的なお手入れをおすすめします。

■合成皮革部分の汚れについて

長い間放置し染みついた汚れはふき取り にくくなるため、定期的にお手入れをお すすめします。



■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるため に次のことをお守りください。

- ●革に付着したほこりや砂はすぐに取 り除く
- ●直射日光に長時間さらさないように する

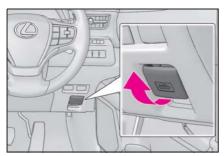
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワッ クス含有のものは、車内が高温にな ると革に張り付くおそれがあるため、 革張りの上に置かない

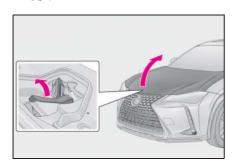
ボンネット

ボンネットを開けるには

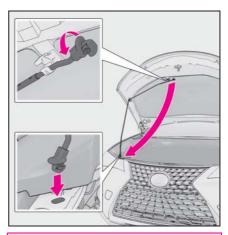
 ボンネット解除レバーを引く ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げてボンネットを 開ける



3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。

ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ボンネットを開けるときは

ボンネットを開ける前にパワースイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に電動ファンは、パワースイッチを OFF にしたあとも最大3分間作動しますので注意してください。

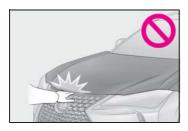
4 警告

■モータールーム点検後の確認

モータールーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。 点検や清掃に使用した工具や布などを モータールーム内に置き忘れていると、 故障の原因になったり、また、モー タールーム内は高温になるため車両火 災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを 挟まないように注意してください。 重大な傷害を受けるおそれがあり危険 です。



■ボンネットステーをステー穴に挿し 込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

■補機バッテリーの取り扱いについて

→P.454

⚠ 注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取り はずし、クリップに正しくもどしてく ださい。

ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

ガレージジャッキ

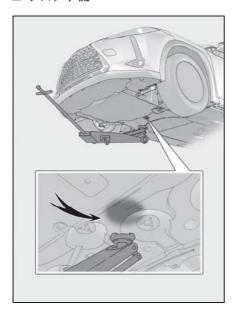
ガレージジャッキを使用するとき は、ガレージジャッキに付属の取 り扱い説明書に従って、安全に作 業してください。

ガレージジャッキを使用して車両 を持ち上げるときは、正しい位置 にガレージジャッキをセットして ください。

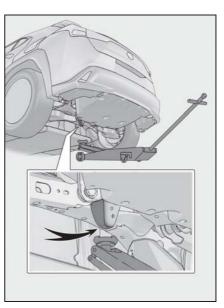
正しい位置にセットしないと、車 両が損傷したり、けがをしたりす るおそれがあります。

ジャッキポイントの位置を確認 する

■ フロント側



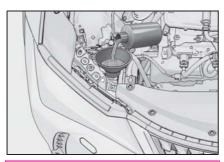
■ リヤ側



ウォッシャー液の補<u>充</u>

補充するには

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに "ウォッシャー液を補充してください" が表示されたら、ウォッシャー液を補充する



▲ 警告

■ウォッシャー液を補充するとき

EV システムが熱いときや EV システム 作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、EV システムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

1 注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せつけん 水や不凍液などを入れないでください。 塗装にしみが付くことや、ポンプが故 障してウォッシャー液が出なくなるお それがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。 水とウォッシャー液の割合は、ウォッ シャー液の容器に表示してある凍結温 度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション(タイヤ位置交換)を5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えていると きに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗(極端にタイヤ の片側のみが摩耗していたり、摩 耗程度が他のタイヤと著しく異な るなど)の有無

__ 知識

■タイヤ空気圧の数値

▶ 215/60R17 96H

▶ 225/50R18 95V

前輪:250kPa(2.5kg/cm²)[※]

後輪: 250kPa (2.5kg/cm²) **

前輪: 230kPa (2.3kg/cm²) **

後輪: 230kPa (2.3kg/cm²) **

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができま

す。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、 レクサス販売店にご相談ください。

■タイヤの交換について

お客様の車には、タイヤ交換に使用する 次の工具とジャッキが搭載されていない ことがあります。その場合、タイヤを交 換するときは、工具とジャッキを購入し てください。工具とジャッキはレクサス 販売店で購入することができます。

- ●輪止め
- ●ホイールナットレンチ
- ●ジャッキ
- ●ジャッキハンドル

▲ 警告

■点検・交換時に警告

必ず次のことをお守りください。 お守りいただかないと、駆動系部品の 損傷や不安定な操縦特性により、重大 な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に つながるおそれがあります。

- ●タイヤはすべて同一メーカー・同一 銘柄・同一トレッドパターンで、摩 耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤや ホイールを使用しない

- ●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを 混在使用しない
- ●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- ●他の車両で使用していたタイヤを使用しない 以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●破裂などの修理できない損傷を与える
- ●車両が横すべりする
- ●車両の本来の性能(電費・車両の安定性・制動距離など)が発揮されない

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用 しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

1 注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。 タイヤまたはホイールが損傷すること があります。

⚠ 注意

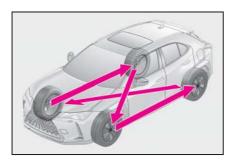
■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するとき は注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするに は

図で示すようにタイヤのローテー ションを行います。



タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命 をのばすために、レクサスは定期点 検ごとのタイヤローテーションをお すすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気 圧警報システムの初期化を確実に行って ください。

□ 知識

■タイヤローテーションを行うとき

必ずパワースイッチが OFF の状態で行ってください。ON のままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。

誤ってそのような状態になってしまった ときは、パワースイッチをいったん OFF にしてから再度 ON にするか、タイヤ空 気圧が正しく調整されていることを確認 した上で、初期化操作を行ってください。

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気 圧バルブ、および送信機が一定周期 ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、 タイヤの空気圧の低下を早期に知ら せるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

● 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。(→P.424, 431)

図の画面表示は、使用状況や車両の仕様 により実際の表示と異なる場合があります。



● タイヤ空気圧警報システムが検知 した空気圧をマルチインフォメー ションディスプレイに表示できま す。(→P.150)

□知識

■タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検 の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナン スノート」を参照してください。

■タイヤ空気圧表示について

- ●パワースイッチを ON にしたあと、空気 圧が表示されるまで約3分かかります。 また、空気圧が調節された場合も、表 示が更新されるまで約3分かかります。
- ●タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気 圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働 かないおそれのある状況

- ●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
- ・ 純正ホイール以外を使用したとき
- ・ 純正装着タイヤ以外に交換したとき
- 指定サイズ以外のタイヤに交換したと
- タイヤチェーンなどを装着しているとき
- 中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
- 電波を遮断するフィルムがウインドウ に貼り付けられているとき
- ・車両(特にホイール・ホイールハウス の周辺)に多くの雪や氷などが付着し ているとき
- ・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に 高いとき
- タイヤ空気圧警報バルブ/送信機を搭載していないホイールを使用している とき
- ・タイヤ空気圧警報バルブ/送信機のID がタイヤ空気圧警報コンピューターに 登録されていないとき
- ●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンス タンド・放送局・大型ディスプレイ・ 空港など、強い電波やノイズの発生す る場所にいるとき
- ・無線機や携帯電話・コードレス式電話 などの無線通信機器が車両付近にある

とき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

- 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。
- ●タイヤが破裂 (バースト) したときな ど、空気圧が急激に低下したときは、 警報できない場合があります。

■タイヤ空気圧警報システムの警報作動 について

タイヤ空気圧警報システムの警報は走行 状況によってかわります。このため、タ イヤ空気圧が低いレベルに達していない ときや、初期化したときのタイヤ空気圧 より高いときでも、警報することがあり ます。

空気圧バルブ/送信機の装着に ついて

タイヤやホイールを交換するときは、 付けかえたホイールにも空気圧バル ブ/送信機を装着してください。

バルブ/送信機を装着する場合は、専用のIDコードをコンピューターに登録する必要があります。(→P.397)

__ 知識

■ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ/送信機のID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約10分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅、その後点灯します。

↑ 注意

- ■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ/送信機・バルブキャップの修理・交換
- タイヤをホイールから脱着する際は、 空気圧バルブ/送信機が損傷しない よう注意してください。脱着手順の 詳細は、レクサス販売店へご相談く ださい。
- ●レクサス指定の純正ホイールを使用してください。 レクサス指定の純正ホイール以外を 使用すると、空気圧警報システムが 正しく作動しないおそれがあります。
- ●ホイールを交換したときは、空気圧 バルブ/送信機を装着してください。 空気圧バルブ/送信機が装着されて いないと、タイヤ空気圧警告灯が消 灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてく ださい。バルブキャップをはずして いると、水が浸入してバルブが固着 する場合があります。
- ●バルブキャップを交換するときは、 指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが 固着するおそれがあります。

■パンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ/送信機を交換してください。

タイヤ空気圧警報システムを初 期化するには

■ 初期化が必要なとき

- タイヤローテーションを実施した とき
- 指定空気圧が複数ある場合に、タ イヤの指定空気圧を変更したとき
- ID コードの登録を実施したとき (→P.397)

システムを初期化すると、現在のタイヤ の空気圧が標準値として記憶されます。

また、タイヤの位置判定を行います。

■ 初期化のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、20分 以上 EV システムを停止する

車両が動いているときは、初期化できません。

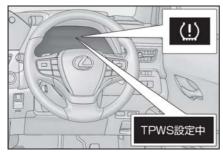
2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

- 3 EV システムを始動する (→P.212)
- **4** メーター操作スイッチの **<** または **>** を押して **②** を選択する
- 5 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押し、"車両設定"を選択して "OK" を押す
- **6** メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押し、"TPWS"を 選択して"OK"を押す

7 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押し、"初期化"を選択し、タイヤ空気圧警告灯が点滅を開始するまで"OK"を押し続ける

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。また、タイヤ空気圧表示が "--" になり、タイヤの位置判定を開始します。



8 約 40km/h 以上を維持しながら 約 10 ~ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧が表示されるようになり、初期化が完了します。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより初期化は完了しますが、1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。

□ 知識

■初期化するときは

- ●通常は約30分以内の走行で初期化が完 てします。
- ■車速が約40km/h以上のときに行われます。
- ●必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。

- なお、空気圧の調整および初期化操作 は、タイヤが冷えた状態で行ってくだ さい。
- ●タイヤ空気圧警報システムはお客様自身で初期化することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで初期化されますが、走行条件や走行環境によっては、初期化が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■初期化操作について

- 初期化中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためて初期化操作をやり直す必要はありません。
- ●初期化の必要がない状態で誤って初期 化操作をしてしまったときは、タイヤ が冷えている状態で指定空気圧に調整 し、再度初期化操作を行ってください。
- タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時は タイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■初期化がうまくいかないとき

- ●次の場合は、初期化に時間がかかる場合や、初期化できない場合があります。
- 約40km/h以上を維持して走行していない
- ・未舗装の場所を走行した
- ・他車と併走し、自車のセンサーと他車 のセンサーが判別できない
- 1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約20分間停車したあと、再度走行し直してください。
- ●初期化中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- ●初期化操作時に警告灯が3回点滅しない場合、初期化されていないおそれがありますので、初期化手順を最初からやり直してください。

●上記の方法でも初期化できない場合は、 レクサス販売店にご相談ください。

▲ 警告

■タイヤ空気圧警報システムを初期化 するとき

必ず指定空気圧に調整してから初期化 操作をしてください。

お守りいただかないと、タイヤ空気圧 が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点 灯しない、または適切な空気圧でもタ イヤ空気圧警告灯が点灯してしまうこ とがあります。

ID コードを登録するには

- ID コード登録が必要なとき
- 新しいバルブ/送信機を装着したとき
- すでにID コードの登録がされているバルブ/送信機を装着したとき (例えば、サマータイヤから冬用タイヤへの交換など)

タイヤ空気圧バルブ/送信機には固有のID コードが設定されているため、車両のコンピューターにID コードを登録する必要があります。

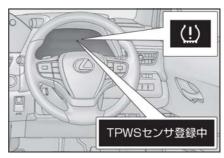
- ID コード登録のしかた
- 1 車を安全な場所に 15 分以上駐車 する(タイヤ交換作業を含む)
- 2 EV システムを始動する (→P.212)
- 3 メーター操作スイッチの < または ▶ を押して を選択する
- **4** メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押し、"車両設定"を選択して"OK"を押す

- **5** メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押し、"TPWS"を 選択して"OK"を押す
- 6 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押し、"自動 ID 登録"を選択して"OK"をタイヤ空気圧警告灯がゆっくり3回点滅を開始するまで押し続ける

センサー登録モードになり、ID コードの 登録が開始されます。

マルチインフォメーションディスプレイ にメッセージが表示され、タイヤ空気圧 表示が "--" になります。

その後、タイヤ空気圧警告灯が約1分間 点滅後点灯します。



7 約2分間待つ

すでに ID コードの登録がされている場合、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

- ▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯した場合
- 8 タイヤ空気圧警報システムを初期 化する (→P.395)
- ▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯してい ない場合
- 8 約 40km/h 以上を維持しながら タイヤ空気圧警告灯が消灯するま で走行する
- 約 40km/h 以上を維持できない場合でも

時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

9 タイヤ空気圧警報システムを初期 化する(→P.395)

| 知識

■ID コードの登録をするときは

- ●通常は約30分以内の走行で登録が完了 します。すでにIDコードの登録がされ ている場合は、通常より短い時間で完 了します。
- ■ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以 上のときに行われます。
- ●登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ/送信機を装着したホイールがないことを確認してください。
- ●ID コードの登録をしたあとに初期化を 行ってください。ID コードの登録前に 初期化すると、初期化が無効になりま す。
- ●ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、 直進走行をすることで登録されますが、 走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合が あります。

■ID コード登録の中止について

●ID コードの登録を中止するには、走行 する前にパワースイッチを OFF にして ください。

走行し始めた後に登録を中止する場合は、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。

●ID コードの登録を中止した場合、次回 パワースイッチを ON にしたとき、タ イヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅した 後点灯します。

- タイヤ空気圧警報システムが正常に作動できるようになると、タイヤ空気圧 警告灯が消灯します。
- ●しばらく待ってもタイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていないおそれがあります。正しく中止するためには、再度ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にパワースイッチをOFF にしてください。

■ID コードの登録がうまくいかないとき

- ●次の場合は、ID コードの登録に時間が かかる場合や、登録できない場合があ ります。
- ・ 走行前に約 15 分以上駐車していない
- 約40km/h以上を維持して走行していない
- ・未舗装の場所を走行した
- ・他車と併走し、自車のセンサーと他車 のセンサーが判別できない
- ・タイヤ空気圧バルブ/送信機を装着し たホイールが車内や車両の近くにある
- 1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。
- ●登録中に車を後退させると、それまで のデータがリセットされるため、再度 走行し直してください。
- ●登録操作時に警告灯がゆつくり3回点滅 しない場合、ID コードが登録されてい ないおそれがありますので、登録手順 を最初からやり直してください。
- ●上記の方法でも ID コードを登録できない場合はレクサス販売店にご相談ください。

タイヤの交換

ジャッキを使用してお車を持ち上 げるときは、正しい位置にジャッ キを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が破損したり、けがをするおそれがあります。

ご自身でのタイヤの交換に不安が ある場合は、レクサス販売店にご 相談ください。

ジャッキで車体を持ち上げる前 に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける

- シフトポジションを P にする
- EV システムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→P.415)

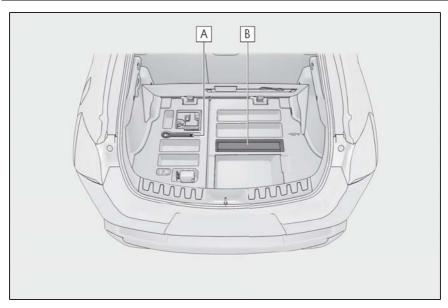
□ 知識

■工具について

お客様の車にはタイヤパンク応急修理 キットが標準装着のため、タイヤ交換に 使用する以下の工具は搭載されていませ ん。工具はレクサス販売店で購入するこ とができます。

- ●輪止め
- ●ホイールナットレンチ
- ●ジャッキ
- ●ジャッキハンドル

工具の位置



B ジャッキ [※] /ジャッキハンドル [※] /ホイールナットレンチ [※]

※ 工具とジャッキは、レクサス販売店で購入することができます。

▲ 警告

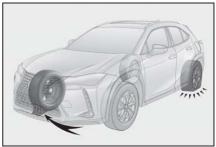
■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。 ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落 下して重大な傷害におよぶか、最悪の 場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ジャッキはタイヤ交換・タイヤ チェーン取り付け・取りはずし以外 の目的で使用しない
- ●他の車のジャッキをお客様の車に使用しない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に 体を入れない
- ●車がジャッキで支えられている状態で、EV システムを始動したり車を走らせない
- ●車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ●車を持ち上げるときは、ジャッキの 上または下にものを置かない
- ■車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ●車の下にもぐり込んで作業する場合 は、ジャッキスタンドを使用する
- ●車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

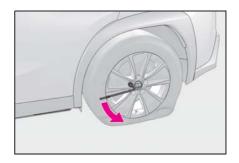
タイヤの取りはずし

1 輪止め ** をする

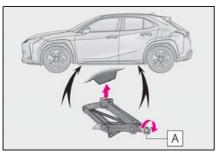


交換するタ イヤ	輪止めの位置
左前輪	右側後輪うしろ
右前輪	左側後輪うしろ
左後輪	右側前輪前
右後輪	左側前輪前

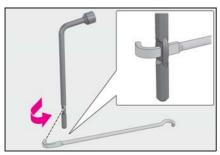
- ※輪止めは、レクサス販売店で購入する ことができます。
- 2 ナットを少し(約1回転)ゆるめる



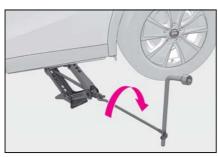
3 ジャッキのA 部を手でまわして、 ジャッキの溝をジャッキセット位 置にしっかりかける



4 ジャッキハンドルにホイールナットレンチを取り付ける



5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上に

します。



A 警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください

走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

▲ 警告

- ●次のことをお守りいただかないと ナットがゆるみ、ホイールがはずれ 落ち、重大な傷害におよぶか、最悪 の場合死亡につながるおそれがあり ます。
- ねじ部にオイルやグリースを塗らない
 ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
- ホイールの交換後はすぐに 103N・m (1050kgf・cm) の力でナットを締める
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの 異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける
- ■パワーバックドア装着車のタイヤ交換について

タイヤ交換などをする際は、パワー バックドアの作動(→P.182)を停止 してください。停止しないと、誤って パワーバックドアを作動させたときに バックドアが動き、指や手を挟んでけ がをするおそれがあります。

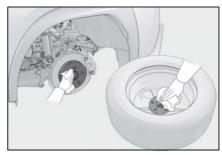
↑ 注意

■ タイヤ・ホイール・空気圧バルブ/ 送信機・バルブキャップの修理・交 換

→P.395

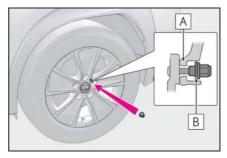
タイヤの取りつけ

1 ホイール接触面の汚れをふき取る ホイール接触面が汚れていると、走行中 にナットがゆるみ、タイヤがはずれるお それがあります。



タイヤを取り付け、タイヤががた つかない程度まで手でナットを仮 締めする

ナットの座金がホイールにあたるまでま わす



A ホイール

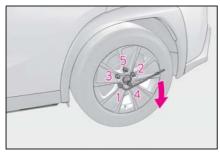
B座金

3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを 2、3 度 しつかり締め付ける

締め付けトルク: 103N·m (1050kgf·cm)



5 すべての工具を収納する

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持する ために、タイヤの空気圧点検を月 に1回以上実施してください。

□知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で 走行すると、次のようなことが起こる場 合があります。

- ●電費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- ●摩耗によるタイヤ寿命の低下
- ●安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合 は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことを お守りください。

- ●タイヤが冷えているときに点検する
- ●タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する タイヤの外観だけでは空気圧が適正か どうか判断できません。
- ●走行後はタイヤの発熱により空気圧が 高くなります。異常ではありませんの で減圧しないでください。
- ●荷物を積んだり、多人数で乗車すると きは荷重を不均等にかけないようにす る

▲ 警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていない と、次のようなことが起こるおそれが あり、重大な傷害におよぶか、最悪の 場合死亡につながるおそれがあります。

- ●過度の摩耗
- ●偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- ●タイヤの過熱による破裂
- ●タイヤとホイールのあいだからの空 気もれ
- ●ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の 増大(路上障害物、道路のつなぎ目 や段差など)

↑ 注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあ とは

タイヤのバルブキャップを確実に取り 付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただく ために、エアコンフィルターを定 期的に交換してください。

交換するには

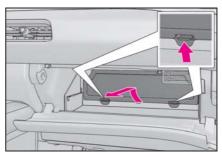
1 パワースイッチを OFF にする

充電コネクターが接続されていないことを確認してください。また、作業中はリモートエアコンシステムを使用しないでください。

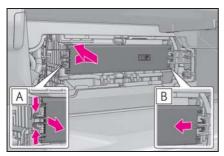
2 助手席ドアを開ける

ドアを開けておくことで、リモートエア コンシステムの意図せぬ作動を防止でき ます。(→P.341)

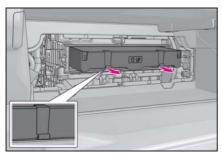
- 3 グローブボックスを開け、仕切り 板をはずす(→P.350)
- 4 パネルを取りはずす



バーを抜き (**B**)、フィルターカ バーを取りはずす

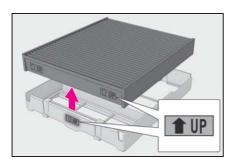


6 フィルターケースを取りはずす



7 フィルターケースからフィルター を取りはずし、新しいフィルター と交換する

" Û UP" マークの矢印が上を向くように取り付けます。



□知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安

に交換してください。

15000km [7500km^{※1}] ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと ^{※2}

**1大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

▲ 警告

■エアコンフィルターを交換するとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、作業中にエアコンが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●充電コネクターが接続されていない ことを確認する

エアコン連動設定 (\rightarrow P.103) や駆動 用電池冷却 (\rightarrow P.83) などにより、エ アコンが作動する場合があります。

リモートエアコンシステムを使用しない

注意

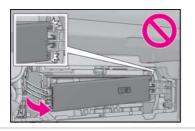
■エアコンを使用するときの注意

- ●フィルターを装着せずにエアコンを 使用すると、故障の原因になること があります。必ずフィルターを装着 してください。
- ●フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

▲ 注意

■フィルターカバーの破損を防ぐため に

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新し い電池に交換してください。

□知識

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- ■スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- ●作動距離が短くなる
- ■カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池: CR2032

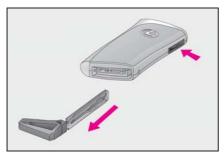
□知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

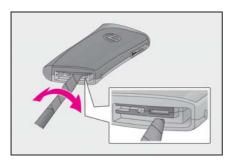
雷池を交換するには

1 メカニカルキーを抜く



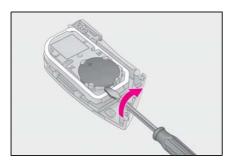
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライ バーの先端に布などを巻いて保護してく ださい。



3 小さいマイナスドライバーを使っ て消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+極を上にして取り付け ます。



▲ 警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●誤って電池を飲み込まないように注 意してください。化学熱傷のおそれ があります。
- ●電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●新しい電池および取りはずした電池 は、お子さまにさわらせないでくだ さい。
- ●カバーがしっかり閉まらない場合は そのまま使用せず、お子さまの手の 届かない場所に保管し、レクサス販 売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- ■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために
- ●同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- ●極端に温度の高いところや、高度が 高く極端に気圧が低いところに電池 を持ち込まないでください。
- ■電池を燃やしたり、つぶしたり、 切ったりしないでください。

▲ 注意

■電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを 使用してください。無理な力がかかる と、カバーが変形したり破損したりす るおそれがあります。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ●ぬれた手で電池を交換しない 錆の原因になります。
- ■電池以外の部品に、ふれたり動かし たりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

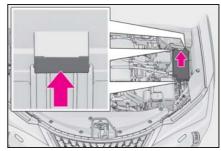
ヒューズの点検・交換をするに は

1 パワースイッチを OFF にする

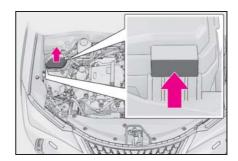
充電コネクターが接続されていないこと を確認してください。また、作業中はリ モートエアコンシステムを使用しないで ください。

- 2 ヒューズボックスを開ける
- ▶ モータールーム (1)

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

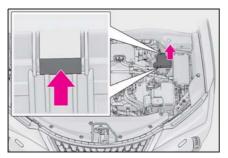


▶ モータールーム(2)
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



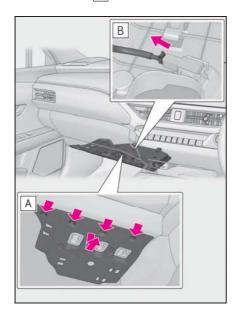
▶ モータールーム (3)

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

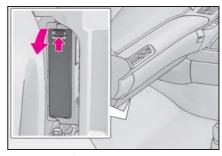


▶ 助手席足元

足元のカバー $\boxed{\mathbf{A}}$ を取りはずし、足元照明のコネクター $\boxed{\mathbf{B}}$ を取りはずす

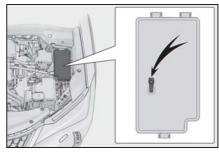


ヒューズボックスカバーを取りはずす



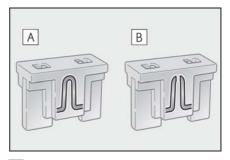
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くこ とができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容 量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

□ 知識

■ヒューズを交換したあと

- ●カバーを取り付けるときは、ツメを しっかり取り付けてください。
- ●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
- ●交換しても再度ヒューズが切れる場合 は、レクサス販売店で点検を受けてく ださい。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球(バルブ)を交換するとき

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

▲ 警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。 お守りいただかないと、車の故障や火 災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、または ヒューズ以外のものを使用しないで ください。
- ●必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ●ヒューズやヒューズボックスを改造 しないでください。

■パワーコントロールユニット近くの ヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。

取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害 におよぶか、最悪の場合死亡につなが るおそれがあります。

⚠ 注意

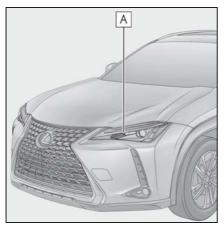
■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

電球(バルブ)の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。交換する前に、切れた電球のW(ワット)数を確認してください。部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

電球の位置



- A フロント方向指示灯/非常点滅灯 (単眼ヘッドランプ装着車)
- レクサス販売店で交換が必要な電 球

次のランプが切れたときは、 レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドランプ(前照灯)
- 車幅灯/デイタイムランニングランプ
- フロント方向指示灯/非常点滅灯 (三眼ヘッドランプ装着車)
- フロントフォグランプ
- コーナリングランプ

- サイド方向指示灯/非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- 尾灯/制動灯
- リヤ方向指示灯/非常点滅灯
- リヤフォグランプ★
- 後退灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯
- ★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

知識

■LED ランプについて

単眼ヘッドランプ装着車:

フロント方向指示灯/非常点滅灯以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

三眼ヘッドランプ装着車:

すべてのランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

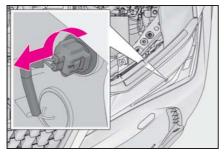
レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題 ありません。ただし、次のようなときは、 レクサス販売店にご相談ください。

- ●レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ●ランプ内に水がたまっている
- ■電球(バルブ)を交換するとき

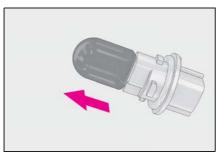
→P.410

電球交換をするには

- フロント方向指示灯/非常点滅灯 (単眼ヘッドランプ装着車)
- 1 ソケットを左にまわして取りはず す



2 電球を取りはずす



3 取り付けるときは、取りはずした ときと逆の順序で取り付ける

▲ 警告

■電球を交換するとき

●ランプは消灯してください。消灯直 後は高温になっているため、交換し ないでください。やけどをすること があります。

- ●電球のガラス部を素手でふれないでください。
 - やむを得ずガラス部を持つ場合は、 電球に油脂や水分を付着させないた めに、乾いた清潔な布などを介して 持つてください。また、電球を傷付 けたり、落下させたりすると球切れ や破裂することがあります。
- ●電球や電球を固定するための部品は しつかり取り付けてください。取り 付けが不十分な場合、発熱や発火、 または内部への浸水による故障や、 レンズ内に曇りが発生することがあ ります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には

8-1.	まず初めに
	故障したときは414
	非常点滅灯 (ハザードランプ). 415
	発炎筒 415
	車両を緊急停止するには 416
	水没・冠水したときは 417
8-2.	緊急時の対処法
	けん引について419
	警告灯がついたときは 424
	警告メッセージが表示されたときは
	431
	パンクしたときは 435
	EV システムが始動できないときは
	キーをなくしたときは 447
	充電リッドが開かないときは 447
	電子キーが正常に働かないときは
	補機バッテリーがあがったときは
	m版パブプラーガめがりたとさば451
	オーバーヒートしたときは 455
	スタックしたときは 456

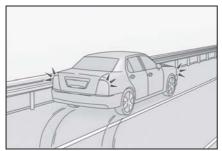
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示 に従ってください。

対処のしかた

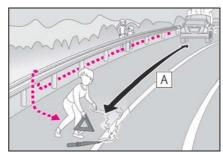
● 非常点滅灯 (→P.415) を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路 上駐車する場合、他車に知らせるため使 用します。



- 高速道路や自動車専用道路では、 次のことに従う
- 1 同乗者を避難させる
- 2 車両の50m以上後方A に発炎 筒(→P.415)と停止表示板を 置くか、停止表示灯を使用する
- ・見通しが悪い場合はさらに後方に 置いてください。
- ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネ

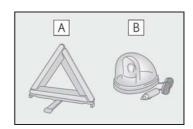
ル内では使用しないでください。



3 その後、ガードレールの外側など に避難する

□知識

- ■停止表示板・停止表示灯について
- ●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



- A 停止表示板
- B 停止表示灯
- ●停止表示板のご購入については、 レクサス販売店にお問い合わせくださ い。

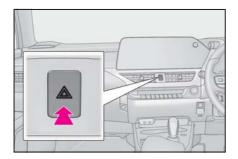
非常点滅灯(ハザードラン プ)

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。 もう一度押すと消灯します。



□ 知識

■非常点滅灯について

- ●EV システム停止中 (READY インジケーターが点灯していないとき) に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。

非常点滅灯スイッチを2回押すか、約20分経過すると消灯します。

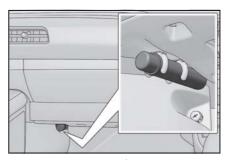
(衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。)

発炎筒

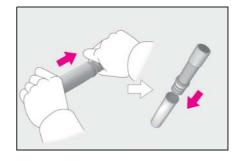
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください) 発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

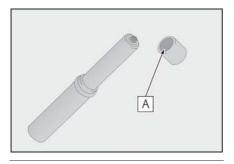


2 本体をまわしながら抜き、本体を 逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬A で 発炎筒の先端をこすり、着火させる。

必ず車外で使用してください。 着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



□知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。 有効期限が切れると、着火しなかったり、 炎が小さくなる場合があります。

A 警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するお それがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く
- ■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、重大な傷害を 受けるおそれがあり危険です。

- ●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- ●発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったとき の非常時のみ、手順に従って車両 を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかり と踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでく ださい。通常より強い力が必要となり、 制動距離も長くなります。

- 2 シフトポジションを N にする
- ▶ シフトポジションが N になった場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停め る
- **4** EV システムを停止する
- ▶ シフトポジションが N にならない 場合
- **3** ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 パワースイッチを 2 秒以上押し 続けるか、素早く 3 回以上連続 で押して EV システムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

▲ 警告

■走行中にやむを得ず EV システムを停止するときは

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。 EV システムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。 冠水路または冠水のおそれがある 道路は、走行しないでください。

車両が水没や漂流することが予想 される場合は、車内に留まると危 険です。

落ち着いて次のように対処してく ださい。

- ●ドアを開けることができる場合、 ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラス を開けることができない場合、落 ち着いて車内外の水圧差がなくな るまで車内が浸水するのを待って からドアを開けて車外に出てくだ さい。

車外の水位がドア高さの半分を超 えると、水圧で車内からドアを開 けることができなくなります。

□ 知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、 電気装置が損傷し、パワーウインドウが 作動しなくなったり、モーターが停止し、 車が移動できなくなるおそれがあります。

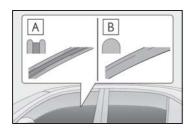
■緊急脱出用ハンマー※の使用について

この車両のフロントウインドウガラスと ドアガラスには合わせガラス★が使用され ております。合わせガラスは、緊急脱出 用ハンマー[※] で割ることができません。

- ★:グレード、オプションなどにより、装 備の有無があります。
- ※ 詳しくはレクサス販売店にお問合せく ださい。

■合わせガラスの見分け方

ガラスの断面を上から見たとき、2枚の 板ガラスを貼り合わせてあるのが合わせ ガラスです。



- A 合わせガラス
- B 強化ガラス

▲ 警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路 は、走行しないでください。車両が故 障して動かなくなり、水没や漂流から 死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、 車両運搬車を使用することをおす すめします。

⚠ 注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん 引してください。他車にけん引しても らうと、ブレーキが過熱し効きが悪く なるおそれがあります。

他車によるけん引が不可能な状 況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。レクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常がある とき (→P.214)
- ◆ イモビライザーシステムに異常が あるとき (→P.52)
- スマートエントリー&スタートシステムに異常があるとき (→P.448)
- 補機バッテリーがあがったとき (→P.451)

けん引の前に販売店への連絡が 必要な状況

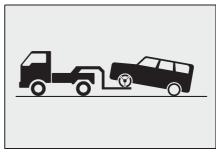
次の場合は、駆動系の故障が考えら

れるため、レクサス販売店または専 門業者へご連絡ください。

- EVシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

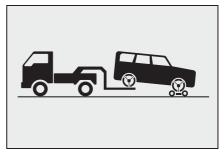
▶ 前向きにけん引するときは



パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。 $(\rightarrow P.222)$

▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

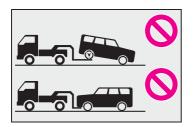
▲ 警告

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、重大な傷害に およぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。

▲ 警告

■レッカー車でけん引するとき

必ず前輪を持ち上げるか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



⚠ 注意

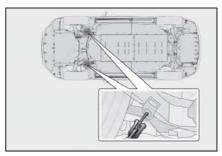
■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のような レッカー車ではけん引しないでくださ い。

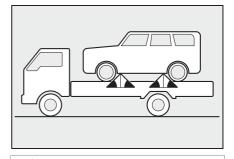


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の 場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を 固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する



/ 注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎない でください。車両の損傷につながるお それがあります。

他車にけん引してもらうとき

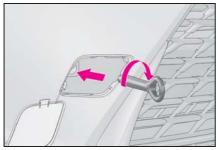
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

- ラゲージルーム内のけん引フック を取り出す(→P.436)
- **2** マイナスドライバーを使ってフタ をはずす

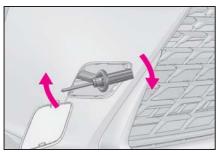
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライ バーの先端に布などを巻いて保護してく ださい。



3 けん引フックを穴に挿し込んでま わし、軽く締める



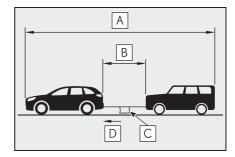
4 金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してくだ さい。また、前進方向でけん引してくだ さい。

6 ロープの中央に白い布を付ける 布の大きさ: 0.3m 平方(30cm×30cm)以上



- A 25m 以内
- **B** 5m 以内
- C白い布
- Dけん引方向
- 7 運転者はけん引される車両に乗り、EVシステムを始動する

EV システムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。 $(\rightarrow P.222)$

けん引中は、ロープがたるまないよう、 減速時なども前の車の速度に合わせてく ださい。

| 知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに 使うものであり、他車をけん引するため のものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

EV システムが停止しているとブレーキの 効きが悪くなったり、ハンドル操作が通 常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

レクサス販売店で購入することができま す。

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



■緊急用フックを取り付けるには

緊急用フックを取り付けるときは、手順 に従って取り付けてください。

- ラゲージルーム内のけん引フックを取り出す (→P.436)
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- **3** けん引フックを穴に挿し込んでまわ し、軽く締める
- **4** 金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

▲ 警告

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、重大な傷害に およぶか、最悪の場合死亡につながる おそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転 について

けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。

けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重 大な傷害を与えるおそれがあります。

パワースイッチを OFF にしないでく ださい。

パーキングロックにより、前輪が固 定され思わぬ事故につながるおそれ があり危険です。

■けん引フックを車両に取り付けると き

指定の位置にしっかりと取り付けてく ださい。

指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

■車両の損傷を防ぐために

- ●他車にけん引してもらうときは次の ことを必ずお守りください。
- ワイヤーロープは使用しない
- ・速度 30km/h 以下、距離は車両積載 車までの移動など、できるだけ短距 離にとどめる
- ・前進方向でけん引する
- サスペンション部などにロープをかけない

1 注意

●この車両で他車やボート(トレーラー)などをけん引しないでください。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- ◆やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- ■緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処し てください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありま せん。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を 受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯(警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
	●ブレーキ液の不足●ブレーキ系統の異常→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ 補機バッテリー充電警告灯 ※ (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
==	補機バッテリー充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

[※]マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が約1分間点滅したあとに点灯した場合:
	タイヤ空気圧警報システムの異常
	→ レクサス販売店で点検を受けてください。
4.13	警告灯が点灯した場合:
(!)	次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ●自然要因 ●タイヤのパンク
	→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法(→P.429)に従ってく ださい。

■ ブレーキ警告灯(警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
()	●回生ブレーキシステムの異常●電子制御ブレーキシステムの異常●パーキングブレーキシステムの異常→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯(警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ ABS &ブレーキアシスト警告灯(警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
(ABS)	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ パワーステアリング警告灯(警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
(赤色) (赤色) (黄色)	EPS(エレクトリックパワーステアリング)の異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC(ビークルスタビリティコントロール)システムの異常 ●TRC(トラクションコントロール)システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
(点滅)	パーキングブレーキシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ ブレーキホールド作動表示灯(警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
HOLD	ブレーキホールドシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ クリアランスソナー OFF 表示灯(警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
(占浦)	ブザーが鳴った場合:
	クリアランスソナーの異常
	→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
	ブザーが鳴らなかった場合:
	センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない
	→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.302)

■ RCTA OFF 表示灯[★] (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
RCTA OFF (点滅)	ブザーが鳴った場合:
	RCTA(リヤクロストラフィックアラート)の異常
	→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
	ブザーが鳴らなかった場合:
	レーダーセンサー周辺のリヤバンパー(→P.295)に汚れや付着物 がある
	→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.309)

^{★:}グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB OFF 表示灯(警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
● CFF (点滅)	ブザーが鳴った場合:
	PKSB(パーキングサポートブレーキ)の異常
	→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
	ブザーが鳴らなかった場合:
	センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない
	→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.316, 431)

■ 駆動用電池充電警告灯(警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
	駆動用電池の残量や状態から充電が必要
	低温時には、早めの充電を促すために早く点灯することがあります。
	→ 駆動用電池を充電する (→P.82)

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯(警告ブザー※)

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用
	→ シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用して ください。

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー: 運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一 定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※1 (警告ブザー ※2)

警告灯	警告内容・対処方法
26.26.26	リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

**1マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。リヤ席の乗員の有無に関わらず、リヤ席シートベルト非着用の状態でパワースイッチを ON にした場合にも一定時間点灯します。

**²リヤ席シートベルト非着用警告ブザー:

リヤ席シートベルト非着用 (いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態) のまま車速が一定以上になると、警告ブ

ザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ ペダル誤操作警告灯 ※ (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
••	ブザーが鳴った場合: ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 ●PKSB (パーキングサポートブレーキ) 作動時 → マルチインフォメーションディスプレイやヘッドアップディスプレイ*に表示されているメッセージの指示に従ってください。 ブザーが鳴らなかった場合: ブレーキオーバーライドシステム作動時
	→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

^{**} マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ LTA 表示灯[※] (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
(橙色)	LTA (レーントレーシングアシスト) の異常 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.266)

[※]マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ PCS 警告灯(警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
(点滅または点灯)	警告ブザーが鳴った場合:
	プリクラッシュセーフティの異常
	→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
	警告ブザーが鳴らない場合:
	プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停 止している
	→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.246, 434)
	プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC(ビークルスタビリティコントロール)システムが停止しているときも点灯します。 → P.257

^{★:}グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

- ■シートベルト非着用警告灯の乗員検知 センサーの作動について
- 助手席に乗員がいなくても、シートに 荷物などを置くと、センサーが重量を 検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴 ることがあります。
- ●助手席に座布団などを敷くと、セン サーが乗員を検知せず警告灯が作動し ないことがあります。
- ■パワーステアリング警告灯/警告ブ ザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、 または一時的に電圧が下がった場合に警 告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることが あります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してく ださい。

パンクしているときは: →P.435

パンクしていないときは:

パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅した あとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常がある おそれがあります。ただちにレクサス販 売店で点検を受けてください。

- ▶ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合
- 1 タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整する

- 2 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行う(→P.395)
- 自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の 変化など、自然要因によりタイヤ空気圧 警告灯が点灯することがあります。この 場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整し てください。数分後に警告灯が消灯しま す。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働 かないおそれがある状況

→P.394

▲ 警告

■警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に 合わせて、マルチインフォメーショ ンディスプレイに警告メッセージが 表示されたとき

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時 に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、 レクサス販売店にご連絡ください。 ABS またはブレーキアシストシステム に異常が発生しているだけでなく、強 めのブレーキの際に車両が不安定にな るおそれがあり、重大な傷害におよぶ か、最悪の場合死亡につながるおそれ があります。

▲ 警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。 ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしつかりと持ち、通常より強く操作してください。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、駆動系部品の 損傷や不安定な操縦特性により、重大 な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に つながるおそれがあります。

- ●できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を確認・調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告 灯が点灯する場合は、タイヤがパン クしている可能性があります。タイ ヤがパンクしている場合は、タイヤ パンク応急修理キットで応急修理し、 最寄りのレクサス販売店でタイヤの 修理をしてください。
- ●急ハンドル・急ブレーキを避けてく ださい。 タイヤの状態が悪化すると、ハンド ル操作やブレーキが効かなくなるお それがあります。
- ■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、 タイヤ空気圧警報システムによる警報 ができない場合があります。

↑ 注意

- ■タイヤ空気圧警報システムについて
- ●純正ホイール以外を使用した場合、 バルブ/送信機から発信する電波の 飛び方がかわり、システムが正常に 作動しないことがあります。
- ●構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化操作(→P.395)では解除できません。

警告メッセージが表示され たときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



■ マルチインフォメーションディ スプレイ

マルチインフォメーションディスプレ イのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示された ときは、レクサス販売店へご連絡くだ さい。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告ブザー※	警告内容	
— あり		・走行にかかわるシステムの故障や、そのまま 放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるな どの重要なメッセージを意味します。	
		・車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。	
点灯または点滅	あり 表示されたシステムに故障のおそれがある のメッセージを意味します。		
	なし、	・電装品の故障や状態、メンテナンスのお知ら せなどのメッセージを意味します。	
	74 U	・車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。	

[※] メッセージを最初に表示したときに作動します。

□知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■各部の操作に関するメッセージが表示 されたときは

- ●アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき
- ・PCS(プリクラッシュセーフティ)や レーダークルーズコントロール(全車 速追従機能付き)などの運転支援シス テムの作動中、ブレーキ操作に関する 警告メッセージが表示される場合があ ります。

メッセージが表示されたときは、必ず 減速、または画面で指示された操作を 行ってください。

ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに、警告メッセージが表示

されます。(→P.209)

- ・ドライブスタートコントロール・PKSB (パーキングサポートブレーキ)が作動 したときに、警告メッセージが表示さ れます(→P.209, 312)。画面の指示 に従って対処してください。
- ●パワースイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、パワースイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。

画面の指示に従って操作し直してください。

●シフトレバーの操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり、シフトレバーの操作が指示されることがあります。

その場合は、画面の指示に従ってシフト ポジションを変更してください。

●各部の開閉状態や、消耗品の補充など に関するメッセージ・画像が表示され たとき 画面の表示、または警告灯で指示された 部位を確認し、開いているドアを閉めた り、消耗品を補充したりするなどの対処 を行ってください。

■ "EV システム停止のためハンドルが重くなります"が表示されたときは

走行中に EV システムが停止したときに メッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしつかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ "EVシステム高温 出力制限中です"が 表示されたときは

負荷の高い走行状況(例えば、長い上り 坂を走行)のときにメッセージが表示さ れる場合があります。

対処方法:→P.455

■ "シフトシステム故障 シフト切りかえ 不可 安全な場所まで走行し 停車" ま たは "シフトシステム故障 走行を継続 できません" が表示されたときは

シフト制御システムが故障しています。 ただちにレクサス販売店で点検を受けて ください。

■ "駐車時はPレンジに入れてください" が表示されたときは

シフトポジションが P 以外でパワース イッチを OFF にせずに運転席ドアが開い たときにメッセージが表示されます。駐 車時はシフトポジションを P にしてくだ さい。

■ "N レンジです アクセルを緩めて希望 レンジに切りかえてください" が表示 されたときは

シフトポジションがNで、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトポ ジションを D または R にしてください。 ■ "EV システムが高温になるため停車時 はブレーキを踏んでください"が表示 されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダル を踏んで車両を保持するとメッセージが 表示される場合があります。

そのままの状態を続けると EV システムが 過熱するおそれがあります。アクセルペ ダルから足を離し、ブレーキペダルを踏 んでください。

■ "バッテリー保護のため自動で電源を Off しました" が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回 EV システム始動時に、約5分間 EV システムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■ "回生ブレーキ制限中 減速時はブレー キを踏んでください" が表示されたと きは

次のような状況では、回生ブレーキが制限されることがあります。ブレーキペダルをしっかり踏んで減速して下さい。

- ・満充電により、これ以上回生ができな いとき
- ・駆動用電池の温度が極端に高いとき、 または極端に低いとき
- ・電気モーターやパワーコントロールユニットの温度が極端に高いとき
- "電力消費が大きいため一部の空調・ ヒータ作動を制限中です"が表示され たときは

不要な電装品をオフにし、電力消費を控えてください。電源状態が復帰するまで しばらくお待ちください。

■ "クルーズコントロール 一時使用不可 取扱書を確認ください" が表示された ときは

レーダークルーズコントロール(全車速

追従機能付き)のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。(要因および対処方法→P.246)

■ "クルーズコントロール 現在使用できません" が表示されたときは

レーダークルーズコントロール(全車速 追従機能付き)のシステムが一時的に使 用不可と判断されています。しばらく走 行してからレーダークルーズコントロー ル(全車速追従機能付き)を再度設定し てください。

■前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。(→P.246, 424)

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- ●LTA (レーントレーシングアシスト)
- ●AHS (アダプティブハイビームシステム) ★
- ■AHB (オートマチックハイビーム) ★
- ●RSA(ロードサインアシスト)
- ●レーダークルーズコントロール(全車 速追従機能付き)
- ●先行車発進告知機能
- ●ドライバー異常時対応システム
- ★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。(→P.246,424)

- PCS(プリクラッシュセーフティ)
- ■LTA (レーントレーシングアシスト)
- ●レーダークルーズコントロール(全車 速追従機能付き)

●先行車発進告知機能

■販売店での点検をうながすメッセージ が表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

■取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

- ●次のメッセージが表示されたときは、 対処方法に従ってください。
- · "バッテリ充電不足" (→P.451)
- "充電システム確認のため 充電リッド を閉めてください" (→P.126)
- ●次のメッセージが表示されたときは、 故障している可能性があります。ただ ちにレクサス販売店で点検を受けてく ださい。
- "スマートエントリー&スタートシステム故障"
- ・ "バッテリ系故障"
- ・ " アクセル系故障 "
- ・ "プラグイン充電システム故障"
- · "EV システム故障"
- ・ "シフトシステム故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認"
- "P スイッチ故障 駐車時は パーキング ブレーキ をかけ 取扱書確認"
- ・ "シフトシステム不作動 駐車時 パー キングブレーキ をかけ 取扱書確認"
- ・ "シフトシステム故障 取扱書確認"
- ・ "シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認"
- ・ "バッテリ充電不足 シフト切りかえ できません 取扱書確認 "
- ●次のメッセージが表示されたときは、 故障している可能性があります。ただ ちに安全な場所に停車し、レクサス販 売店へ連絡してください。走行を続け ると危険です。
- ・ " 故障のためブレーキ力が低下 "
- ・ "シフトシステム故障"

⚠ 注意

■ "電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です" がひんぱんに表示されるときは

充電系の異常や補機バッテリーが劣化 している可能性があります。レクサス 販売店で点検を受けてください。

■ "バッテリ充電不足" がひんぱんに 表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

■ "駆動用電池の点検を販売店で受けてください"が表示されたときは

駆動用電池の点検・交換時期になった ことをお知らせしています。すみやか にレクサス販売店で点検を受けてくだ さい。

- ●点検を受けないまま急速充電を行う と充電時間が長くなるおそれがあり ます。
- ●駆動用電池の点検を受けないまま車 を使用し続けると、EV システムを始 動することができなくなります。
- ●万一、EV システムが始動できなく なったときは、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キット装着 車には、応急用タイヤが搭載され ていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク補修液1本につき、応急修理できるタイヤは1本です)パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。

タイヤパンク応急修理キットで応 急修理したタイヤの修理・交換に ついては、レクサス販売店にご相 談ください。

▲ 警告

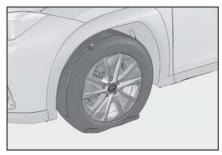
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。 短い距離でも、タイヤとホイールが修 理できないほど損傷したり、思わぬ事 故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- EV システムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、 タイヤを応急修理してください。



- タイヤに刺さっている釘やネジな どは抜かないでください。抜いて しまうと穴が大きくなりすぎ、応 急修理ができなくなることがあり ます。
- パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

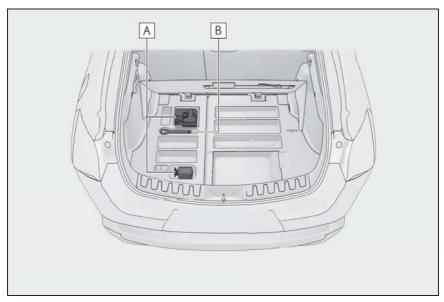
□知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- ●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- ●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損 傷があるとき
- ●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- ●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷が あるとき
- ホイールが破損しているとき
- ●2本以上のタイヤがパンクしているとき
- ●1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺 し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の位置

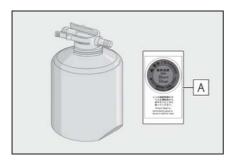


A タイヤパンク応急修理キット

B けん引フック

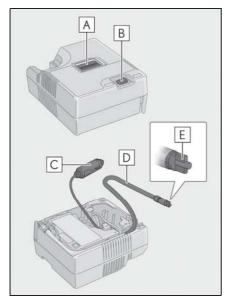
タイヤパンク応急修理キットの 内容/各部の名称

■ ボトル



A 速度制限ラベル

■ コンプレッサー



- A 空気圧計
- B 電源スイッチ
- ┏ 電源プラグ

D ホース

E 空気逃がしキャップ

□ 知識

■応急修理キットについて

- ●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を 1回応急修理できます。使用したパン ク補修液の交換は、レクサス販売店に ご相談ください。コンプレッサーは、 くり返し使用できます。
- 外気温度が-30℃~60℃のときに使用できます。
- ●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ 専用です。指定タイヤサイズ以外のタ イヤや、他の用途には使用しないでく ださい。
- ●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- ●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- ●応急修理キット作動中は、大きな音が しますが故障ではありません。
- ●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

- パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。
- ●有効期限が切れたパンク補修液は使用 しないでください。応急修理キットに よる修理が正常にできない場合があり ます。
- ●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店

にご相談ください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、レクサス販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

▲ 警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続け ないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■応急修理キットについて

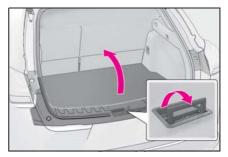
- ●応急修理キットは指定の位置に収納 してください。急ブレーキ時などに応急修理キット が飛び出したりして破損したり、思 わぬ事故につながるおそれがあり危 険です。
- ●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。 他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他 の用途には使用しないでください。 パンク修理が完全に行われず、思わ ぬ事故につながるおそれがあり危険 です。

■パンク補修液について

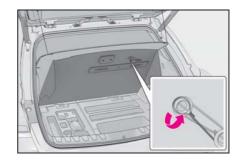
- ●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん の水を飲み、ただちに医師の診察を 受けてください。
- ●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの 取り出し方

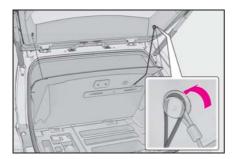
1 レバーを引き上げて、デッキボー ドを持ち上げる



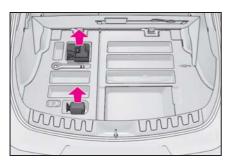
2 留めひもをはずす



3 留めひもをかける



4 応急修理キットを取り出す

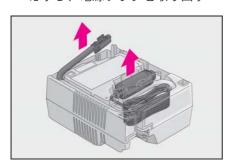


応急修理するときは

1 応急修理キットをビニール袋から 取り出す

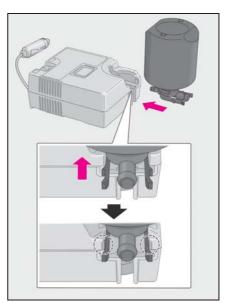
ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。(手順10へ)

2 コンプレッサーからホースを取り はずし、電源プラグを取り出す



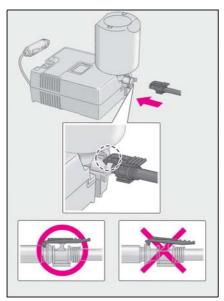
3 ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

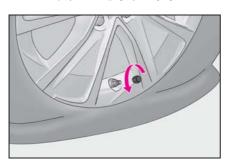


4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしつかり 接続しているか確認してください。



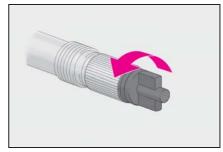
5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

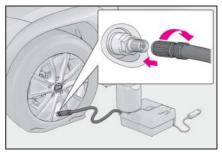
空気逃がしキャップは再度使用するため、

なくさないように保管してください。

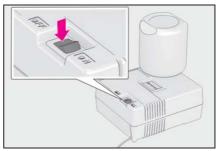


7 ホースをパンクしたタイヤのバル ブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。

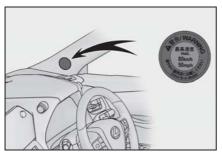


8 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認する



9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む(→P.357)

10運転席から見やすい位置に、付属 のラベルを貼り付ける

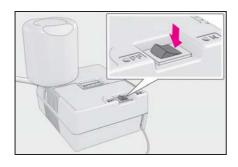


11タイヤの指定空気圧を確認する 運転席側の空気圧ラベルで確認すること ができます。(→P.391)

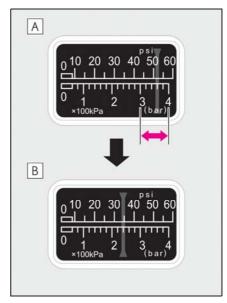


12EV システムを始動する (→P.212)

13コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



14空気圧が指定空気圧になるまで空 気を充填する



- A 一時的に空気圧計が300~400kPa(3.0~4.0kg/cm²)まで上昇し、徐々に減少します。
- B スイッチを ON にしてから約 1 ~ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

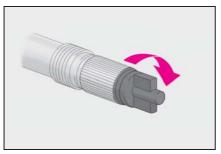
充填までに必要な時間は、約5~20分です(外気温により異なります)。25分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチをOFFにして、レクサス販売店にご連絡ください。空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→P.391,462)

15コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、 アクセサリーソケットから電源プ ラグを抜き、タイヤのバルブから ホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

- **16** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける
- **17**ホース先端に空気逃がしキャップ を取り付ける

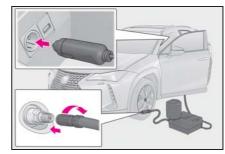
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



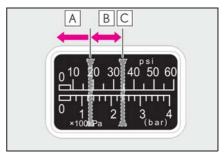
- **18**いつたん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する
- 19 タイヤ内のパンク補修液を均等に 広げるために、ただちに約 5km、 速度 80km/h 以下で安全に走行 する
- 20 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がし

キャップを取りはずしてください



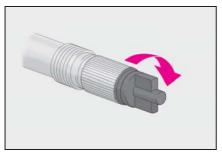
21 コンプレッサーのスイッチを数秒 間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



- **A** 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²)未満の場合:応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。
- **B** 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合:手順 22 へ
- © 空気圧が指定空気圧 (→P.391) の場合:手順 23 へ
- 22 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 20 から実施する
- **23**ホース先端に空気逃がしキャップ を取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパ ンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れ

る可能性があります。



- **24**ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する
- **25**急ブレーキ、急加速、急ハンドル を避け、約 100km 以内、速度 80km/h 以下でレクサス販売店ま で慎重に運転する

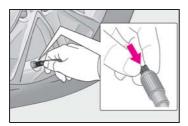
タイヤの修理・交換、応急修理キットの 処理についてはレクサス売店にご相談く ださい。

レクサス販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みである ことを必ずお伝えください。

□知識

■空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからホースを取りはずす
- 2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤの バルブに押しあて、空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取り はずし、ホースを再接続する 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を 確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急(パンク)修理キットを使用した とき

- ●空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ/送信機を交換してください。
- タイヤの指定空気圧に達していても、 タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性 があります。

▲ 警告

- ■パンクしたタイヤを応急修理すると きは
- ●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- ●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。 走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- ●タイヤを車両に取り付けた状態で、 バルブとホースをしつかりと接続し てください。
- ●空気充填中にホースがはずれると、 圧力でホースが暴れ大変危険です。
- ●空気充填後は、ホースを取りはずす ときや空気を抜くときにパンク補修 液が飛散する場合があります。
- ●作業手順に従って応急修理を行って ください。

手順どおりに行わないとパンク補修 液が噴出する場合があります。

▲ 警告

- ●破裂の危険があるので、応急修理 キットの作動中は補修中のタイヤか ら離れてください。タイヤに亀裂や 変形が発生している場合、ただちに コンプレッサーのスイッチを OFF に し、修理を中止してください。
- ●応急修理キットは、長時間作動させ るとオーバーヒートする可能性があ ります。40 分以上連続で作動させな いでください。
- ●応急修理キットが作動すると部分的 に熱くなります。使用中または使用 後の取り扱いには注意してください。 ボトルとコンプレッサー接続箇所付 近の金属部分は特に熱くなるのでふ れないでください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼 らないでください。ハンドルのパッ ド部分などの SRS エアバッグ展開部 に貼ると、SRS エアバッグが正常に 作動しなくなるおそれがあります。
- ■補修液を均等に広げるための運転に ついて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコント ロールが不能となり、重大な傷害を受 けたり、最悪の場合死亡事故につなが るおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特 にカーブや旋回時には注意してくだ さい。

- ●車がまっすぐ走行しなかったり、ハ ンドルをとられたりする場合は、運 転を中止し、次のことを確認してく ださい。
- タイヤを確認してください。タイヤ がホイールからはずれている可能性 があります。
- ・空気圧を確認してください。 130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合 は、タイヤが大きなダメージを受け ている可能性があります。

/ 注意

■応急修理をするときは

- ●タイヤに刺さった釘やネジを取り除 かずに応急修理を行ってください。 取り除いてしまうと、応急修理キッ トでは応急修理ができなくなる場合 があります。
- ●応急修理キットに防水機能はありま せん。降雨時などは、水がかからな いようにして使用してください。
- ●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直 接置いて使用しないでください。砂 ぼこりなどを吸い込むと、故障の原 因になります。
- ●応急修理キットは倒れた状態では正 常に作動しません。必ず立ててご使 用ください。

■応急修理キットについて

- ●応急修理キットは DC12V 専用です。 他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットはビニール袋に入れ て砂ぼこりや水を避けて収納してく ださい。
- ●応急修理キットは指定の位置に収納 し、お子さまが誤って手をふれない ようご注意ください。

▲ 注意

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

EV システムが始動できな いときは

EV システムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものをご確認いただき、適切に対処してください。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても EV システムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

正しい EV システムの始動方法 (→P.212) に従っても始動で きない

次の原因が考えられます。

- 車両に充電ケーブルが接続している可能性があります。(→P.86)
- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。[※] (→P.448)
- 駆動用電池が電欠している可能性があります。駆動用電池を充電して下さい。(→P.82)
- ◆ イモビライザーシステム ** に異常 がある可能性があります。 (→P.52)
- シフト制御システムに異常がある 可能性があります。[※] (→P.214)
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、EV システムを一時的な処置で始動することができます。(→P.446)

- 駆動用電池の温度が極端に低い (およそ -30 ℃以下) 可能性があります (→P.62, 213)
- ** シフトポジションを P から切りかえる ことができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い/ ホーンの音が小さい、または鳴 らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.451)
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない/ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.451)

対処の方法がわからないとき、あるいは 対処をしても EV システムが始動できな いときは、レクサス販売店にご連絡くだ さい。

緊急時の始動について

通常の EV システム始動操作で EV システムが始動しないときは、次の 手順で EV システムが始動する場合 があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキン

グブレーキスイッチを押す (→P.222)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯 が点灯します。

- 2 パワースイッチを ACC にする
- 3 ブレーキペダルをしっかり踏んで パワースイッチを約 15 秒以上押 し続ける

上記の方法で EV システムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以 外の安全な場所(財布の中など) に保管してください。

⚠ 注意

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。 車両に付属している残りの電子キーと カードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

充電リッドが開かないとき は

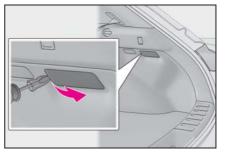
充電リッドが通常の手順で開かないときは、次の手順で充電リッドを開けることができます。

充電リッドを開けるには

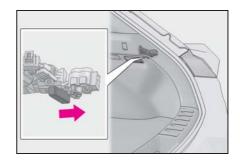
■ 普通充電リッド

1 ラゲージルーム内のカバーをマイ ナスドライバーを使って取りはず す

カバーを取りはずすときは、傷が付くの を防ぐため、マイナスドライバーの先端 に布などを巻いて保護してください。



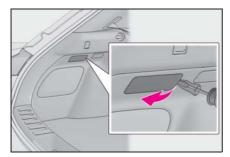
2 レバー(白)を引く



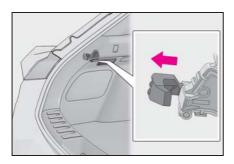
■ 急速充電リッド

1 ラゲージルーム内のカバーをマイ ナスドライバーを使って取りはず す

カバーを取りはずすときは、傷が付くの を防ぐため、マイナスドライバーの先端 に布などを巻いて保護してください。



2 レバー(黒)を引く



電子キーが正常に働かない ときは

電子キーと車両間の通信がさまた げられたり (→P.185)、電子 キーの電池が切れたときは、ス マートエントリー&スタートシス テムとワイヤレスリモコンが使用 できなくなります。このような場 合、次の手順でドアを開けたり、 EV システムを始動したりするこ とができます。

」知識

- ■電子キーが正常に働かないときは
- ●車両カスタマイズ機能でスマートエン トリー&スタートシステムの設定を確 認し、非作動になっている場合には、 作動可能に設定変更してください。 $(\to P.466)$
- ●電子キーが節電モードに設定されてい ないことを確認してください。 設定されている場合は解除してくださ い。(→P.185)
- ●電子キーの機能が停止している可能性 があります。(→P.185)

⚠ 注意

■スマートエントリー&スタートシス テムの故障などで販売店に車両を 持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キー (カードキーを含む) をお持ちくださ 610

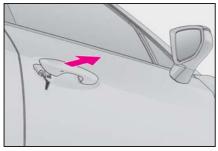
ドアを施錠・解錠するには

■ドアの解錠

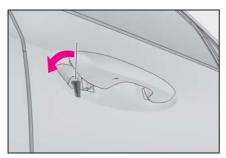
メカニカルキー (→P.162) を使っ

て次の操作ができます。(運転席ドア のみ)

1 運転席側のドアハンドルを引いた まま、メカニカルキーを挿し込む



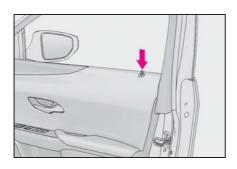
2 キーを回してドアを解錠する



3 メカニカルキーを抜いてドアハンドルをもとにもどしたあと、再度ドアハンドルを引く

■ドアの施錠

ドアを開けた状態でドアロックボタンを押し下げる

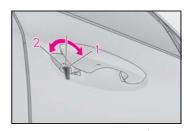


- ▶ フロント席ドア
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを 閉める
- ▶ リヤ席ドア
- 2 ドアを閉める

□ 知識

■キーと連動する機能について

カスタマイズの設定変更により、キーと 連動してドアガラスとムーンルーフ★の開 閉ができます。



- 1 ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる (まわし続ける)
- 2 ドアガラスとムーンルーフ★が開く (まわし続ける)
- ★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

全警告

■メカニカルキーを使ってドアガラス やムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

EV システムを始動するには

- 1 ブレーキペダルを踏む
- 2 電子キーのレクサスエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、 ONへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー &スタートシステムの設定が非作動に なっているときは、ACC へ切りかわりま す。



- 3 ブレーキペダルをしつかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されていることを確認する。
- 4 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、 レクサス販売店にご連絡ください。

| 知識

■EV システムの停止のしかた

通常の EV システム停止のしかたと同様に、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかけて、パワースイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明している EV システムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめし

ます。(→P.406)

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.53)

■パワースイッチのモードの切りかえ

EV システム始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、EV システムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。 (\rightarrow P.214)

補機バッテリーがあがった ときは

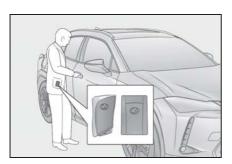
補機バッテリーがあがった場合、 次の手順で EV システムを始動す ることができます。

EV システムを再始動するには

ブースターケーブルと 12 V のバッテリー付き救援車があれば、手順に従って、EV システムを始動させることができます。

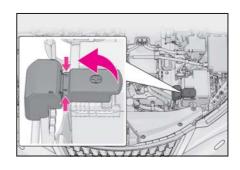
1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。 $(\rightarrow P.54)$



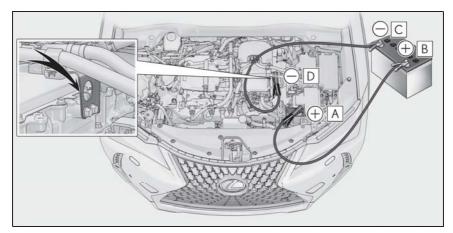
- **2** ボンネットを開ける(→P.388)
- 3 バッテリーの+端子のカバーを開ける

図のように、側面を押しながら、カバー を開けます



4 赤色のブースターケーブルを自車の+端子A につなぎ、もう一方の端を 救援車のバッテリーの+端子B につなぐ。その後、黒色のブースター ケーブルを救援車のバッテリーの-端子C につなぎ、もう一方の端を金 属部D につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用して ください。



- ▲ バッテリーの+端子(自車)
- Bバッテリーの+端子(救援車)
- [▼ バッテリーの-端子(救援車)
- D図に示す金属部
- 5 救援車のエンジンをかけ、回転を 少し高めにして、約5分間自車 の補機バッテリーを充電する
- 6 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんON にしてからEV システムを始動する
- **7** READY インジケーターが点灯す ることを確認する

点灯しない場合はレクサス販売店にご連 絡ください。 8 EV システムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと 逆の順ではずす

EV システムが始動しても、早めに レクサス販売店で点検を受けてくだ さい。

□知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- ●EV システムが停止しているときは、ランプ、エアコンやオーディオなどの電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、 不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、補機バッテリーがあがってEVシステムが始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはEVシステムの作動中に自動で充電されます)

■補機バッテリーあがり時や取りはずし 時などは

- ●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはレクサス販売店で点検を受けてください。また、補機バッテリー端子をはずすときは、レクサス販売店にご相談ください。
- ■補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- ●補機バッテリー脱着後、最初の EV システム始動は失敗することがあります。2 回目以降の EV システム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- ●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。補機バッテリーあがり前

- のパワースイッチの状態が不明の場合、 補機バッテリー接続時は特に注意して ください。
- ●補機バッテリーがあがった場合は、P から他のポジションに切りかえること ができない可能性があります。その場 合は、前輪が固定されているため、前 輪を持ち上げないと車両の移動ができ ません。(→P.419)
- パワーバックドアシステムの初期化を 行ってください。(→P.179)

■補機バッテリーを交換するときは

- ●欧州規格バッテリーを使用してください。
- 交換前と同一のケースサイズ (LNO)、 20 時間率容量 (20HR) が同等 (35Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (240A) 以上の補機バッテリー を使用してください。
- ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
- ・補機バッテリーの早期劣化や、最悪の 場合には EV システムの始動ができなく なるおそれがあります。
- ・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、EV システムの始動ができなくなるおそれがあります。

詳しくは、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■補機バッテリー端子をはずすときは

必ずー端子を先にはずしてください。 +端子を先にはずすと、+端子が周辺 の金属部分にふれた場合、火花が発生 し火災につながるおそれがあるほか、 感電し重大な傷害におよぶか、最悪の 場合死亡につながるおそれがあります。

▲ 警告

■補機バッテリーの引火または爆発を 防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ●ブースターケーブルは正しい端子ま たは接続箇所以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブ ルの先を付近のブラケットや未塗装 の金属部に接触させない
- ●ブースターケーブルは+側と-側の 端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙した りマッチやライターなどで火を起こ さない
- ■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性の ある酸性の電解液が入っており、また 関連部品には鉛または鉛の混合物を含 んでいるので、取り扱いに関し、次の ことを必ずお守りください。

- ●補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液(酸)が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- ●必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- ●誤ってバッテリー液(酸)が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあ
- ●誤ってバッテリー液(酸)を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

てておく

- ●バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない
- ■補機バッテリーを交換するときは
- ●液栓がステーに近いと、バッテリー液(酸)がもれだすおそれがあります。
- ●バッテリーの交換については、 レクサス販売店にご相談ください。

▲ 注意

■ブースターケーブルの取り扱いにつ いて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンに巻き込まれないように十分注意してください。

■ブースターケーブルを接続するとき は

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

マルチインフォメーションディスプレイに "EV システム高温 出力制限中です" が表示される場合は、オーバーヒートの可能性があります。

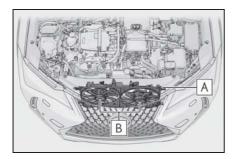
対処方法

- 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にする
- **2** EV システムが作動している状態 で、ボンネットを開ける
- 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているかを確認するファンが作動している場合: "EV システム高温 出力制限中です"表示が消えるまで待ち、EVシステムを停止する

ファンが作動していない場合: すぐに EV システムを停止し、 レクサス販売店に連絡する

4 EV システムが十分に冷えてから、 ラジエーターコア部 (放熱部) や ホースなどからの冷却水もれを点 検する

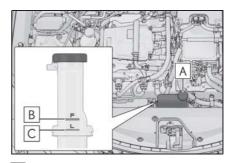
多量の冷却水もれがある場合は、ただち にレクサス販売店に連絡してください。



A ラジエーター

Bファン

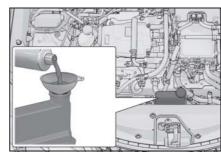
5 冷却水の量がリザーバータンクの "F" (上限) と "L" (下限) のあいだにあるかを点検する



- A リザーバータンク
- **B** "F" (上限)
- C "L" (下限)
- 6 冷却水が不足している場合は、冷 却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水 を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くレクサス販売店で点検を受けてください。



できるだけ早く最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。

▲ 警告

■モータールームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。 お守りいただかないと、やけどなどの 重大な傷害を受けるおそれがあります。

- ●モータールームから蒸気が出ている 場合は、蒸気が出なくなるまでボン ネットを開けないでください。モー タールーム内が高温になっています。
- ●手や着衣(特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど)をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●EV システムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。 高温の蒸気や冷却水が圧力によって 噴き出すおそれがあります。

↑ 注意

■冷却水を入れるとき

EV システムが十分に冷えてからゆっく り入れてください。

EV システムが熱いときに急に冷たい冷 却水を入れると、EV システムが損傷す るおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- ■異物(砂やほこりなど)を冷却水に 混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

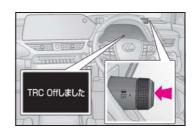
脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフト ポジションを P にして EV システ ムを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪を取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- **4** EV システムを再始動する
- 5 シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む。

□ 知識

■脱出しにくいとき

幕・スイッチを押して TRC を OFF にしてください。



▲ 警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから 脱出する場合、他の車、ものまたは人 との衝突を避けるため周囲に何もない ことを確認してください。 スタックから脱出するとき、車が前方 または後方に飛び出すおそれがありま すので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作 しないように気を付けてください。 車が急発進するおそれや、思わぬ事故 につながるおそれがあり危険です。



- ■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために
- ●タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- ●上記の方法で脱出できなかった場合、 けん引による救援が必要です。

車両情報

9-1.	仕様一覧
	メンテナンスデータ460
9-2.	カスタマイズ機能
	ユーザーカスタマイズ機能 463
9-3.	初期設定
	初期設定が必要な項目 475

メンテナンスデータ

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。 お車には、最も適した弊社純正オイル・液類(以下、「指定銘柄」といいま す)のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使 用ください。

ラジエーター(パワーコントロールユニット)

指定銘柄	容量 [L](参考值)
弊社純正スーパーロングライフクーラント	
凍結保証温度	2 4
濃度 30% - 12 ℃ 濃度 50% - 35 ℃	2.7

ヒーターシステム

指定銘柄	容量 [L](参考値)
弊社純正スーパーロングライフクーラント	
凍結保証温度	1.4
濃度 30% - 12 ℃ 濃度 50% - 35 ℃	

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L](参考値)
弊社純正オートフルード WS [※]	4.3

[※] 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。



■トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になる おそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄

弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル ^{※1}

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ^{※2}	109

^{**1}ブレーキペダルの点検に併せて、EV システムが作動している状態のとき、ブレーキ 警告灯(赤色)が点灯していないことも必ず確認してください。(警告灯が点灯した 場合の対処については、P.424 を参照してください)

■ パーキングブレーキ

項目	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 4 秒以内で押したとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 4 秒以内で引いたとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯(黄色)が点灯していないことを確認してください。 (警告灯が点灯した場合の対処については、P.425を参照してください)

ウォッシャータンク

容量 [L](参考値)
4.8	3

^{**&}lt;sup>2</sup>EV システムが作動している状態で、300 N (30.6 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
215/60R17 96H	17 × 6 1/2 J	250 (2.5)	
225/50R18 95V	18 × 7 J	230 (2.3)	

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N·m (kgf·cm)]	
103 (1050)	

電球(バルブ)※

電球		W(ワット)数
車外	フロント方向指示灯/非常点滅灯(単眼ヘッドランプ装着車)	21
車内	バニティランプ	8

^{**} 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	電動機型式	駆動方式
UX300e	KMA10	4KM	FF (前輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能 は、ご希望に合わせてレクサス販 売店で作動内容を変更することが できます。また、センターディス プレイ・マルチインフォメーショ ンディスプレイの操作により、設 定を変更することができる機能も あります。

設定を変更するには

- マルチインフォメーションディス プレイで設定するには
- 1 メーター操作スイッチの < または ➤ を押して を選択する
- 2 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して変更する項目を選択し、"OK"を押す
- 3 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して設定したい項目を 選択し、 "OK" を押す

前の画面にもどったり、設定を終了 したりする場合は、 マースイッチを 押します。

■ センターディスプレイで設定する には

- 1 メインメニューの *** を選択する
- 2 サブメニューの "車両カスタマイズ" を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、

(作動)・(非作動)を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、バー上のアイコンをスライドしてレベルを調整します。

□ 知識

■センターディスプレイでカスタマイズ 設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、EV システムが作動している状態で操作を行ってください。

1 注意

■カスタマイズを行うときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性 がありますので、確実に EV システム が作動している状態で実施してくださ い。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

- **A** センターディスプレイの画面操作で設定変更可能
- B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
- C レクサス販売店で設定変更可能

■ EV システム (→P.76、84、92)

機能の内容	初期設定	変更後	Α	В	С
充電電流	16A				
元 电电 流	MAX	8A			
充電量上限	Full	90%	_	0	_
		OFF			
コネクターロック	オートロック	オートロック&	_	0	_
		アンロック			
電池冷却	あり	なし	_	0	_

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ(→P.147, 150)

機能の内容 ^{※1}	初期設定	変更後	A	В	С
言語	日本語	英語		0	
単位	km/kWh	kWh/100km	○ *2	0	_
車速表示	デジタル	アナログ	_	0	_
ドライブインフォ 1	瞬間電費				
	リセット間平均 電費	*3	_	0	_
	航続可能距離				
ドライブインフォ 2	リセット間平均 車速	% 3		0	_
割り込み表示	あり	なし	_	0	_
カレンダー **4	_	_		0	_
提案サービス	あり	あり (停車中の み) なし	0	_	0
リヤシートリマインダー	あり	なし	_	0	_

^{※1}機能についての詳しい説明は P.152 を参照してください

^{**&}lt;sup>2</sup>設定は 🔯 の "共通設定" で変更できます

^{※3}瞬間電費、リセット間平均電費、リセット間平均車速、始動後平均車速、リセット 間走行時間、始動後走行時間、航続可能距離、始動後走行距離、ブランクから2項 目を選択

**⁴センターディスプレイの設定で、時計の GPS 補正を OFF にした場合にのみ、設定が可能になります。

■ ヘッドアップディスプレイ* (→P.154)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
EV システム	EV システムイン ジケーター	表示なし	_	0	_
ナビゲーション	あり	なし	_	0	_
レーン	あり	なし	_	0	_
運転支援	あり	なし	_	0	_
オーディオ	あり	なし	_	0	_
傾き調整	水平位置	反時計回り/時 計回り方向へ回 転	_	0	_

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアロック (→P.167, 448)

機能の内容	初期設定	変更後	Α	В	С
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ド ア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	_		0
車速感応オートドアロック	あり	なし	0		\circ
シフトポジションを P 以外にした ときの全ドア施錠(シフト操作連 動ドアロック)	なし	あり	0	_	0
シフトポジションを P にしたとき の全ドア解錠(シフト操作連動アンロック)	あり	なし	0		0
運転席ドアを開けたときの全ドア 解錠(運転席ドア開連動アンロック)	なし	あり	0	_	0

■ パワーバックドア* (→P.174)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
パワーバックドア機能	あり	なし	_	0	_

機能の内容	初期設定	変更後	Α	В	С
ブザー音量	レベル 3	レベル1	_	0	_
ハンズフリーパワーバックドアセ ンサー(キックセンサー)機能	あり	なし	_	0	0
パワースイッチが ACC のときの ハンズフリーパワーバックドアセ ンサー(キックセンサー)作動	あり	なし	_	_	0

^{★:}グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通 (→P.162, 184)

機能の内容	初期設定	変更後	Α	В	С
作動の合図 (ブザー音量調整)	標準	任意の音量	0	_	0
作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし	0	_	0
解錠後、ドアを開けなかったとき	30 秒	60 秒			
の自動施錠までの時間	30 19	120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし		_	0

■ スマートエントリー&スタートシステム (→P.184)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
スマートエントリー&スタートシ ステム	あり	なし	0	_	0
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	0	_	0
全席解錠までのドアハンドル保持時間※	非作動	非作動			
	2.0 秒	1.5 秒	_	_	0
F-0 1-0		2.5 秒			
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	_		0

[※] 解錠されるドアの選択を「運転席のみ解錠」にしたときに設定できます。

■ ワイヤレスドアロック (→P.162)

機能の内容	初期設定	変更後	Α	В	С
ワイヤレス機能	あり	なし	_	_	0
解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ド ア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	0		0
ドアが施錠されている状態で	なし	あり (全ドア解 錠)			
ロック解錠作動 (パワーバックド ア装着車) (→P.174)	/4 U	あり (バックド アのみ解錠)			

■ ハンドル (→P.193)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
オートアウェイ&オートリターン 機構		全て作動			
	上下のみ	前後のみ	0	_	0
ריו אלו		なし			

■ ドアミラー (→P.195)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
	ドアの施錠・解	OFF			
オート電動格納作動	錠と連動	パワースイッチ と連動	_	_	\circ

_____ ■ パワーウインドウ、ムーンルーフ[★]共通(→P.197, 200)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	_	_	0
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	_	_	0
ワイヤレスリモコン連動開閉作動 の合図 (ブザー)	あり	なし			0

^{★:}グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→P.227)

機能の内容	初期設定	変更後	Α	В	С
		より明るい			
ライトセンサーの感度調整	より暗い	明るい			
フィトセンサーの感反調要	より唱い	標準			0
		暗い			
ランプ消し忘れ防止機能	パワースイッチ を OFF にして運 転席ドアを開け る	パワースイッチ を OFF にする	_	_	0
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機 能	あり	なし	_		0

■ ランプ (→P.227)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
デイタイムランニングランプ	あり	なし	_	_	0
おもてなし照明の制御	あり	なし	_	_	0

■ リヤワイパー (→P.241)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
バックドアを開けたときのリヤワ イパー停止	なし	あり			0
ウォッシャー液を出したときのリ ヤワイパー作動	あり	なし	_	_	0
シフトポジションを R にしたとき のリヤワイパー作動	1 回作動	なし 連続作動			0

■ AHS (アダプティブハイビームシステム) * (→P.230)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
アダプティブハイビームシステム	あり	なし※	_	_	0
前方車両と遮光ハイビームとの間	広い	狭い			
隔	1201	普通			

機能の内容	初期設定	変更後	Α	В	С
車速に応じた、ハイビームの明る	約 15km/h から	約 30km/h から 約 15km/h から 作動	_		
さと照らす範囲の調整	作動	約 40km/h から 作動			
カーブを走行しているとき、進行 方向側のハイビームを明るく照ら す	あり	なし	_	_	0
先行車との距離に応じた、ロー ビームの照らす範囲の調整	あり	なし	_		0
発進時のコーナーリングランプ点 灯	あり	なし			0
雨天時用のハイビーム配光制御	あり	なし	_		0
市街地用の配光制御	あり	なし	_	_	0

^{★:}グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.248)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	В	С
プリクラッシュセーフティ機能 **	あり/なし	_	0	_
警報タイミング	早い/中間/遅い	_	0	_

^{**} パワースイッチを ON にすると設定を「なし」にしても「あり」に戻ります。

■ LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.258)

機能の内容	カスタマイズ設定	Α	В	С
ふらつき警報機能	あり/なし	_	0	
ふらつき警報機能の感度	高/普通/低	_	0	_
車線維持支援機能(センタートレース)	あり/なし	_	0	_
警報手段	ハンドルの振動/警報ブザー	_	0	_
警報感度	高/普通	_	0	_

[※] AHB (オートマチックハイビーム) として作動します。P.234)

■ RSA (ロードサインアシスト) (→P.267)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	В	С
RSA(ロードサインアシスト)機 能	あり/なし		0	_
制限速度超過告知	告知表示のみ/告知表示とブザー/なし		0	_
制限速度超過の告知車速	2km/h / 5km/h / 10km/h	_	0	_
追い越し禁止告知	告知表示のみ/告知表示とハンドル の振動/なし		0	_
その他の告知(進入禁止告知)	告知表示のみ/告知表示とブザー/ なし	_	0	_

■ レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き)(→P.270)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	В	С
カーブ速度抑制機能の車速抑制	強/弱/ Off	_	0	_
通信利用型レーダークルーズコン トロール機能★	あり/なし		0	_

^{★:}グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 先行車発進告知機能(→P.281)

機能の内容	カスタマイズ設定		В	С
先行車発進告知	あり/なし	_	0	_
告知タイミング	早い/普通/遅い	_	0	_

■ ITS Connect * (→P.288)

機能の内容 ※	初期設定	変更後	A	В	С
信号情報の表示	あり	なし	_	0	_
道路環境情報の表示	あり	なし	_	0	_
緊急車両存在通知	あり	なし	_	0	_
支援タイミング	早い	遅い	_	0	_

^{★:}グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

[※]機能についての詳しい説明は P.294 を参照してください

■ ドライブスタートコントロール (→P.209)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
後退速度の抑制制御	あり	なし※	_	\circ	_

^{※「}なし」に変更しても、パワースイッチを ON にするたびに「あり」に戻ります。

■ BSM (ブラインドスポットモニター) ★ (→P.294)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
ドアミラーインジケーターの明る さ	明るい	暗い	_	0	_
接近車両を知らせるタイミング (感度)		早い			
	普通	遅い	_		_
		死角領域の車両 のみ検知			
ブラインドスポットモニター機能	あり	なし	_	0	_

^{★:}グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー (→P.300)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
クリアランスソナー機能	あり	なし	_	0	0

■ RCTA (リヤクロストラフィックアラート) * (→P.308)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
RCTA(リヤクロストラフィック アラート)機能	あり	なし	_	0	0

^{★:}グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSA (パーキングサポートアラート) (→P.299)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
ブザー音量	レベル 2	レベル 1			
		レベル3			

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) (→P.312)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
PKSB(パーキングサポートブ レーキ)機能	あり	なし		0	0

■ エアコン (→P.333)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
AUTO スイッチが ON のとき、 連動して外気導入と内気循環を自 動的に切りかえる	する	しない	0	_	0
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ONになる	する	しない	0		0

■ リモートエアコンシステム (→P.341)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
		1 回押し			
作動開始時のリモコンスイッチの 操作	1 回	2 回押し			
	増 押し続ける(約	1 回	_	_	\bigcirc
		押し続ける(約 2.4 秒))
		非作動			
		1 回押し			
		1 回			
作動停止時のリモコンスイッチの	0 = 1=	押し続ける(約0.8秒)			\bigcirc
操作	2 回押し	1 回			
		押し続ける(約 2.4 秒)			
	-	非作動			

■ シートヒーター/シートベンチレーター (→P.343)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
運転席シートヒーター/ベンチ レーター AUTO モード時の温度 または風量調整	標準	-2(涼しめ)〜 +2(暖かめ)	0		0
助手席シートヒーター/ベンチ レーター AUTO モード時の温度 または風量調整	標準	-2(涼しめ)〜 +2(暖かめ)	0	_	0

■ ステアリングヒーター (→P.343)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
ステアリングヒーター AUTO モード時の温度調整	標準	-2(低め)~ +2 (高め)	0	_	0

■ イルミネーション (→P.346)

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
		OFF			
室内灯の消灯までの時間	15 秒	7.5 秒	0	_	0
		30 秒			
パワースイッチ OFF 後の照明の 点灯	あり	なし	_	_	0
解錠時の照明の点灯	あり	なし	_	_	0
接近時の照明の点灯	あり	なし	_	_	0
リヤインテリアランプ、車室内足 元照明の点灯	あり	なし	_	_	0
		OFF			
アウトサイドドアハンドル照明の 消灯までの時間	15 秒	7.5 秒	0	_	0
71773 CC (30 秒			
アウトサイドドアハンドル照明の 点灯	あり	なし		_	0
接近時のアウトサイドドアハンド ル照明の点灯	あり	なし	_	_	0
解錠時のアウトサイドドアハンド ル照明の点灯	あり	なし		_	0

機能の内容	初期設定	変更後	A	В	С
ドアを開けたときのアウトサイド ドアハンドル照明の点灯	あり	なし			0
アウトサイドドアハンドル照明の 消灯時のフェードアウト	長い	短い			0

| 知識

■車両カスタマイズについて

- "車速感応オートドアロック" と "シ フトポジションを P 以外にしたときの 全ドア施錠(シフト操作連動ドアロッ ク)" を両方とも "あり" にした場 合、次のように作動します。
- ・シフトポジションを P 以外にすると全 ドアが施錠されます。
- ・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動 しません。
- ・発進前にいずれかのドアロックを解錠 してから発進した場合は、車速感応 オートドアロックが作動します。
- "スマートエントリー&スタートシステム"の設定が"なし"の場合、" 解錠されるドアの選択"の設定はできません。
- ●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、"作動の合図(非常点滅灯)"・"作動の 合図音量(ブザー音量調整)"の設定に依存します。
- ●センターディスプレイ以外でもスイッチ操作などでカスタマイズ設定ができる項目があります。スイッチ操作で設定を変更した場合、パワースイッチをOFFにし、再度パワースイッチをONにするまでセンターディスプレイには反映されません。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
クリアランスソナー	・補機バッテリーの充電・ 交換後の再接続時	P.303
PKSB (パーキングサポート ブレーキ)	・補機バッテリーの充電・ 交換後の再接続時	P.316
	・タイヤローテーションを 実施したとき	
タイヤ空気圧警報システム	・タイヤサイズの変更など により、タイヤの指定空 気圧が変更になったとき (指定空気圧が複数ある場 合)	P.395
	・ID コードの登録を実施し たとき	
バックガイドモニター★	・補機バッテリーの脱着中	
	にハンドル操作を行った とき ・補機バッテリーの電圧が	別冊「マルチメディア取扱
パノラミックビューモニ ター★	低下したとき	説明書」
	・補機バッテリーを着脱し たとき	
パワーバックドア★	・補機バッテリーの充電・ 交換後の再接続時	P.179
	・ヒューズ交換時	
パワーウインドウ	・正常に働かないとき	P.197
ムーンルーフ★	上市に関リない。	P.201

^{★:}グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは(症状別さくいん)
	478
車から音が鳴ったときは(音さん)	
アルファベット順さくいん	483
五十辛順さくいん	484

こんなときは(症状別さくいん)

お困りの際は、レクサス販売店に ご連絡いただく前にまず次のこと を確認してください。

施錠/解錠/ドアの開閉ができ ない



- メカニカルキーをなくした場合、 レクサス販売店でレクサス純正の 新しいメカニカルキーを作ること ができます。(→P.447)
- 電子キーをなくすと盗難の危険性 が極めて高くなるため、ただちに レクサス販売店にご相談くださ い。(→P.447)



施錠・解錠できない

- ◆ キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか? (→P.406)
- パワースイッチが ON になっていませんか?
 施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。
 (→P.214)
- ■電子キーを車内に置き忘れていませんか?施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- ■電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。 (→P.185)



リヤドアが開かない

● チャイルドプロテクターがかかっていませんか? チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。 いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。(→P.170)

故障かな?と思ったら



EV システムが始動できない

- 充電ケーブルが接続されていませんか? (→P.86)
- ブレーキペダルをしっかりと踏み ながらパワースイッチを押してい ますか? (→P.212)
- シフトポジションは P になっていますか? (→P.212)
- ◆ キーが車内の検知される場所にありますか?(→P.184)
- ◆ キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか?このときは、一時的な方法で EVシステムを始動することができます。(→P.450)
- 補機バッテリーがあがっていませんか? (→P.451)



パワーウインドウスイッチを操 作してもドアガラスが開閉しな い

ウインドウロックスイッチが押されていませんか?
 ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。(→P.199)



パワースイッチが自動的に OFF になった

一定時間 ACC または ON(EV システムが作動していない状態) にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。(→P.215)



警告音・アラーム・ホーンが鳴 りだした

警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは(音さくいん)」(→P.480)をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示 されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.424, 431 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

● 車を安全な場所に停め、タイヤパ

ンク応急修理キットでパンクした タイヤを応急修理してください。 (→P.435)



立ち往生した

ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。(→P.456)

車から音が鳴ったときは(音さくいん)

次の状況のとき、車の状態や誤操 作などをお知らせするために警告 音が鳴ります。

車に乗るとき/降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置 (オートアラーム) が作動した [※]	P.53
ドアを開閉したとき	シフトポジション が P 以外になっ ている	P.431
	窓・ムーンルーフ ★が開いている (EV システム停 止中のみ)	P.198 , 201
	盗難防止装置 (オートアラーム) が作動した [※]	P.53
EV システム を停止したと き	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.160
施錠しようとしたとき(施	いずれかのドアが 確実に閉まってい ない	P.184
錠できないと き)	電子キーを車内に 置き忘れている	P.431

[※] ドアを解錠する、またはパワースイッ チを ACC または ON にするか、EV シ ステムを始動すると、警報を解除する ことができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
	いずれかのドア・ バックドア・ボン ネットが確実に閉 まっていない	P.170
走り出したとき	パーキングブレー キが解除されてい ない	P.223
	シートベルトを着 用していない [※]	P.427
ブレーキペダ ルを踏んだと き (きしみや ひっかき音)	ブレーキパッドが 摩耗しているおそ れがある	P.207
先行車に接近 したとき	レーダークルーズ コントロール (全 車速追従機能付 き)を使用してい る	P.275
前方の障害物 と衝突しそう になったとき	PCS(プリク ラッシュセーフ ティ)が作動した	P.248
車線から逸脱 しそうになっ たとき	LTA (レーント レーシングアシス ト) を使用してい る	P.261
制限速度より 一定の速度を超過したとき はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき	RSA(ロードサイ ンアシスト)が作 動した	P.268

[★]:グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

状況	原因	詳細
障害物との距 離が近付いた とき	クリアランスソ ナーが作動した	P.300
無操作運転が 継続されたと き	ドライバー異常時 対応システムが作 動した	P.283
後退時に左右 からの車を検 知したとき	RCTA (リヤクロ ストラフィックア ラート) ★が作動 した	P.309

状況	原因	詳細
対向車や右折 先の歩行者が いるときに右 折しようとし たとき 左右から交差		
左右から父左 点に進入する 車がいるとき に発進しよう としたとき	るき	
赤信号の交差 点に進入しそ うになったと き		
緊急車両 (救 急車) がサイ レンを鳴らし て近辺を走行 しているとき	ITS Connect★が 作動した	P.290
一時停止の交 差点に停止せ ず進入しそう になったとき		
見通しの悪い カーブの先な どで先行車両 が停止または 低速で走行し ているとき		
見通しが悪い 交差点のわき 道に車両がい るとき		

[※] 助手席に荷物を置いている場合にもブ ザーが鳴ることがあります。

[★]:グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C	AHB(オートマチックハイビーム)
(エアコン)333	234
ABS	AHS(アダプティブハイビームシス
(アンチロックブレーキシステム)	テム)230
321	LTA(レーントレーシングアシス
ACA	卜)258
(アクティブコーナリングアシスト)	PCS(プリクラッシュセーフティ)
322	248
AHS	RSA (ロードサインアシスト).267
(アダプティブハイビームシステム)	先行車発進告知機能281
230	ドライバー異常時対応システム283
ASC	レーダークルーズコントロール (全
(アクティブサウンドコントロール)	車速追従付き)270
226	LTA
BEV	(レーントレーシングアシスト)258
(バッテリーエレクトリックビーク	PCS
ル) 58	(プリクラッシュセーフティ)248
BSM	PKSA299
(ブラインドスポットモニター)294	RCTA (リヤクロストラフィックア
ECB	ラート)308
(エレクトロニカリーコントロール	クリアランスソナー300
ドブレーキシステム) 321	PKSB312
EDR	警告メッセージ316
(イベントデータレコーダー)7	操作313
EPS	RCTA
(エレクトリックパワーステアリン	(リヤクロストラフィックアラート)
グ) 322	308
HUD	警告メッセージ309
(ヘッドアップディスプレイ) 154	SRS
ISOFIX	(サプリメンタルレストレイントシ
(アイソフィックス/イソフィック	ステム)30
ス) 38	S-VSC
ITS Connect	(ステアリングアシステッドビーク
通信利用型レーダークルーズコント	ルスタビリティコントロール).321
ロール276	TRC
LED	(トラクションコントロール)322
(ライトエミッティングダイオード)	VSC
411	(ビークルスタビリティコントロー
Lexus Safety System +	11.) 321

五十音順さくいん

あ	
アースポイント(バッテリーあがりの処	
置)451	
アームレスト365	
RSA(ロードサインアシスト) 267	
ITS Connect	
アウターミラー (ドアミラー)	
BSM (ブラインドスポットモニター) 294	
RCTA(リヤクロストラフィックアラート)	
308	
格納のしかた196	
操作195	
ミラーヒーター334	
リバース連動機能	
アウトサイドドアハンドル照明 346	
アクセサリーコンセント	
アクセサリーソケット	
アクティブコーナリングアシスト (ACA)	
(ACA) 322 アクティブサウンドコントロール	
(ASC)226	
アシストグリップ366	
足元照明	
アダプティブハイビームシステム 230	
アラーム	
オートアラーム53	
音さくいん480	
警告ブザー424, 431	
アンチロックブレーキシステム(ABS)	
321	
アンテナ(スマートエントリー&スター	
トシステム) 184	
()	
イージークローザー (バックドア). 177	
EV システム 58	
EV システムインジケーター 148, 158	

イモビライザーシステム52
運転のアドバイス65
オーバーヒート455
回生ブレーキ59
急速充電のしかた97
緊急始動機能446
緊急時の停止方法416
緊急停止システム64
高電圧部位61
サービスプラグ61
事故が発生したとき63
始動できないときは445
始動方法212
車両接近通報装置60
注意61
電気モーター58
電欠になったとき64
特徴58
特有の音と振動59
パワー(イグニッション)スイッチ212
普通充電のしかた89
ブレーキオーバーライドシステム205
補機バッテリーがあがった451
ボンネット388
メンテナンス・修理・廃車するとき60
EV システムインジケーター148, 158
イグニッションスイッチ(パワースイッ
チ)212
EV システムの始動のしかた212
自動電源 OFF 機能215
車両を緊急停止するには416
モード切りかえ214
位置交換 (タイヤローテーション)393
イベントデータレコーダー(EDR)7
イモビライザーシステム52
イルミネーテッドエントリーシステム
346
インジケーター(表示灯)145

EV システムインジケーター 148, 158	走行可能距離66
エラーインジケーター73	正しい運転姿勢25
充電インジケーター(普通充電ケーブル)	手順204
73	電気自動車運転のアドバイス65
電源インジケーター73	運転支援機能情報表示152
表示灯145	運転席シートベルト非着用警告灯427
普通充電インジケーター(普通充電ポー	
h) 70	え
普通充電ケーブル73	
READY212	エアコン333
インストルメントパネル照度調整スイッ	[ナノイー]337
チ149	曇り取り(フロントガラス)334
インテリアランプ346	フィルターの清掃404
インナーミラー194	フロント席集中送風モード(S-FLOW)
	340
う	マイルームモード116
+ () (++ F= F) 004	リモートエアコンシステム
ウインカー (方向指示灯)	エアコン・デフォッガー334
電球 (バルブ) の交換 411, 412	エアバッグ30
方向指示レバー 221	SRS エアバッグ警告灯425
ワット数462	改造・廃棄
ウインドウ	警告ブザー425
ウインドシールドデアイサー337	作動条件31
ウォッシャー	正しい姿勢25
パワーウインドウ197	配置30
リヤウインドウデフォッガー	S-FLOW
ウインドウロックスイッチ 199	フロント席集中送風モード340
ウインドシールドデアイサー 337	エレクトリックパワーステアリング
ウォッシャー	(EPS)
液の補充391	機能322
スイッチ 238, 241	
タンク容量 461	お
冬の前の準備・点検327	オーディオシステム連携表示152
動けなくなったときは(スタック). 456	オートアウェイ&オートリターン機構
雨滴感知式ワイパー238	193
運転 204	オートアラーム53
雨の日の運転204	オートエアコン
運転を補助する装置321	オートドアロック・アンロック機能 171
寒冷時の運転 327	ク 「「 「 プロノノ

オートマチックハイビーム 234	ワット数462
オートレベリングシステム(ヘッドラン	外部給電システム
プ)229	DC 外部給電システム133
オーバーヒート455	買い物フック352
オープナー	カスタマイズ機能463
バックドア 174	型式462
ボンネット 388	カップホルダー351
おくだけ充電 (ワイヤレス充電器).359	カメラ
お子さまを乗せるとき 37	前方カメラ243
ウインドウロックスイッチ199	ガラスの曇り取り(リヤウインドウデ
お子さまの安全のために37	フォッガー)334
シートベルトの着用28	ガレージジャッキ390
充電に関する警告 87	冠水路走行209
ステアリングヒーター/シートヒーターに	寒冷時の運転327
関する警告343	
チャイルドシート	き
チャイルドシートの取り付け	
チャイルドプロテクター170	‡—160
発炎筒の取り扱いに関する警告 416	EV システムが始動できない445
バックドアに関する警告171	カードキー160
バッテリーに関する警告454	キーナンバープレート160
パワーウインドウに関する警告 198	キーの構成160
ムーンルーフに関する警告201	キーレスエントリー162, 184
オドメーター/トリップメーターディス	キーをなくした447
プレイ 149	正常に働かない448
"ODO TRIP" スイッチ 149	施錠・解錠ができない448
表示項目149	電子キー160
衣小項目149	電池が切れた406,448
4	メカニカルキー162
か	ワイヤレスリモコン162
カーテンシールドエアバッグ 30	キーレスエントリー
カードキー160	スマートエントリー&スタートシステム
カーペット	184
洗浄	ワイヤレスドアロック162
フロアマットの取り付け方24	きしみやひっかき音が聞こえる(ブレー
外気温度表示147	キパッドウェアインジケーター)207
回生ブレーキ59	給電
外装の電球 (バルブ)	正常に給電できない140
交換要領	DC 外部給電のしかた 134

緊急始動機能 (EV システム) 446 警告メッセージ 302 緊急時の対処 操作 301 EV システムが始動できない 445 クリアランスランプ (車幅灯) オーバーヒートした 455 スイッチ 227 キーの電池が切れた 406, 448 電球 (バルブ) の交換 411 キーをなくした 447 クリップ 警告灯がついた 424 フロアマット 24 警告メッセージが表示された 431 クルーズコントロール けん引 419 位機能付き) 270 車両を緊急停止する 416 グローブボックス 350
EV システムが始動できない
オーバーヒートした
キーの電池が切れた
キーをなくした447クリップ警告灯がついた424フロアマット24警告メッセージが表示された431クルーズコントロールけん引419レーダークルーズコントロール (全車速追故障したときは414従機能付き)270
警告灯がついた424フロアマット24警告メッセージが表示された431クルーズコントロールけん引419レーダークルーズコントロール (全車速追 故障したときは414
警告メッセージが表示された
けん引
故障したときは
市市を取争停止する 416 ギローデギル・ケス 252
車両を緊急停止する416 グローブボックス350
水没・冠水したときは417 グローブボックスランプ350
スタックした 456
電子キーが正常に働かない
発炎筒
パンクした
神機バッテリーかあかった 451
緊急停止システム 64 RCTA OFF 表示灯 424
緊急ブレーキシグナル
ABS & フレーキアジスト
SRS エアバック
空気圧 (タイヤ)
空気圧(ダイヤ) 402 駆動用電池が電 427 タイヤ空気圧警報システム 393 クリアランスソナー OFF 表示灯 426
メンテナンスデータ
区間距離計 (トリップメーター) 149 スリップ表示灯
区 即職計 (トリソファーター) 149
<u> </u>
駆動用電池
駆動用電池充電警告灯
新聞について
搭載位置
曇り取り ブレーキホールド作動表示灯
要り取り フロントガラス
ミラーヒーター
ミノーこーダー
クラクション (ホーン)193 RCTA (リヤクロストラフィックアラート)
クラクション (ホーン)193 RCTA (サクロスドラフィックアラード) 426

ABS & ブレーキアシスト425	後退灯(バックアップランプ)
SRS エアバッグ 425	電球(バルブ)の交換411
LTA(レーントレーシングアシスト). 428	高電圧部位61
クリアランスソナー426	コートフック366
シートベルト非着用427	コーナリングランプ229
接近警報(レーダークルーズコントロー	電球(バルブ)の交換411
ル)275	子供専用シート
手放し運転警告 (LTA)265	取り付け方39
パワーステアリング425	小物入れ349
半ドア168, 184	コンソールボックス350
半ドア走行170	コンライト(自動点灯・消灯装置)227
PKSB (パーキングサポートブレーキ) 427	
プリクラッシュセーフティ428	さ
プリクラッシュブレーキ248	
ブレーキ424	サービスプラグ61
ブレーキホールド 426	サイドエアバッグ30
ペダル誤操作警告ブザー428	サイド方向指示灯221
ボンネット開170	電球(バルブ)の交換411
窓開198	方向指示レバー221
ムーンルーフ開 201	サイドミラー(ドアミラー)195
警告メッセージ431	BSM (ブラインドスポットモニター).294
警告ラベル (EV システム) 61	RCTA(リヤクロストラフィックアラート)
化粧ミラー (バニティミラー) 357	308
けん引	格納のしかた196
けん引のしかた419	操作195
フック420	ミラーヒーター334
	リバース連動機能196
ح	サンシェード
	ルーフ200
交換	サンバイザー357
キーの電池406	
タイヤ399	b
電球(バルブ)411	シート189, 190
ヒューズ408	正しい運転姿勢25
工具 (ツール)	チャイルドシート38
航続可能距離(走行可能距離) 151	調整189, 190
後退速度の抑制制御(ドライブスタート	手入れ
コントロール) 209	ヘッドレスト191
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,

シートヒーター343	車載充電器S)4
シートベルト27	充電装備6	36
お子さまの着用 27, 28	充電に関するアドバイス8	35
緊急時シートベルト固定機構28	充電に関する警告93, 9	99
高さ調節29	充電のしかた89, 9	7
正しく着用するには28	充電リッドが開けられない44	17
着け方、はずし方28	充電リッドの開閉6	96
手入れ385	正常に充電できない11	9
妊娠中の方の着用27	タイマー充電機能1C)2
非着用警告灯 427	電源について7	'g
シートベルト非着用警告灯 427	V2H 充電	7
シートベルトプリテンショナー 29	普通充電8	39
機能29	普通充電ケーブル7	' 1
プリテンショナー警告灯425	マイルームモード11	6
シートベンチレーター 343	メッセージ126, 43	3 1
事故が発生したとき(EV システムの注	充電ケーブル(普通充電ケーブル)	
意)63	安全機能7	3
室内灯(インテリアランプ) 346	インジケーター7	3
始動後走行距離151	コントロールユニット7	2
始動のしかた 212	充電ケーブルに関する警告7	' 1
シフトポジション216	普通充電コネクターを解錠できないとき7	77
シフトポジションの切りかえ216	充電ポート	
操作216	急速充電リッド6	36
パドルシフトスイッチ220	充電リッドが開かないとき44	17
ジャッキ	充電リッドの開閉6	9
ガレージジャッキ390	普通充電コネクターの施錠・解錠7	'6
車載ジャッキ 399	普通充電リッド6	36
ジャッキハンドル399	充電用 USB 端子35	8
車幅灯	充電リッド	
電球(バルブ)の交換411	充電リッドが開かないとき44	17
ランプスイッチ 227	瞬間電費15	1
車両型式462	仕様 (車両仕様)46	2
車両仕様(スペック)460	衝撃感知ドアロック解除システム 16	8
車両接近通報装置60	初期化	
車両データの記録7	タイヤ空気圧警報システム39)5
車両を緊急停止するには 416	パワーウインドウ19	7
充電	ムーンルーフ20)C
急速充電 97	初期設定47	5

パワーウインドウ 197

助手席シートベルト非着用警告灯 427	パワースイッチ212
曼入センサー(オートアラーム) 54	ハンドルの位置調整193
	非常点滅灯 (ハザードランプ)415
す	フォグランプ236
7 / 7	ブレーキホールドスイッチ224
スイツチ	ヘッドアップディスプレイ155
AC100V367	方向指示レバー221
BSM	ホーン(警音器)193
LTA	ムーンルーフ200
PCS OFF	メーター操作150
PKSB	ランプ227
RCTA	リセット(タイヤ空気圧警報システム)
TRC OFF	395, 397
VSC OFF 322 アダプティブハイビームシステム 230	リモートエアコンシステム341
	リヤウインドウデフォッガー334
イグニッション212	レーダークルーズコントロール270
インストルメントパネル照度調整 149	ワイパー238, 241
ウインドウロック	スタック456
ウインドシールドデアイサー336	ステアリングアシステッドビークルスタ
ウォッシャー 238, 241	ビリティコントロール(S-VSC)321
ASC スイッチ	ステアリングヒーター343
オートマチックハイビーム234	ステアリングホイール(ハンドル)193
"ODO TRIP"	位置調整193
クリアランスソナー301	オートアウェイ&オートリターン機構 193
シート調整	ステアリングヒーター343
シートヒーター	メーター操作スイッチ150
シートベンチレーター	ストップランプ(制動灯)
車間距離切りかえ(レーダークルーズコン	緊急ブレーキシグナル322
トロール)	電球(バルブ)の交換411
侵入センサー OFF	スノータイヤ(冬用タイヤ)327
ステアリングヒーター343,345	スピードメーター147
タイヤ空気圧警報リセット395	スペック(車両仕様)460
ドアミラー	スマートエントリー&スタートシステム
ドアロック 170	184
ドライブモードセレクト320	アンテナの位置184
パーキングブレーキ222	EV システムの始動212
ハザードランプ415	カスタマイズ設定463
パドルシフト 220	EV 台 4/1 至4 2 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4

緊急始動機能.......446

警告ブザー 184	前照灯(ヘッドランプ)227
警告メッセージ 184	オートレベリングシステム229
作動範囲184	電球(バルブ)の交換411
節電機能185	ライトセンサー228
電波がおよぼす影響について 188	ランプ消し忘れ防止機能228
ドアの解錠・施錠 167, 173	ランプスイッチ227
バックドアの施錠・解錠173	
スモールランプ(車幅灯)227	2
電球(バルブ)の交換411	
ランプスイッチ227	走行可能距離
スリップ表示灯322	走行時間151
	走行情報表示151
世	走行モード (ドライブモード)320
	送信機(タイヤ空気圧警報システム)
清掃 382, 385	393
アルミホイール 383	速度計(スピードメーター)147
外装382	
シートベルト 385	<i>†</i> =
内装385	ターンシグナルランプ(方向指示灯)
レーダー 243	221
制動灯	電球(バルブ)の交換411, 412
緊急ブレーキシグナル322	方向指示レバー221
電球 (バルブ) の交換411	ワット数462
セカンダリーコリジョンブレーキ 322	タイマー充電機能102
積算距離計 (オドメーター)149	タイヤ391
セキュリティインジケーター 52, 53	空気圧403.462
接近警報(レーダークルーズコントロー	空気圧警告灯424
ル)275	交換
先行車発進告知機能281	チェーン327
センサー	点検391
LTA	パンクしたときは399, 435
インナーミラー194	パンク応急修理キット
雨滴感知センサー	冬用タイヤ327
湿度センサー338	ホイールサイズ462
侵入センサー54	ローテーション (位置交換)393
ライトセンサー	タイヤが空まわりする(スタックした)
レーダーセンサー	456
洗車 382	タイヤ空気圧

警告灯424	マルチインフォメーションディスプレイ
タイヤ空気圧警報システム	150
ID コードの登録・選択397	デイタイムランニングランプ228
機能について 393	手入れ382, 385
空気圧バルブ/送信機について 394	アルミホイール383
空気圧表示画面 393	外装382
警告灯424	シートベルト385
初期化395	内装385
タイヤチェーン327	レーダー243
タコメーター147	テールランプ(尾灯)227
	電球(バルブ)の交換411
ち	ランプスイッチ227
チェーン (タイヤチェーン)327	デッキアンダートレイ353
チャイルドシート38	デッキフック(荷物固定用フック)352
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け 49	デッキボード353
シートベルトでの固定	デフォッガー(リヤウインドウデフォッ
選択方法	ガー)334
チャイルドプロテクター	電気モーター58
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)	電球(バルブ)
ニュー・ (ハーキング) レーキ) 222	交換要領(外装バルブ)411
警告灯	ワット数462
警告メッセージ	電欠になったとき64
操作	点検基準値(メンテナンスデータ)460
冬季の注意	電子キー160
未解除走行時警告ブザー	作動範囲184
1100110000131312127	正常に働かないとき448
つ	節電機能185
	電池が切れた
通信利用型レーダークルーズコントロー	電池交換
ル 276	電池交換 (キー)
ツール(工具)399	電費
	瞬間電費151
ζ	平均電費151
提案サービス機能153	b
DC 外部給電システム133	ے
ディスプレイ	ドア167
ヘッドアップディスプレイ154	オートドアロック・アンロック機能171
	衝撃感知ドアロック解除システム168

スマートエントリー&スタートシステム	154
184	
チャイルドプロテクター170	に
ドアガラス 197	
ドアロックスイッチ170	ニーエアバッグ30
ドアロックボタン 170	荷物
バックドア171	積むときの注意210
ワイヤレスリモコン167	デッキフック352
ドアミラー	荷室内装備352
BSM (ブラインドスポットモニター) 294	
RCTA(リヤクロストラフィックアラート)	ぬ
308	ぬかるみにはまった (スタック)456
格納のしかた196	ぬかるみにはまつた(スタック)450
操作195	は
ミラーヒーター334	lg.
リバース連動機能 196	パーキングサポートブレーキ(後方接近
盗難防止装置	車両)319
☆無防止表慮 イモビライザーシステム52	パーキングサポートブレーキ(静止物)
	317
オートアラーム53	パーキングブレーキ222
時計 147 トップテザーアンカレッジ 50	警告灯426
	警告メッセージ223
トノカバー354	操作222
ドライバー異常時対応システム 283	冬季の注意327
ドライブスタートコントロール	未解除走行時警告ブザー
急発進の抑制制御 209	パーソナルランプ346
後退速度の抑制制御209	ハイビーム(ヘッドランプ)227
ドライブモードセレクトスイッチ 320	アダプティブハイビームシステム230
トラクションコントロール(TRC). 322	オートマチックハイビーム
トランスミッション	電球 (バルブ) の交換411
メンテナンスデータ460	
トリップメーター149	ランプスイッチ227
	ハイマウントストップランプ
な	電球 (バルブ) の交換
内装	ハザードランプ(非常点滅灯)
収納装備349	スイッチ
手入れ	電球 (バルブ) の交換411
	挟み込み防止機能
ナビゲーションシステム連携表示. 152,	パワーウインドウ197

パワーバックドア179	パワーステアリング	322
ムーンルーフ 200	警告灯	425
発炎筒 415	パンクした	
バックアップランプ(後退灯)	タイヤ空気圧警告灯	424
電球(バルブ)の交換411	タイヤパンク応急修理キット装	着車435
バックドア171	番号灯(ライセンスプレートラ	ランプ)
イージークローザー177		227
バックドアハンドル173	電球(バルブ)の交換	
バッテリー(駆動用電池)	ランプスイッチ	227
駆動用電池残量計 147	ハンズフリーパワーバックドフ	⁷ 176
駆動用電池充電警告灯427	ハンドル(ステアリングホイー	-ル)
充電について 68	位置調整	193
搭載位置 58	オートアウェイ&オートリター	・ン機構 193
バッテリー(補機バッテリー)	ステアリングヒーター	343
警告灯424	メーター操作スイッチ	150
補機バッテリーがあがった451		
補機バッテリーを交換するとき 453	₽ V	
バニティ(化粧用)ミラー 357		- u
バニティミラーランプ	ビークルスタビリティコントロ	
装備について 357	(VSC)	321
ワット数 462	PKSB 後方接近車両	210
バルブ (電球)	静止物	
交換要領(外装のバルブ)411		
ワット数 462	ヒーター エアコン・デフォッガー	222
パワーウインドウ197		
ウインドウロックスイッチ199	駆動用電池	
閉めることができないときは 197	シートヒーター	
初期化197	ステアリングヒーター ミラーヒーター	
操作197		
ドアロック連動ドアガラス開閉機能 198	非常時給電システム	
挟み込み防止機能 197	非常点滅灯(ハザードランプ)	
巻き込み防止 197	スイッチ	
パワースイッチ(イグニッションスイッ	電球(バルブ)の交換	
チ)212	ワット数	
パワースイッチ212	尾灯 (テールランプ)	
自動電源 OFF 機能215	電球(バルブ)の交換	
車両を緊急停止するには 416	ランプスイッチ	
モードの打けかう 21/	ヒューズ	408

表示灯 145	PCS 警告灯 428
日よけ (サンバイザー)357	ブレーキ
ヒルスタートアシストコントロール 322	回生ブレーキ59
	緊急ブレーキシグナル322
νŞι	警告灯424
	パーキングブレーキ222
ブースターケーブルのつなぎ方 451	ブレーキホールド224
フォグランプ	メンテナンスデータ461
スイッチ 227	ブレーキアシスト321
電球(バルブ)の交換411	機能321
ブザー	
接近警報(レーダークルーズコントロー	ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる
ル)275	207
手放し運転警告 (LTA)265	ブレーキフルード461
パーキングブレーキ未解除走行時警告 223	ブレーキホールド224
半ドア168. 184	フロアマット24
半ドア走行 170	フロントシート
窓開警告	シートヒーター343
ムーンルーフ開警告201	シートベンチレーター343
普通充電ケーブル	正しい運転姿勢25
安全機能	調整189
インジケーター	手入れ385
コントロールユニット72	ヘッドレスト191
コンドロールユーット	フロントフォグランプ
元电ケーノルに関する言古	スイッチ236
	電球(バルブ)の交換411
普通充電コネクターの施錠・解錠 76	フロント方向指示灯221
フック	電球(バルブ)の交換411, 412
買い物フック 352	方向指示レバー221
けん引フック 420	ワット数462
コートフック 366	
デッキフック 352	^
フロアマット固定フック24	·
冬の前の準備 (寒冷時の運転) 327	平均車速151
冬用タイヤ327	平均電費151
ブラインドスポットモニター(BSM)	ヘッドアップディスプレイ154
294	EV システムインジケーター158
プリクラッシュセーフティ(PCS)	運転支援システム表示156
PCS OFF スイッチ 251	スイッチ155
機能 248	設定 156

走行状況表示 154	\$
ナビゲーションシステム連携 154	8
割り込み表示 157	マイルームモード116
ヘッドランプ227	マルチインフォメーションディスプレイ
クリーナー	150
電球 (バルブ) の交換411	運転支援機能情報152
ライトセンサー	オーディオシステム連携152
ランプ消し忘れ防止機能228	警告メッセージ431
ランプスイッチ227	設定152
ヘッドランプオートレベリングシステム	走行情報表示151
229	タイヤ空気圧393
ヘッドレスト191	提案サービス機能153
ベンチレーター(シートベンチレーター)	ドライブインフォメーション151
	ナビゲーションシステム連携152
	メーター操作スイッチ150
ほ	メニューアイコン150
rd.	割り込み表示150
ホイール	
交換 (タイヤ)399	み
メンテナンスデータ 462	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
ホイールナットレンチ 399	ミラー
方向指示灯221	アウターミラー195
電球(バルブ)の交換411, 412	インナーミラー194
方向指示レバー 221	ドアミラー195
ワット数 462	バニティミラー357
ホーン(警音器)193	ミラーヒーター334
補機バッテリー	
交換するとき 453	む
冬の前の準備 327	ムーンルーフ
補機バッテリーがあがった451	初期化200
保証8	操作200
ボトルホルダー351	ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能 200
ボンネット388	挟み込み防止機能
開け方388	大05户05的正城形200
警告ブザー 170	න
警告メッセージ 170	
	メーター
	計器類147

警告メッセージ 431	室内灯346
照度調整149	電球(バルブ)の交換411
設定152	非常点滅灯 (ハザードランプ)415
時計147	フロントフォグランプ236
表示灯145	ヘッドランプ(前照灯)227
マルチインフォメーションディスプレイ	方向指示灯(ターンシグナルランプ/ウイ
150	ンカー)221
メーター操作スイッチ150	ライトセンサー228
メカニカルキー162	ランプ消し忘れ防止機能228
メニューアイコン150	リヤフォグランプ236
メンテナンスデータ460	ワット数462
	ランプ消し忘れ防止機能228
ŧ	
	Ŋ
モーター (電気モーター)58 ボンネット	11./× 7.h=1.4%45 100
ホンイット 388	リバース連動機能196 リモートエアコンシステム341
iφ	
ф	リヤアームレスト
ユーザーカスタマイズ機能 463	リヤウインドウデフォッガースイッチ
雪道ですべって動けない (スタックした)	334
456	RCTA (リヤクロストラフィックアラー
油脂類460	h)308
	リヤシート190
6	リヤ席シートベルト非着用警告灯427
	リヤフォグランプ
ライセンスプレートランプ(番号灯)	スイッチ236
227	電球 (バルブ) の交換411
電球(バルブ)の交換411	リヤ方向指示灯221
ランプスイッチ227	電球(バルブ)の交換411
ラゲージフック 352	方向指示レバー221
ラジエーター	
オーバーヒート 455	న
メンテナンスデータ460	ルームミラー (インナーミラー)194
ランプ	
アダプティブハイビームシステム 230	ħ
インテリアランプ346	·
オートマチックハイビーム234	冷却水460
コーナリングランプ229	冬の前の準備327

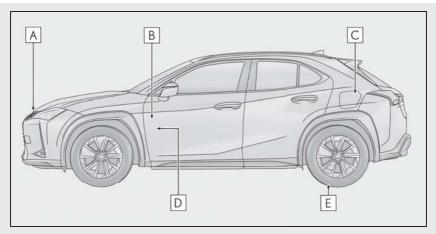
メンテナンスデータ460
冷却装置 (ラジエーター)460
オーバーヒート 455
メンテナンスデータ460
レーダークルーズコントロール(全車速
追従付き)270
警告メッセージ
接近警報275
レーダー 243
レーントレーシングアシスト(LTA)
警告メッセージ 266
操作262
レクサスクライメイトコンシェルジュ
332
レバー
シフト216
方向指示 221
ボンネット解除 388
ロック (ドア)167
3
ロードサインアシスト (RSA)267
ロック
ウインドウロック199
スマートエントリー&スタートシステム
チャイルドプロテクター170
ドア167
バックドア171
ワイヤレスリモコン162
わ
ワイパー & ウォッシャー
ウォッシャー液の補充391
フロント238
フロントワイパーデアイサー

ワイパー停止位置の切りかえ	240
ワイヤレス充電器(おくだけ充電	電)359
ワイヤレスリモコン	162
作動の合図	168
操作	162
電池の交換	406
半ドア警告ブザー	168
リモートエアコンシステム	341
ワックス	382
ワット数	462

次の装備は、別冊「マルチメディア取 扱説明書」をお読みください。

- ・オーディオ
- ・パノラミックビューモニター
- ・バックガイドモニター
- ・ナビゲーションシステム
- ・音声対話サービス
- ・ハンズフリー
- · G-Link
- ・ETC2.0 システム

充電スタンドでの情報



- **A** ボンネットフック (→P.388)
- **B** パワーバックドアスイッチ★ $(\rightarrow P.174)$
- **C** 充電ポート (→P.68)
- **D** ボンネット解除レバー (→P.388)
- **E** タイヤ空気圧 (→P.462)
- ★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

外部電源	P.82
充電時間	P.85
タイヤが冷えているとき の空気圧	P.462





M76608 01999-76608 II-2023年3月27日 2023年4月3日初版

UX300e